

# 東京経済大学学術研究センター

ワーキング・ペーパー・シリーズ

2022-E-01

## 株式資本論・証券市場論邦語文献目録

柴崎慎也

ワーキング・ペーパー・シリーズ

2022-E-01

# 株式資本論・証券市場論邦語文献目録

東京経済大学 経済学部

しばさき しんや  
柴崎 慎也

2023年3月22日

東京経済大学学術研究センター

## 株式資本論・証券市場論邦語文献目録<sup>\*†</sup>

柴崎 慎也<sup>‡</sup>

本目録作成者（柴崎慎也）は、令和3年度の公益財団法人石井記念証券研究振興財団の研究助成を受け、①日本における株式資本論・証券市場論に関する理論研究の学説史的整理、②株式資本論・証券市場論に関する文献目録の作成をおこなった。

日本における株式資本論・証券市場論に関する研究は、A. スミスやK. マルクス、R. ヒルファディングらによる古典的研究をふまえ、すでに戦前から福田徳三、上田貞次郎、増地庸治郎、大塚久雄らによる研究が蓄積されてきた。戦後は、とくにマルクス経済学の文脈において、宇野弘蔵、馬場克三、川合一郎らによる一連の研究および論争により、株式資本論・証券市場論研究の水準は飛躍的に高まっていった。こうした日本における株式資本論・証券市場論に関する研究の展開は、正木久司や鈴木芳徳、渡辺裕一らによってこれまでもくり返しサーヴェイがなされ、これにより日本における研究の水準および独自性が学説史的に明らかにされてきたといつてよい。

しかしながら、このように学説史的に株式資本論・証券市場論を扱う研究は、渡辺裕一「証券市場」の理論と歴史（『経済学批判』社会評論社、第13号、1983年）を最後に残念ながら姿を消してしまっていた。1980年代以降の、グローバル化が急速に進展していくなかでの株式資本論・証券市場論研究の展開は、したがって、現状では学説史的に十分に整理・検討されていない。この問題意識から、1983年の渡辺論文以降、現在までの研究を包含する論文を、柴崎慎也「株式資本論研究の展開」（『経済志林』法政大学経済学部学会、第89巻第2号、2022年）としてまとめて発表した。

これにくわえて、株式資本論・証券市場論に関する文献目録の作成についてもまた、鈴木芳徳「株式会社論邦語文献目録」（『商経論叢』神奈川大学経済学会、第18巻第2号、1983年）が管見では最後の文献目録となっていた。文献目録の作成は一般に、膨大な関連文献を散逸させないため、また後進の研究者に有用であるだけでなく、先行研究を十分にふまえ研究を進展させていく経済学研究にとっては不可欠な営為である。株式資本論・証券市場論に関する最新の文献目録を作成することは、したがって、この分野の研究を今後さらに発展させていくうえで必須の作業である。この問題意識から、1983年の鈴木目録以降、現在までの40年にわたる株式資本論・証券市場論研究を包含するものとして本目録を作成した。

---

\* 本研究は、公益財団法人石井記念証券研究振興財団の助成を受けたものである。

† 本目録の作成にあたって、勝田佳裕氏（静岡英和学院大学）、勝村務氏（北星学園大学）、佐藤一光氏（東京経済大学）、山川俊和氏（大阪産業大学）にご助言をいただいた。ここに記して感謝申し上げる。

‡ 東京経済大学経済学部専任講師

## 凡例

- ・本目録は、株式資本論（資本結合論や金融資本論などを含む）および証券市場論に関連する理論・歴史・実証研究の邦語文献目録である。
- ・本目録では、マルクス経済学をはじめとするポリティカル・エコノミーおよびそれに関連する文献を主として取り上げている。なお、翻訳書および法学関連の文献は、原則として割愛している。
- ・本目録では文献を、著者・編者名で五十音順に配列している。また、各著者・編者の著作物は発行年順に配列している。
- ・各文献の記載事項について、論文・書評など書籍以外の文献は、著者名[発行年]「タイトル」『所載刊行物名』発行所、巻号数である。書籍は、著者・編者名[発行年]『書籍タイトル』発行所である。なお、編者を『所載刊行物名』に、<シリーズ名>を『所載刊行物名』および『書籍タイトル』に付すものもある。
- ・本目録の作成にあたっては、鈴木芳徳「株式会社論邦語文献目録」（『商経論叢』神奈川大学経済学会、第18巻第2号、1983年）を参考とした。本目録では、これに追加および修正をくわえている。

相沢幸悦[1985]「ユニバーサルバンクシステムの問題点」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会、第78巻第3号。

相沢幸悦[1986]「西ドイツにおける金融の国際化と金融革新」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所、第158号。

相沢幸悦[1987]「西ドイツ大銀行の産業との連繫」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所、第160号。

相沢幸悦[1988]『西ドイツの金融市場と構造』東洋経済新報社。

相沢幸悦[1989]『ユニバーサル・バンキング——金融自由化時代の銀行と証券』日本経済新聞社。

相沢幸悦[1990]「ユニバーサルバンク制度の特徴と問題点」『証券経済学会年報』証券経済学会、第25

号。

相沢幸悦[1990]「西ドイツ金融資本の存在形態」『信用理論研究』信用理論研究会、第7号。

相沢幸悦[1990]「資本蓄積と証券業」『証券研究』日本証券経済研究所、第93号。

相沢幸悦[1990]『ECの金融統合』東洋経済新報社。

相沢幸悦[1990]『ヨーロッパバンキング』有斐閣。

相沢幸悦[1991]『大ドイツ経済圏の台頭』<金融・証券シリーズ>東洋経済新報社。

相沢幸悦[1991]「ユニバーサル・バンキングとグループ・バンキングについて」『証券研究』日本証券経済研究所、第96号。

相沢幸悦[1993]『現代ドイツの金融システム』東洋経済新報社。

相沢幸悦[1994]『銀行・証券・保険が変わる——“金融経済”の時代へ』中央経済社。

相沢幸悦[1994]『アルフィナンツ金融革命——ドイツにおける銀行業と保険業の融合』同文館出版。

相沢幸悦[1994]『都市銀行の野望——新「銀・証」競争の幕開け』集英社。

相沢幸悦[1994]『ドイツ銀行——欧州最強の金融帝国』日本経済新聞社。

相沢幸悦[1995]『日銀法二十五条発動——平成金融恐慌から学ぶもの』<中公新書>中央公論社。

相沢幸悦[1995]「銀行の証券業務参入とその問題点」『証券レビュー』日本証券経済研究所、第35巻第2号。

相沢幸悦[1995]「金融制度改革と純粋持株会社解禁論」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所、第193号。

相沢幸悦[1996]「中国経済と証券市場の現状」『資本市場』資本市場研究会、第128号。

相沢幸悦[1997]『ユニバーサル・バンクと金融持株会社——日本の金融システムの将来像』日本評論社。

相沢幸悦[1997]『ヨーロッパ単一通貨圏——金融・資本市場はこう変わる』東洋経済新報社。

相沢幸悦[1997]『金融持株会社で業界はこう変わる』日本実業出版社。

相沢幸悦[1997]『日本の金融ビッグバン』日本放送出

- 版協会.
- 相沢幸悦[1998]『新しい金融システムの創造——日本版ビッグバンへの最終報告』中央経済社.
- 相沢幸悦編著[1998]『欧州通貨統合と金融・資本市場の変貌』日本評論社.
- 相沢幸悦[1999]「書評 小林真之著『株式恐慌とアメリカ証券市場——両大戦間期の「バブル」の発生と崩壊』」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第17号.
- 相沢幸悦[2000]「書評 深町郁彌著『国際金融の現代——ドルの過剰と貨幣資本の過剰』」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第24号.
- 相沢幸悦[2000]「国際的市場間競争の激化と証券市場のあり方」(上・下), 『資本市場』資本市場研究会, 第175号・第176号.
- 相沢幸悦[2000]「現代日本経済と証券市場」(1・2・3・4・5・6), 『資本市場』資本市場研究会, 第179号・第180号・第181号・第182号・第183号・第184号.
- 相沢幸悦[2001]「書評 居城弘著『ドイツ金融史研究——ドイツ型金融システムとライヒスバンク』」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第32号.
- 相沢幸悦[2001]『平成大不況——長期化の要因と終息の条件』<Minerva business library 2>ミネルヴァ書房.
- 相沢幸悦[2001]「欧州資本市場の現状と課題」『資本市場』資本市場研究会, 第193号.
- 相沢幸悦[2001]「ドイツにおける資本市場振興——その政策と評価」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第41巻第10号.
- 相沢幸悦[2002]「ドイツの経済政策理念と証券市場改革」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第38号.
- 相沢幸悦[2002]「書評 大矢繁夫著『ドイツ・ユニバーサルバンキングの展開』」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第107号.
- 相沢幸悦[2002]『現代資本主義の構造改革——危機をいかに克服するか』<Minerva 現代経済学叢書 50>ミネルヴァ書房.
- 相沢幸悦[2004]「ヨーロッパの証券市場改革」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第44巻第1号.
- 相沢幸悦編著[2005]『金融コングロマリットと邦銀の復活——欧米金融機関にみる再生戦略』財経詳報社.
- 相沢幸悦[2006]『平成金融恐慌史——バブル崩壊後の金融再編』<Minerva business library 13>ミネルヴァ書房.
- 相沢幸悦[2006]「資本主義の精神と証券市場」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第46巻第6号.
- 相沢幸悦[2007]『現代経済と資本主義の精神——マックス・ウェーバーから現代を読む』時潮社.
- 相沢幸悦[2007]「証券市場の社会的責任を考える」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第47巻第9号.
- 相沢幸悦監修・日米金融比較研究会著[2008]『カジノ資本主義の克服——サブプライムローン危機が教えるもの』新日本出版社.
- 相沢幸悦[2008]『国際金融市場とEU金融改革——グローバル化するEU市場の動向』<Minerva 現代経済学叢書 100>ミネルヴァ書房.
- 相沢幸悦[2008]「現代資本主義の変革と株式市場」『信用理論研究』信用理論研究会, 第26号.
- 相沢幸悦[2009]『恐慌論入門——金融崩壊の深層を読みとく』<NHK ブックス>日本放送出版協会.
- 相沢幸悦[2009]『問いかける資本主義——世界経済危機が突きつけた構造転換の方向』新日本出版社.
- 相沢幸悦[2010]『世界経済危機をどう見るか』時潮社.
- 相沢幸悦[2010]「欧米の経済・金融危機と金融再編」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第45号.
- 相沢幸悦・中沢浩志[2010]『2012年, 世界恐慌——ソブリン・リスクの先を読む』<朝日新書>朝日新聞出版.
- 相沢幸悦[2010]『戦後日本資本主義と平成金融“恐慌”』<戦後世界と日本資本主義——歴史と現状 3>大月書店.
- 相沢幸悦[2010]「資本主義の精神と証券市場」『ゆう

- ちよ資産研究——研究助成論文集』ゆうちょ財団  
ゆうちょ資産研究センター，第17巻.
- 相沢幸悦[2010]「書評 井村喜代子著『世界的金融危機の構図』」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第70号.
- 相沢幸悦[2010]「欧米の経済・金融危機と金融再編」『証券経済学会年報』証券経済学会，第45号.
- 相沢幸悦[2011]「日本の産業構造改革と証券市場の役割」『慶應経営論集』慶應義塾経営管理学会，第28巻第1号.
- 相沢幸悦[2011]「世界経済・金融危機と日本の産業構造改革」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第51巻第5号.
- 相沢幸悦[2012]「グローバリゼーション下における連鎖的なバブルの形成と崩壊」『季刊 経済理論』経済理論学会，第49巻第1号.
- 相沢幸悦[2012]『2013年，世界複合恐慌——日米欧同時インフレが始まる』<朝日新書>朝日新聞出版.
- 相沢幸悦[2012]「ヨーロッパ金融不安の真相」，山口義行編『終わりなき世界金融危機——バブルレス・エコノミーの時代』岩波書店.
- 相沢幸悦[2012]「書評 飯田和人著『グローバル資本主義論——日本経済の発展と衰退』」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第79号.
- 相沢幸悦[2013]「書評 建部正義著『21世紀型世界経済危機と金融政策』」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第83号.
- 相沢幸悦[2014]「世界経済危機下の日米欧の「大胆な金融緩和」」『信用理論研究』信用理論研究会，第32号.
- 相沢幸悦[2014]「世界金融危機と中央銀行の役割」，張英莉・堂野崎衛編著『現代社会における経済・経営のダイナミズム』<埼玉学園大学研究叢書 第10巻>社会評論社.
- 相沢幸悦[2015]「連鎖的バブル崩壊と21世紀初頭大不況」『経済志林』法政大学経済学部学会，第82巻第3号.
- 相沢幸悦[2015]『長期不況克服への経済学——実体経済の成長と金融セクターの役割』ミネルヴァ書房.
- 相沢幸悦[2020]「証券市場こそ地球温暖化防止の切り札」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第60巻第2号.
- 相沢幸悦[2020]「書評 坂本正・詹向阳著『サブプライム金融危機と国家市場経済』」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第109号.
- 相沢幸悦[2020]「現代資本主義と証券市場の深化」『明大商学論叢』明治大学商学研究所，第102巻第3号.
- 相沢幸悦[2021]「高度情報化社会における金融システム」『季刊 経済理論』経済理論学会，第58巻第2号.
- 相沢秀一[1949]『経済原論』<経済学全書1>三笠書房.
- 相沢秀一[1951]『資本主義の経済理論』三笠書房.
- 相沢秀一[1964]『経済学基礎理論』雄渾社.
- 相田慎一・飯田裕康[1980]「帝国主義論研究の現状——カウツキーおよびヒルファディング研究を中心に」『経済学史学会年報』経済学史学会，第18号.
- 相田慎一[1999]『経済原論入門』ナカニシヤ出版.
- 相原茂編[1956]『経済学説全集 第8巻——マルクス経済学の発展』河出書房.
- 相原茂編[1959]『日本の独占資本——戦後における構造と機能』法政大学出版局.
- 青木孝平[1988]「株式所有の法的構制——現代資本主義と財産権のプロブレマティーク」『早稲田大学大学院法研論集』早稲田大学大学院法学研究科，第45号.
- 青木孝平[1988]「信用法システムの構造と機能——株式所有の法的構制」『早稲田大学大学院法研論集』早稲田大学大学院法学研究科，第46号.
- 青木孝平[1989]「金融資本と会社法のティポロジー——株式所有の法的構制」『早稲田大学大学院法研論集』早稲田大学大学院法学研究科，第50号.
- 青木孝平[1993]「「法人資本主義」とその解体——所有論の視点から」『月刊 状況と主体』谷沢書房，第206号.

- 青木達彦[1995]『金融脆弱性と不安定性——バブルの金融ダイナミズム』日本経済評論社.
- 青木達彦[2018]『金融危機は避けられないのか——不安定性仮説の現代的展開』日本経済評論社.
- 青才高志[1979・80・82・85]「利潤論の諸問題」(1・2・3・4),『信州大学経済学論集』信州大学経済学部,第13号・第15号・第19号・第22号.
- 青才高志[1986]「書評 山口重克著『経済原論講義』」『経済学論集』東京大学経済学会,第52巻第2号.
- 青才高志[1990]『利潤論の展開——概念と機構』時潮社.
- 青才高志[1992]「株式資本論について」,山口重克編『市場システムの理論——市場と非市場』御茶の水書房.
- 青才高志[2002]「岩田株式資本論の検討」『信州大学経済学論集』信州大学経済学部,第48号.
- 青才高志[2003]「株式資本論の再構築」,SGCIME編『資本主義原理像の再構築』御茶の水書房.
- 青野正道[1978]「西ドイツにおける支店制大銀行の投資信用について」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科,第40巻第3号.
- 青野正道[1982]「銀行信用と資本蓄積——ヒルファエディング理論の批判的検討」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科,第44巻第2号.
- 青野正道[1984]「信用仲介と信用創造——「金融革命」によせて」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科,第46巻第1号.
- 青野正道[1984]「独占資本主義と金融機関——「金融革命」によせて」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科,第46巻第2号.
- 青野正道[1986・87・88]「銀行と証券——マルクス,ヒルファエディング,ガーレイ=ショウ」(1・2・3・4),『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第34巻第2号・第3号・第35巻第4号・第36巻第2号.
- 青野正道[1987・88]「株式会社と信用制度——「利子・信用」浜田論文によせて」(1・2・3),『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第35巻第2号・第3号・第4号.
- 青野正道[1988]「金融システム——金融経済の基礎理論(3)」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第36巻第1号.
- 青野正道[1989]「擬制資本——金融経済の基礎理論(4・5)」(1・2),『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第36巻第4号・第37巻第1号.
- 青野正道[1989]「金融システム理論の再検討——ガーレイ=ショウ理論について」(上・下),『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所,第168号・第169号.
- 青野正道[1990]『金融制度とマクロ経済』新評論.
- 青野正道[1993]「信用と競争」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第40巻第4号.
- 青野正道[1995]「キャッチアップ金融システムの特徴」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第43巻第1号.
- 青野正道[1995]「キャッチアップ金融システムの誕生——敗戦危機下の金融システム」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第43巻第2号.
- 青野正道[1997]「金融危機 1997」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第45巻第3号.
- 青野正道[1998]「金融システムの進化」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第46巻第1号.
- 青野正道[1999]「金融理論——完全競争から不完全競争へ」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会,第47巻第3号.
- 青野正道[2000]『IT革命の金融戦略』新評論.
- 青野正道[2003]『金融ビジネスの歴史——金融技術の制度化と再構築』中央経済社.
- 青野正道・北林雅志・赤石篤紀『金融サービス企業のグローバル戦略——M&Aで成長するHSBC』中央経済社.
- 青山和司[1982]「アメリカにおける信託兼営銀行の形成」『経済論究』九州大学大学院経済学会,第55号.
- 青山和司[1983]「信託機関と証券市場——米国商業銀

- 行の信託兼営化に関する基礎的考察』『経済学研究』九州大学経済学会，第48巻第5・6号。
- 青山和司[1984]「アメリカの商業銀行における証券・信託業務の展開」『経済学研究』九州大学経済学会，第50巻第3・4号。
- 青山和司[1988]「米国信託機関の証券投資」『証券経済学会年報』証券経済学会，第23号。
- 青山和司[1988]「アメリカにおける信託資産の拡大と証券投資」(1・2)，『商学討究』小樽商科大学，第39巻第1号・第2号。
- 青山和司[1990]「アメリカにおける銀行の証券分離と信託併営——1930年代銀行改革の一側面」『信託』信託協会，第163号。
- 青山和司[1991]「アメリカの社債金融と信託機関——大不況期の社債デフォルトとの関連で」『商学討究』小樽商科大学，第42巻第2・3号。
- 青山和司[1994]「社債のデフォルトと信託機関の機能——1930年代のアメリカを中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会，第29号。
- 青山和司[1994]「アメリカの私的年金制度と信託機関」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第9号。
- 青山和司[1995]「アメリカの信託機関と年金基金の動向——1980年代から1990年代にかけて」『信託』信託協会，第184号。
- 青山和司[1998]『アメリカの信託と商業銀行』日本経済評論社。
- 青山和司[1999]「アメリカの信託機関と信託業務の収益性」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第50巻第1・2号。
- 青山和司[2004]「アメリカの年金基金と資産運用の特色」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第54巻第4号。
- 青山秀夫[1960]「アメリカ経済における独占の問題」，岸本誠二郎・青山秀夫・傍島省三・木下和夫『アメリカの経済成長』日本国際連合協会京都本部。
- 赤川元章[1971]「書評 後藤泰二著『株式会社の経済理論』」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第14巻第4号。
- 赤川元章[1978・79]「ヒルファーディングの経済学方法論——オーストロ・マルクス主義とヒルファーディング」(1・2・3)，『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第21巻第2号・第3号・第22巻第1号。
- 赤川元章[1980]「「擬制資本」の概念について」，渡辺佐平編著『マルクス金融論の周辺』法政大学出版局。
- 赤川元章[1982]「オスマン帝国におけるドイツ金融資本の鉄道事業について」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第25巻第5号。
- 赤川元章[1983]「ドイツ金融資本とバグダード鉄道問題」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第26巻第1号。
- 赤川元章[1983]「第1次大戦前におけるオリエント諸国とドイツの経済的諸関係——ドイツ海外銀行の活動を中心に」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第26巻第2号。
- 赤川元章[1984]「オスマン帝国におけるドイツ金融資本の鉄道事業について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第19号。
- 赤川元章[1987]「国際金融構造の分析方法について」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第30巻第2号。
- 赤川元章[1987]「第1次世界大戦前におけるラテン・アメリカでのドイツ海外銀行の活動」，野口祐教授還暦記念論文集編集委員会編『現代企業における技術と経営の展開』森山書店。
- 赤川元章[1988]「金融資本の世界性と対外決済システムの構造——金本位制下におけるドイツの場合」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第31巻第5号。
- 赤川元章[1990]「ドイツ資本主義の対外発展とその金融的構造(1914年以前)」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第33巻第2号。
- 赤川元章[1991]「バルカン諸国の経済発展とドイツ金融資本(1)——ルーマニア」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第34巻第5号。
- 赤川元章[1992]「バルカン諸国の経済発展とドイツ金融資本(2)——セルビアとブルガリア」『三田商

- 学研究』慶應義塾大学商学会，第34巻第6号。
- 赤川元章[1992]「貿易・金融中心地，ハンブルクの成立過程と世界市場」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第35巻第4号。
- 赤川元章[1994]「アルゼンチン貨幣金融制度の発展とドイツ銀行資本」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第37巻第1号。
- 赤川元章[1994]『ドイツ金融資本と世界市場』＜慶應義塾大学商学会商学研究叢書18＞慶應義塾大学商学会。
- 赤川元章[1997]「ドイツ大銀行の国際証券業務について——Deutsche Bankのアメリカ合衆国における活動」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第40巻第4号。
- 赤川元章[2003]「書評 大矢繁夫著『ドイツ・ユニバーサルバンキングの展開』」『金融経済研究』日本金融学会，第19号。
- 赤川元章[2004]「書評 水田正史著『近代イラン金融史研究』」『社会経済史学』社会経済史学会，第70巻第1号。
- 赤川元章・唐木圀和編著[2004]『東アジア経済研究のフロンティア——社会経済的变化の分析』＜慶應義塾大学東アジア研究所叢書＞慶應義塾大学出版会。
- 赤川元章[2005]「株式会社資本に関する3局面について」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第48巻第1号。
- 赤川元章[2006]「書評 山口博教著『ドイツ証券市場史』」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第56号。
- 赤川元章[2006]「19世紀末のドイツ銀行業と東アジア」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第49巻第5号。
- 赤川元章[2007]「金融資本の論理と歴史——一研究者の愚直な歩み」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第49巻第6号。
- 赤川元章[2007]「ドイツ・アジア銀行の発展と営業活動」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第50巻第2号。
- 赤川元章[2008]「近代中国とドイツ・アジア銀行」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第51巻第1号。
- 赤川元章[2012]「ドイツ」，国際銀行史研究会編『金融の世界史——貨幣・信用・証券の系譜』悠書館。
- 赤川元章[2014]「ドイツ銀行・独亜銀行 1870-1913年」，西村閑也・鈴木俊夫・赤川元章編著『国際銀行とアジア——1870～1913』慶應義塾大学出版会。
- 赤川元章[2015・16・19・21・22]「体制転換と金融システムの構造変化——チェコスロバキアの場合」(1・2・3・4・5・6)，『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第58巻第5号・第59巻第3号・第62巻第5号・第63巻第6号・第65巻第2号・第3号。
- 赤川元章[2022]「書評 川村朋貴著『扉の向こうの帝国——「イースタン・バンク」発生史論』」『社会経済史学』社会経済史学会，第87巻第4号。
- アガタ・ヴィエシボフスカ[2020]「ヨーロッパの銀行と危機——銀行行動，システムの安定性と金融統合」『信用理論研究』信用理論研究会，第38号。
- 赤松要・堀江薫雄・名和統一・大来佐武郎監修[1962]『講座 国際経済 第5巻——帝国主義と後進国開発』有斐閣。
- 秋本育夫・橋本勲編[1973]『独占とマーケティング』有信堂。
- 秋山誠一[2003]「国際通貨・金融問題と貿易・投資システム」，板垣文夫・岩田勝雄・瀬戸岡紘編『グローバル時代の貿易と投資』桜井書店。
- 秋山誠一・吉田真広編[2008]『ドル体制とグローバリゼーション』駿河台出版社。
- 秋山誠一[2010]「世界金融・経済危機と日本経済——日本の産業構造と貿易構造の問題点」『国学院大学栃木短期大学紀要』国学院大学栃木短期大学，第45号。
- 秋山誠一[2011]「金融危機から経済危機へ」，基礎経済科学研究所編『世界経済危機とマルクス経済学』大月書店。
- 秋山誠一[2013]『国際経済論』桜井書店。

- 吾郷健二・佐野誠・柴田徳太郎編[2008]『現代経済学——市場・制度・組織』<岩波テキストブックス>岩波書店.
- 浅井良夫[1977]「1920年代における三井銀行と三井財閥」『三井文庫論叢』三井文庫, 第11号.
- 浅井良夫[1978]「1910~20年代における支店銀行制度の展開と都市金融市場」『成城大学経済研究』成城大学経済学会, 第59・60号.
- 浅井良夫[1982]「安田貯蓄銀行と安田財閥」『成城大学経済研究』成城大学経済学会, 第77号.
- 浅井良夫[1984]「安田金融財閥の形成——保善社を中心とする株式所有構造について」『成城大学経済研究』成城大学経済学会, 第84号.
- 浅井良夫[1988]「書評 麻島昭一著『三菱財閥の金融構造』」『経営史学』経営史学会, 第22巻第4号.
- 浅井良夫[1989]「書評 麻島昭一編著『財閥金融構造の比較研究』」『社会経済史学』社会経済史学会, 第55巻第1号.
- 浅井良夫[2001]『戦後改革と民主主義——経済復興から高度成長へ』吉川弘文館.
- 浅井良夫[2005]「高度成長期における為替管理と海外短資市場」(1・2・3),『成城大学経済研究』成城大学経済学会, 第167号・第168号・第171号.
- 浅井良夫[2015]『IMF8 条国移行——貿易・為替自由化の政治経済史』日本経済評論社.
- 浅井良夫[2019・20]「1960年代の世銀借款と国際資本市場」(上・下),『成城大学経済研究』成城大学経済学会, 第226号・第228号.
- 麻島昭一[1959]「本邦信託業の集中過程——本邦信託業史の一側面」『金融経済』金融経済研究所, 第57号.
- 麻島昭一[1962]「昭和金融恐慌と信託業」『金融経済』金融経済研究所, 第77号.
- 麻島昭一[1965]「日本信託業と公社債市場——戦前における信託会社の役割」(上・下),『信託』信託協会, 第62号・第63号.
- 麻島昭一[1969]『日本信託業発展史』有斐閣.
- 麻島昭一[1978]「両大戦間における地方銀行の有価証券所有」『地方金融史研究』全国地方銀行協会, 第9号.
- 麻島昭一[1979]「住友財閥の有価証券所有」『社会科学年報』専修大学社会科学研究所, 第13号.
- 麻島昭一[1980]『日本信託業立法史の研究——日本金融立法史の一環として』金融財政事情研究会.
- 麻島昭一[1983]『戦間期住友財閥経営史』東京大学出版会.
- 麻島昭一[1985]「三菱財閥の株式公開——資金調達面からの考察」『専修経営学論集』専修大学経営学会, 第40号.
- 麻島昭一[1986]『三菱財閥の金融構造』御茶の水書房.
- 麻島昭一編著[1987]『財閥金融構造の比較研究』御茶の水書房.
- 麻島昭一[1987]「住友財閥の株式公開——資金調達面からの考察」『専修経営学論集』専修大学経営学会, 第43号.
- 麻島昭一[1991]『本邦生保資金運用史』日本経済評論社.
- 麻島昭一[1995]『戦前期信託会社の諸業務——金銭信託以外の諸信託の実証的研究』<トラスト60研究叢書>日本経済評論社.
- 麻島昭一・大塩武[1997]『昭和電工成立史の研究』日本経済評論社.
- 麻島昭一[1999]「戦前期の特定金銭信託の考察——近江信託の事例を含めて」『信託』信託協会, 第197号.
- 麻島昭一[2000]「台湾における主要信託会社の考察」『専修経営学論集』専修大学経営学会, 第70号.
- 麻島昭一[2000]「戦前期台湾信託業の考察」『社会科学年報』専修大学社会科学研究所, 第34号.
- 麻島昭一[2001]『本邦信託会社の史的考察——大都市における信託会社の事例分析』日本経済評論社.
- 麻島昭一[2002]「昭和電工企業集団の解体——戦後復興過程の一側面」『専修経営研究年報』専修大学経営研究所, 第27号.

- 麻島昭一[2005]『戦前期三井物産の財務』日本経済評論社.
- 麻島昭一[2006]「三井物産の有価証券貸借——明治末期・大正初期の事例」『専修大学社会科学研究所月報』専修大学社会科学研究所, 第 516 号.
- 麻島昭一編著[2008]『日本信託業証言集』<トラスト 60 研究叢書> (上・下), 専修大学出版局.
- 麻島昭一[2009]「戦前期大信託会社の金銭信託の性格——住友信託を中心とした考察」『専修大学社会科学研究所月報』専修大学社会科学研究所, 第 551 号.
- 麻島昭一[2011]「創業期三井物産の有価証券所有」『社会科学年報』専修大学社会科学研究所, 第 45 号.
- 麻島昭一[2013]『戦前期三井物産の投資と金融』専修大学出版局.
- 浅田統一郎[1987]「トービンの q 理論と投資関数の理論——展望」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会, 第 19 巻第 12 号.
- 浅田統一郎[1997]『成長と循環のマクロ動学』日本経済評論社.
- 浅田統一郎[2011]「国債累積と財政金融政策のマクロ動学」, 渡辺和則編『金融と所得分配』日本経済評論社.
- 浅野敏[1974]『個別資本理論の研究』<経営経済学選書 15> ミネルヴァ書房.
- 芦田亘[1971]「第 1 次大戦後ドイツにおける国家コンツェルンの形成と産業再編成」『経済論叢』京都大学経済学会, 第 108 巻第 3・4 号.
- 芦田文夫[2010]「市場をつうじた社会主義と「株式会社」の役割」, 基礎経済科学研究所編『未来社会を展望する——甦るマルクス』大月書店.
- 遊部久蔵・長洲一二編[1954]『経済学講座 第 1 巻——資本主義経済の基礎原理』大月書店.
- 遊部久蔵編[1964]『資本論講座 第 5 分冊——利子・信用』青木書店.
- 遊部久蔵編[1968]『マルクス経済学——学習用テキスト版』春秋社.
- 遊部久蔵・小林昇・杉原四郎・古沢友吉編[1977]『講座 経済学史IV——マルクス経済学の発展』同文館出版.
- 安達房子[2009]「持株会社解禁と企業集団の新发展」, 細川孝・桜井徹編著『転換期の株式会社——拡大する影響力と改革課題』<現代社会を読む経営学 4> ミネルヴァ書房.
- 足立真理子[2009]「フェミニスト経済学から見るグローバル経済と金融危機」『わたしの 21 世紀』アジア女性資料センター, 第 58 号.
- 足立真理子[2016]「グローバル金融危機以降のアジア経済社会とジェンダー——金融領域・生産領域・再生産領域の接合」『ジェンダー研究』お茶の水女子大学ジェンダー研究所, 第 19 号.
- 足立真理子[2016]「金融排除/包摂とジェンダー——金融化された経済へのフェミニスト政治経済分析」『ジェンダー研究』お茶の水女子大学ジェンダー研究所, 第 19 号.
- 足立真理子[2016]「フェミニスト経済学の現在——「金融化とジェンダー」をめぐる方法的考察」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第 53 巻第 3 号.
- 姉齒暁[2009]「アメリカの消費から見たサブプライムローン問題の本質——アメリカにおける過消費構造と家計債務 (モーゲージローンと消費者信用) の現状」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第 46 巻第 1 号.
- 姉齒暁[2013]『豊かさという幻想——「消費社会」批判』桜井書店.
- 安部悦生[1979]「20 世紀初頭のイギリスにおける鉄鋼企業の資本構造と取締役の株式所有」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第 27 巻第 1 号.
- 安部悦生[1986]「ボルコウ・ヴォーン社の株式種類と所有の分散」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第 34 巻第 2 号.
- 安部悦生[1989]「書評 湯沢威著『イギリス鉄道経営史』」『運輸と経済』交通経済研究所, 第 49 巻第 7 号.
- 安部悦生[1989]「イギリス海外投資と投資信託会社の役割——世紀転換期のアライアンス・トラスト・カンパニー」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第 37 巻第 1 号.

- 安部悦生[1990]「イギリスにおける持株会社と管理——20世紀初頭から第2次世界大戦まで」『経営論集』明治大学経営学研究所，第37巻第2号。
- 安部悦生[1993]『大英帝国の産業覇権——イギリス鉄鋼企業興亡史』＜明治大学社会科学研究所叢書＞有斐閣。
- 安部悦生・壽永欣三郎・山口一臣[2002]『ケースブック アメリカ経営史』＜有斐閣ブックス＞有斐閣（新版，2020年）。
- 安部悦生編著[2003]『金融規制はなぜ始まったのか——大恐慌と金融制度の改革』日本経済評論社。
- 安部悦生[2006]「イギリスにおける機関投資家とコーポレート・ガバナンス——機関投資家がコーポレート・ガバナンスに与える影響」『経営論集』明治大学経営学研究所，第54巻第1号。
- 安部悦生[2016]「初期株式会社をめぐる小論——18世紀イギリス製造株式会社のファクツ&インプリケーション」『経営論集』明治大学経営学研究所，第63巻第1・2号。
- 安部悦生[2021]「企業民主制（コーポレート・ガバナンス）についての小論——種類株（複数議決権制度）をめぐる」『経営論集』明治大学経営学研究所，第68巻第2・3号。
- 安部一成[1953]「マルクスの信用理論に関する若干の問題」『山口経済学雑誌』山口大学経済学会，第4巻第3号。
- 安部一成[1955]「独占と資本形成」『バンキング』産業経済社，第91号。
- 阿部真也[1963]「アメリカ株式発行市場の衰退——資本蓄積との関連」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部，第7巻第2号。
- 阿部弘[1972]「金融資本形成とコンツェルン組織体制との関連について」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第4巻第3号。
- 阿部弘[1973]「日本における投資金融構造の特殊性」『駒澤大学経済学部研究紀要』駒澤大学，第31号。
- 阿部浩之[2019]『テキスト 経済学概説（第2版）』関東図書。
- 阿部康二[1949]『株式発行の理論と実務』＜理論と実務叢書＞経営評論社。
- 阿部康二[1952]「証券市場」，山口茂・沖中恒幸編『講座金融 第3巻——現代の金融機構』春秋社。
- 阿部康二[1953]『株の経済学』＜生活の経済学新書＞法政大学出版局。
- 阿部康二[1956]『新しい証券市場』学陽書房。
- 阿部康二[1959]『株価の予測と景気の見方』ダイヤモンド社。
- 阿部康二[1968]「国債政策と証券市場——国債の市況滑化について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号。
- 阿部康二[1968]「欧米の証券市場を巡って」『証券経済学会年報』証券経済学会，第3号。
- 阿部康二[1970]『証券市場論』＜現代金融論選集＞金融財政事情研究会。
- 阿部康二[1980]『銀行・証券・垣根論争覚え書』日本経済新聞社。
- 阿部由紀[1974]「両大戦間のアメリカ金融資本分析に関する一考察——石油産業の発展とチェース（ロックフェラー）集団の形成を中心に（1914-1934）」『土地制度史学』土地制度史学会，第16巻第4号。
- 安部哲夫[1971]「両大戦間期におけるアメリカの長期金融機関」『社会労働研究』法政大学社会学部学会，第18巻第1号。
- 安部哲夫[1977]「1920年代アメリカ外国証券発行の投機的性格——国内証券投機および投資銀行の活動との関連において」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第28巻第4・5号。
- 安部哲夫[1984]『戦間期アメリカの対外投資——金融・産業の国際化過程』＜東京大学社会科学研究所研究叢書61＞東京大学出版会。
- 安部哲夫[1989]「2つの株価暴落の世界経済的背景——1987年と1929年」『国際経済』日本国際経済学会，第40号。
- 安部哲夫[2008]「アメリカ発世界金融危機の構造的背景」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会，第42巻第1号。
- 安部哲夫[2009]「アメリカ発世界金融経済危機の構

- 造, 2009年初——1930年代世界恐慌との比較」『世界経済評論』国際貿易投資研究所, 第53巻第4号.
- 天野孝俊[1991]「それ自身に利子を生むものとしての資本」について——資本所有論との関連を中心に, 今東博文・折原裕・佐藤公俊編『現代ポリティカル・エコノミーの問題構制』<マルクス経済学叢書8>社会評論社.
- 天利長三[1956]『金融理論の基本問題』<銀行叢書第56巻>全国地方銀行協会.
- 天利長三[1962]「有価証券の再生産論的考察」『バンキング』産業経済社, 第175号.
- 天利長三[1963]「証券と通貨」『経済と経済学』東京都立大学経済学会, 第10・11号.
- 天利長三[1963]「長期金融機関の基本的性格」『金融界』金融界社, 第15巻第4号.
- 天利長三[1964]「わが国における金融構造——間接金融と直接金融をめぐって」『金融界』金融界社, 第16巻第7号.
- 天利長三[1966]「国債発行と銀行経営」『金融界』金融界社, 第18巻第3号.
- 天利長三[1968]「長期金融と短期金融の在り方」『公社債月報』日本証券業協会, 第137号.
- 天利長三[1968]「わが国の資本市場の性格——金融政策講話の一節」『金融経済』金融経済研究所, 第108号.
- 天利長三[1968]「金融再編成と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第3号.
- 天利長三[1973]『100万人の金融論——現代の金融とはなにか』勁草書房.
- 天利長三[1975]「斜めからみたポンド・スターリング」『証券研究』日本証券経済研究所, 第45号.
- 天利長三[1978]「大量国債発行と財政」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第13号.
- 天利長三・矢島保男・加藤譲編著[1979]『金融論』<図説 経済学体系4>学文社.
- 天利長三・森静朗編[1982]『日本の金融社会——研究序説』東洋経済新報社.
- 天利長三[1982]「銀行と証券」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第17号.
- 天利長三・森静朗編[1984]『金融経済のゆくえ——日本の金融社会』日本経済評論社.
- 天利長三[1991]『世界金融——その長き道程』日本評論社.
- 天羽正継[2007]「戦後地方債計画の形成」, 日本財政学会編『財政研究 第3巻——格差社会と財政』有斐閣.
- 天羽正継[2007]「戦後復興期における地方債消化問題」『地方財政』地方財務協会, 第46巻第7号.
- 天羽正継[2009]「起債市場統制と戦後債券市場の原点」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第66号.
- 天羽正継[2010]「戦前・戦間期の地方財政——戦前期日本の地方債市場」, 日本地方財政学会編『地方制度の改革と財政問題』<日本地方財政学会研究叢書>勁草書房.
- 天羽正継[2012]「地方債」, 藤巻秀夫編著『地方自治の法と行財政』八千代出版.
- 天羽正継・井手英策[2014]「国債累積を支える金融メカニズム」, 持田信樹・今井勝人編著『ソブリン危機と福祉国家財政』東京大学出版会.
- 天羽正継[2018]「地方債の市場化と多様化」, 持田信樹・林正義編『地方債の経済分析』有斐閣.
- 天羽正継[2020]「日本における地方債制度の構想と創設」, 日本地方財政学会編『地方における圏域行政・連携中枢都市圏』五絃舎.
- 新井厚志[1979]「ヒルファディング信用恐慌論について——《金融資本論》研究」『経済系』関東学院大学経済経営学会, 第120号.
- 新井喜太郎・三浦寛也[1968]「証券流通市場の機構」, 木村増三編『証券経済講座 第4巻——証券流通市場と株価形成』東洋経済新報社.
- 新井喜太郎・三浦寛也[1971]『現代証券市場の諸問題』千城書房.
- 新井大輔[2013]「経済の金融化とマルクス信用論」, 高田太久吉編著『現代資本主義とマルクス経済学——経済学は有効性をとりもどせるか』新日本出版社.
- 荒井正夫[1967]『信用の基礎理論——金融論序説』未来社.

- 荒井政治[1962]「イギリスにおける株式会社企業の発達と鉄道ブーム」『関西大学経済論集』関西大学経済学会，第12巻第1号。
- 荒井政治[1963]『イギリス近代企業成立史』東洋経済新報社。
- 荒井政治[1963]「イギリス産業における株式会社企業の発達」『関西大学経済論集』関西大学経済学会，第12巻第5・6号。
- 荒井政治[1966]「ランカシャー綿業における株式会社企業の成立に関する一研究」『関西大学経済論集』関西大学経済学会，第15巻第4-6号。
- 荒井政治[1968]『近代イギリス社会経済史——『世界の工場』から福祉国家へ』未来社。
- 荒井政治[1976]「イギリス造船業における企業集中1880-1914年」『関西大学経済論集』関西大学経済学会，第25巻第6号。
- 荒井政治・竹岡敬温編[1980]『概説西洋経済史』＜有斐閣選書＞有斐閣。
- 荒川弘[1967]『証券恐慌前後——30年代の金融・証券市場』日本評論社。
- 荒川米一郎[1965]「留保利益について」『法経論集』佐賀大学法律経済研究会，第12巻第1・2号。
- 荒川米一郎[1966]「所要資本について」『法経論集』佐賀大学法律経済研究会，第13巻第2号。
- 荒川米一郎[1967]「企業金融と投資機会」『経済論究』九州大学大学院経済学会，第18号。
- 荒川米一郎[1967]「株式会社支配に関する覚え書（株式会社金融論ノート）(1)」『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第1巻第1号。
- 荒川米一郎[1973]「株式会社と機能資本家」『証券経済学会年報』証券経済学会，第8号。
- 荒牧正憲[1964]「金融機関」，川口弘・川合一郎編『金融論講座1——貨幣・信用の理論』有斐閣。
- 荒牧正憲[1986]「資本蓄積と信用制度について——「新しい」信用論に学ぶ」『経済学研究』九州大学経済学会，第52巻第1-4号。
- 荒牧正憲[1989]「日本の金融独占資本」『唯物史観』十月社，第34号。
- 有井行夫[1975]「「所有と機能の分離」と機能資本家規定——株式会社論序論」『経済と経済学』東京都立大学経済学会，第36号。
- 有井行夫[1977]「ヒルファディングとマッハ——『金融資本論』の方法」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第9巻第1号。
- 有井行夫[1978]「金融資本モデルと株式会社論の特殊性——ヒルファディング株式会社論の方法的分析」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第9巻第4号。
- 有井行夫[1980]「株式会社と資本の人格化」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第11巻第3・4号。
- 有井行夫[1981]「現代資本家論とマルクス的人格・所有理論」(上・下)，『金融経済』金融経済研究所，第187号・第188号。
- 有井行夫[1985]「「所有にもとづく支配」と「資本の人格化」——北原原著『現代資本主義における所有と決定』を読んで」『政経研究』政治経済研究所，第48号。
- 有井行夫[1985]「「所有にもとづく支配」と「資本の人格化」——「現代巨大企業における所有と決定」問題によせて」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第17巻第2号。
- 有井行夫[1987]「ヒルファディングとマッハ・付論」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第18巻第4号。
- 有井行夫[1991]『株式会社の正当性と所有理論』青木書店（新版，2011年）。
- 有井行夫[1992]「マルクス経済学における2つの所有概念」『経済と経済学』東京都立大学経済学会，第71号。
- 有井行夫[2009]「私的所有論としての株式会社論」『経済科学通信』基礎経済科学研究所，第119号。
- 有井行夫[2010]「未来社会と株式会社——マルクス株式会社論における人格性の陶冶」，基礎経済科学研究所編『未来社会を展望する——甦るマルクス』大月書店。
- 有泉哲[2015]「2007-09年の金融危機とシステムック・リスク」(1・2)，『茨城大学人文学部紀要 社会科学論集』茨城大学人文学部，第59号・第60号。

- 号.
- 有賀定彦[1955]「鉄鋼業における企業系列の再編成について」『経済学研究』九州大学経済学会, 第20巻第3・4号.
- 有賀定彦[1966]「帝国主義の概念規定について」『下関商経論集』下関市立大学学会, 第9巻第3号.
- 有木宗一郎[1955]「書評 川合一郎著『資本と信用』」『六甲大論集』神戸大学大学院研究会, 第2巻第2号.
- 有木宗一郎[1956]「資本集中と最大限利潤」『六甲大論集』神戸大学大学院研究会, 第2巻第3号.
- 有沢広巳・小椋広勝・都留重人・豊崎稔・名和統一・松井清編[1958]『現代資本主義講座 第1巻』東洋経済新報社.
- 有沢広巳・小椋広勝・都留重人・豊崎稔・名和統一・松井清編[1958]『現代資本主義講座 第3巻』東洋経済新報社.
- 有沢広巳・脇村義太郎[1977]『カルテル・トラスト・コンツェルン』御茶の水書房.
- 有沢広巳監修[1978]『証券百年史』日本経済新聞社.
- 有沢広巳監修[1995]『日本証券史』(1・2), <日経文庫>日本経済新聞社.
- 安藤陽[1974]「「経営者支配」論に関する一考察」『立教経済学論叢』立教大学大学院経済学研究会, 第8号.
- 安藤陽[1975]「戦後の電力再編成と電源開発株式会社の設立」『立教経済学論叢』立教大学大学院経済学研究会, 第9号.
- 安藤陽[1976]「電源開発株式会社の発展と役割」『立教経済学論叢』立教大学大学院経済学研究会, 第10号.
- 安藤陽[1989]「現代公企業論の課題——株式会社公企業の増加を手掛かりにして」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第43巻第2号.
- 安藤良雄[1952]「最近の日本資本主義論——「日本の財閥」その他」『経済評論』日本評論社, 復刊第1巻第3号.
- 安藤良雄[1955]『経済の歴史』<学生社新書>学生社.
- 安藤良雄・高野雄一編[1957]『社会』学生社.
- 安藤良雄・守本順一郎[1958]『日本経済史』<学灯文庫>学灯社.
- 安藤良雄[1963]『現代日本経済史入門』日本評論新社.
- 安藤良雄[1967]『日本資本主義の歩み』<講談社現代新書>講談社.
- 安藤良雄[1968]「財閥の実態をめぐる諸問題」, 川島武宜・松田智雄編『国民経済の諸類型』岩波書店.
- 安藤良雄[1968]「企業合同をめぐる——昭和初年の場合と現代の場合」『公正取引』公正取引協会, 第213号.
- 安藤良雄編[1979]『両大戦間の日本資本主義』<東京大学産業経済研究叢書>東京大学出版会.
- 安藤良雄[1980]『昭和経済史』(上・下), <日経新書>日本経済新聞社.
- 安藤良雄[1987]『太平洋戦争の経済史的研究——日本資本主義の展開過程』東京大学出版会.
- 李素軒[2015]「世界経済における金融化 (Financialization) の新たな分析視点——金融自由化以降の韓国経済を事例として」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会, 第57号.
- 李素軒[2017]「重層的信用ネットワークとしてのグローバル金融システムとデリバティブ——韓国為替デリバティブ市場を事例に」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第54巻第1号.
- 飯島寛之[2009]「証券化商品の膨張と現実資本」『信用理論研究』信用理論研究会, 第27号.
- 飯島寛之[2012]「インドの資本取引の自由化と世界金融危機——世界金融危機前後の金融政策とのかかわりから」『フジ・ビジネス・レビュー』東京富士大学, 第4号.
- 飯島寛之[2015]「対外不均衡と世界的な金融危機」, 丸山恵也・熊谷重勝・陣内良昭・内野一樹・關智一編著『経済成長の幻想——新しい経済社会に向けて』創成社.
- 飯島寛之・五百旗頭真吾・佐藤秀樹・菅原歩[2017]『身近に感じる国際金融』有斐閣.
- 飯島寛之[2019]「金融政策正常化下における米国金融」『信用理論研究』信用理論研究会, 第37号.

- 飯田和人[2004]「コーポレート・ガバナンスと資本家概念」『政経論叢』明治大学政治経済研究所，第72巻第4・5号。
- 飯田和人[2005]「企業統治とM&A」『金融労働調査時報』銀行労働研究会，第658号。
- 飯田和人[2006]『市場と資本の経済学』ナカニシヤ出版。
- 飯田和人編著[2010]『危機における市場経済』＜明治大学社会科学研究所叢書＞日本経済評論社。
- 飯田和人[2011]『グローバル資本主義論——日本経済の発展と衰退』日本経済評論社。
- 飯田和人[2014]「資本家概念の拡充について——危険負担，企業組織および革新の担い手」『政経論叢』明治大学政治経済研究所，第82巻第3・4号。
- 飯田和人・高橋聡・高橋輝好[2016]『現代資本主義の経済理論』日本経済評論社。
- 飯田和人[2017]『価値と資本——資本主義の理論的基盤』＜明治大学社会科学研究所叢書＞桜井書店。
- 飯田和人[2022]『現代貨幣論と金融経済——現代資本主義における価値・価格および利潤』日本経済評論社。
- 飯田繁[1952]「独占価格と資本集中——独占価格の構造分析を中心として」『経済評論』日本評論社，復刊第1巻第8号。
- 飯田繁[1954]『利子つき資本の理論——マルクス信用理論の研究』日本評論新社（新訂版，1958年）。
- 飯田繁[1954]「「独特な商品」としての利子つき資本」『バンキング』産業経済社，第81号。
- 飯田繁[1955]「資本所有と利子」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第33巻第1・2号。
- 飯田繁[1955]「利子つき資本における譲渡の意義と形式」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第33巻第5・6号。
- 飯田繁[1956]「利子つき資本の運動方式」『バンキング』産業経済社，第95号。
- 飯田繁[1956]「利子つき資本の形態における物神と擬制」『バンキング』産業経済社，第100号。
- 飯田繁[1956]「利子つき資本と利子」，信用理論研究会編『講座 信用理論体系 I——第1部 基礎理論篇（上）』日本評論新社。
- 飯田繁[1956]「ヒルファディングの信用理論」，信用理論研究会編『講座 信用理論体系IV——第3部 学説篇』日本評論新社。
- 飯田繁[1957]「貨幣資本と利子つき資本」『バンキング』産業経済社，第107号。
- 飯田繁[1957]「利子つき資本における「貨幣の資本化」」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第36巻第4号。
- 飯田繁[1958]「利子つき資本と信用理論」『経済学年報』大阪市立大学経済学会，第8号。
- 飯田繁[1958]「利子つき資本の質的規定」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第38巻第4号。
- 飯田繁[1958]「利子つき資本研究のための序章」（1・2），『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第38巻第5号・第39巻第1号。
- 飯田繁[1958]「利子つき資本研究のはじめに」『バンキング』産業経済社，第123号。
- 飯田繁[1959]『利子つき資本——信用理論研究序説』有斐閣。
- 飯田繁[1969]「金融経済論の地位と課題——マルクスの研究方法の序章」『金融経済』金融経済研究所，第117号。
- 飯田繁[2001]『信用の理論的研究』藤原書店。
- 飯田隆[1980]「1850年代ドイツ株式会社企業に関する覚え書」『経済学年誌』法政大学大学院経済学研究科経済学専攻委員会，第17号。
- 飯田隆[1982]「第一次大戦以降のイギリス産業金融について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第17号。
- 飯田隆[1983]「イギリスにおける証券発行方法の歴史的展開」『経済学年誌』法政大学大学院経済学研究科経済学専攻委員会，第20号。
- 飯田隆[1985]「1930年代後半における英国産業とロンドン資本市場」『証券研究』日本証券経済研究所，第75号。
- 飯田隆[1985]「第1次大戦前および戦間期における英

- 国産業とロンドン資本市場』『証券経済学会年報』証券経済学会，第20号。
- 飯田隆[1985]「大戦間期ロンドン資本市場における発行仲介業者」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第152号。
- 飯田隆[1986]「最近のロンドン発行市場」『証券研究』日本証券経済研究所，第79号。
- 飯田隆[1987]「イギリスにおける産業証券流通の展開1890-1910年」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第39巻第3号。
- 飯田隆[1988]「戦間期のロンドン証券取引所」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第40巻第3号。
- 飯田隆[1990]「イギリス国債市場における金利の期間構造」『証券研究』日本証券経済研究所，第91号。
- 飯田隆[1991]「戦間期のマーチャント・バンク」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第177号。
- 飯田隆[1993]「第1次大戦後のイギリス商工業と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第28号。
- 飯田隆[1994]「第1次大戦前のロンドン証券取引所——D. キナストンの研究を手がかりとして」『証券研究』日本証券経済研究所，第109号。
- 飯田隆[1997]『イギリスの産業発展と証券市場』東京大学出版会。
- 飯田隆[1997]「昭和20年代わが国証券業における4社経営について」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第5号。
- 飯田隆[2001]「戦間期ロンドン証券市場における海外証券投資収益率」『経済志林』法政大学経済学部学会，第68巻第3・4号。
- 飯田隆[2004]「戦間期ロンドン証券市場における情報インフラ」(上・下)，『経済志林』法政大学経済学部学会，第71巻第4号・第72巻第1・2号。
- 飯田裕康[1962]「擬制資本の論理——資本の「商品」化過程」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第55巻第4号。
- 飯田裕康[1962]「S・アアロノヴィチ著『支配階級——イギリス金融資本の研究』」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第55巻第5号。
- 飯田裕康[1963]「「信用制度」と「株式会社」——マルクスの場合」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第56巻第4号。
- 飯田裕康[1964]「ヒルファディングの株式会社論にかんする一考察——とくに信用論との関連において」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第57巻第1号。
- 飯田裕康[1964]「小竹豊治訳『株式市場の変動要因——合衆国上院銀行・通貨委員会専門調査官報告書』」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第57巻第2号。
- 飯田裕康[1964]「信用形態の展開と「利子生み資本」の前期的性格——『資本論』第3部第5篇の一論点」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第57巻第6号。
- 飯田裕康[1965]「「資本一般」の体系と「競争」論——『資本論』における信用論展開の前提」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第58巻第5号。
- 飯田裕康[1965]「マルクス信用論の展開過程——信用論研究序説」『経済学年報』慶應義塾経済学会，第8号。
- 飯田裕康[1967]「擬制資本について——信用論の基本問題との関連において」(上・下)，『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第60巻第5号・第8号。
- 飯田裕康[1968]「「擬制資本論」の基本構成——『資本論』を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号。
- 飯田裕康[1969]「信用制度と株式会社——信用論における「株式会社」」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第62巻第5号。
- 飯田裕康[1969]「信用論における証券市場の基本問題」『金融経済』金融経済研究所，第116号。
- 飯田裕康[1969]「ヒルファディング経済学における理論と歴史——『金融資本論』の学説史的評価をめぐって」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第62巻第7号。

- 飯田裕康[1970]「株式会社における所有と機能」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第63巻第1号。
- 飯田裕康[1970]「R. ヒルファディング著『金融資本論』（1968年版）」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第63巻第6号。
- 飯田裕康[1970]「株式会社論をめぐって——信用論の立場から」『土地制度史学』土地制度史学会，第12巻第4号。
- 飯田裕康[1970]「書評 中村通義著『株式会社論』」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第63巻第10号。
- 飯田裕康[1971]『信用論と擬制資本』有斐閣。
- 飯田裕康[1971]「信用制度展開の論理構造——信用論体系理解の予備的考察」『金融経済』金融経済研究所，第126号。
- 飯田裕康[1973]「書評 深町郁彌著『所有と信用——貨幣・信用論の体系』」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第66巻第7号。
- 飯田裕康[1974]『金融資本論』における信用論——ヒルファディングの帝国主義把握との関連において」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第67巻第9号。
- 飯田裕康[1975]「書評 下平尾勲著『貨幣と信用』」『商学論集』福島大学経済学会，第43巻第3号。
- 飯田裕康[1975]「書評 入江節次郎著『帝国主義論への道』」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第68巻第4号。
- 飯田裕康[1975]「「信用の基本規定」をめぐって——一つの覚え書」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第68巻第11・12号。
- 飯田裕康[1976]『貨幣・信用論』＜マルクス経済学全書8＞同文館出版。
- 飯田裕康[1976]「証券市場と資本所有——証券市場基礎理論への一視角」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第69巻第4号。
- 飯田裕康[1976]「スミスにおける信用の把握について——信用論的考察」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第69巻第6号。
- 飯田裕康・鈴木芳徳・野田弘英・高山満[1977]『ヒルファディング金融資本論入門』＜有斐閣新書＞有斐閣。
- 飯田裕康[1977・79]「ヒルファディングにおける貨幣と信用——『金融資本論』分析・序論（1・2）」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第70巻第6号・第72巻第2号。
- 飯田裕康[1980]「商業資本と利子生み資本」，常盤政治・井村喜代子・北原勇・飯田裕康『経済原論』有斐閣。
- 飯田裕康[1981]「貨幣資本蓄積論の構成」『金融経済』金融経済研究所，第189号。
- 飯田裕康[1983]「A. スミスにおける資本蓄積と信用——貨幣蓄蔵・貨幣資本 *monied capital* の形成をめぐって」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第75巻特別号。
- 飯田裕康[1983・84]『資本論』第3部第5篇——その成立と現代（上・下），『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第76巻第3号・第6号。
- 飯田裕康[1985]『貨幣と信用の理論』三嶺書房。
- 飯田裕康[1986]「信用論史におけるマルクス——流通論批判と信用論」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第79巻第2号。
- 飯田裕康[1986]「「信用の役割」と擬制資本」『信用理論研究』信用理論研究会，第3号。
- 飯田裕康[1987]「ヒルファディング金融資本理論の一側面——銀行と証券市場の一体化の論理構造」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第80巻第5号。
- 飯田裕康[1991]「スミスにおける貨幣・利子・公債——貨幣的経済の古典的・批判的認識」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第83巻第4号。
- 飯田裕康[1991]「信用理論の基本構造——「擬制」資本の論理と貨幣資本 *moneyed capital*」，マルクス・エンゲルス研究者の会編『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』八朔社，第6巻第13号。
- 飯田裕康編[1992]『現代の金融——理論と実状』＜有斐閣ブックス＞有斐閣。
- 飯田裕康・川波洋一編[1994]『現代信用論の基本課

- 題』有斐閣.
- 飯田裕康[1994]「金融構造の国際的連繫——わが国金融市場の国際化と関連して」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会, 第 87 巻第 2 号.
- 飯田裕康[1998]「擬制資本理論の古典と現代」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会, 第 207 号.
- 飯田裕康[2001]「マルクス信用論の成立と古典経済学」『茨城大学政経学会雑誌』茨城大学政経学会, 第 71 号.
- 飯沼二郎[1964]『地主王政の構造——比較史的研究』未来社.
- 飯盛信男[2007]『構造改革とサービス産業』青木書店.
- 伊鹿倉正司[2006]「金融機関のグローバル化」『東北学院大学経済学論集』東北学院大学学術研究会, 第 163 号.
- 伊鹿倉正司[2009]「欧州金融統合の最後の難関」『東北学院大学経済学論集』東北学院大学学術研究会, 第 169 号.
- 伊木誠[1968]「景気循環と戦後日本の資本集中」『経済評論』日本評論社, 復刊第 17 巻第 11 号.
- 生川栄治[1949]「貨幣資本と利子生み資本」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第 21 巻第 6 号.
- 生川栄治[1951]「近代における利潤理論の変質過程——企業形態発展との関連」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第 25 巻第 4 号.
- 生川栄治[1952・54]「独占形成下の工業金融——英国金融資本の内部構造」(1・2), 『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第 27 巻第 4・5 号・第 30 巻第 1・2 号.
- 生川栄治[1953]「工業金融の発生について——英国金融資本成立前史」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第 8 号.
- 生川栄治[1954]「英国金融資本の構造的特質」『国際経済』日本国際経済学会, 第 5 号.
- 生川栄治[1956]「ロンドン資本市場と海外投資機構」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第 21 号.
- 生川栄治[1956]「金融資本の形成」, 信用理論研究会編『講座 信用理論体系Ⅲ——第 2 部 制度篇』日本評論新社.
- 生川栄治[1956]「金融資本の概念と銀行」『バンキング』産業経済社, 第 102 号.
- 生川栄治[1956]「金融論」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第 25 号.
- 生川栄治[1956]『イギリス金融資本の成立』有斐閣.
- 生川栄治[1957]「『イギリス金融資本の成立』について」『書齋の窓』有斐閣, 第 43 号.
- 生川栄治[1958]「自己金融の発展と銀行信用」『バンキング』産業経済社, 第 121 号.
- 生川栄治[1959]「金融資本の概念とその発展について」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第 41 号.
- 生川栄治[1959]「ドイツ金融市場と国家信用」『金融経済』金融経済研究所, 第 57 号.
- 生川栄治[1959]「機関投資の発展と資本形成——西ドイツの場合」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第 43-45 号.
- 生川栄治[1960]『現代銀行論——ドイツ信用銀行と資本形成』日本評論新社.
- 生川栄治[1961]「自己金融と金融正常化」『証券経済月報』大阪証券経済研究所, 第 28 号.
- 生川栄治[1963]「株式会社における資金形成の条件」, 大阪市大会計学研究室編『現代会計学の課題』森山書店.
- 生川栄治[1963]「株式会社における自己金融の性格」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第 69 号.
- 生川栄治[1964]「自己金融と企業支配理論」『証券経済月報』大阪証券経済研究所, 第 57 号.
- 生川栄治[1966]「書評 馬場克三著『株式会社金融論』」『経済評論』日本評論社, 第 15 巻第 4 号.
- 生川栄治[1966]「オーバー・ローン・信用恐慌・国債流通——管理通貨制下の日本金融構造」『金融経済』金融経済研究所, 第 98 号.
- 生川栄治[1966]「国債発行と金利装置——歯止め崩壊の必然性」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第 82 号.
- 生川栄治[1966]「国債流通下の金利改訂」『証券経

- 濟』日本証券経済研究所大阪研究所，第 86 号。
- 生川栄治[1967]『信用制度と資本蓄積』有斐閣。
- 生川栄治[1968]「オーバー・ローンとインフレーション」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第 98 号。
- 生川栄治[1971]「大正期の成長構造とその崩壊過程——独占成立期の信用制度」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第 110・111・112 号。
- 生川栄治[1971]「金融資本と信用制度」(1・2)，『経営研究』大阪市立大学経営学会，第 113・第 114 号。
- 生川栄治[1972]「資本信用と信用制度」『経済研究』一橋大学経済研究所，第 23 卷第 1 号。
- 生川栄治[1972]「平価調整と国債発行」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第 112 号。
- 生川栄治編[1976]『現代の金融資本』<有斐閣選書>有斐閣。
- 生川栄治[1979]「交互計算信用と発行業務——独占期の銀行信用と擬制資本」(1・2)，『経営研究』大阪市立大学経営学会，第 160 号・第 161 号。
- 生川栄治[1979]「金融資本の論理構造」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第 163・164 号。
- 生川栄治[1980]「金融資本に関する方法の問題」『経済理論学会年報』経済理論学会，第 17 集。
- 生川栄治[1984]「擬制資本と証券市場」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第 192 号。
- 生川栄治[1985]「証券恐慌について」『信用理論研究』信用理論研究会，第 2 号。
- 生川栄治[1985]『信用理論の体系』有斐閣。
- 生川栄治[1986]「ドイツ大銀行の産業関係——古典から現代へ」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第 1 号。
- 生川栄治[1990]「ユニバーサル・バンクの歴史的展開」『商経学叢』近畿大学経営学部，第 37 卷第 1-3 号。
- 生川栄治[1992]「ベルリン大銀行と利益協同体」『商経学叢』近畿大学経営学部，第 39 卷第 1 号。
- 生川栄治[1992]「ベルリン大銀行とライン・ウェストファーレン」『商経学叢』近畿大学経営学部，第 39 卷第 2 号。
- 生川栄治[1993]「ドイツ・コンツェルン金融問題」『商経学叢』近畿大学経営学部，第 40 卷第 2 号。
- 生川栄治[1994]「ベルリン大銀行と支店制の展開」『商経学叢』近畿大学経営学部，第 40 卷第 3 号。
- 生川栄治[1994]「ワイマール期のライヒス・バンク」『商経学叢』近畿大学経営学部，第 41 卷第 2 号。
- 生川栄治[1995]『ドイツ金融史論』有斐閣。
- 生島芳郎[1968]「戦後わが国における証券関係文献について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 2 号。
- 井汲卓一[1948]『日本資本主義論』くれは書店。
- 井汲卓一[1950]『戦後恐慌論』時事通信社。
- 井汲卓一[1950]「戦後恐慌における株式恐慌の地位」(1・2)，『国民経済』国民経済研究協会，第 5 卷第 3 号・第 4 号。
- 井汲卓一編[1958]『国家独占資本主義』<現代資本主義双書>大月書店。
- 井汲卓一・今井則義・宇高基輔・江口朴郎・吉村正晴編[1963]『現代帝国主義講座 第 I 卷——現代帝国主義の理論と構造』日本評論新社。
- 井汲卓一・今井則義・宇高基輔・江口朴郎・吉村正晴編[1963]『現代帝国主義講座 第 V 卷——現代帝国主義の経済法則』日本評論新社。
- 井汲卓一・今井則義・長洲一二編[1966]『現代日本資本主義講座 第 2 卷——政策と運動』日本評論社。
- 井汲卓一[1971]『国家独占資本主義論』現代の理論社。
- 池内得二[1966]『現代日本の金融——その機能とメカニズム』金融財政事情研究会。
- 池内得二[1968]「資本取引自由化と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 2 号。
- 池上惇[1965]『国家独占資本主義論』有斐閣。
- 池上惇[1965]『アメリカ帝国主義』労働経済社。
- 池上岳彦[2004]『分権化と地方財政』<シリーズ 現代経済の課題>岩波書店。
- 池島正興[1993]「金融の自由化・証券化・国際化と地

- 域金融』『関西大学商学論集』関西大学商学会，第 38 卷第 3・4 号。
- 生駒道弘[1967]『ストック・オプションの研究——現代米国経営者報酬の一形態について』<経営学モノグラフ 10>評論社。
- 生駒道弘[1967]「株価最大化と資本コスト」『産業経理』産業経理協会，第 27 卷第 2 号。
- 生駒道弘[1968]「株式時価発行と資本充実」『産業経理』産業経理協会，第 28 卷第 4 号。
- 生駒道弘[1968]「ストック・オプションと経営者持株制度——片山伍一氏の書評によせて」『経済理論』和歌山大学経済学会，第 104 号。
- 生駒道弘[1968]「経営者報酬としてのストック・オプションと経営者持株制度」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 3 号。
- 生駒道弘[1970]「配当と株価——Mille-Modigliani の見解によせて」『経済理論』和歌山大学経済学会，第 113 号。
- 生駒道弘[1971]「ゴードン株式評価論の構造」(1・2)，『経済理論』和歌山大学経済学会，第 120 号・第 121 号。
- 生駒道弘[1972]「企業成長と株式評価——配当還元説と利益還元説の統合」『インベストメント』大阪証券取引所，第 25 卷第 1 号。
- 生駒道弘[1972]「財務管理論における株価形成論」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 7 号。
- 生駒道弘[1973]『現代財務管理論——投資決定理論の研究』千倉書房。
- 生駒道弘[1974]「株式プレミアム＝創業者利得税の難点——増資における創業者利得の存在形態について」『経済理論』和歌山大学経済学会，第 137 号。
- 生駒道弘[1975]「企業成長の金融問題」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 10 号。
- 生駒道弘[1977]「LC 株式評価論批判——とくにリスクの認識について」『経済理論』和歌山大学経済学会，第 158 号。
- 生駒道弘[1978]「資本剰余金は創業者利得か?」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 13 号。
- 生駒道弘[1980]「額面思想の系譜——時価発行増資ルール確立のために」『産業経理』産業経理協会，第 40 卷第 12 号。
- 生駒道弘[1981]「資本金概念の拡張と配当政策」『産業経理』産業経理協会，第 41 卷第 9 号。
- 生駒道弘[1981]「大正期株式プレミアム論争の一分析——株式プレミアム課税論をめぐる」『経済理論』和歌山大学経済学会，第 184 号。
- 生駒道弘[1982]「商法改正と配当政策」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 17 号。
- 生駒道弘[1982]「大正期プレミアム論争に現われた二つの見解——東説と高瀬説について」『経済理論』和歌山大学経済学会，第 188 号。
- 生駒道弘[1982]「時価発行の理論と現実——とくに公募価格と配当政策について」日本経営財務研究会編『日本的経営財務の解明』中央経済社。
- 生駒道弘[1983]「額面超過金＝創業者利得説と額面思想」『産業経理』産業経理協会，第 42 卷第 7 号。
- 生駒道弘[1983]「利益留保と創業者利得——時価公募新株の評価」『経済理論』和歌山大学経済学会，第 193 号。
- 生駒道弘[1983]「株式プレミアム＝資本説への道——別府正十郎教授の所説によせて」『経済理論』和歌山大学経済学会，第 194 号。
- 生駒道弘[1983]「時価発行の若干問題」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会，第 21 卷第 12 号。
- 生駒道弘[1984]「三つのプレミアム論争」『インベストメント』大阪証券取引所，第 37 卷第 1 号。
- 生駒道弘[1984]「株式プレミアムの資本性と自己金融——別府正十郎教授の所説によせて」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 19 号。
- 生駒道弘・小野二郎・浜本泰編[1985]『テキストブック経営財務』<有斐閣ブックス>有斐閣。
- 生駒道弘[1985]「ヒルファディング創業者利得説の擁護——株式会社は創業者利得を取得するか」『経済理論』和歌山大学経済学会，第 205 号。
- 生駒道弘[1985]「株式会社の金融的自立化と株式プレミアム——川合一郎教授の所説によせて」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第 152 卷第 4 号。

- 生駒道弘[1986]『株式時価発行の理論——株式プレミアムと配当政策』千倉書房.
- 生駒道弘[1986]「西ドイツ大企業における所有と支配——支配状況分類の若干問題」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第21号.
- 生駒道弘[1986]「経営者支配対所有者支配——西ドイツの論議をめぐる」『経済理論』和歌山大学経済学会, 第213号.
- 生駒道弘[1987]「株式プレミアム＝創業者利得説の一形態について——鶴飼・酒井・高山3氏の資本説批判に答える」『経済理論』和歌山大学経済学会, 第216号.
- 生駒道弘・榊原茂樹編[1988]『経営財務と証券市場』千倉書房.
- 生駒道弘[1992]「バーリ・ミーンズにおける所有・支配分離論の方法——究極的支配について」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第27号.
- 生駒道弘[1992]「バーリ・ミーンズ経営者支配論の意義」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第166巻第4号.
- 生駒道弘[1993]『経営学の歩み』同文館出版(改訂版, 1997年. 改訂増補版, 1998年).
- 生駒道弘[1995]「株式時価発行における創業者利益の発生と帰属——高寺貞男教授の見解によせて」『商経学叢』近畿大学経営学部, 第42巻第2・3号.
- 生駒道弘[1996]「資本剰余金の形成と創業者利益——株式プレミアムの「処分可能性」と正味現在価値」『同志社商学』同志社大学商学会, 第48巻第1号.
- 生駒道弘[2002]「株価極大化原理はグローバル・スタンダードか?」『関西大学商学論集』関西大学商学会, 第47巻第4・5号.
- 生駒道弘[2004]「わが国の株式時価発行移行過程におけるコーポレート・ガバナンス 1970-1990」『四国大学経営情報研究所年報』四国大学附属経営情報研究所, 第10号.
- 生駒道弘[2007]「我が国株式時価発行金融(1969-1989)から何を学ぶか」『四国大学経営情報研究所年報』四国大学附属経営情報研究所, 第13号.
- 諫山正・春田素夫編[1992]『日米欧の金融革新』日本評論社.
- 石井寛治[1966]「書評 柴垣和夫著『日本金融資本分析』」『経済学論集』東京大学経済学会, 第32巻第1号.
- 石井寛治[1967]「産業金融史研究の方法に関する覚書」『社会経済史学』社会経済史学会, 第33巻第3号.
- 石井寛治[1992]『日本の産業化と財閥』<岩波ブックレット>岩波書店.
- 石井寛治[1999]『近代日本金融史序説』東京大学出版会.
- 石井寛治・杉山和雄編[2001]『金融危機と地方銀行——戦間期の分析』東京大学出版会.
- 石井寛治編[2001]『日本銀行金融政策史』東京大学出版会.
- 石井寛治[2005]「日本金融史再考——両替商から銀行へ」『東京経大会誌 経営学』東京経済大学経営学会, 第242号.
- 石井徹[1991]「金融資本の蓄積様式について」, 今東博文・折原裕・佐藤公俊編『現代ポリティカル・エコノミーの問題構制』<マルクス経済学叢書8>社会評論社.
- 石井徹[2018]「書評 河西勝著『宇野理論と現代株式会社——法人企業四百年ものがたり』」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第55巻第3号.
- 石川郁郎[1962]「技術革新と株式市場」(1・2), 『発明』発明推進協会, 第59巻第2号・第3号.
- 石川郁郎[1963]「公社債市場の育成をはばむもの」『経済評論』日本評論社, 復刊第12巻第6号.
- 石川郁郎[1968]「投資信託」, 木村増三編『証券経済講座 第4巻——証券流通市場と株価形成』東洋経済新報社.
- 石倉雅男[2010]「貸出債権の証券化とマクロ経済」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第47巻第2号.
- 石倉雅男[2011]「日本の金融システムの構造変化と金融政策」, 渡辺和則編『金融と所得分配』日本経済評論社.

- 石倉雅男[2012]『貨幣経済と資本蓄積の理論』大月書店(第2版,2019年).
- 石倉雅男[2015]「ミンスキー理論の国際経済への拡張」『季刊 経済理論』経済理論学会,第52巻第3号.
- 石倉雅男[2018]「金融システムの質的变化とマクロ経済——証券化を中心として」『信用理論研究』信用理論研究会,第36号.
- 石坂昭雄[1969]「ジョン・コックリル株式会社の創生記——ベルギー産業革命と国際的企業者活動」『経営史学』経営史学会,第4巻第2号.
- 石坂昭雄[1969・70]「ベルギー金融資本の成立と発展——ソシエテ・ジェネラルとブリュッセル銀行」(1・2),『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院,第19巻第3号.
- 石坂綾子[2008]「書評 山口博教著『ドイツ証券市場史——取引所の地域特性と統合過程』」『歴史と経済』政治経済学・経済史学会,第50巻第2号.
- 石崎昭彦[1962]『アメリカ金融資本の成立』東京大学出版会.
- 石崎昭彦[2014]『アメリカ新金融資本主義の成立と危機』岩波書店.
- 石田周[2015]「EUの合併規制が銀行M&Aに及ぼした影響——スウェーデン国内における2001年の銀行合併計画に着目して」『立教経済学論叢』立教大学大学院経済学研究会,第81号.
- 石田周[2019]「EUにおける大銀行の経営戦略の変化と銀行制度の調和——金融機関の「大口株式保有(qualifying holdings)」に関する規制に着目して」『日本EU学会年報』日本EU学会,第39号.
- 石田定夫[1961]『マネーフロー分析——新しい金融の見方』<日経文庫>日本経済新聞社.
- 石田定夫[1969]「資金循環と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会,第4号.
- 石田定夫[1979]「最近における資金循環の変化について——とくに昭和50年代の国債発行に関連して」『証券経済学会年報』証券経済学会,第14号.
- 石田定夫[1979]『金融市場』<現代金融叢書>東洋経済新報社.
- 石田定夫[1981]「公社債市場と金融市場——国債の大量発行と資金循環・金融政策の問題」『証券経済学会年報』証券経済学会,第16号.
- 石田定夫[1993]『日本経済の資金循環——国際化・自由化・金融政策』東洋経済新報社.
- 石塚史樹[2016]「金融危機後におけるドイツの銀行業界の諸問題」,柴田徳太郎編著『世界経済危機とその後の世界』日本経済評論社.
- 石橋貞男[2016]『現代の貨幣』<和歌山大学経済学部研究叢書25>白桃書房.
- 石橋妙子[2004]「モーゲッジ証券化市場発展の基礎——商業用モーゲッジを中心に」『熊本学園商学論集』熊本学園大学商学会,第10巻第2・3号.
- 石橋妙子[2004]「不良債権証券化の基礎——米国RTCから学ぶこと」『熊本学園商学論集』熊本学園大学商学会,第11巻第1号.
- 石橋妙子[2008]「モーゲージ証券化市場の拡大——サブプライムが明かした米国住宅市場の脆弱性」『証券経済研究』日本証券経済研究所,第62号.
- 石橋妙子[2009]「サブプライムローン証券化の現状と課題」『証券経済学会年報』証券経済学会,第44号.
- 石浜知行[1948]『資本主義の成立と発展』銀座出版社.
- 石原定和[1967]「明治前期における株式取引所の機能について——清算取引の意義の再検討」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所,第89号.
- 石原定和[1981]『戦後証券市場の構造分析——高度成長期よりスタグフレーション期へ』千倉書房.
- 石原定和[1985]「アメリカ公社債市場の問題点——現状とわが国への影響」『証券経済学会年報』証券経済学会,第20号.
- 石原定和[1985]「証券市場構造の比較研究——日・米にみる共通性と特殊性について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会,第152巻第4号.
- 石原定和[1986]「債券流通市場についての覚え書——米国と比較して」『商学討究』小樽商科大学,第36巻第3号.
- 石原定和[1992]「証券市場政策の役割について——免

- 許制下での自由化政策と保護育成行政』『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第166巻第1号。
- 石原定和[1994]「1980年代におけるアメリカの証券政策について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第169巻第5号。
- 石原定和[1994]「米国証券市場における大手機関投資家としての生保会社の動向——機関化相場形成期よりM&A期へ」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第170巻第3号。
- 石原定和[1997]『米国証券市場の変貌と証券政策』千倉書房。
- 石原忠男[1952]『経済学の基礎理論』三和書房。
- 石原忠男[1954]『経済学——その生成と発展』三和書房（増訂版，1965年）。
- 石原忠男[1963]『経済学原論』学芸書房。
- 石原忠男[1975]『経済原論——『資本論』の体系』青木書店。
- 石原洋介[2013]「サブプライム危機が示した新自由主義金融の限界」『三重法経』三重短期大学法経学会，第141号。
- 居城弘[1971・72]「ドイツ電機工業の独占形成過程」（上・下），『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第20巻第4号・第21巻第4号。
- 居城弘[1976]「独占形成期の証券的機構」『証券経済学会年報』証券経済学会，第11号。
- 居城弘[1979]「第一次大戦前ドイツ信用制度に関する覚え書」『法経研究』静岡大学法経学会，第27巻第4号。
- 居城弘[1981・82]「ドイツ金融資本と国際的信用制度の展開——ドイツ大銀行の海外進出の構造と展開」（1・2），『法経研究』静岡大学法経学会，第30巻第1号・第3・4号。
- 居城弘[1985]「国際金本位制期のドイツ金融市場と金融政策にかんする一考察」『法経研究』静岡大学法経学会，第33巻第3・4号。
- 居城弘[1985]「19世紀前半におけるドイツの金融と銀行」『国学院経済学』国学院大学経済学会，第33巻第2・3号。
- 居城弘[1986]「金融資本段階のドイツ信用制度の構造と変動」『金融経済』金融経済研究所，第216号。
- 居城弘[1987]「国際金本位制期のドイツ兼営銀行と金融市場」『信用理論研究』信用理論研究会，第4号。
- 居城弘[1990]「「ドイツ型金融システム」の歴史的基盤（1）——その予備的一考察」『法経研究』静岡大学法経学会，第39巻第1号。
- 居城弘[1991]「ベルリン割引市場——その成立と構造」『金融経済研究』日本金融学会，第1号。
- 居城弘[1994]「ドイツにおける株式信用銀行の生成過程——1850年代を中心として」『法経研究』静岡大学法経学会，第42巻第3・4号。
- 居城弘[1995]「「ドイツ型銀行類型」とベルリン大銀行」『法経研究』静岡大学法経学会，第44巻第2号。
- 居城弘[1996]「書評 赤川元章著『ドイツ金融資本と世界市場』」『金融経済研究』日本金融学会，第10号。
- 居城弘[2001]『ドイツ金融史研究——ドイツ型金融システムとライヒスバンク』＜Minerva人文・社会科学叢書41＞ミネルヴァ書房。
- 居城弘[2006]「書評 山口博教著『ドイツ証券市場史』」『社会経済史学』社会経済史学会，第72巻第4号。
- 居城弘[2006・07・08]「ドイツの手形割引業務とベルリン貨幣市場」（1・2・3），『静岡大学経済研究』静岡大学経済学会，第11巻第2号・第12巻第2号・第13巻第2号。
- 居城弘[2009]「R・リーフマンの「証券資本主義論」について」『静岡大学経済研究』静岡大学経済学会，第13巻第4号。
- 居城弘[2010]「現代ドイツの企業金融構造分析」『静岡大学経済研究』静岡大学人文社会科学部，第14巻第4号。
- 居城弘[2011]「世界金融危機とドイツ銀行業の分析」『静岡大学経済研究』静岡大学人文社会科学部，第15巻第3号。
- 居城弘[2014・15]「世界金融・政府債務危機とドイツ金融システム」（1・2），『静岡大学経済研究』静岡

- 岡大学人文社会科学部, 第 18 巻第 4 号・第 19 巻第 4 号.
- 石渡貞雄[1979・80]「現代大企業経営者の性格——「経営者支配」論に対するマルクス経済学的検討」(1・2),『専修大学社会科学研究所月報』専修大学社会科学研究所, 第 196 号・第 197 号.
- 石渡貞雄[1982]「「所有と支配の分離」は存在するか——資本所有の分割とその支配」『社会科学年報』専修大学社会科学研究所, 第 16 号.
- 石渡貞雄[1986]「現代巨大株式会社における所有と支配」『専修経済学論集』専修大学経済学会, 第 20 巻第 2 号.
- 石渡貞雄[1986]「なぜ株式会社か——問題提起」『専修大学社会科学研究所月報』専修大学社会科学研究所, 第 280 号.
- 伊豆久[1995]「金融グローバル化の政治経済学」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 191 号.
- 伊豆久[1997]「オンライン・ブローカーとオーダー・フロー・ペイメント」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 7 号.
- 伊豆久[1997]「米国の手数料自由化と証券会社の対応——地方証券会社を中心に」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会, 第 35 巻第 7 号.
- 伊豆久[1998]「インデペンデント・コントラクターと証券規制」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1557 号.
- 伊豆久[1998]「ヘッジファンドと証券規制」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1562 号.
- 伊豆久[1998]「ジョーンズファンドとブームの破綻——ソロス以前のヘッジファンド」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1564 号.
- 伊豆久[1998]「投資家の直接発注について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1565 号.
- 伊豆久[1999]「米国証券取引所の PTS 業務参入をめぐって——シカゴ証取のコールマーケットシステム」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1566 号.
- 伊豆久[1999]「オンライン投資銀行をめぐって」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1569 号.
- 伊豆久[1999]「米国の IPO 手数料問題をめぐって」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1572 号.
- 伊豆久[1999]「大手投資銀行と IPO」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1573 号.
- 伊豆久[1999]「オンライン投資銀行の可能性——個人投資家と IPO」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会, 第 37 巻第 9 号.
- 伊豆久[1999]「ニューヨーク証券取引所の外国株取引」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1575 号.
- 伊豆久[1999]「〈市場サービス〉のアンバンドリング——取引所の上場管理機能について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1576 号.
- 伊豆久[2000]「上場基準と新市場ブーム」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1578 号.
- 伊豆久[2000]「FP 提携証券会社と NASD 規制」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1579 号.
- 伊豆久[2000]「米国の店舗規制について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1580 号.
- 伊豆久[2000]「米国における生保系証券会社と証券規制」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1582 号.
- 伊豆久[2000]「IC 提携型証券会社のビジネス展開」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1583 号.
- 伊豆久[2000]「市場間競争と上場制度」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 26 号.
- 伊豆久[2000]「上場デリバティブ取引と清算機関」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所

- 所, 第 1585 号.
- 伊豆久[2000]「証券取引所の国際化戦略——NYSE と NASDAQ の場合」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1586 号.
- 伊豆久[2000]「ニューヨーク証券取引所と外国株式」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1587 号.
- 伊豆久[2000]「株価変動率の上昇について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1589 号.
- 伊豆久[2001]「国際資本市場の発達と IMF の変容」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1590 号.
- 伊豆久[2001]「米国新興企業とストック・オプション」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1594 号.
- 伊豆久[2001]「M&A 会計と IT バブル」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1596 号.
- 伊豆久[2001]「自社株買いについて」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1597 号.
- 伊豆久[2001]「取引所の自主規制機能について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1599 号.
- 伊豆久[2002]「減資について——株式・資本金・株主持分」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1603 号.
- 伊豆久[2003]「欧米証券取引所の国際化について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1618 号.
- 伊豆久[2003]「発展途上国の株高の背景について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1621 号.
- 伊豆久[2004]「米国の内外証券投資について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1624 号.
- 伊豆久[2004]「SEC のヘッジファンド規制案について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1625 号.
- 伊豆久[2005]「NYSE 外国株市場の最近の動向について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1632 号.
- 伊豆久[2006]「米国のネット証券について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1636 号.
- 伊豆久[2007]「M&A・LBO・CDS——<ファンド化>する国際資本市場」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1640 号.
- 伊豆久[2007]「ファンド・ブーム下の国際資本市場」『甲南経済学論集』甲南大学経済学会, 第 47 巻 第 4 号.
- 伊豆久[2007]「最近の LBO ブームの特徴と背景」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1642 号.
- 伊豆久[2007]「買収ファンドの上場をめぐる——ブラックストーン IPO」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1643 号.
- 伊豆久[2007]「円キャリートレードの不思議——株価と為替と金利の関係」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1644 号.
- 伊豆久[2008]「政府系ファンドをどう見るか」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1646 号.
- 伊豆久[2008]「サブプライム問題と IT バブル」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1648 号.
- 伊豆久[2008]「レバレッジド・ローン市場について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1650 号.
- 伊豆久[2009]「サブプライム問題が問いかけるもの」, 『生活経済政策』編集委員会編『世界金融恐慌と現代資本主義』<生活研ブックス 27>生活経済政策研究所.
- 伊豆久[2009]「国際金融危機と短期金融市場」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1652 号.
- 伊豆久[2009]「リーマンショック・MMF・FRB」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1656 号.

- 伊豆久[2010]「金融危機下の米国ネット証券会社」  
『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究  
所, 第 1662 号.
- 伊豆久[2011]「Eトレードとサブプライムローン」  
『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究  
所, 第 1664 号.
- 伊豆久[2011]「リーマン・ショックとFRB——金融危  
機と短期金融市場」『証券経済研究』日本証券経  
済研究所, 第 73 号.
- 伊豆久[2013]「リーマン・ショックとFRB」『信用理  
論研究』信用理論研究会, 第 31 号.
- 伊豆久[2014]「バイルイン債とは何か」『証研レポー  
ト』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1682  
号.
- 伊豆久[2016]『金融危機と中央銀行』九州大学出版  
会.
- 伊豆久[2016]「内外証券投資の収益と残高」『証研レ  
ポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第  
1696 号.
- 伊豆久[2017]「ECBの量的緩和と国債保有・損益負  
担」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研  
究所, 第 1702 号.
- 伊豆久[2019]「レバ・ローンは第二のサブプライム  
か?」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研  
究所, 第 1715 号.
- 伊豆久[2020]「FRBのコロナ危機対応策——リーマン  
危機との比較」『証研レポート』日本証券経済研  
究所大阪研究所, 第 1719 号.
- 伊豆久[2021]「SRF導入の背景——FRBと国債市場」  
『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究  
所, 第 1729 号.
- 伊豆久[2022]「FRB・国債市場・PTF」『証研レポー  
ト』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1730  
号.
- 泉正樹・結城剛志[2016]「貨幣・信用論をめぐる研究  
状況——Economy & Society 誌における論争を手  
掛かりとして」『社会科学論集』埼玉大学経済学  
会, 第 146・147 号.
- 磯谷明德[2004]『制度経済学のフロンティア——理  
論・応用・政策』<Minerva 現代経済学叢書 71>  
ミネルヴァ書房.
- 磯谷玲[1991]「1980年代後半におけるユーロ市場と  
金融機関——「階層化」と「同質化」の展開」  
『証券研究』日本証券経済研究所, 第 97 号.
- 磯谷玲[1993]「アメリカ金融制度改革について」『証  
券経済学会年報』証券経済学会, 第 28 号.
- 磯谷玲[1993]「米連邦政府証券に対する投資状況」  
『証券研究』日本証券経済研究所, 第 107 号.
- 磯谷玲[1994]「アメリカの競争力」と株価」『証券レ  
ビュー』日本証券経済研究所, 第 34 巻第 8 号.
- 磯谷玲[1995]「米政府証券市場の改革——「ソロモ  
ン・スキヤンダル」と政府証券市場の構造変化」  
『証券研究』日本証券経済研究所, 第 111 号.
- 磯谷玲[1995]「銀行業の衰退」とアメリカ金融システ  
ムの変化」『証券レビュー』日本証券経済研究  
所, 第 35 巻第 1 号.
- 磯谷玲[1995]「1980年代におけるアメリカの金融構  
造——株式発行純減をめぐる資金循環を中心に」  
『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 35 巻  
第 6 号.
- 磯谷玲[1996]「銀行の証券業務をめぐる——1993  
年以前のアメリカにおける銀行と証券」『証券レ  
ビュー』日本証券経済研究所, 第 36 巻第 3 号.
- 磯谷玲[1996]「1980年代アメリカの金融構造——資  
金循環の側面を中心に」(上・下), 『証券経済研  
究』日本証券経済研究所, 第 1 号・第 2 号.
- 磯谷玲[1996]「アメリカにおける私募市場について」  
(1・2), 『証券レビュー』日本証券経済研究所,  
第 36 巻第 7 号・第 9 号.
- 磯谷玲[1997]『80年代アメリカの金融変革』日本経  
済評論社.
- 磯谷玲[1997]「アメリカ金融・資本市場の「グローバ  
ル化」」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第  
37 巻第 1 号.
- 磯谷玲[1997]「米国における金融規制緩和」『証券経  
済研究』日本証券経済研究所, 第 6 号.
- 磯谷玲[1997]「アメリカにおける銀行と証券」(1・  
2・3), 『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第  
37 巻第 6 号・第 7 号・第 8 号.
- 磯谷玲[1998]「アメリカの金融制度改革——銀行業と

- 証券業の兼営に関する歴史認識について』『証券レビュー』日本証券経済研究所，第38巻第3号。
- 磯谷玲[1998]「銀行と証券の分離」について——「銀行と証券の分離」の背景となる歴史認識を中心に』『証券経済研究』日本証券経済研究所，第12号。
- 磯谷玲[1998]「アメリカの私募債市場について」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第16号。
- 磯谷玲[2003]「米国のマーチャント・バンキング業務規制」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第41号。
- 磯谷玲[2004]「アメリカにおける個人資産と証券投資」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第44巻第6号。
- 磯村隆文[1967]『物価変動の理論——現代資本主義の物価変動分析』東洋経済新報社。
- 井田啓二[1960]「創業者利得と配当——創業者利得範疇の成立のための基礎的分析」『市大論集』大阪市立大学大学院経済経営研究会，第2号。
- 井田啓二[1968]「国債管理と金融政策——ビルズ・オンリー操作について〔アメリカ〕」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第59巻第6号。
- 井田啓二[1971]「リセッション」と公開市場政策（ビルズ・オンリー操作の終結（2））」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第64巻第2・3号。
- 井田啓二[1972]「ツイスト・オペレーションと国債構造の変化——60年代アメリカ経済のビルト・イン・インフレ機構」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第67巻第5・6号。
- 井田啓二[1973]「国債保有構造とツイスト・オペレーション——過剰「流動性」の形態変化について〔米国〕」『経済学年報』大阪市立大学経済学会，第33号。
- 井田啓二[1973]「60年代アメリカにおける国債構造の変化とインフレ抑制——インフレ“Lesser evil”論の現実的基盤について」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第69巻第3号。
- 井田啓二[1974]「60年代アメリカにおける国債構造の変化とインフレ抑制」『証券経済学会年報』証券経済学会，第9号。
- 井田啓二[1974]「国債管理の展開とその理論——60年代アメリカ経済のビルト・イン・インフレ抑制について」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第71巻第6号。
- 井田啓二[1975]「国債管理論の研究課題——「インフレーションと失業」ディレンマ論の再検討」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第73巻第5・6号。
- 井田啓二[1976]「国債と信用制度——国債管理論序説」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第74巻第3号。
- 井田啓二[1977]「国債管理とクラウディング・アウト論——M.フリードマン・J. トービン論争」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第76巻第3号。
- 井田啓二[1978]『国債管理の経済学』新評論。
- 井田高之[1983]「R. ヒルファディング<価値・貨幣>理論における難点——『金融資本論』第1篇を中心に」『福岡大学経済学論叢』福岡大学研究推進部，第27巻第4号。
- 板垣博[1976]「1960年代のアメリカにおける合同運動——コングロマリット企業ITTを中心に」『証券研究』日本証券経済研究所，第48号。
- 板木雅彦[2005]「いわゆる「のれん代」からみた多国籍企業の独占的産業株式資本への転化」『国際経済』日本国際経済学会，第56号。
- 板木雅彦[2006]『国際過剰資本の誕生』<Minerva 現代経済学叢書87>ミネルヴァ書房。
- 板木雅彦[2006]「いわゆる「のれん代」からみた産業資本の産業株式資本への転化」『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会，第18巻第3号。
- 板木雅彦[2007]「いわゆる「のれん代」からみた多国籍企業と世界経済の変容」『季刊 経済理論』経済理論学会，第44巻第1号。
- 板木雅彦[2009]「世界金融危機と国際過剰資本の展

- 開』『経済』新日本出版社，第 162 号。
- 猪谷善一[1932]『世界経済学要論』森山書店。
- 伊丹正博[1965]「明治金融史研究の課題——原司郎著『明治前期金融史』について」『香川大学経済論叢』香川大学経済学会，第 38 卷第 3 号。
- 一井昭[2009]『ポリティカル・エコノミー——『資本論』から現代へ』桜井書店。
- 一井昭編[2010]『グローバル資本主義の構造分析』＜中央大学経済研究所研究叢書 49＞中央大学出版部。
- 一泉知永[1958]「株価・配当・プレミアム——追加資本としての利潤について」『明大商学論叢』明治大学商学研究所，第 42 卷第 3 号。
- 一泉知永[1964]「証券経済の発展」『証券投資信託月報』証券投資信託協会，第 48 号。
- 一泉知永[1964]「証券経済の展開過程——イギリス投資信託成立の背景」『証券投資信託月報』証券投資信託協会，第 50 号。
- 一泉知永[1964]「続・証券経済の展開過程——イギリス投資信託成立の周辺」『証券投資信託月報』証券投資信託協会，第 51 号。
- 一泉知永[1965]「現実資本と金融資産からみた今日の不況——現実資本蓄積と擬制資本運動」『経済評論』日本評論社，復刊第 14 卷第 10 号。
- 一泉知永[1968]「書評 荒川弘著『証券恐慌前後』——分析の総合的視点を提示」『投資信託事情』投資信託事情調査会，第 109 号。
- 一泉知永[1970]「資本構造と証券市場」『証券投資信託月報』証券投資信託協会，第 115 号。
- 一泉知永[1970]「証券金融小論」『明大商学論叢』明治大学商学研究所，第 53 卷第 3-6 号。
- 一泉知永[1973]「拡大する資本市場——国際化の進展と市場の整備をめぐって」『近代セールス』近代セールス社，第 217 号。
- 一泉知永[1982]「証券・銀行の抗争」『投資信託事情』投資信託事情調査会，第 259 号。
- 一ノ瀬篤[1975]「金融資本における「銀行」とは何か」『広島商大論集 商経編』広島商科大学商経学会，第 9 卷第 2 号。
- 一ノ瀬篤[1970・71]「創業者利得の資本制経済への反作用」(1・2)，『広島商大論集 商経編』広島商科大学商経学会，第 11 卷第 1 号・第 2 号。
- 一ノ瀬篤[1972]「資本輸出論と宇野経済学」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 7 号。
- 一ノ瀬篤[1974]「国債の比重低下と国債価格支持政策」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 9 号。
- 一ノ瀬篤[1975]「Fund of Credit 政策の研究」『広島修大論集 商経編』広島修道大学商経学会，第 15 卷第 2 号。
- 一ノ瀬篤[1975]「南海泡沫事件と国債」『インベストメント』大阪証券取引所，第 28 卷第 2 号。
- 一ノ瀬篤[1975]「イギリス Treasury Bill の研究」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第 122 号。
- 一ノ瀬篤[1976]「遊休貨幣の現代的存在形態——イギリス大蔵省証券研究との関連において」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 11 号。
- 一ノ瀬篤[1978]「国債とインフレーション——原理的考察」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 13 号。
- 一ノ瀬篤[1979]「イギリスにおける金利自由化とインフレーション——「競争と信用統制」以降のイギリス金融政策」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第 130 号。
- 一ノ瀬篤[1980]『国債管理とスタグフレーション——一つの戦後イギリス経済論』新評論。
- 一ノ瀬篤[1981]「先進資本主義諸国における国債の現状——増発の原因と問題点」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第 137 号。
- 一ノ瀬篤[1985]「マルクス学派の公債理論」(上・下)，『愛媛経済論集』愛媛大学経済学会，第 5 卷第 1 号・第 2 号。
- 一ノ瀬篤[1988]「『諸国民の富』等における funding の訳語について」『愛媛経済論集』愛媛大学経済学会，第 7 卷第 2 号。
- 一ノ瀬篤[1988]「株価騰落の意味するもの——株価騰落と現実資本の蓄積」『愛媛経済論集』愛媛大学経済学会，第 8 卷第 1 号。
- 一ノ瀬篤[1989]「明治 9 年の国立銀行条例改正と公債

- 公債による銀行資本金払い込みの意味するもの』『岡山大学経済学会雑誌』岡山大学経済学会，第20巻第4号。
- 一ノ瀬篤[1997]「バブルの形成に関する代表的論議——論点整理——泡沫の期(1)」『岡山大学経済学会雑誌』岡山大学経済学会，第29巻第3号。
- 一ノ瀬篤[1998]「バブル初期段階の株価高騰について——1983-85年——泡沫の期(2)」『岡山大学経済学会雑誌』岡山大学経済学会，第30巻第1号。
- 一ノ瀬篤[1998]「バブル本格化段階における為銀海外短資取入れと株式市場——補足考察——泡沫の期(3)」『岡山大学経済学会雑誌』岡山大学経済学会，第30巻第2号。
- 一ノ瀬篤[1999]「バブルの形成について——代表的論議の吟味と論点の展開」『証券経済学会年報』証券経済学会，第34号。
- 一ノ瀬篤[2003]「バブル形成メカニズムの基礎——岡崎守男教授の株価論に寄せて」『桃山学院大学経済経営論集』桃山学院大学総合研究所，第44巻第4号。
- 一ノ瀬篤編著[2005]『現代金融・経済危機の解明』<Minerva 現代経済学叢書 83>ミネルヴァ書房。
- 一ノ瀬篤[2010]『国債の謎』<研究叢書 27>桃山学院大学総合研究所。
- 一ノ瀬秀文[1979]「現代金融資本における所有と支配」，林直道編『講座 史的唯物論と現代——現代資本主義 2』青木書店，第4巻b。
- 市村巧[1982]「初期イギリス社会計法における鉄道規制法(1868年)の位置づけ」『岡山商大論叢』岡山商科大学学会，第17巻第3号。
- 井手英策[1998]「後期高橋財政と「国債漸減」政策——「危機」における大蔵省の政策決定過程」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第14号。
- 井手英策[2001]「起債許可制度と財源統制——財政の「健全化」に見るフィスカルポリシーの一側面」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第32号。
- 井手英策[2001]「新規国債の日銀引受発行制度をめぐる日本銀行・大蔵省の政策思想——管理通貨制度への移行期における新たな政策体系」『金融研究』日本銀行金融研究所，第20巻第3号。
- 井手英策[2006]『高橋財政の研究——昭和恐慌からの脱出と財政再建への苦闘』有斐閣。
- 糸井重夫[1998]「金融持株会社解禁と規制監督制度の再構築——日米欧の金融機関規制の比較検討」『中央大学企業研究所年報』中央大学企業研究所，第19号。
- 糸井重夫[2000]「日米のインサイダー取引規制——金融経済の進展と証券市場規制の再構築」『松商短大論叢』松商学園短期大学，第49号。
- 糸井重夫[2004]『現代の金融と経済』中央大学出版社。
- 伊藤淳巳[1950]「株式会社における資本支配」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第1号。
- 伊藤淳巳[1955]「株式会社制度と株主支配」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第17・18号。
- 伊藤淳巳[1955]「株式会社をめぐる会計理論と会計実践」『会計』森山書店，第68巻第2号。
- 伊藤岩[1959]「利子生み資本」展開の方法——宇野・飯田両教授の対立から」『新潟大学法経論集』新潟大学人文学部，第8巻第2号。
- 伊藤修[1990]「金融変革と信託の金融機能」『証券研究』日本証券経済研究所，第93号。
- 伊藤修[1991]「株式所有の構造」，小島恒久編『現代日本の経済・労働』<大系現代の世界と日本 第3巻>えるむ書房。
- 伊藤修[1995]『日本型金融の歴史的構造』東京大学出版会。
- 伊藤修[1999]「コーポレートガバナンス論と経済システム論——議論の整理と現代日本への1つの評価」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第22号。
- 伊藤修・埼玉大学金融研究室編[2010]『バブルと金融危機の論点』日本経済評論社。
- 伊藤修・齊藤直編著[2019]『金融業』<産業経営史シリーズ 11>日本経営史研究所。
- 伊藤修・植林茂・鶴飼博史・長田健編著[2020]『日本金融の誤解と誤算——通説を疑い検証する』勁草書房。

- 伊藤国彦[2022]「貨幣，信用，債券，株式そして総需  
要」『商大論集』兵庫県立大学神戸商科キャンパ  
ス学術研究会，第73巻第3号。
- 伊藤昌太[2001]『旧ロシア金融史の研究』八朔社。
- 伊藤武[1969]「宇野氏「利子生み資本論」批判の検討  
——資本論第3部第5篇第21～24章に関連し  
て」『大阪経大論集』大阪経大会，第70号。
- 伊藤武[1971]『金融の基礎理論』法律文化社。
- 伊藤武[1975]「利子生み資本と信用制度——信用論な  
き信用論批判」『研究年報経済学』東北大学大学  
院経済学研究科，第36巻第4号。
- 伊藤武[1980]「「新しい」信用論の虚妄——再生産と  
信用との連繫」『金融経済』金融経済研究所，第  
183号。
- 伊藤武[1982]『マルクス信用論の解明』法律文化社。
- 伊藤武[1991]「利子生み資本と信用制度」『大阪経大  
論集』大阪経大会，第200号。
- 伊藤武[2006]『マルクス再生産論と信用理論』<大阪  
経済大学研究叢書 第51冊>大月書店。
- 伊藤誠[1971]「株式資本論の方法と展開——マルクス  
の株式資本論によせて」『経済学論集』東京大学  
経済学会，第37巻第1号。
- 伊藤誠[1971]「書評 後藤泰二著『株式会社の経済理  
論』」『経済学論集』東京大学経済学会，第37巻  
第2号。
- 伊藤誠[1973]『信用と恐慌』東京大学出版会。
- 伊藤誠[1974]「株式資本」，鈴木鴻一郎編著『マルク  
ス経済学』<セミナー経済学教室1>日本評論  
社。
- 伊藤誠[1981]『価値と資本の理論』岩波書店。
- 伊藤誠[1989]『資本主義経済の理論』岩波書店。
- 伊藤誠・C.ラバヴィツァス[2002]『貨幣・金融の政治  
経済学』岩波書店。
- 伊藤誠[2009]『サブプライムから世界恐慌へ——新自  
由主義の終焉とこれからの世界』青土社。
- 伊藤誠[2010]「サブプライムから世界恐慌へ」『季刊  
経済理論』経済理論学会，第47巻第1号。
- 伊藤誠[2013]『日本経済はなぜ衰退したのか——再生  
への道を探る』<平凡社新書>平凡社。
- 伊藤誠[2018]『入門資本主義経済』<平凡社新書>平  
凡社。
- 伊東政吉[1958]「アメリカにおける公開市場政策論  
争」『金融経済』金融経済研究所，第48号。
- 伊東政吉[1972]「書評 呉天降著『アメリカ金融資本  
成立史』」『経済研究』一橋大学経済研究所，第  
23巻第4号。
- 伊東政吉・江口英一編[1983]『アメリカの金融革命  
——歴史・制度・理論・政策』<有斐閣選書>有  
斐閣。
- 伊東政吉[1985]『アメリカの金融政策と制度改革』<  
一橋大学経済研究叢書35>岩波書店。
- 伊藤正直[1989]『日本の対外金融と金融政策 1914～  
1936』名古屋大学出版会。
- 伊藤正直・靄見誠良・浅井良夫編著[2000]『金融危機  
と革新——歴史から現代へ』日本経済評論社。
- 伊藤正直[2008]「日本資本市場研究の国際化を目指し  
て——山一証券社内資料700箱」『UP』東京大学  
出版会，第37巻第6号。
- 伊藤正直[2009]「グローバル化と金融危機」『民主主  
義教育21』同時代社，第3号。
- 伊藤正直[2010]『なぜ金融危機はくり返すのか——国  
際比較と歴史比較からの検討』旬報社。
- 伊藤正直・小林襄治[2011]『山一証券100年史』  
(下)，日本経営史研究所。
- 伊藤正直・藤井史朗編[2011]『グローバル化・金融危  
機・地域再生』<21世紀への挑戦2>日本経済評  
論社。
- 伊藤正直[2012]『金融危機は再びやってくる——世界  
経済のメカニズム』<岩波ブックレット>岩波書  
店。
- 伊藤正直・浅井良夫編[2014]『戦後 IMF 史——創生と  
変容』名古屋大学出版会。
- 伊藤光雄[1982]「擬制資本の形成と運動——債券と株  
式」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研  
究科，第44巻第3号。
- 伊藤光雄[1985]「擬制資本の形成と運動——債券と株  
式」『証券経済学会年報』証券経済学会，第20  
号。
- 伊藤光雄[1988]「証券取引資本について」『経済科学  
論集』島根大学法文学部，第14号。

- 伊藤光雄[1990]「創業者利得について——独占段階における株式擬制資本の運動」『経済科学論集』島根大学法文学部, 第16号.
- 伊藤光雄[1991]「アメリカ貯蓄貸付組合の危機と再編」『経済科学論集』島根大学法文学部, 第17号.
- 伊藤光雄[2000]「金融ビッグバンと郵便貯金」『経済科学論集』島根大学法文学部, 第26号.
- 伊藤光雄[2001]「わが国の金融システムと郵便貯金の将来」『経済科学論集』島根大学法文学部, 第27号.
- 伊藤光雄[2002]「郵貯マネーと金融市場——郵貯資金の自主運用の実態分析」『経済科学論集』島根大学法文学部, 第28号.
- 伊藤光雄[2003]「簡保資金と金融市場——簡保資金の運用実態分析」『経済科学論集』島根大学法文学部, 第29号.
- 伊藤光雄[2005]「郵政公社と金融市場——郵貯・簡保資金の運用実態からみた郵政民営化」『経済科学論集』島根大学法文学部, 第31号.
- 伊藤光雄[2006]「郵貯・簡保資金と国債市場——郵政民営化後を展望して」『経済科学論集』島根大学法文学部, 第32号.
- 伊東光晴[1962]『ケインズ——“新しい経済学”の誕生』<岩波新書>岩波書店.
- 伊東光晴[1965]「近代価格理論の構造——競争・寡占・独占」<現代経済学叢書1>新評論.
- 伊東光晴編[1966]『日本経済分析の再検討』<現代の経済と社会1>広文社.
- 伊藤幸男[1982]「「資本信用」論と「擬制資本信用」論」『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科, 第30巻第1号.
- 伊藤幸男[1986]「資本結合論——原理論における株式会社の位置付けをめぐる」(上・下), 『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科, 第33巻第2号・第3・4号.
- 伊藤陽一[1978]「現代日本の階級構成と資本家」『経済理論学会年報』経済理論学会, 第15集.
- 伊奈健二[1965]「合織工業における独占体の自己矛盾——東洋レーヨンにみる」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第73号.
- 伊奈健二[1966]「総合商社の問題点——有価証券報告書をもとにして」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第86号.
- 伊奈健二[1967]「時価主義評価思潮に対する一考察」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第94号.
- 伊奈健二[1970]「資本構成悪化の意味するもの」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第5号.
- 伊奈健二[1970]「国際化時代にはいった証券市場」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第110号.
- 伊奈健二[1976]「無担保社債とその問題点」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第15巻第3号.
- 伊奈健二[1977]「当面する証券市場の課題」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第16巻第1号.
- 伊奈健二[1977]「社債の無担保化と問題点」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第12号.
- 伊奈健二[1979]「企業財務と証券市場」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第17巻第5・6号.
- 伊奈健二[1982]「個人株主の減少と時価発行——今次商法改正と関連して」『インベストメント』大阪証券取引所, 第214号.
- 伊奈健二[1999]「金融ビッグバンのスタートでどう変わったか」『経済研究年報』大阪経済法科大学経済研究所, 第18号.
- 伊奈健二[2000]「IT革命と株価形成」『大阪経済法科大学経済学論集』大阪経済法科大学経法学会, 第24巻第1号.
- 伊奈健二[2003]「株価暴落の背景と政府のデフレ対策——金融システムの安定化と不良債権処理を中心に」『大阪経済法科大学経済学論集』大阪経済法科大学経法学会, 第26巻第2号.
- 伊奈健二[2004]「時価主義会計の導入とその背景」『大阪経済法科大学経済学論集』大阪経済法科大学経法学会, 第27巻第3号.
- 伊奈健二[2004]「コーポレートガバナンスと商法改正」『大阪経済法科大学経済学論集』大阪経済法科大学経法学会, 第28巻第1号.
- 稲垣秀夫[1982]「法人間の株式持合いと法人税制」

- 『オイコノミカ』名古屋市立大学経済学会，第19巻第1号。
- 稲垣秀夫[1982]「企業の株式所有と法人税負担」『オイコノミカ』名古屋市立大学経済学会，第19巻第2号。
- 稲垣秀夫[1984]「法人税制と株式所有形態——事業法人の株式所有について」『オイコノミカ』名古屋市立大学経済学会，第20巻第3・4号。
- 稲垣秀夫[1985]「株式持合いの経済的効果」『オイコノミカ』名古屋市立大学経済学会，第22巻第2号。
- 稲富信博[1980]「イギリス国債投資の展開とロンドン証券取引所の成立」『金融経済』金融経済研究所，第185号。
- 稲富信博[1982]「イギリス運河投資と証券市場」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第23巻第1号。
- 稲富信博[1983]「ジョッパー・ブローカーの職能分化とその歴史的な性格」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第24巻第1号。
- 稲富信博[1983]「イギリス運河会社経営の特徴」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第24巻第2号。
- 稲富信博[1984]「ジョッピング・システムの変化と要因」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第150号。
- 稲富信博[1986]「シティにおける金融再編成——ジョッピング制度の成立と変遷」『証券経済学会年報』証券経済学会，第21号。
- 稲富信博[1986]「イギリス証券取引所の門戸開放——証券市場の分裂の視点から」『インベストメント』大阪証券取引所，第39巻第3号。
- 稲富信博[1992]「イギリス株式市場の諸問題——第2のビッグバン?」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第179号。
- 稲富信博[1992]「ビッグ・バン後のイギリス証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第27号。
- 稲富信博[1993]「資本市場の論理——市場機構論への一疑問」，川本明人・澄川真幸・後藤一郎・稲富信博『第三次産業の新展開』広島修道大学総合研究所。
- 稲富信博[1997]「イギリス海外投資とロンドン証券取引所会員の国際裁定取引」『経済学研究』九州大学経済学会，第63巻第6号。
- 稲富信博[1999]「イギリス海外投資の一側面——LSE会員の裁定取引ネットワーク」『証券経済学会年報』証券経済学会，第34号。
- 稲富信博[2000]『イギリス資本市場の形成と機構』九州大学出版会。
- 稲富信博[2000]「第1次大戦までのイギリス証券投資家の変遷」『証券経済学会年報』証券経済学会，第35号。
- 稲富信博[2001]「ビッグ・バン前夜におけるジョッパー商会の経営と競争」『経済学研究』九州大学経済学会，第68巻第1号。
- 稲富信博[2001]「1970年代におけるジョッパー商会の競争状態——1978年独占・合併委員会報告より」『九州経済学会年報』九州経済学会，第39号。
- 稲富信博[2003]「ビッグ・バンとイギリス資本市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第38号。
- 稲富信博[2008]「書評 上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』〈新・国際金融テキスト2〉」『季刊経済理論』経済理論学会，第44巻第4号。
- 稲富信博[2014]「イギリスの1797年国債応募者についての一分析」『経済学研究』九州大学経済学会，第81巻第4号。
- 稲富信博[2019]「18世紀後半から19世紀初頭の3%コンソール保有者の一断面——未請求者リストの分析」『経済学研究』九州大学経済学会，第86巻第1号。
- 犬飼欽也[1967・68]「西ドイツにおける産業集中(1・2)」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第95号・第101号。
- 井上伊知郎[1994]『欧州の国際通貨とアジアの国際通貨』日本経済評論社。
- 井上清[1971]『アメリカ企業形態論』ミネルヴァ書房。
- 井上巽[1973]「インド金為替本位制の成立とシティ金

- 融資本』『西洋史研究』西洋史研究会，第2号。
- 井上巽[1977]「アメリカ型金融資本「門戸開放帝国主義」(アメリカ金融資本・帝国主義史研究の批判的再検討)」『社会科学の方法』御茶の水書房，第10巻第1号。
- 井上巽[1977]「アメリカ本位制論争と金融資本——1900年アメリカ金本位制の確立過程」『土地制度史学』土地制度史学会，第19巻第3号。
- 井上巽[1978]「アメリカ型金融資本と「門戸開放帝国主義」再論(森果・高橋章両氏の批判に答える)」『社会科学の方法』御茶の水書房，第11巻第1号。
- 井上巽[1982]「書評 西村閑也著『国際金本位制とロンドン金融市場』」『土地制度史学』土地制度史学会，第24巻第2号。
- 井上巽[1995]『金融と帝国——イギリス帝国経済史』名古屋大学出版会。
- 井上晴丸・宇佐美誠次郎[1950]『国家独占資本主義論——日本経済の現段階分析』潮流社。
- 井上泰夫[1996]『<世紀末大転換>を読む——レギュレーション理論の挑戦』有斐閣。
- 井上泰夫[2006]「金融の日本型レギュレーションを求めて——アメリカ・モデル批判」『環』藤原書店，第27号。
- 井上康・崎山政毅[2021]「<利子生み資本-架空資本>概念の基底——一定量の貨幣の貸付の二様態」『立命館文学』立命館大学人文学会，第673号。
- 猪俣津南雄[1925]『金融資本論』希望閣。
- 猪俣津南雄[1928]『帝国主義研究』改造社。
- 猪俣津南雄[1929]「金融資本と帝国主義」『経済学全集 第26巻——マルクス経済学説の発展(上)』改造社。
- 今井則義編[1964]『現代日本の独占資本1——独占形態』至誠堂。
- 今井勇・五十嵐孝夫[1966]『企業金融の知識』<日経文庫>日本経済新聞社。
- 今井勇[1969]『銀行新時代への挑戦——金融再編成の世界的潮流』金融財政事情研究会。
- 今井勇[1970]「長期金融と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第5号。
- 今西宏次[2009]「アメリカにおける株式会社」，細川孝・桜井徹編著『転換期の株式会社——拡大する影響力と改革課題』<現代社会を読む経営学4>ミネルヴァ書房。
- 今東博文[1988]「アメリカ金融革命と国債」『証券研究』日本証券経済研究所，第81号。
- 今東博文[1991]「資本機能の商品化について」，今東博文・折原裕・佐藤公俊編『現代ポリティカル・エコノミーの問題構制』<マルクス経済学叢書8>社会評論社。
- 今東博文[1992・93]「資本の商品化の論理——『資本論』第3巻第21章「利子生み資本」の検討」(1・2)，『経済研究年報』東洋大学現代社会総合研究所，第17号・第18号。
- 今東博文[1994・95]「資本の商品化の論理」(3・4)，『経済研究年報』東洋大学現代社会総合研究所，第19号・第20号。
- 今東博文[1998]『経済学原理の研究——宇野理論による現代市場認識の試み』御茶の水書房。
- 今宮謙二[1976]『現代国際金融の構造』実教出版。
- 今宮謙二[1981]『国際金融危機』新日本出版社。
- 今宮謙二[1992]『国際金融の歴史』新日本出版社。
- 今宮謙二[1995]『金融不安定構造——基軸通貨ドル体制の動揺』新日本出版社。
- 今宮謙二[1997]「金融持株会社の問題点と日本経済への影響」『中小商工業研究』全商連付属・中小商工業研究所，第52号。
- 今宮謙二[1998]『日本の金融破綻——克服する道を探る』<シリーズ世界と日本>学習の友社。
- 今宮謙二[2000]『投機マネー』新日本出版社。
- 今宮謙二[2005]「資本の架空性について——『資本論』を中心に」『商学論纂』中央大学商学研究会，第46巻第3号。
- 今宮謙二[2005]『動乱時代の経済と金融』新日本出版社。
- 伊牟田敏充[1965]「証券市場における大企業のビヘイビア」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第66号。
- 伊牟田敏充[1965・66]「公債発行と株式市場——戦時証券市場史に関連して」(上・中)，『証券経

- 济』日本証券経済研究所大阪研究所，第71号・第77号。
- 伊牟田敏充[1966]「書評 柴垣和夫著『日本金融資本分析——<財閥>の成立とその構造』」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第54巻第2号。
- 伊牟田敏充[1967]「企業合併における財務問題」『研究と資料』大阪市立大学経済研究所，第24号。
- 伊牟田敏充[1967]「最近の企業合併における諸問題——企業合併実態調査結果を中心として」『研究と資料』大阪市立大学経済研究所，第24号。
- 伊牟田敏充[1967]「近代信用制度の形成と株式会社の普及」，川合一郎・木下悦二・神野璋一郎・狭間源三編『講座 日本資本主義発達史論 I ——形成期の日本資本主義』日本評論社。
- 伊牟田敏充[1969]「株式会社の史的展開」，川合一郎編[1969]『証券経済講座 第2巻——企業と証券市場』東洋経済新報社。
- 伊牟田敏充[1969]「企業合併と株式会社」『経済理論と経済分析』大阪市立大学経済研究所，第19集。
- 伊牟田敏充・熊野剛雄・呉天降・志村嘉一・竹村孝雄・野田正穂・浜田博男[1970]『証券経済論』有斐閣。
- 伊牟田敏充[1970]「明治期における株主の議決権」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第62巻第6号。
- 伊牟田敏充[1972]「株主募集広告の分析」，高橋幸八郎編『日本近代化の研究（上）明治編』東京大学出版会。
- 伊牟田敏充[1972]「「証券恐慌」後の証券業経営〔昭39～46〕」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第115号。
- 伊牟田敏充[1977]「両大戦間における日本の企業金融——鉄鋼業とコンツェルン金融を中心に」『経営史学』経営史学会，第12巻第1号。
- 伊牟田敏充[1987]「華族資産と投資行動——旧大名の株式投資を中心に」『地方金融史研究』全国地方銀行協会，第18号。
- 伊牟田敏充[1976]『明治期株式会社分析序説——講義用テキスト』法政大学出版社。
- 伊牟田敏充[1976]『明治期金融構造分析序説——講義用テキスト』法政大学出版社。
- 伊牟田敏充・福島正夫[1982]「殖産興業政策と産業諸立法」，福島正夫編『日本近代法体制の形成』（下），日本評論社。
- 井村喜代子[1993]『現代日本経済論——敗戦から「経済大国」を経て』有斐閣。
- 井村喜代子[1999]「現代における金融の変質」『商学論纂』中央大学商学研究会，第40巻第3・4号。
- 井村喜代子[2010]『世界的金融危機の構図』勁草書房。
- 井村喜代子[2010]「金融と実体経済——「実体経済から独立した投機的金融活動」を中心に」『経済学論纂』中央大学経済学研究会，第50巻第3・4号。
- 井村喜代子[2016]『大戦後資本主義の変質と展開——米国の世界経済戦略のもとで』有斐閣。
- 伊豫谷登士翁[2002]『グローバリゼーションとは何か——液化化する世界を読み解く』<平凡社新書>平凡社。
- 伊豫谷登士翁[2021]『グローバリゼーション——移動から現代を読みとく』<ちくま新書>筑摩書房。
- 入江恭平[1979]「1970年代の日本の企業金融と株式市場」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第129号。
- 入江恭平[1980]「70年代米国合併運動の特徴——株価論争との関連で」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第1049号。
- 入江恭平[1980]「アメリカの企業金融と株式市場」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第132号。
- 入江恭平[1981]「産業的流通と金融的流通——川合一郎教授の所説によせて」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第135号。
- 入江恭平[1981]「「減量経営」期の企業金融」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第138号。
- 入江恭平[1982]「わが国金融機関の国際化の諸相」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第142号。

- 入江恭平[1983]「わが国金融機関の国際化の諸相（続）」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第145号。
- 入江恭平[1984]「日本企業の外債発行をめぐる——戦後の歴史的発展と現状」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第149号。
- 入江恭平[1985]「日本企業の外債発行の現状と問題点」『証券経済学会年報』証券経済学会，第20号。
- 入江恭平[1987]「ユーロ・ファンシリティの形態的特質」『証券研究』日本証券経済研究所，第80号。
- 入江恭平[1990]「国際的資本移動と証券市場のグローバルバージョン」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第171号。
- 入江恭平[2002]「新通貨ユーロ導入とヨーロッパ資本市場——民間債市場を中心に」『中京経営研究』中京大学経営学会，第11巻第2号。
- 入江恭平[2007]「ユーロ域の企業金融と資本市場の変貌」『中京経営研究』中京大学経営学会，第17巻第1・2号。
- 入江恭平[2008]「ユーロ域の企業金融と資本市場——ユーロ導入後の傾向と変化」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第1648号。
- 入江恭平[2012]「世界金融危機——シャドーバンキング・証券化・ドル不足」『中京経営研究』中京大学経営学会，第21巻第1・2号。
- 入江恭平[2019]「戦後国際金融の歴史的諸相——帰結としての世界金融危機」日本経済評論社。
- 入江節次郎[1962]『独占資本イギリスへの道——現代への序曲』ミネルヴァ書房。
- 入江節次郎[1963]「イギリス資本主義現代史の研究動向——独占・金融資本史を中心に」『経済学論叢』同志社大学経済学会，第13巻第1号。
- 入江節次郎[1967]『帝国主義論序説』ミネルヴァ書房。
- 入江節次郎[1973]『帝国主義論への道』ミネルヴァ書房。
- 入江節次郎[1977]「資本の集積・集中と独占——蓄積の一般的・歴史的規定」，佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄・山口重克編『資本論を学ぶⅡ——第一巻・資本の生産過程（下）』＜有斐閣選書＞有斐閣。
- 入江節次郎[1979]『帝国主義の解明』新評論。
- 入江節次郎[1983]『イギリス資本輸出史研究』新評論。
- 入江節次郎[1991]『世界金融史研究』藤原書店。
- 入江節次郎編[1997]『世界経済史——世界資本主義とパクス・ブリタニカ』ミネルヴァ書房。
- 岩下有司[1999]「平成不況と国債の日銀引き受け」『政経研究』政治経済研究所，第72号。
- 岩下有司[2010]『日本の景気循環と低利・百年国債の日銀引き受け』＜中京大学経済学研究叢書 第18集＞中京大学経済学部。
- 岩田巖雄[1955]「他人資本の自己資本への擬制」『経商論纂』経済・商業学会，第63号。
- 岩田巖雄[1955]「一般株主の配当請求権への制約」『バンキング』産業経済社，第88号。
- 岩田巖雄[1956]「近代株式会社における中小株主——アメリカ近代株式会社を中心として」，日本経営学会編『経営学の新展開』＜経営学論集 第27集＞同文館。
- 岩田巖雄[1957]「投資銀行の機能と性格——「伝統型」アメリカ財務論の生成基盤」『経商論纂』経済・商業学会，第71号。
- 岩田巖雄[1958]「資金コストとしての配当」『経商論纂』経済・商業学会，第82号。
- 岩田巖雄[1960]「設備近代化と自己金融」『経商論纂』経済・商業学会，第89号。
- 岩田巖雄[1965]「企業の資本構成是正と株式の時価発行」『中央大学80周年記念論文集 商学部』中央大学。
- 岩田巖雄・高橋昭三編著 [1975]『経営財務論』＜経管会計全書10＞日本評論社。
- 岩田巖雄・高橋昭三編 [1982]『現代証券市場と企業財務』＜現代資本主義叢書22＞大月書店。
- 岩田巖雄[1983]『企業財務の研究 新訂』中央大学生活協同組合出版局。
- 岩田巖雄[1986]「企業金融構造の変貌と社債金融の展開」『商学論纂』中央大学商学研究会，第27巻第5・6号。

- 岩田健治[1990]「1960年代のEEC域内資本信用——単一市場計画とユーロ市場を中心として」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科，第52巻第3号。
- 岩田健治[1993]「80年代のEC証券取引所リンク提案と域内各国取引所の改革」『証券経済学会年報』証券経済学会，第28号。
- 岩田健治[1994]「EU金融統合と域内金融機関の再編」『証券研究』日本証券経済研究所，第110号。
- 岩田健治[1996]『欧州の金融統合——EECから域内市場完成まで』日本経済評論社。
- 岩田健治[1996]「1980年代半以降のEUの域内証券取引と投資通貨」『九州経済学会年報』九州経済学会，第34号。
- 岩田健治[1998]「投資通貨の脱ドルと欧州金融・通貨圏の形成」『証券経済学会年報』証券経済学会，第33号。
- 岩田健治[1999]「欧州経済・通貨同盟と株式市場——取引所統合の新段階」『証券経済学会年報』証券経済学会，第34号。
- 岩田健治[1999]「欧州における取引所統合の新たな動き——日本の取引所改革への1視点」『国際金融』外国為替貿易研究会，第1025号。
- 岩田健治[2001]「欧州における証券市場間競争と統合」『証券経済学会年報』証券経済学会，第36号。
- 岩田健治[2002]「EU証券規制の新展開——その背景と現状」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第38号。
- 岩田健治[2006]「EUの新しい金融サービス政策とEUから見た取引所再編」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第46巻第11号。
- 岩田健治[2008]「欧州からみた取引所の世界的再編成」『証券経済学会年報』証券経済学会，第43号。
- 岩田健治[2008]「世界的な取引所再編とOMX——現代の取引所産業について考える」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第48巻第9号。
- 岩田健治[2009]「取引所の世界的再編とヨーロッパの対応——アジアへのインプリケーション」『企業と法創造』早稲田大学21世紀COE《企業法制と法創造》総合研究所，第5巻第1号。
- 岩田健治[2010]「世界金融危機とEU金融システム」『日本EU学会年報』日本EU学会，第30号。
- 岩田健治[2011]「EUの新しい金融規制・監督体制について」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第51巻第2号。
- 岩田健治[2013]「欧州の金融・財政危機」『信用理論研究』信用理論研究会，第31号。
- 岩田健治[2015]「本格化するユーロ制度改革——2025年に向けたユーロ強化のロードマップ」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第55巻第10号。
- 岩田健治[2019]「ユーロ誕生20年——制度改革の焦点」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第59巻第11号。
- 岩田弘[1963・64]「株式資本と金融資本」(1・2・3)，『経済学季報』立正大学経済学会，第12巻第1・2号・第13巻第1・2号・第3・4号。
- 岩田弘[1964]『世界資本主義——その歴史的展開とマルクス経済学』未来社(『世界資本主義I——新情報革命と新資本主義の登場』批評社，2006年)。
- 岩田弘[1967・69]『マルクス経済学——資本論・帝国主義論・現代資本主義』(上・下)，盛田書店。
- 岩田弘[1999]「株式会社制度と国際金融市場」『経済学季報』立正大学経済学会，特別号。
- 岩田弘著・五味久壽編[2015]『岩田弘遺稿集——追悼の意を込めて』批評社。
- 岩田佳久[2013]『世界資本主義の景気循環——クレマン・ジュグラの景気循環論とクズネツ循環』日本経済評論社。
- 岩田佳久[2016]「グローバル「金融化」の時代の金融バブルをめぐるBIS viewとFed view」，柴田徳太郎編著『世界経済危機とその後の世界』日本経済評論社。
- 岩波文孝[2008]「コーポレート・ガバナンスにおける会社支配と社外取締役の機能」『経営と経済』長崎大学経済学会，第88巻第3号。
- 岩波文孝[2009]「会社支配論とコーポレート・ガバナ

- ンス」, 海道ノブチカ・風間信隆編著『コーポレート・ガバナンスと経営学——グローバルゼーション下の変化と多様性』〈現代社会を読む経営学5〉ミネルヴァ書房.
- 岩波文孝[2010]「アメリカ株式市場における機関化現象の変容とコーポレート・ガバナンス——機関投資家の株式所有動向と経営者報酬を中心として」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会, 第41巻第3号.
- 岩波文孝[2011]「アメリカ株式市場の機関化現象とコーポレート・ガバナンス」, 日本経営学会編『新たな経営原理の探求』〈経営学論集 第81集〉千倉書房.
- 岩波文孝[2012]「アメリカにおける金融危機とコーポレート・ガバナンス改革」『比較経営研究』日本比較経営学会, 第36号.
- 岩波文孝[2014]「米国株式市場における株式所有構造とコーポレート・ガバナンス」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第49号.
- 岩波文孝[2018]「米国機関投資家投資行動の現代的特質」, 大西勝明・小阪隆秀・田村八十一編著『現代の産業・企業と地域経済——持続可能な発展の追究』晃洋書房.
- 岩野茂道[1977]『ドル本位制』〈熊本商科大学海外事情研究所研究叢書1〉熊本商科大学海外事情研究所.
- 岩野茂道[1984]『金・ドル・ユーロダラー——世界ドル本位制の構造』〈熊本商科大学海外事情研究所研究叢書10〉文真堂.
- 岩見昭三[1976]「マルクス株式会社論の一考察——「通過点」規定に関連して」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第74巻第5号.
- 岩見昭三[1978]「利子生み資本論と貨幣資本家——『剰余価値学説史』と『資本論』」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第78巻第4号.
- 岩見昭三[1979]「銀行資本と銀行支配——『金融資本論』の一考察」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第80巻第1号.
- 岩見昭三[1980]「金融資本と株式会社——川合氏の所説の検討を通して」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第133号.
- 岩見昭三[1983]「ドイツ信用銀行経営研究序説——金融資本成立期に関する諸見解」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第143号.
- 岩見昭三[1990]「80年代における西ドイツの対外証券投資」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第25号.
- 岩見昭三[1993]「ドイツ統一と資本市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第28号.
- 岩見昭三[1993]『EU通貨統合とドイツ——ブンデスバンクのユーロ戦略』晃洋書房.
- 岩見昭三[1999]「ドイツ国債市場とEU通貨統合」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第34号.
- 岩見昭三[2001]「ユーロ安と国際証券投資——1999～2000年の展開」『産業と経済』奈良産業大学経済経営学会, 第15巻第4号.
- 岩見昭三[2002]「ユーロ発足後の債券市場——1999～2001年の展開」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第38号.
- 岩見昭三[2012]「EUの「ソブリン危機」——国債利回りスプレッドの拡大原因を中心として」『龍谷大学経済学論集』龍谷大学経済学会, 第51巻第4号.
- 石見徹[1976]「第一次大戦前におけるイングランド銀行とロンドン金融市場」『金融経済』金融経済研究所, 第156号.
- 石見徹[1985]『ドイツ恐慌史論——第二帝政期の成長と循環』有斐閣.
- 石見徹[1987]「金融資本概念の効用——拙著『ドイツ恐慌史論』への書評に答える」『経済学論集』東京大学経済学会, 第53巻第2号.
- 石見徹・伊藤元重編[1990]『国際資本移動と累積債務』〈東京大学産業経済研究叢書〉東京大学出版会.
- 石見徹[1995]『日本経済と国際金融』〈東京大学産業経済研究叢書〉東京大学出版会.
- 石見徹[1995]『国際通貨・金融システムの歴史1870-1990』有斐閣.

- 石見徹[1996]『世界経済史——覇権国と経済体制』東洋経済新報社.
- 岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁[2001]『グローバル・エコノミー』<有斐閣アルマ>有斐閣(新版, 2007年. 第3版(岩本武和・奥和義・小倉明浩・河崎信樹・金早雪・星野郁), 2012年).
- 岩本武和[2012]『国際経済学 国際金融編』<Minerva ベイシク・エコノミクス>ミネルヴァ書房.
- 上寛之[1979]「擬制資本について——小竹豊治氏の所説について」『立教経済学論叢』立教大学大学院経済学研究会, 第15号.
- 上田慧[1985]『転換期のアメリカ企業』同文館出版.
- 上田慧・桜井徹編著[2006]『競争と規制の経営学』<叢書現代経営学6>ミネルヴァ書房.
- 上田貞次郎[1911]「株式会社の倫理」, 社会政策学会編『市営事業』<社会政策学会論叢 第4冊>同文館.
- 上田貞次郎[1911]「株式会社の機関の実際の運用について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第10巻第3号.
- 上田貞次郎[1911]「株式会社発起人の利得を論ず」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第11巻第5号.
- 上田貞次郎[1913]『株式会社経済論』富山房(改訂増補版, 1921年)(『上田貞次郎全集』第三出版, 第2巻, 1975年).
- 上田貞次郎[1913]「株式会社の形式と実質」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第15巻第3号(『上田貞次郎全集』上田貞次郎全集刊行会, 第2巻, 1975年).
- 上田貞次郎[1914]「株式会社論について福田博士に答う」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第16巻第4号(『上田貞次郎全集』上田貞次郎全集刊行会, 第2巻, 1975年).
- 上田貞次郎[1919]「株式会社の起源について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第27巻第1号.
- 上田貞次郎[1923]「日本に於ける株式会社の起源」『商学研究』商学研究発行所, 第2巻第3号.
- 上田貞次郎[1924]「株式会社の制度と財産の分布」『日本公論』日本公論社, 第12巻第5号.
- 上田貞次郎[1925]『株式会社の現代経済生活に及ぼす影響』<銀行叢書 第4編>東京銀行集会所.
- 上田貞次郎[1925]「我国に於ける有価証券の起源」『インヴェストメント』インヴェストメント社, 第2巻第3号.
- 上田貞次郎[1927]「株式会社の将来」『経営学論集——日本経営学会年報』日本経営学会, 第1集.
- 上田貞次郎[1928]『株式会社論』<社会科学叢書 第11集>日本評論社.
- 上田貞次郎[1928]「株式会社経済論(第1回, 未完)」『社会経済体系 第15巻』日本評論社.
- 上田貞次郎[1928]「株式会社経済論(第2回, 完)」『社会経済体系 第16巻』日本評論社.
- 上田貞次郎[1930]『商工経営』<商学全集 第5巻>千倉書房.
- 上田貞次郎[1930]「株式会社の経済上の本質と其法律」『法律時報』日本評論社, 第2巻第1号.
- 上田貞次郎[1937]『経営経済学総論』東洋出版社.
- 上田光人[1972]「ヴァージニア会社にみる Joint-Stock Company の性格」『中京商学論叢』中央大学商学会, 第19巻第3号.
- 上田光人[1974]「イギリス初期株式会社の考察——ハドスン湾会社のばあい」『中京商学論叢』中央大学商学会, 第20巻第2号.
- 上田光人[1976]「古典派経済学における株式会社像——ステュアート, スミス, ミル, マルクスの見解」『中京商学論叢』中央大学商学会, 第23巻第1号.
- 植竹晃久[1982]「大企業における所有・支配形態の一考察——西ドイツにおける展開」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会, 第25巻第1号.
- 植竹晃久[1984]『企業形態論——資本集中組織の研究』中央経済社.
- 植竹晃久[1985]「西ドイツにおける企業間結合の構造——金融機関と非金融企業との連累関係の分析を中心として」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会, 第28巻第5号.

- 植竹晃久[1987]「経営経済学の基本視点——経営展開の所有的基礎をめぐる」、野口祐教授還暦記念論文集編集委員会編『現代企業における技術と経営の展開』森山書店。
- 植竹晃久[1987]「利益連関集団による支配」論と企業間連結構造——J・スコットの立論に寄せて『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第160号。
- 植竹晃久[1992]「エクイティ・ファイナンスと株式所有構造——大手建設企業の事例の分析を媒介として」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第35巻第1号。
- 植竹晃久[1992]「エクイティ・ファイナンスと株式所有構造（2）——わが国における株式所有構造の特質と現況」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第35巻第5号。
- 植竹晃久[1994]「コーポレート・ガバナンスの問題状況と分析視点——現代企業の統治メカニズムと経営行動の研究序説」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第37巻第2号。
- 植竹晃久[1999]「企業統治と企業行動について」『Research paper series』千葉商科大学経済研究所，第14号。
- 植竹晃久・仲田正機編著[1999]『現代企業の所有・支配・管理——コーポレート・ガバナンスと企業管理システム』＜叢書現代経営学3＞ミネルヴァ書房。
- 植竹晃久[2005]「現代企業経営論の展開」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第48巻第1号。
- 植竹晃久[2007]「コーポレート・ガバナンスの国際比較——比較コーポレート・ガバナンス論の視点とガバナンス・システムの再構築に寄せて」『白鷗ビジネスレビュー』白鷗大学ビジネス開発研究所，第16巻第1号。
- 植竹晃久[2009]『現代企業経営論——現代の企業と企業理論』税務経理協会。
- 上原信博[1965]「最近における「企業系列論」の展開と問題点——「系列化」と中小企業の階層分化に関する諸論説を中心に」『土地制度史学』土地制度史学会，第8巻第1号。
- 植村高久[1986]「資金概念と信用——宇野弘蔵の所説から」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第155号。
- 植村高久[1987]「商業信用の基本構造——マルクスとヒルファディング」『山口大学教養部紀要 人文科学篇』山口大学教養部，第21号。
- 植村高久[1997]『制度と資本——マルクスから経済秩序へ』御茶の水書房。
- 鵜飼哲夫[1973]「自己株式の資産性について」（1・2），『同志社商学』同志社大学商学会，第25巻第2号・第3号。
- 鵜飼哲夫[1976]「株式配当と株式分割」『同志社商学』同志社大学商学会，第28巻第1号。
- 鵜飼哲夫[1977]「無額面株払込剰余金序説」『同志社商学』同志社大学商学会，第29巻第3号。
- 鵜飼哲夫[1978]「無額面株払込剰余金の会計上の性格について」『同志社商学』同志社大学商学会，第30巻第1号。
- 鵜飼哲夫[1979]「無償交付の一側面（1）——増資プレミアム還元論議の問題点」『同志社商学』同志社大学商学会，第31巻第2号。
- 鵜飼哲夫[1981]「株式プレミアムと創業利得——生駒教授の見解によせて」『同志社商学』同志社大学商学会，第33巻第2号。
- 鵜飼哲夫[1987]「株式プレミアムの会計上の性格と株式会社の理解——持分均衡説と創業利得説を中心に」『同志社商学』同志社大学商学会，第38巻第6号。
- 鵜飼哲夫[1988]「拠出資本説と創業利得説における2つの論点」『同志社商学』同志社大学商学会，第39巻第5号。
- 鵜飼哲夫[1988]「創業利得説における機能資本」『同志社商学』同志社大学商学会，第40巻第4号。
- 鵜飼哲夫[1988]「株式プレミアムと創業利得再論——内川説の限界とその理論展開の可能性」『会計』森山書店，第134巻第6号。
- 鵜飼哲夫[1989]「株式プレミアムと利潤率——岡部教授の例示を中心に」『同志社商学』同志社大学商学会，第40巻第5号。
- 鵜飼哲夫[1989]「株式プレミアム論における処分可能

- 性の意味』『同志社商学』同志社大学商学会，第41巻第2号。
- 鵜飼哲夫[1990]「増資と創業利得の存在形態——生駒教授の株式プレミアム論に関連して」『会計』森山書店，第138巻第6号。
- 鵜飼哲夫[1991]「株式の評価価値と創業利得——生駒教授の創業利得論によせて」『同志社商学』同志社大学商学会，第42巻第4・5号。
- 鵜飼哲夫[1993]「株式プレミアムの性格とその連結会計上の展開」『同志社商学』同志社大学商学会，第45巻第2・3号。
- 鵜飼哲夫[1993]「増資における株主持分の不均衡」『同志社商学』同志社大学商学会，第45巻第4号。
- 鵜飼哲夫[1994]『株式発行の会計理論』森山書店。
- 鵜飼哲夫[1994]「株式評価益の実現と株式プレミアム」『同志社商学』同志社大学商学会，第45巻第6号。
- 鵜飼哲夫[1994]「拠出資本説に関する一考察——株式プレミアムの処分可能性を否定する例示を中心として」『同志社商学』同志社大学商学会，第46巻第2号。
- 鵜飼哲夫[1996]「株価形成と危険報酬率」『同志社商学』同志社大学商学会，第47巻第3・4号。
- 鵜飼哲夫[1996]「株式プレミアムと擬制的出資資本説」『同志社商学』同志社大学商学会，第47巻第6号。
- 宇佐美誠次郎[1953]『日本の独占資本——その解体と再編成』新評論社。
- 宇佐美誠次郎・長洲一二編[1954]『現代資本主義の経済と政治Ⅰ』＜経済学講座 第2巻＞大月書店。
- 宇佐美誠次郎・宇高基輔・島恭彦編[1963]『マルクス経済学講座1——マルクス経済学入門』有斐閣。
- 宇佐美誠次郎・宇高基輔・島恭彦編[1963]『マルクス経済学講座2——現代帝国主義論』有斐閣。
- 宇佐美誠次郎・宇高基輔・島恭彦編[1963]『マルクス経済学講座3——国家独占資本主義論』有斐閣。
- 宇佐美誠次郎・宇高基輔・島恭彦編[1966]『マルクス経済学体系Ⅱ——資本主義的生産の総過程』有斐閣。
- 宇佐美誠次郎・宇高基輔・島恭彦編[1966]『マルクス経済学体系Ⅲ——帝国主義論』有斐閣。
- 宇佐美誠次郎・宇高基輔・島恭彦編[1963]『マルクス経済学講座4——日本経済分析』有斐閣。
- 宇沢弘文・花崎正晴編[2000]『金融システムの経済学——社会的共通資本の視点から』東京大学出版会。
- 丑山優[1974・75]「西ドイツにおける配当問題の展開——企業「利益」と配当政策の関連について」(1・2)，『経済論究』九州大学大学院経済学会，第32号・第33号。
- 丑山優[1975]「西ドイツにおける証券民主化と配当政策」『証券経済学会年報』証券経済学会，第10号。
- 丑山優[1976]「ドイツ資本主義における経営者と株主——H・プロスの所説を中心にして」『経済学研究』九州大学経済学会，第41巻第3号。
- 丑山優[1977]「経営者支配形成の論理——ドイツの場合」『証券経済学会年報』証券経済学会，第12号。
- 丑山優[1979]「西独における株式所有構造の展開(1)——J.C.レーファクスの所説を中心として」『経済学研究』九州大学経済学会，第44巻第4-6号。
- 丑山優[1982]「西独における株式所有構造の展開(2)——所有主体の多様化現象と経営支配の複層性について」『経済学研究』九州大学経済学会，第47巻第5・6号。
- 丑山優[1989]「ドイツ銀行の企業集団化政策」『経済学研究』九州大学経済学会，第55巻第4・5号。
- 丑山優・小松章編著[2004]『現代企業の財務戦略』＜叢書現代経営学15＞ミネルヴァ書房。
- 丑山優・熊谷重勝・小林康宏編著[2005]『金融ヘゲモニーとコーポレート・ガバナンス』税務経理協会。
- 氏兼惟和・掛下達郎・清野良榮・西尾圭一郎[2015]『中国の金融機関の現状と課題——シャドーバンキングを視野に入れて』＜松山大学地域研究センター叢書 第13巻＞松山大学総合研究所。
- 宇高基輔編[1959]『マルクス経済学』＜新経済学演習

- 講座>青林書院.
- 宇田川勝[1982]『昭和史と新興財閥』<教育社歴史新書>教育社.
- 宇田川勝[1984]『新興財閥』<日本財閥経営史>日本経済新聞社.
- 内川菊義[1955]「暖簾の資産性について」『会計』森山書店, 第 68 巻第 2 号.
- 内川菊義[1957]「発行持分説に対する主体持分説の理論的優越性」『産業経理』産業経理協会, 第 17 巻第 3 号.
- 内川菊義[1957]「減資差額について」『会計』森山書店, 第 72 巻第 6 号.
- 内川菊義[1958]「株式プレミアムと創業利得——岡部教授の創業利得説批判によせて」『会計』森山書店, 第 74 巻第 2 号.
- 内川菊義[1959]「払込資本と留保利益」『会計』森山書店, 第 76 巻第 3 号.
- 内川菊義[1960]「資本剰余金論における持分均衡説と創業利得説」『同志社商学』同志社大学商学会, 第 11 巻第 5 号.
- 内川菊義[1960]「株式プレミアムに関する一疑問——川合教授の批判によせて」『同志社商学』同志社大学商学会, 第 11 巻第 6 号.
- 内川菊義[1960]「資本剰余金論における醸出資本説の一吟味」(1・2), 『会計』森山書店, 第 77 巻第 6 号・第 78 巻第 1 号.
- 内川菊義[1960]「資本剰余金論における拠出資本説の再吟味——岡部教授の批判にお答えして」(1・2・3), 『同志社商学』同志社大学商学会, 第 12 巻第 2 号・第 3 号・第 4 号.
- 内川菊義[1961]「株式プレミアムにおける額面の意義——岡部教授の疑義にお答えして(1)」『同志社商学』同志社大学商学会, 第 12 巻第 5 号.
- 内川菊義[1961]「合併差益について——現物出資説と人格合一説の比較吟味」『会計』森山書店, 第 80 巻第 3 号.
- 内川菊義[1962]「株式会社における自己資本と剰余金」『同志社商学』同志社大学商学会, 第 13 巻第 3 号.
- 内川菊義[1962]「合併時の資産評価——ペイトン教授の所説を中心として」『企業会計』中央経済社, 第 14 巻第 1 号.
- 内川菊義[1962]「企業体理論と持分概念——高松教授の「持分会計」によせて」『企業会計』中央経済社, 第 14 巻第 4 号.
- 内川菊義[1962]「企業体理論と剰余金——高松教授の「持分会計」によせて」『企業会計』中央経済社, 第 14 巻第 8 号.
- 内川菊義[1963]「のれん再論」(1・2), 『同志社商学』同志社大学商学会, 第 15 巻第 1 号・第 2 号.
- 内川菊義[1964]「株式プレミアムと創業利得再論——いわゆる所要機能資本の意味について」(1・2), 『同志社商学』同志社大学商学会, 第 15 巻第 5 号・第 6 号.
- 内川菊義[1964・65]「無額面株払込剰余金の性格——株式プレミアムとの関連において」(1・2・3), 『同志社商学』同志社大学商学会, 第 16 巻第 1 号・第 2 号・第 4 号.
- 内川菊義[1965]「拠出資本説再批判」『会計』森山書店, 第 87 巻第 4 号.
- 内川菊義[1965]「株式プレミアム論における所要機能資本の意味について」『企業会計』中央経済社, 第 17 巻第 5 号.
- 内川菊義[1966]『資本剰余金論』中央経済社.
- 内川菊義[1966]「株式会社の基本的性格(1)」『同志社商学』同志社大学商学会, 第 17 巻第 3 号.
- 内川菊義[1966]「株式会社の会計主体」(1・2・3), 『同志社商学』同志社大学商学会, 第 17 巻第 5 号・第 6 号・第 18 巻第 1 号.
- 内川菊義[1966]「会計主体と企業体理論」『会計』森山書店, 第 89 巻第 5 号.
- 内川菊義[1966]「合併時における利益剰余金の継承と合併差益」『同志社商学』同志社大学商学会, 第 18 巻第 2 号.
- 内川菊義[1968]「創業利潤論」, 京都大学経済学部会計学研究室編『企業利潤論』ミネルヴァ書房.
- 内川菊義[1969]「有償減資による減資差益の会計上の性格——岡部教授と西山教授の論争によせて」『同志社商学』同志社大学商学会, 第 20 巻第

- 5・6号.
- 内川菊義[1973]「独占資本の形成と配当可能利益の計算」『会計』森山書店, 第104巻第6号.
- 内川菊義[1976]『経営学の基礎理論』森山書店.
- 内川菊義[1976]『会計学の基礎理論』森山書店.
- 内川菊義[1978]「株式会社の金融的特色と有限責任制」, 岡村正人博士古稀記念論文集編集委員会編『現代経営学と株式会社』<岡村正人博士古稀記念>有斐閣.
- 内川菊義[1984]「その他の資本剰余金に関する一考察——保険差益および自己株売却益の考察を中心として」『同志社商学』同志社大学商学会, 第36巻第2号.
- 内川菊義[1984]「企業会計上の暖簾と商法計算規定」『同志社商学』同志社大学商学会, 第36巻第4号.
- 内川菊義[1985]『企業会計原則の基礎理論』森山書店.
- 内川菊義・中村義彦[1995]『現代株式会社論』税務経理協会.
- 内川菊義[2008]「自己株式処分差益と払込剰余金」『会計』森山書店, 第174巻第6号.
- 内川菊義[2010]「のれん, 負ののれん, そして合併差益」『会計』森山書店, 第178巻第6号.
- 内川菊義[2012]「負ののれんと合併差益」『会計』森山書店, 第181巻第5号.
- 内田勝敏[1969]「イギリスの企業合併と独占禁止」『アナリスト』経済発展協会, 第15巻第8号.
- 内田聡[2009]『アメリカ金融システムの再構築——ウォールストリートとメインストリート』昭和堂.
- 内田穰吉[1950]『一般的危機の経済学——労働者の経済学』(下), 大月書店.
- 内田穰吉[1957]「生産の集積と独占——「帝国主義論」の一解釈」, 玉城肇・末永茂喜・鈴木鴻一郎編『マルクス経済学大系』(下), <宇野弘蔵先生還暦記念論文集>岩波書店.
- 内田穰吉・狭間源三・小野義彦・古畑義和・勝部元編[1958]『講座 現代日本の経済と政治 第1巻——国家独占資本主義の展開』大月書店.
- 内田穰吉[1961]『戦後日本独占資本主義史論』日本評論新社.
- 内田義彦・小林昇・宮崎義一・宮崎犀一編[1965]『経済学史講座3——経済学の展開』有斐閣.
- 内橋賢悟[2006]「企業ガバナンス構造にみる韓国経済史——「韓国型財閥」の歴史的源流」『流通科学大学論集 経済・経営情報編』流通科学大学学術研究会, 第15巻第1号.
- 内橋賢悟[2007]「企業ガバナンス構造の日韓比較史——「構造」に関する移植分析の意義」『アジア経営研究』アジア経営学会, 第13号.
- 内橋賢悟[2018]「韓国財閥の企業ガバナンス統治に関する制度経済学的分析」『横浜国際社会科学研究』横浜国際社会科学学会, 第23巻第2号.
- 宇土至心[2007]「A. S. Dewing における無形資産と有形資産の区別とその消失——R. E. Badger の所説との対比」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第129号.
- 宇土至心[2007]「A. S. Dewing における「企業の擬制資本化」の成立」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第129号.
- 宇土至心[2008]「世紀転換期における「収益力の資本化」」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第130号.
- 宇土至心[2008]「第1次 M&A 運動期とその後における実物資産の重要性」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第130号.
- 宇土至心[2008]「価値評価基準としての「収益力」と実物資産」『九州経済学会年報』九州経済学会, 第46号.
- 宇土至心[2010]「近年日本における「TOB 価格」について」『九州経済学会年報』九州経済学会, 第48号.
- 宇土至心[2016]「A. S. デューイングの財務論と企業価値評価」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第64巻第2号.
- 宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹[2004]『入門 社会経済学——資本主義を理解する』ナカニシヤ出版 (第2版, 2010年).
- 宇仁宏幸[2009]『制度と調整の経済学』ナカニシヤ出版.

- 宇仁宏幸[2010]「アメリカの金融主導型成長体制——累積的因果連関における根本的ジレンマ」『経済論叢』京都大学経済学会，第184巻第2号。
- 宇仁宏幸・山田鋭夫・磯谷明德・植村博恭[2011]『金融危機のレギュレーション理論——日本経済の課題』昭和堂。
- 宇仁宏幸・巖成男・藤田真哉編[2020]『制度でわかる世界の経済——制度的調整の政治経済学』ナカニシヤ出版。
- 鵜野久吾[1926]『金融資本の大要』経済情報社。
- 宇野弘蔵[1950・52]『経済原論』(上・下)，岩波書店(『宇野弘蔵著作集』岩波書店，第1巻，1973年)。
- 宇野弘蔵編[1955]『経済原論』<経済学演習講座>青林書院(『宇野弘蔵著作集』岩波書店，第2巻，1973年)。
- 宇野弘蔵編[1956]『経済学』(上・下)，<角川全書>角川書店。
- 宇野弘蔵[1962]『経済学方法論』<経済学体系1>東京大学出版会(『宇野弘蔵著作集』岩波書店，第9巻，1974年)。
- 宇野弘蔵[1964]『経済原論』岩波書店(岩波文庫，2016年)。
- 宇野弘蔵編[1967]『新訂 経済原論』<現代経済学演習講座>青林書院新社(『宇野弘蔵著作集』岩波書店，第2巻，1973年)。
- 宇野弘蔵[1967]『経済学を語る』東京大学出版会。
- 宇野弘蔵[1968]「利子論〔最終講義〕」『社会労働研究』法政大学社会学部学会，第14巻第4号(『宇野弘蔵著作集』岩波書店，第2巻，1973年)。
- 宇野弘蔵編[1968]『資本論研究V——利子・地代』筑摩書房。
- 宇野弘蔵[1971]『経済政策論〔改訂版〕』弘文堂(『宇野弘蔵著作集』岩波書店，第7巻，1974年)。
- 宇野弘蔵[1973]『資本論五十年』(下)，法政大学出版局。
- 宇野弘蔵[1973・74]『宇野弘蔵著作集』岩波書店，全11巻。
- 宇野博二[1953]「株式会社論序説」『学習院大学政経学部研究年報』学習院大学政経学会，第1号。
- 宇野博二[1956]「スウィーギーの金融資本観について」『学習院大学政経学部研究年報』学習院大学政経学会，第3号。
- 宇野博二[1957]「石油産業における統合会社の発達」『学習院大学政経学部研究年報』学習院大学政経学会，第4号。
- 宇野博二[1963]「書評 石崎昭彦著『アメリカ金融資本の成立』」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第14巻第5号。
- 宇野博二[1967]「自己金融下の証券発行」『学習院大学経済論集』学習院大学経済学会，第4巻第2号。
- 宇野博二[1968]「企業合併と投資銀行〔米国〕」『学習院大学経済論集』学習院大学経済学会，第5巻第2号。
- 宇野博二[1969]「企業合併と多様化——アメリカ(1950年代～)を例に」『学習院大学経済論集』学習院大学経済学会，第6巻第2号。
- 宇野博二[1969]「株式会社の財務政策」，川合一郎編『証券経済講座 第2巻——企業と証券市場』東洋経済新報社。
- 宇野博二[1970]「自己金融における2つの型」『証券経済学会年報』証券経済学会，第5号。
- 宇野博二[1971]「わが国における企業資金調達と株式発行」『学習院大学経済論集』学習院大学経済学会，第7巻第2号。
- 宇野博二[1972]「戦後の企業集団とその問題」『学習院大学経済論集』学習院大学経済学会，第8巻第3号。
- 馬田啓一・木村福成・田中素香編著[2010]『検証・金融危機と世界経済——危機後の課題と展望』勁草書房。
- 梅垣邦胤[1996]「擬制資本と投機」『下関市立大学論集』下関市立大学学会，第40巻第1・2号。
- 浦野平三[1980]『運転資本論』ミネルヴァ書房。
- 浦野平三[1980]「流動性と収益性——企業支配との関連」『商経論集』北九州大学経済学会，第15巻第3号。
- 占部都美[1956]『経営者』<経営全書>ダイヤモンド社。

- 占部都美[1958]『経営学原理 第2巻——経営形態論』森山書店.
- 占部都美[1959]「現段階における株式会社論の本質的課題」, 古林喜楽・山下勝治編『経営理論と経営政策』中央経済社.
- 占部都美[1959]「自己株式の再検討」『企業会計』中央経済社, 第11巻第2号.
- 占部都美[1968]『株式会社』森山書店.
- 占部都美[1968]『企業形態論』白桃書房(改訂版, 1977年).
- 占部都美[1975]『新経営者論』<ダイヤモンド全書>ダイヤモンド社.
- 占部都美[1980]『経営形態論』<占部都美著作選集 第2巻>白桃書房.
- 海野八尋[1972]「資本の集積・集中と独占の形成」『土地制度史学』土地制度史学会, 第14巻第4号.
- 海野八尋[1981]「独占成立の理論」『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 通号第1号.
- 海野八尋[1981・82・83]「帝国主義の段階規定」(1・2・3・4・5), 『金沢大学経済論集』金沢大学経済学会, 通号第18号・通号第19号・通号第20号, 『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 第2巻第1号・第4巻第1号.
- 海野八尋[2010]「2008年危機の性格——原理的および進化論的蓄積理論による解析」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第47巻第2号.
- SGCIME(エス・ジー・シム)編[2003]『世界経済の構造と動態』御茶の水書房.
- SGCIME編[2003]『資本主義原理像の再構築』御茶の水書房.
- SGCIME編[2004]『金融システムの変容と危機』御茶の水書房.
- SGCIME編[2006]『グローバル資本主義と企業システムの変容』御茶の水書房.
- SGCIME編[2007]『情報技術革命の射程』御茶の水書房.
- SGCIME編[2008]『グローバル資本主義と景気循環』御茶の水書房.
- SGCIME編[2010]『現代経済の解説——グローバル資本主義と日本経済』御茶の水書房(増補新版, 2013年, 第3版, 2017年).
- SGCIME編[2015]『グローバル資本主義の変容と中心部経済』<グローバル資本主義の現局面Ⅰ>日本経済評論社.
- SGCIME編[2015]『グローバル資本主義と新興経済』<グローバル資本主義の現局面Ⅱ>日本経済評論社.
- SGCIME編[2022]『アジア経済の現状とグローバル資本主義』御茶の水書房.
- 衛藤綾子[1954]「書評 飯田繁著『利子つき資本の理論』」『経済志林』法政大学経済学部学会, 第22巻第4号.
- 江原慶[2018]『資本主義的市場と恐慌の理論』日本経済評論社.
- 江原慶[2018]「帝国主義論の盛衰——宇野理論の視座から」『歴史と経済』政治経済学・経済史学会, 第61巻第1号.
- 榎原均[2009]「投機・信用資本主義の原理」『情況 第三期』情況出版, 第10巻第1号.
- 榎原均[2014]『『資本論』の核心』<情況新書>世界書院.
- 榎原均[2015]「利子生み資本における物象化」『季報 唯物論研究』季報『唯物論研究』刊行会, 第132号.
- 遠藤湘吉[1959]「株式会社の機能について——長坂聡氏の所論にふれて」『社会科学研究所』東京大学社会科学研究所, 第10巻第5号.
- 遠藤湘吉[1959]「金融資本論の現代的意義」『現代の理論』大月書店, 第2号.
- 遠藤湘吉編[1961]『講座 現代日本の分析2——日本の経済』有斐閣.
- 遠藤湘吉[1963]「金融資本論の方法にかんする一考察——宮本義男氏の所論にふれて」『社会科学の基本問題』(上), <創立15周年記念論文集>東京大学社会科学研究所.
- 遠藤湘吉[1963]「金融資本論の方法にかんする一考察——宮本義男氏の所論にふれて」, 嘉治真三編『独占資本の研究』東京大学出版会.
- 遠藤湘吉[1964]「証券税制の問題点」『証券研究』日

- 本証券経済研究所，第10号。
- 遠藤湘吉[1965]『帝国主義論』(下)，<経済学体系5>東京大学出版会。
- 老川慶喜・小笠原茂・中島俊克編[1998]『経済史』東京堂出版。
- 王東明[1996]「中国における株式会社制度の導入——論争と問題点について」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第1号。
- 王東明[1997]「中国国有企業の「現代企業制度」改革——福州第二化学工場の事例を中心に」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第5号。
- 王東明[1997]「香港株式市場の中国企業株(H株)について」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第7号。
- 王東明[1999]「中国のB株市場」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第20号。
- 王東明[2000]「中国上場企業の株式所有構造とコーポレート・ガバナンスの実態」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第23号。
- 王東明[2001]「中国国有企業のニューヨーク上場」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第29号。
- 王東明[2002]「企業調査からみた中国のコーポレート・ガバナンス——市場経済の進展と専門経営者の台頭を中心に」(上・下)，『証券経済研究』日本証券経済研究所，第35号・第37号。
- 王東明[2004]「中国の株式所有構造とコーポレート・ガバナンス」『証券経済学会年報』証券経済学会，第39号。
- 王東明[2006]「中国の証券市場改革の現状と問題点」『証券経済学会年報』証券経済学会，第41号。
- 王東明[2009]「中国の都市部における大衆投資家の形成——個人投資家調査を中心に」(上・下)，『証券経済研究』日本証券経済研究所，第67号・第68号。
- 王東明[2011]「中国の都市部における大衆投資家の形成」，菅原陽心編著『中国社会主義市場経済の現在——中国における市場経済化の進展に関する理論的実証的分析』御茶の水書房。
- 王東明[2014]「「移行経済型市場」の株式所有構造と企業効率」『大銀協フォーラム研究助成論文集』大阪銀行協会，第18号。
- 王東明[2014]「中国株式市場の形成要因について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第49号。
- 王東明[2015]「中国株式市場における「移行経済型市場」の形成」，SGCIME編『グローバル資本主義と新興経済』<グローバル資本主義の現局面II>日本経済評論社。
- 王東明[2018]「中国の株式所有構造と企業効率についての再検討」，河村哲二編『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌——中国，インド，ブラジル，メキシコ，東南アジア』ナカニシヤ出版。
- 王東明[2021]「中国株式市場の生成と拡大のプロセスに関する一考察」(上・下)，『経営研究』大阪公立大学経営学会，第72巻第2号・第3号。
- 王東明[2022]『中国株式市場の形成と発展<1978-2020>——「移行経済型市場」と国際的インパクトを中心に』関西学院大学出版会。
- 逢坂充[1987]「資本蓄積論の構成——利子生み資本と資本蓄積」(1・2)，『経済学研究』九州大学経済学会，第53巻第4・5号・第54巻第4・5号。
- 近江谷左馬之介[1960]「ヒルファードニングの「創業利得」について」(1・2)，『経済学研究』九州大学経済学会，第25巻第4号・第26巻第3号。
- 大内力・戸原四郎・大内秀明[1966]『経済学概論』東京大学出版会。
- 大内力[1978]『信用と銀行資本』東京大学出版会。
- 大内力[1981・82]『経済原論』(上・下)，東京大学出版会(『大内力経済学体系』東京大学出版会，第2巻・第3巻)。
- 大内力[1985]『帝国主義論』(上・下)，東京大学出版会(『大内力経済学体系』東京大学出版会，第4巻・第5巻)。
- 大内力[1991]『世界経済論』東京大学出版会(『大内力経済学体系』東京大学出版会，第6巻)。
- 大内秀明[1966]『景気と恐慌——経済危機の本質』紀伊国屋書店。
- 大内秀明・鎌倉孝夫編[1976]『経済原論』<有斐閣新書>有斐閣。
- 大内秀明・櫻井毅・山口重克編[1976]『資本論研究入

- 門』東京大学出版会.
- 大内兵衛[1932]『日本財政論 公債篇』＜経済学全集 第22巻＞改造社（改訂版，1937年）（『大内兵衛著作集 第2巻——日本公債論』岩波書店，1974年）.
- 大内兵衛[1951]『経済学』法政大学出版局.
- 大形太郎[1948]『マルクス主義経済学入門』浅間書房.
- 大木秀男[1940]『統制経済と持株会社』＜経営研究叢書 第1巻＞笠原書店.
- 大木秀男[1948]『経済力集中と株式会社』水書房.
- 大河内曉男[1960]「18世紀前半のイギリス製鉄業の企業形態」，増田四郎・小松芳喬・高村象平・矢口孝次郎編『社会経済史大系VI——近世後期I』弘文堂.
- 大河内曉男[1960]「18世紀バーミンガム＝ブラック・カントリ地域の金属工業の経営形態とその発展傾向」『社会経済史学』社会経済史学会，第26巻第1号.
- 大河内曉男[1991]『経営史講義』東京大学出版会.
- 大河内一男[1956]『経済学入門』青林書院.
- 大河内一男編[1963]『日本の経済——戦前・戦後』東洋経済新報社.
- 大坂洋[1992]「需要の予想と投資・雇用・分配——株主-労働者交渉企業の場合」『六甲台論集』神戸大学，第39巻第3号.
- 大阪市立大学経済研究所編[1967]『産業再編成と企業合併』大阪市立大学経済研究所，第17集.
- 大阪市立大学経済研究所編[1972]『企業集団と産業支配——昭和40年代におけるその展開』大阪市立大学経済研究所，第21集.
- 大阪市立大学経済研究所編[1975]『企業集団と産業支配 続』大阪市立大学経済研究所，第24集.
- 大阪証券経済研究所編[1969]『戦後証券経済論』東洋経済新報社.
- 大阪証券経済研究所編[1969]『利子・配当税制のあり方について』大阪証券経済研究所.
- 大阪証券取引所編[1964]『大阪証券取引所十年史』大阪証券取引所.
- 大阪証券取引所編[1980]『大阪証券取引所史 第3巻（統計）』大阪証券取引所.
- 大阪証券取引所編[1985]『大阪証券取引所史 第3巻』大阪証券取引所.
- 大阪証券取引所編[1987]『大阪証券取引所史 第2巻』大阪証券取引所.
- 大阪証券取引所編[2001]『大阪証券取引所史 第4巻』大阪証券取引所.
- 大阪証券取引所編[2011]『大阪証券取引所史 第5巻』大阪証券取引所.
- 大沢真理[2012]「グローバル化，金融経済危機と生活保障システム」『ジェンダー研究』お茶の水女子大学ジェンダー研究所，第15号.
- 大島清[1952・55]『日本恐慌史論』（上・下），東京大学出版会.
- 大島清[1955]『金融』（上），＜昭和財政史 第10巻＞東洋経済新報社.
- 大島清・斎藤晴造・加藤俊彦・玉野井昌夫[1960]『金融論』東京大学出版会.
- 大島清編[1965]『世界経済論——世界恐慌を中心として』勁草書房.
- 大島清編[1966]『経済学』東京大学出版会.
- 大島清編[1968]『戦後世界の経済過程——ドル危機の解明』東京大学出版会.
- 大島清・榎本正敏[1968]『戦後日本の経済過程——資本蓄積と景気変動』東京大学出版会.
- 大島清[1969]『高橋是清——財政家の数奇な生涯』＜中公新書＞中央公論社.
- 大島清編[1972]『戦後世界の通貨体制』東京大学出版会.
- 大島通義・井手英策[2006]『中央銀行の財政社会学——現代国家の財政赤字と中央銀行』知泉書館.
- 大島雄一[1965]「独占資本・金融資本と独占格価・独占利潤——1つの覚書」『名城商学』名城大学商学会，第14巻第4号.
- 大隅健一郎[1953]『株式会社法変遷論』有斐閣（新版，1987年）.
- 太田瑞希子[2010]「EU金融監督システムの改革」，田中素香編著『世界経済・金融危機とヨーロッパ』勁草書房.
- 太田瑞希子[2010]「欧州金融監督——ドラロジエール

- 報告から欧州委員会による新金融監督法案まで」『信用理論研究』信用理論研究会，第28号。
- 太田仁樹[1984・85]「古典的帝国主義論における世界経済把握——ヒルファディング，ルクセンブルク，レーニン」（上・下），『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科，第32巻第2号・第3号。
- 太田仁樹[1987]「帝国主義論と『資本論』——ヒルファディング『金融資本論』とレーニン『帝国主義論』」『岡山大学経済学会雑誌』岡山大学経済学会，第18巻第4号。
- 太田仁樹[1989]『レーニンの経済学』御茶の水書房。
- 大谷禎之介[1982]「『資本論』第3部第1稿について——オリジナルの調査にもとづいて」『経済志林』法政大学経済学部学会，第50巻第2号。
- 大谷禎之介[1983・84]「「信用と架空資本」（『資本論』第3部第25章）の草稿について——第3部第1稿第5章から」（上・中・下），『経済志林』法政大学経済学部学会，第51巻第2号・第3号・第4号。
- 大谷禎之介[1984]「『資本論』第3部第5篇の草稿について」『信用理論研究』信用理論研究会，第1号。
- 大谷禎之介[1986]「『資本論』における信用の役割」『信用理論研究』信用理論研究会，第3号。
- 大谷禎之介[1985]「「資本主義的生産における信用の役割」（『資本論』第3部第27章）の草稿について——『資本論』第3部第1稿から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第52巻第3・4号。
- 大谷禎之介[1988]「「利子生み資本」（『資本論』第3部第21章）の草稿について——第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第56巻第3号。
- 大谷禎之介[1989]「「利潤の分割」（『資本論』第3部第22章）の草稿について——第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第56巻第4号。
- 大谷禎之介[1989]「「利子と企業者利得」（『資本論』第3部第23章）の草稿について——第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第57巻第1号。
- 大谷禎之介[1989]「「資本関係の外面化」（『資本論』第3部第24章）の草稿について——第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第57巻第2号。
- 大谷禎之介[1990]「「貨幣資本の蓄積」（『資本論』第3部第26章）の草稿について——第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第57巻第4号。
- 大谷禎之介[1993]「「流通手段と資本」（『資本論』第3部第28章）の草稿について——第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第61巻第3号。
- 大谷禎之介[1995]「「銀行資本の構成部分」（『資本論』第3部第29章）の草稿について——第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第63巻第1号。
- 大谷禎之介[1996]「第5篇 利子と企業者利得とへの利潤の分裂 利子生み資本」，マルクス・エンゲルス研究者の会編『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』八朔社，第28・29号。
- 大谷禎之介[1997]「「貨幣資本と現実資本」（『資本論』第3部第30-32章）の草稿について——第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第64巻第4号。
- 大谷禎之介[1999]「「信用制度下の流通手段」および「通貨原理と銀行立法」（『資本論』第3部第33章および第34章）の草稿について——『資本論』第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第67巻第2号。
- 大谷禎之介[2000]「『資本論』の著述プランと利子・信用論」『経済志林』法政大学経済学部学会，第68巻第1号。
- 大谷禎之介[2001]『図解 社会経済学——資本主義とどのような社会システムか』桜井書店。
- 大谷禎之介[2001]「貴金属と為替相場」（『資本論』第3部第35章）の草稿について——『資本論』第3部第1稿の第5章から」『経済志林』法政大学経済学部学会，第69巻第3号。
- 大谷禎之介[2002]「「資本主義以前」（『資本論』第3

- 部第 36 章) の草稿について——『資本論』第 3 部第 1 稿の第 5 章から」(上・下), 『経済志林』法政大学経済学部学会, 第 69 巻第 4 号・第 70 巻第 3 号.
- 大谷禎之介[2005]「マルクスの利子生み資本論——『資本論』の草稿によって」『経済志林』法政大学経済学部学会, 第 72 巻第 4 号.
- 大谷禎之介[2016]『マルクスの利子生み資本論』全 4 巻, 桜井書店.
- 大谷禎之介・前畑憲子編[2019]『マルクスの恐慌論——久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』を軸に』桜井書店.
- 大谷瑞郎[1960]『資本主義発展史論』有斐閣.
- 大塚久雄[1932]「フッガー時代の南独逸に於ける会社企業——会社形態発生史の一断章」『経済学論集』東京大学経済学会, 第 2 巻第 4 号.
- 大塚久雄[1935]「株式会社発生前史の一駒——近世初期の独逸に於けるマグナ・ソキエタスの諸型」『経済志林』法政大学経済学部学会, 第 9 巻第 2 号.
- 大塚久雄[1935]「イギリスにおける初期の鉱山会社——特にその企業形態の分析」『社会経済史学』社会経済史学会, 第 5 巻第 7 号.
- 大塚久雄[1938]『株式会社発生史論』有斐閣(『大塚久雄著作集』岩波書店, 第 1 巻, 1969 年).
- 大塚久雄[1947]『近代資本主義の系譜』学生書房(改訂版, 1951 年, 弘文堂)(『大塚久雄著作集』岩波書店, 第 3 巻, 1969 年).
- 大塚久雄・武田隆夫編[1967]『帝国主義下の国際経済』<楊井克巳博士還暦記念論文集>東京大学出版会.
- 大塚久雄[1970]「講義草稿 企業集中論」(『大塚久雄著作集』岩波書店, 第 10 巻, 1970 年).
- 大塚久雄[1979]「株式会社制度の起源について——とくにオランダ東インド会社の設立を中心に」『社会科学ジャーナル』国際基督教大学, 第 17 号.
- 大友敏明[1992]「管理通貨制度とバブル経済」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 182 号.
- 大友敏明[1993]「金融システムの不安定性の根拠について」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 107 号.
- 大友敏明[1995]「書評 守山昭男著『銀行組織の理論』」『金融経済研究』日本金融学会, 第 9 号.
- 大友敏明[1996]「貨幣資本と現実資本の構造——川波洋一著『貨幣資本と現実資本』を読んで」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会, 第 89 巻第 3 号.
- 大友敏明[2001]『信用理論史』慶應義塾大学出版会.
- 大友敏明[2005]「投機と信用——1825 年恐慌とフリーバンキング学派」『山梨大学教育人間科学部紀要』山梨大学教育人間科学部, 第 7 巻第 2 号.
- 大友敏明[2017]「書評 大谷禎之介著『マルクスの利子生み資本論』」『大原社会問題研究所雑誌』法政大学大原社会問題研究所, 第 703 号.
- 大西威人[1979]「『金融資本論』独占論の理論的特徴について」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第 80 巻第 3 号.
- 大西広[2011]「マルクス経済学の優位性——『資本論』と『帝国主義論』で解決済みの今次経済危機」, 基礎経済科学研究所編『世界経済危機とマルクス経済学』大月書店.
- 大西広[2012]『マルクス経済学』慶應義塾大学出版会(第 2 版, 2015 年. 第 3 版, 2020 年).
- 大野英二[1951]「ドイツ金融資本の構造的特質(1)——ドイツ金融資本とベルリン六大銀行」『経済論叢』京都大学経済学会, 第 67 巻第 6 号.
- 大野英二[1953]「ドイツ独占資本とベルリン六大銀行——ドイツ金融資本の構造的特質(2)」『経済論叢』京都大学経済学会, 第 71 巻第 1 号.
- 大野英二[1954]「ドイツ帝国主義と経済政策——ドイツ独占資本とコンカー」『経済論叢』京都大学経済学会, 第 73 巻第 1 号.
- 大野英二[1956]『ドイツ金融資本成立史論』有斐閣.
- 大野英二[1959]「危機の社会的基盤」, 金子武蔵・大塚久雄編『講座 近代思想史 VI——危機の時代』弘文堂.
- 大野英二[1965]「ドイツにおける帝国主義論の展開」, 内田義彦・小林昇・宮崎義一・宮崎犀一編『経済学史講座 3——経済学の展開』有斐閣.
- 大野英二[1965]『ドイツ資本主義論』未来社.

- 大野英二[1966]「ドイツにおける独占形成」『社会経済史学』社会経済史学会，第31巻第1-5号。
- 大野英二・住谷一彦・諸田実編[1972]『ドイツ資本主義の史的構造』有斐閣。
- 大野英二[1973]「転換点に立つルール重工業——ルール石炭株式会社の設立にかんするノート」『経済論叢』京都大学経済学会，第111巻第4号。
- 大野節夫[1998]『社会経済学』大月書店。
- 大野隆・西洋[2011]「カレツキアン・モデルの新しい展開——ストック・フロー・コンシステント・モデル」『季刊 経済理論』経済理論学会，第47巻第4号。
- 大野隆[2011]「カレツキアン・モデルの不安定性と金融市場」，渡辺和則編『金融と所得分配』日本経済評論社。
- 大野隆[2020]「貸借関係を考慮したハロッド・モデル——SFCモデルでの展開」『経済学論叢』同志社大学経済学会，第72巻第3号。
- 大野隆[2022]「資産の非対称性を考慮したハロッド・モデル」『経済学論叢』同志社大学経済学会，第73巻第4号。
- 大庭清司[1977]「社債の担保概念と財務制限条項——無担保社債再考」『財界観測』野村証券，第42巻第5号。
- 大庭清司[1978]「円建外債市場の現状と問題点——債券の信用度評価の側面から」『財界観測』野村証券，第43巻第10号。
- 大庭清司・宮脇卓・福島宏[1984]「東南アジアの金融資本市場——深化する市場と多様化する企業金融」『財界観測』野村証券，第49巻第12号。
- 大庭清司[1987]「定着するわが国の債券格付制度と企業の資本政策上の意義」『財界観測』野村証券，第52巻第12号。
- 大庭清司[1990]「海外直接投資のファイナンスとわが国金融証券市場」『フィナンシャル・レビュー』財務省財務総合政策研究所，第18号。
- 大庭清司[2001]「金融証券化に関する一考察——アメリカのモーゲージ担保証券，資産担保証券発生の背景とその要因分析」『名城論叢』名城大学経済・経営学会，第1巻第4号。
- 大庭清司[2002]「信用制度の発展と担保」『名城論叢』名城大学経済・経営学会，第2巻第4号。
- 大庭清司[2005]「金融資産証券化のストラクチャーと担保」『名城論叢』名城大学経済・経営学会，第5巻第4号。
- 大庭清司[2005]「金融資本市場の発展と金融新技法——擬制資本の多面的展開」『名城論叢』名城大学経済・経営学会，第6巻第2号。
- 大橋英五・小西一雄・齊藤正・平沢克彦・田村八十一[2001]『金融——金融は社会的役割を取り戻せるか』<日本のビッグ・インダストリー6>大月書店。
- 大橋陽[1999]「南北戦争前におけるニューヨーク金融市場の構造」『一橋研究』一橋研究編集委員会，第24巻第2号。
- 大橋陽[2003]「アメリカにおける金融自由化と商業銀行の変貌——地理的営業規制撤廃による銀行再編」『金城学院大学論集』金城学院大学，第205号。
- 大橋陽[2005]「アメリカにおける金融統合の戦略——ウェルズファーゴの事例を中心に」『金城学院大学論集 社会科学編』金城学院大学，第1巻第1・2号。
- 大橋陽[2011]「グローバル・インバランス，世界金融危機と『大統領経済報告』」『金城学院大学論集 社会科学編』金城学院大学，第8巻第1号。
- 大橋陽[2014]「フリンジバンキングの市場と規制——ペイデイローンの「大きな問い」をめぐって」『証券経済学会年報』証券経済学会，第49号。
- 大橋陽・中本悟編著[2020]『ウォール・ストリート支配の政治経済学』文眞堂。
- 大橋陽[2021]「米国における低所得層向け消費者信用市場の再創出」『アメリカ研究』アメリカ学会，第55号。
- 大畠重衛[1979]「利子生み資本範疇と貸付概念」(頭川博)評——利子生み資本理解の誤りと，販売と貸付の混同について『立教経済学論叢』立教大学大学院経済学研究会，第14号。
- 大畠重衛[1983・85]「企業間信用」論議にみる若干の問題点——戦後高度成長下の信用制度研究のた

- めに」(上・下),『金融経済』金融経済研究所, 第200号・第213号.
- 大島重衛[1987]「銀行対証券——「資金シフト」論から「金融証券化」論への系譜」『金融経済』金融経済研究所, 第220号.
- 大島重衛[1987]「証券恐慌と救済融資に関する覚え書(1)——昭和40年証券恐慌と日銀特融の発動にまで至る若干の問題」『金融経済』金融経済研究所, 第222号.
- 大島重衛[1987]「銀行対金融仲介機関の競争の一面——新しい金融商品をめぐる開発競争が意味するもの」『金沢経済大学論集』金沢経済大学経済学会, 第21巻第2・3号.
- 大島重衛[1989]「銀行・証券・保険をめぐる北陸地域金融の現状と問題点——金融自由化が及ぼす地域金融への影響を念頭において」『金沢経済大学経済研究所年報』金沢経済大学経済研究所, 第9号.
- 大島重衛[1990]「金融の自由化と生保金融の変貌——1980年代, 生命保険会社金融活動の展開から」『文研論集』生命保険文化研究所, 第93号.
- 大島重衛[2007]「1990年代以降における金融業の利益構造と若干の論点——銀行・証券業における利益構造の視点から」『金沢星稜大学経済研究所年報』金沢星稜大学経済研究所, 第27号.
- 大森拓磨[2004]「各国の金融システム——現代アメリカ法人企業の資金調達」, SGCIME 編『金融システムの変容と危機』御茶の水書房.
- 大森拓磨[2014]『米中経済と世界変動』岩波書店.
- 大森拓磨[2019]『黎明期アメリカの銀行制度——中央銀行なき状態の苦悶と自生』東京大学出版会.
- 大矢繁夫[1977]「ヒルファディングの金融資本理論についての一考察」『研究年報経済学』東北大学経済学会, 第38巻第4号.
- 大矢繁夫[1980]「相対的安定期におけるドイツ金融資本の発展について」『研究年報経済学』東北大学経済学会, 第42巻第1号.
- 大矢繁夫[1981]「相対的安定期におけるドイツの外資依存——通貨・金融面における外資依存について」『研究年報経済学』東北大学経済学会, 第43巻第1号.
- 大矢繁夫[1983]「1920年代におけるドイツ金融市場」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第29巻第3・4号.
- 大矢繁夫[1983]「1920年代のドイツ金融市場の機能」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第18号.
- 大矢繁夫[1984]「通貨安定後のドイツにおける貨幣市場と証券信用」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第31巻第1号.
- 大矢繁夫[1984]「西独銀行の対外進出とルクセンブルグ金融市場」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第31巻第3号.
- 大矢繁夫[1985]「「金融資本」をめぐると一つの理論問題——金融資本と擬制資本・証券市場に関する研究(1)」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第32巻第2号.
- 大矢繁夫[1985]「擬制資本・証券市場と信用——金融資本と擬制資本・証券市場に関する研究(2)」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第31巻第3号.
- 大矢繁夫[1986]「金融資本と擬制資本・証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第21号.
- 大矢繁夫[1986]「ドイツにおける銀行集中運動——1920年代を中心に」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第33巻第2号.
- 大矢繁夫[1990]「第1次大戦前ドイツの銀行の証券信用について」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第36巻第3・4号.
- 大矢繁夫[1991]「独銀の国際業務と金融市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第26号.
- 大矢繁夫[1993]「証券金融システムの意義」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第39巻第3・4号.
- 大矢繁夫[1999]「ドイツ・ユニバーサルバンクの株式市場へ関わる位置と能力——1990年代の構図」『商学討究』小樽商科大学, 第50巻第1号.
- 大矢繁夫[2001]『ドイツ・ユニバーサルバンキングの展開』北海道大学図書刊行会.
- 大矢繁夫[2007]「ドイツの金融システム変貌とリスク

- 管理』『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第49巻第6号。
- 岡崎次郎[1968]『経済原論』法政大学出版局。
- 岡崎守男[1965・66]「戦後日本経済と株価形成」(1・2・3)，『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第67号・第73号・第80号。
- 岡崎守男[1965]「利潤率の運動と株価形成——当面の株式恐慌に関連して」『経済評論』日本評論社，復刊第14巻第8号。
- 岡崎守男[1968]「現代株式恐慌の内容と機能」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号。
- 岡崎守男[1968]「資本集中と産業再編成の新段階」『現代の理論』現代の理論社，第5巻第11号。
- 岡崎守男[1970]「資本の所有と支配について——いわゆる経営者支配概念に関連して」『桃山学院大学経済学論集』桃山学院大学経済学会，第11巻第4号。
- 岡崎守男[1974]「インフレ・土地・株式」『経済評論』日本評論社，復刊第23巻第2号。
- 岡崎守男[1977]「証券市場の幻想と現実——不況下の株高の背景にあるもの」『エコノミスト』毎日新聞出版，第55巻第45号。
- 岡崎守男[1981]「円の国際化と証券市場」『経済セミナー』日本評論社，第318号。
- 岡崎守男[1983]「改正商法施行後の株式分割と証券市場の評価」『インベストメント』大阪証券取引所，第36巻第6号。
- 岡崎守男・浜田博男編[1984]『現代日本の証券市場』<有斐閣選書>有斐閣。
- 岡崎守男[1985]「日本の企業金融——その国際化の現状」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会，第8巻第1号。
- 岡崎守男[1987]「地価・株価・景気——地価が支えてきた日本の株価」『日本経済研究センター会報』日本経済研究センター，第549号。
- 岡崎守男・浜田博男編[1990]『日本の証券市場——規制緩和とグローバル化』<有斐閣選書>有斐閣。
- 岡田和喜[2011]『金融雑誌の展開』不二出版。
- 岡田和彦[2011]『資本主義経済の理論』時潮社。
- 岡田千尋[1989]『現代商業研究序説』ナカニシヤ出版。
- 岡田徹太郎[2015]「アメリカ住宅バブルの崩壊と経済再建過程」『香川大学経済論叢』香川大学経済学会，第88巻第1号。
- 岡田徹太郎[2016]『アメリカの住宅・コミュニティ開発政策』東京大学出版会。
- 岡田裕之[1983]『経済原論——『資本論』の解説と研究』(下)，法政大学出版局。
- 岡橋保[1969]『金融論体系』東出版。
- 岡橋保[1985]『現代信用理論批判』九州大学出版会(新版，1987年)。
- 岡部健彦[1956]「書評 大野英二著『ドイツ金融資本成立史論』」『西洋史学』日本西洋史学会，第30号。
- 岡部利良[1958]「会計学上の資本と利益」(1・2・3・4)，『会計』森山書店，第73巻第1号・第2号・第3号・第4号。
- 岡部利良[1958・59]「ヒルファディング創業利得説の批判序説」(1・2・3)，『経済論叢』京都大学経済学会，第82巻第6号・第83巻第4号・第6号。
- 岡部利良[1959]「株式プレミアムと創業利得再論——内川講師へのお答えを中心として」(1・2・3・4)，『会計』森山書店，第75巻第1号・第3号・第5号・第6号。
- 岡部利良[1959]「ヒルファディング創業利得説の批判——創業利得における平均利潤の問題」，京都大学経済学部編『経済学論集』<京都大学経済学部創立四十周年記念>有斐閣。
- 岡部利良[1960]「非生産的株式プレミアム論争——川合一郎教授にたいする反批判」(1・2・3・4)，『会計』森山書店，第77巻第5号・第78巻第1号・第4号・第6号。
- 岡部洋實[1987]「アメリカ金融革新下における家計の金融行動——金融資産選択をめぐって」『証券研究』日本証券経済研究所，第80号。
- 岡部洋實[1987]「アメリカ金融革命下における個人投資家」『証券経済学会年報』証券経済学会，第22号。
- 岡部洋實[1994]「書評 北条裕雄著『現代アメリカ資

- 本市場論——構造と役割の歴史的变化』『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第183号。
- 岡部洋實[1994]「原理論における株式会社論の可能性」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第43巻第4号。
- 岡部洋實[1997]「ヴェブレンにみる株式会社論の方法——『営利企業の理論』における経営者像」『証券経済学会年報』証券経済学会，第32巻。
- 岡部洋實[2006]「「資本の商品化」論に関する批判的考察」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第56巻第2号。
- 岡村正人[1939]『株式金融論』巖松堂。
- 岡村正人[1940]「無額面株に関する賛否の問題」，日本経営学会編『価格統制』＜経営学論集 第14集＞同文館出版部。
- 岡村正人[1940]『社債金融論』巖松堂。
- 岡村正人[1942]「利潤統制と株式会社金融」『銀行論叢』銀行問題研究会，第39巻第4号。
- 岡村正人[1944]『株式金融の研究』巖松堂書店。
- 岡村正人[1947]『工業金融論』関書院。
- 岡村正人[1948]『株式会社の研究——証券金融と企業支配』ダイヤモンド社。
- 岡村正人[1948]『株式会社論——株式会社の民主化』関書院。
- 岡村正人[1949]『会社金融論』＜経営学研究選書9＞同文館。
- 岡村正人[1950]『株式会社金融の研究』有斐閣（改訂版，1952年。全訂版，1958年。新版，1971年）。
- 岡村正人[1950]『企業金融論』＜新経営経済学全書15＞東洋書館。
- 岡村正人[1950]「償還株と株式会社金融」『同志社商学』同志社大学商学会，第2巻第1号。
- 岡村正人[1950]「償還株の証券金融的役割」『企業会計』中央経済社，第2巻第7号。
- 岡村正人[1951]「授権資本制度と株式会社金融」『経営評論』経営評論社，第6巻第1号。
- 岡村正人[1951]「無額面株について」『バンキング』産業経済社，第40号。
- 岡村正人[1951]「無額面株と資産再評価積立金の株式化」『インベストメント』大阪証券取引所，第4巻第4号。
- 岡村正人[1951]「資産再評価積立金の株式化をめぐる諸問題」『インベストメント』大阪証券取引所，第4巻第6号。
- 岡村正人[1951]「改正商法にとり入れられた新株式制度」(1・2・3)，『インベストメント』大阪証券取引所，第4巻第8号・第9号・第10号。
- 岡村正人[1951]「投資信託と証券の発行市場」『バンキング』産業経済社，第44号。
- 岡村正人[1952]「金融統制と証券金融」『インベストメント』大阪証券取引所，第5巻第4号。
- 岡村正人[1952]「金融統制と証券金融」『同志社商学』同志社大学商学会，第4巻第1号。
- 岡村正人[1952]「社債金融における問題点」『インベストメント』大阪証券取引所，第5巻第12号。
- 岡村正人[1953]「証券金融における問題点」『バンキング』産業経済社，第58号。
- 岡村正人[1953]「転換社債の新形態」『インベストメント』大阪証券取引所，第6巻第4号。
- 岡村正人[1953]「株式会社の基本的特徴」『同志社大学商学部創立5周年記念論文集』同志社大学商学会。
- 岡村正人[1954]「優先株金融について」『インベストメント』大阪証券取引所，第7巻第5号。
- 岡村正人[1954]「株式に関する最近の問題」『インベストメント』大阪証券取引所，第7巻第12号。
- 岡村正人[1954]「株式会社金融における最近の問題点」『バンキング』産業経済社，第72号。
- 岡村正人[1955]「株式および社債に関する最近の問題」『バンキング』産業経済社，第84号。
- 岡村正人[1956]「自己金融と配当政策」『バンキング』産業経済社，第97号。
- 岡村正人[1957]「株式配当について」，大阪株式事務懇談会編『株式会社の法理論と実際』有斐閣。
- 岡村正人[1957]「米国株式会社金融の変貌」『インベストメント』大阪証券取引所，第10巻第2号。
- 岡村正人[1957]「資本所有とコントロール」『パブリックリレーションズ』日本証券投資協会，第8巻第9号。

- 岡村正人[1958]「株式会社における証券金融・自己金融・銀行融資」『会計』森山書店, 第73巻第1号.
- 岡村正人[1958]「取締役会の権限と証券金融」『同志社商学』同志社大学商学会, 第10巻第1号.
- 岡村正人[1959]『資本調達』<経営管理全書 第87巻>日本経済新聞社.
- 岡村正人[1959]「わが国株式金融にかんする取締役会の権限と現実」『会計』森山書店, 第75巻第5号.
- 岡村正人[1959]「戦後におけるわが国株式金融の現実」『同志社商学』同志社大学商学会, 第11巻第2号.
- 岡村正人[1960]「資本調達政策の問題点——とくに証券金融について」『企業会計』中央経済社, 第12巻第5号.
- 岡村正人[1961]『企業金融論』ミネルヴァ書房.
- 岡村正人[1961]「経営財務における証券金融と自己金融」『会計』森山書店, 第79巻第6号.
- 岡村正人[1961]「株式会社における証券金融と自己金融」『バンキング』産業経済社, 第159号.
- 岡村正人[1961]「中小企業金融の特殊性と増資問題」『同志社商学』同志社大学商学会, 第13巻第4号.
- 岡村正人[1962]「わが国における新株引受権と株式金融」『インベストメント』大阪証券取引所, 第15巻第4号.
- 岡村正人[1962]「戦後わが国における株式金融の理論と現実」『税経通信』税務経理協会, 第17巻第13号.
- 岡村正人[1963]「自己金融と配当政策」, 古川栄一・高宮晋編『現代経営学講座 第3巻——財務管理の理論と方式』有斐閣.
- 岡村正人[1964]「わが国の授権資本制度と株式金融」『会計』森山書店, 第85巻第6号.
- 岡村正人[1965]「アメリカ株式制度の導入とその現実」, 日本経営学会編『財務管理と経営学』ダイヤモンド社.
- 岡村正人[1965]「授権資本制度の理論とわが国の現実」『同志社商学』同志社大学商学会, 第16巻第6号.
- 岡村正人編[1966]『経営学総論』<有斐閣双書>有斐閣.
- 岡村正人[1966]「経営財務における証券金融と自己金融」『同志社商学』同志社大学商学会, 第17巻第3号.
- 岡村正人[1966]「現段階のわが国企業財務における重要課題——株式の時価発行・自己金融と配当政策」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第85号.
- 岡村正人[1967]「株式の時価発行問題」『同志社商学』同志社大学商学会, 第18巻第3・4号.
- 岡村正人[1968]「株式会社の基本的特長」『同志社大学商学部創立20周年記念論文集』同志社大学商学部.
- 岡村正人[1969]「株式会社における証券金融と企業支配」『同志社商学』同志社大学商学会, 第20巻第3・4号.
- 岡村正人[1971]「わが国の最近における若干の証券金融問題」『同志社商学』同志社大学商学会, 第22巻第5・6号.
- 岡村正人[1971]「株式会社金融と証券市場」『同志社商学』同志社大学商学会, 第23巻第3・4号.
- 岡村正人[1973]「わが国における時価転換社債の発展について」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第8号.
- 岡村正人[1974]「企業形態論と企業集中形態論との関連」, 大阪経済大学経営研究所編『経営経済学の基調』森山書店.
- 岡村正人[1974]「株式会社とコンツェルン」『同志社商学』同志社大学商学会, 第25巻第4-6号.
- 岡村正人[1977]「わが国証券発行市場について——個人株主増大の問題」『同志社商学』同志社大学商学会, 第28巻第5・6号.
- 岡村正人[1978]「株式会社金融の研究に関する回顧」『同志社商学』同志社大学商学会, 第29巻第4-6号.
- 岡村正人博士古稀記念論文集編集委員会編[1978]『現代経営学と株式会社』有斐閣.
- 岡本磐男[1973]『通貨と信用』東洋経済新報社.

- 岡本磐男[1979]「信用理論における二流派——大内力『信用と銀行資本』, 川合一郎『管理通貨と金融資本』『金融経済』金融経済研究所, 第 178 号.
- 岡本磐男[1988]『現代イギリスの金融と経済』東洋経済新報社.
- 岡本磐男・井上裕・高山洋一・北原徹[1992]『国際化する日本金融』〈金融研究会叢書〉時潮社.
- 岡本勝美[1959]『株の買いかた考えかた』布井書房.
- 岡本勝美[1965]「株価形式のメカニズム——株式投資価値の低下にかんする一考察」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 68 号.
- 岡本勝美[1965]「金利機能の復活と証券市場」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 74 号.
- 岡本勝美[1966]「企業資本構成の是正について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 88 号.
- 岡本勝美[1967]「株主安定工作について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 94 号.
- 岡本勝美[1967]「証券政策の特質と課題」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 100 号.
- 岡本勝美[1969]「起債市場のモデル化について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 107 号.
- 岡本勝美[1970]「経済成長と地方証券取引所」, 住ノ江佐一郎編著『地方証券取引所論』千倉書房.
- 岡本勝美[1971]「証券市場の情報化——その現状と問題点について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 111 号.
- 岡本勝美[1972]「間接金融構造における証券政策の展開」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 116 号.
- 岡本勝美[1973]「証取法第 65 条問題」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 8 号.
- 岡本勝美[1974]「タイムリー・ディスクロージャ——その機能と限界について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 120 号.
- 岡本勝美[1975]「コスト・インフレと証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 10 号.
- 岡本勝美[1976]「信用取引の機能について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 123 号.
- 岡本勝美[1976]「信用取引の経済的機能——投機の変貌が株式市場の効率に及ぼす影響について」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 47 号.
- 岡本勝美[1977]「オプション取引の意味するもの——機関投資家の発展と証券市場の変貌」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 125 号.
- 岡本勝美[1978]「プレミアム還元論争」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 13 号.
- 岡本勝美[1978]「機関投資家と株式評価」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 127 号.
- 岡本勝美[1979]『転機に立つ株式市場——高株価のメカニズム』〈東経選書〉東洋経済新報社.
- 岡本勝美[1980]「株式市場における証券会社の自己売買機能」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 133 号.
- 岡本勝美[1981]「金利の先物取引とは何か」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 138 号.
- 岡本勝美[1985]「先物市場と現物市場の関係」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 151 号.
- 岡本勝美[1986]「株価指数先物取引について」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 78 号.
- 岡本勝美[1987]「大阪における株式先物市場の復活」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 80 号.
- 岡本勝美[1988]「インデックス革命の系譜」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 165 号.
- 岡本正・松石勝彦編[1982]『経済原論講義』有斐閣.
- 岡本恵也[2007]「「現代金融システム」の歴史的評価——『資本論』信用理論の現代的解釈」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 25 号.
- 岡本恵也・松田英明[2008]「「世界的過剰貯蓄」と「サブプライム問題」——グリーンスパン前, バナナキ現, FRB 議長の見解に寄せて」『世界経済評論』国際貿易投資研究所, 第 52 巻第 4 号.
- 岡本恵也・松田英明[2009]「揺らぐとも「アメリカ経済」, 揺らぐとも「ドル本位制」——「グローバル金融資本主義」のダイナミズム」『世界経済評論』国際貿易投資研究所, 第 53 巻第 2 号.
- 岡本恵也・楊枝嗣朗編著[2011]『なぜドル本位制は終

- わらないのか』文眞堂.
- 岡本恵也・楊枝嗣朗[2014]「「グローバル金融資本主義」の歴史的位相——「21世紀型世界金融恐慌論」に寄せて」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第51巻第3号.
- 岡本英男[1979]「コンソル国債成立前史——ギデオンとバーナードを中心として」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第41巻第3号.
- 岡本英男[1981]「ペラムの低利借換とコンソル国債の成立」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第43巻第2号.
- 岡本英男[2007]『福祉国家の可能性』東京大学出版会.
- 岡本英男[2013]「「失われた20年」と財政金融政策」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会, 第279号.
- 岡本英男[2013]「欧州債務危機下におけるイギリス福祉国家」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第49巻第4号.
- 岡本英男[2015]「福祉国家と資本主義発展段階論」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会, 第285号.
- 岡本英男[2017]「欧州債務危機以降のユーロ・システムの検討」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会, 第295号.
- 岡本義行[1982]「「企業の経営者理論」の可能性」『社会労働研究』法政大学社会学部学会, 第28巻第1・2号.
- 沖公祐[2017]「資本と国家の弁証法——金融化に関する試論」『現代思想』青土社, 第45巻第11号.
- 沖浦和光[1980]『近代の崩壊と人類史の未来』日本評論社 (『沖浦和光著作集 第3巻——現代文明の危機と人類の未来』現代書館, 2017年).
- 置塩信雄・鶴田満彦・米田康彦[1988]『経済学』大月書店.
- 奥田孝一[1968]「社債の格付けについて」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第2号.
- 奥田八二ほか[1959]『経済学——理論と実践』<学習教科書1>労働大学.
- 奥田宏司[1988]『多国籍銀行とユーロ・カレンシー市場——ドル体制の形成と展開』同文館出版.
- 奥田宏司[1989]『途上国債務危機とIMF, 世界銀行——80年代のブレトンウッズ機関とドル体制』同文館出版.
- 奥田宏司[1992]『日本の国際金融とドル・円——本邦外国為替銀行の役割』<シリーズ現代資本主義と世界経済>青木書店.
- 奥田宏司編[1992]『ドル体制の危機とジャパンマネー』<今日の世界経済と日本 第2巻>青木書店.
- 奥田宏司[1997]『両大戦間期のポンドとドル——「通貨戦争」と「相互依存」の世界』法律文化社.
- 奥田宏司・横田綾子・神沢正典編[1999]『国際金融のすべて』法律文化社.
- 奥田宏司[2002]『ドル体制とユーロ, 円』日本経済評論社.
- 奥田宏司[2007]『円とドルの国際金融——ドル体制下の日本を中心に』<Minerva 現代経済学叢書95>ミネルヴァ書房.
- 奥田宏司[2012]『現代国際通貨体制』日本経済評論社.
- 奥田宏司・代田純・櫻井公人編[2016]『現代国際金融——構図と解明 第3版』法律文化社.
- 奥田宏司[2017]『国際通貨体制の動向』日本経済評論社.
- 奥田宏司[2019]「「利子生み資本・信用論」から国際通貨範疇へ」『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会, 第32巻第2号.
- 奥田宏司・代田純・櫻井公人編[2020]『深く学べる国際金融——持続可能性と未来像を問う』法律文化社.
- 奥田宏司[2020]『国際通貨体制の論理と体系』法律文化社.
- 奥田宏司[2021]『『資本論』諸草稿の検討——再生産・信用と国民所得・貿易を中心に』日本経済評論社.
- 奥村皓一[1999]『国際メガメディア資本——M&Aの戦略と構造』文眞堂 (第2版, 2005年. 第3版, 2010年).
- 奥村皓一[2007]『グローバル資本主義と巨大企業合

- 併] 日本経済評論社.
- 奥村茂次[1970]「アメリカの企業合併とコングロマリット」『経済評論』日本評論社, 復刊第 19 巻第 9 号.
- 奥村茂次[1978]「1970 年代における国際証券投資」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会, 第 1 巻第 1 号.
- 奥村茂次[1979]「70 年代の国際証券投資——アメリカ市場とユーロ市場を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 14 号.
- 奥村茂次・村岡俊三編[1983]『マルクス経済学と世界経済』有斐閣.
- 奥村宏[1966]『三井・三菱・住友』<三一新書>三一書房.
- 奥村宏[1968]「戦後日本における株式所有構造——「相互持合い制」の展開とその矛盾」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 105 号.
- 奥村宏[1968]「戦後日本の株式所有の集中と分散について」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 2 号.
- 奥村宏[1968]「株式の時価発行と所有構造の変化」『企業法研究』, 第 162 号.
- 奥村宏[1969]「外国人の株式所有」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 108 号.
- 奥村宏[1972]「昭和 40 年代における株式所有の集中化傾向について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 114 号.
- 奥村宏[1973]『買占め・乗取り・TOB——株式取得の経済学』東洋経済新報社.
- 奥村宏[1974]「法人資本主義の構造——株式所有の“法人化現象”について」『経済評論』日本評論社, 復刊第 23 巻第 4 号.
- 奥村宏[1974]「株式所有における“法人化現象”——歴史的省察」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 119 号.
- 奥村宏[1974]「企業集中と株式所有制限」『経済評論』日本評論社, 復刊第 23 巻第 13 号.
- 奥村宏[1975]『法人資本主義の構造——日本の株式所有』日本評論社.
- 奥村宏[1975]「株式保有・日本の企業集団——その構造と機能」『中央公論経営問題』中央公論社, 第 14 巻第 1 号.
- 奥村宏[1976]『日本の六大企業集団』ダイヤモンド社.
- 奥村宏[1978]「現代日本の大企業経営者」『経済理論学会年報』経済理論学会, 第 15 集.
- 奥村宏[1978]『企業集団時代の経営者——株式会社はどこへ行く』<日経新書>日本経済新聞社.
- 奥村宏[1978]「“法人資本主義”の支配者——現代資本家論」『現代と思想』青木書店, 第 31 号.
- 奥村宏[1979]『株価はこうして決まる』<ダイヤモンド現代選書>ダイヤモンド社.
- 奥村宏[1979]「“法人化現象”と株価」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 127 号.
- 奥村宏[1979]「「需給株価論」覚え書」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 128 号.
- 奥村宏[1980]「アメリカ, ヨーロッパにおける株式所有と独占の問題」(上・下), 『公正取引』公正取引協会, 第 355 号・第 356 号.
- 奥村宏[1980]「企業集団はいまどこに立っているか」『企業系列総覧』東洋経済新報社.
- 奥村宏[1980]「企業集団論についての覚え書——企業集団分析の問題点」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 132 号.
- 奥村宏[1981]「商法改正における株式相互持合いの規制について」『企業会計』中央経済社, 第 33 巻第 6 号.
- 奥村宏[1981]『三菱——日本を動かす企業集団』<ダイヤモンド現代選書>ダイヤモンド社.
- 奥村宏[1981]「「所有論」ノート」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 135 号.
- 奥村宏[1981]「会社と株主との関係」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 138 号.
- 奥村宏[1982]「株式プレミアムはだれのものか——「プレミアム論争」回顧」(1・2), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 141 号・第 142 号.
- 奥村宏[1983]『新・日本の六大企業集団』<ダイヤモンド現代選書>ダイヤモンド社.
- 奥村宏[1983]「会社と経営者の関係——法人資本主義

- 論の視点から』『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第145号。
- 奥村宏[1983]「法人資本主義とは何か——西山忠範氏への反批判」(上・下)，『経済評論』日本評論社，復刊第32巻第1号・第2号。
- 奥村宏[1984]『法人資本主義——「会社本位」の体系』〈御茶の水選書〉御茶の水書房。
- 奥村宏[1986]『日本の株式会社』東洋経済新報社。
- 奥村宏[1986]「法人資本主義における所有と支配」『証券経済学会年報』証券経済学会，第21号。
- 奥村宏[1987]『株価のからくり』〈現代教養文庫〉社会思想社。
- 奥村宏[1987]「独占禁止法と株式所有規制」『公正取引』公正取引協会，第446号。
- 奥村宏[1988]『日本の株式市場——投機時代の株価はこう決まる』ダイヤモンド社。
- 奥村宏[1990]「M&Aと株式会社の危機」『公正取引』公正取引協会，第471号。
- 奥村宏[1990]『企業買収——M&Aの時代』〈岩波新書〉岩波書店。
- 奥村宏[1991]「法人資本主義と企業系列，企業集団」『経済法学会年報』経済法学会，第34号。
- 奥村宏・佐高信[1991]『揺れる銀行揺れる証券——腐蝕する法人資本主義』社会思想社。
- 奥村宏[1991]『証券スキャンダル』〈岩波ブックレット〉岩波書店。
- 奥村宏[1992]『株とは何か』〈朝日文庫〉朝日新聞社。
- 奥村宏[1992]『解体する「系列」と法人資本主義』社会思想社。
- 奥村宏[1993]『大企業解体のすすめ——さらば法人資本主義』東洋経済新報社。
- 奥村宏[1994]『日本の六大企業集団』〈朝日文庫〉朝日新聞社。
- 奥村宏[1994]『企業探検——日本株式会社の“聖域”に挑む』〈現代教養文庫〉社会思想社。
- 奥村宏[1994]『日本・株式会社大改造計画——“大企業解体の時代”から「新しい個人主義の時代」へ』徳間書店。
- 奥村宏[1994]「プライベート化（国有企業の私有化）と株式市場——市場経済メカニズムは機能したか?」『社会科学研究年報』龍谷大学社会科学研究所，第24号。
- 奥村宏[1994]『解体する「系列」と法人資本主義』社会思想社。
- 奥村宏[1995]『法人資本主義の運命——株式会社の「死に至る病」』東洋経済新報社。
- 奥村宏[1995]「「所有」とは何か——中国の株式会社が問いかけているもの」『世界』岩波書店，第613号。
- 奥村宏[1997]『総会屋スキャンダル——野村証券事件の構図』〈岩波ブックレット〉岩波書店。
- 奥村宏[1998]『株主総会』〈岩波新書〉岩波書店。
- 奥村宏[1999]『大企業解体——株式会社が変わる』ダイヤモンド社。
- 奥村宏[1999]「株式相互持合いについて」，花輪俊哉編著『金融システムの構造変化と日本経済』〈中央大学企業研究所研究叢書15〉中央大学出版社。
- 奥村宏[2000]『株式会社はどこへ行く——株主資本主義批判』岩波書店。
- 奥村宏[2001]『株式相互持合いをどうするか』〈岩波ブックレット〉岩波書店。
- 奥村宏[2001]『会社とはなにか』〈岩波ジュニア新書〉岩波書店。
- 奥村宏[2002]『エンロンの衝撃——株式会社の危機』NTT出版。
- 奥村宏[2005]「法人資本主義と株式会社」『商学論纂』中央大学商学研究会，第46巻第3号。
- 奥村宏[2006]『株のからくり』〈平凡社新書〉平凡社。
- 奥村宏[2006]『株式会社に社会的責任はあるか』岩波書店。
- 奥村宏[2008]「株主とは誰のことか——株式所有と会社支配」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第1647号。
- 奥村宏[2008]「マスメディアと株式会社の危機——企業と教育に関連して」『季報唯物論研究』季報「唯物論研究」刊行会，第106号。
- 奥村宏[2010]「株式会社の危機」，建部正義・高橋由

- 明・梅原秀継・田中廣滋編著・石崎忠司監修『失われた10年——バブル崩壊からの脱却と発展』  
 <中央大学学術シンポジウム研究叢書7>中央大学出版部.
- 奥村宏[2015]『資本主義という病——ピケティに欠けている株式会社という視点』東洋経済新報社.
- 奥山忠信[2018]「三位一体的定式に関する一考察」『埼玉学園大学紀要 経済経営学部篇』埼玉学園大学, 第18号.
- 奥山忠信[2019]『資本主義の原理的分析——経済学史的アプローチ』<埼玉学園大学研究叢書 第19巻>社会評論社.
- 小倉将志郎[2006]「米国における金融部門の収益拡大と資金循環構造の変化——1980・90年代を中心に」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第55号.
- 小倉将志郎[2007]「1980・90年代における米国投資銀行の収益拡大と「M&A関連業務」」『一橋研究』一橋研究編集委員会, 第32巻第2号.
- 小倉将志郎[2008]「経済の「金融化 (Financialization)」と金融機関収益の拡大——1980年代以降の米国を事例に」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第43号.
- 小倉将志郎[2009]「サブプライム金融危機と「影の銀行システム」」『行財政研究』行財政総合研究所, 第73号.
- 小倉将志郎[2010]「金融危機は米国金融を変えたのか」『経済』新日本出版社, 第172号.
- 小倉将志郎[2013]「経済の金融化の部門別再整理と新たな分析視角」『静岡大学経済研究』静岡大学経済学会, 第18巻第2号.
- 小倉将志郎[2016]『ファイナンシャルイゼーション——金融化と金融機関行動』桜井書店.
- 小倉将志郎[2018]「米国非金融企業の金融化と金融資産構成」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会, 第49巻第1・2号.
- 小倉将志郎[2021・22]「米国非金融企業の負債増大と金融化アプローチ」(1・2・3・4), 『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会, 第53巻第2号・第3号・第4号.
- 小倉将志郎[2022]「書評 柴田努著『企業支配の政治経済学——経営者支配の構造変化と株主配分』」『歴史と経済』政治経済学・経済史学会, 第64巻第3号.
- 小倉将志郎[2022]「国際金融危機後の金融化と金融機関行動」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会, 第54巻第2号.
- 小椋広勝[1953]『ウォール街』<青木文庫>青木書店.
- 小栗崇資[2005]「証券市場の共同管理とディスクロージャー規制」, 21世紀理論研究会編『資本主義はどこまでできたか——脱資本主義性と国際公共性』日本経済評論社.
- 小栗崇資[2006]「株式会社社会の構造——制度と計算の関係」『会計』森山書店, 第170巻第5号.
- 小栗崇資[2007]「現代株式資本の自己否定性——法・会計との交錯」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第44巻第1号.
- 小栗崇資[2012]「株式会社社会の基本構造」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第54巻第3・4号.
- 小栗崇資[2014]『株式会社社会の基本構造』中央経済社.
- 小栗崇資[2016]「株式会社とは何か——マルクスの「所有と機能の分離論」から」『経済』新日本出版社, 第255号.
- 小栗崇資・陣内良昭編著[2022]『会計のオルタナティブ——資本主義の転換に向けて』中央経済社.
- 小黒佐和子[1972]「株式資本の原理的規定」の問題点『経済論集』明治学院大学経済学会, 第17号.
- 小島基男[1973]「書評 呉天降著『アメリカ金融資本成立史』」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第34巻第2号.
- 小野朝男[1957]『外国為替』<現代商学全集 第9巻>春秋社.
- 小野朝男[1959]『イギリス信用体系史論』東洋経済新報社.
- 小野朝男[1963]『国際通貨制度』ダイヤモンド社.
- 小野朝男・西村閑也編[1975]『国際金融論入門』<有斐閣双書>有斐閣(第2版, 1982年. 第3版,

- 1989年).
- 小野朝男[1976]『国際通貨体制』ダイヤモンド社.
- 小野朝男[1985]「ヒルファディングの信用論——流通信用と資本信用」『経済理論』和歌山大学経済学会, 第207号.
- 小野朝男編著[1986]『金・外国為替・国際金融』ダイヤモンド社.
- 小野朝男[1990]「信用の2つの基本形態について——新しい信用論」批判の視角『経済理論』和歌山大学経済学会, 第233号.
- 小野朝男[1993]「信用論の再構築に向けて——信用論研究の回顧と展望」『経済理論』和歌山大学経済学会, 第253号.
- 小野朝男[1994]「信用論の再構築に向けて(続)——信用論研究の回顧と展望」『経済理論』和歌山大学経済学会, 第261号.
- 小野一一郎[1956]「国際金融」, 信用理論研究会編『講座 信用理論体系Ⅲ——第2部 制度篇』日本評論新社.
- 小野一一郎[1982]「解説」『川合一郎著作集 第1巻——初期著作集』有斐閣.
- 小野英祐[1964]「ロンドン貨幣市場の成立過程」『経済学季報』立正大学経済学会, 第13巻第3・4号.
- 小野英祐[1964・66]「資金と信用」(1・2), 『経済学季報』立正大学経済学会, 第14巻第1・2号・第15巻第3・4号.
- 小野英祐[1968・69]「両大戦間におけるアメリカの短期金融機関」(1・2), 『経済学季報』立正大学経済学会, 第18巻第2号・第3号.
- 小野英祐[1969]「ニュー・ディール期における政府関係金融機関」『経済学季報』立正大学経済学会, 第18巻第4号.
- 小野英祐・春田素夫・志村嘉一・山口重克・玉野井昌夫著[1971]『現代金融の理論』時潮社.
- 小野英祐[1971・72・73]「連邦準備制度の成立過程」(1・2・3・4), 『経済学季報』立正大学経済学会, 第20巻第1・2号・第21巻第3・4号・第22巻第1・2号・第3・4号.
- 小野英祐[1977]「書評 森泉著『アメリカ資本主義史論』」『経済学論集』東京大学経済学会, 第43巻第1号.
- 小野英祐[1978]「預金の必然性」『経済学論集』東京大学経済学会, 第44巻第1号.
- 小野英祐[1986]「アメリカにおける金融革新の底流と当面の帰結」『経済学論集』東京大学経済学会, 第52巻第1号.
- 小野英祐[1987]「段階論の方法と核心——大内力著『帝国主義論』(上・下)をめぐって」『経済学論集』東京大学経済学会, 第53巻第1号.
- 尾上春風[1968]「取引所取引(株式)における相場形成」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第2号.
- 小野塚知二[2018]『経済史——いまを知り, 未来を生きるために』有斐閣.
- 小畑二郎[1979]「1970年代アメリカの投資銀行業——資本市場の発展と大手投資銀行」(上・下), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第129号・第130号.
- 小畑二郎[1980]「1970年代アメリカの投資銀行」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第15号.
- 小畑二郎[1981]「アメリカのコマーシャル・ペーパー市場」(上・中・下の1・下の2), 『公社債月報』日本証券業協会, 第298号・第299号・第301号・第302号.
- 小畑二郎[1982]「米国における企業買収活動と銀行融資の実態——合衆国下院反トラスト小委員会「ロングロマリット企業調査」公聴会資料の検討」『証券研究』日本証券経済研究所, 第66号.
- 小畑二郎[1983]「銀行の株式投資をめぐる諸問題——高度成長期の銀行融資との関連を中心に」『証券研究』日本証券経済研究所, 第67号.
- 小畑二郎[1984]「わが国社債市場の現状と課題」『証券研究』日本証券経済研究所, 第72号.
- 小畑二郎[1987]「アメリカ金融・証券市場調査報告」『証券研究』日本証券経済研究所, 第80号.
- 小畑二郎[1988]『アメリカの金融市場と投資銀行業』東洋経済新報社.
- 小畑二郎[1996]「マネー・フローよりみた「バブル経済」と株式市場」『証券研究』日本証券経済研究

- 所, 第 114 号.
- 小畑二郎[1996]「「バブル経済」と資本市場——マネー・フローを中心とした分析と展望」『資本市場』資本市場研究会, 第 129 号.
- 小畑二郎[2000]「バブル期における金融機関の株式投資について」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 26 号.
- 小幡道昭[1981]「土地所有の原理的把握——原理論における二つの展開方法」『経済評論』日本評論社, 復刊第 30 巻第 9 号.
- 小幡道昭編著[1999]『貨幣・信用論の新展開』<マルクス経済学叢書 10>社会評論社.
- 小幡道昭[2005]「貨幣増加と価値増殖——「貨幣の資本への転化」説批判」『経済学論集』東京大学経済学会, 第 71 巻第 1 号.
- 小幡道昭[2006]「資本の概念と株式資本」『経済理論学会第 53 回大会報告』  
(<https://gken.jp/pub/2005gakkai-toujitu-hahihu/main.pdf> 閲覧日: 2021 年 12 月 1 日).
- 小幡道昭[2009]『経済原論——基礎と演習』東京大学出版会.
- 小幡道昭[2013]『価値論批判』弘文堂.
- 小原敬士[1954]『アメリカの財閥』東洋経済新報社.
- 折原裕[1976]「企業合併と株主利益——Additivity Proposition の再考察」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第 38 巻第 3 号.
- 折原裕[1986]「キャピタル・ゲインの変動と利子率——資産市場の一般均衡分析」『長野経済論集』長野経済短期大学, 第 25 号.
- 貝塚啓明・志村嘉一・蠟山昌一編[1981]『金融・証券講座』全 5 巻, 東洋経済新報社.
- 貝塚啓明・小野英祐編[1986]『日本の金融システム』<東京大学産業経済研究叢書>東京大学出版会.
- 角田修一編[2003]『社会経済学入門』大月書店.
- 角田修一[2011]『概説社会経済学』文理閣.
- 角瀬保雄・佐藤博明・森章・篠原三郎[1969]『マルクス会計学』亜紀書房.
- 角瀬保雄編[1980]『現代日本企業と民主化問題』<80年代の企業と労務管理 1>労働旬報社.
- 角瀬保雄[1986]『新しい会計学』大月書店(新版, 1994 年).
- 角瀬保雄[2003]「マルクスの協同組合論・株式会社論と現代」『経済』新日本出版社, 第 92 号.
- 角瀬保雄[2005]『企業とは何か——企業統治と企業の社会的責任を考える』学習の友社.
- 掛下達郎[1994]「米国連邦準備銀行による割引政策と公開市場操作——アコード以前と以後」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第 88 号.
- 掛下達郎[1994]「米国金融政策と国債市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 29 号.
- 掛下達郎[2000]「アメリカ商業銀行の割賦信用」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 35 号.
- 掛下達郎[2002]「アセット・バック証券の歴史的展開——アメリカ商業銀行を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 37 号.
- 掛下達郎[2004]「アメリカ商業銀行と国債流通市場——換金可能性と銀行流動性」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 39 号.
- 掛下達郎[2006]「アメリカのマネー・センター・バンクによる金利スワップ取引——大投資銀行との比較」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 41 号.
- 掛下達郎[2008]「アメリカのマネー・センター・バンクの業務展開——ローン・セールとディリバティブ」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 43 号.
- 掛下達郎[2010]「サブプライム危機前後におけるアメリカ大手金融機関の収益構造」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 70 号.
- 掛下達郎[2012]「金融機関の収益構造は変化したのか?——日米の大手金融機関について」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 52 巻第 2 号.
- 掛下達郎[2013]「サブプライム危機下の米系大手金融機関——彼らの収益構造は変化したのか?」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 31 号.
- 掛下達郎[2015]「米国大手商業銀行グループの引受業務への進出」, 証券経営研究会編『資本市場の変貌と証券ビジネス』日本証券経済研究所.
- 掛下達郎[2016]『アメリカ大手銀行グループの業務展開——OTD モデルの形成過程を中心に』<松山

- 大学研究叢書 第87巻＞日本経済評論社.
- 掛下達郎[2016]「アメリカ式ノン・リコース・ファイナンスの展開——証券化の現代的基礎手法」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第69巻第3号.
- 掛下達郎[2018]「英米大手銀行グループの収益構造は異なるのか?——金融化の内実を探る」『信用理論研究』信用理論研究会, 第36号.
- 掛下達郎[2019]「アメリカ型と日本型証券化市場の形成とその特徴」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第108号.
- 掛下達郎[2020]「日本型証券化市場の形成とその特徴」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第60巻第2号.
- 掛下達郎・西尾圭一郎・蓮井康平[2021]『日米の証券化と地方銀行の経営戦略——頑健な金融政策を視野に入れて』＜松山大学地域研究センター叢書第17巻＞松山大学総合研究所.
- 掛下達郎[2021]「アマゾンの銀行化とアップルの金融機関化——金融化との関連で」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第115号.
- 河西勝[1992]『農業資本主義——その論理と歴史』世界書院.
- 河西勝[1993]「信用・商業・資本所有」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第40巻第3号.
- 河西勝[1997]「分配関係論——経済学原理体系(下)」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第44巻第4号.
- 河西勝[2000]「第1次大戦前のドイツ農業における生産力形成と金融資本」『開発論集』北海学園大学開発研究所, 第65号.
- 河西勝[2004]「コーポレート・ガバナンス——そして、三段階の政治経済学へ」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第51巻第3・4号.
- 河西勝[2006]「宇野理論の挫折と転換——企業の本質・形態・ガバナンスをめぐる」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第54巻第1号.
- 河西勝[2008・09]「企業の本質——宇野原論の抜本的改正」(1・2・3・4・5), 『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第55巻第4号・第56巻第1号・第2号・第3号・第4号.
- 河西勝[2009]『企業の本質——宇野原論の抜本的改正』共同文化社.
- 河西勝[2011]「公開会社の三段階論」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第58巻第4号.
- 河西勝[2014]「「企業それ自体」論争とは何であったか——もしくは宇野理論とは何であるのか」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第62巻第2号.
- 河西勝[2015]「レッセフェール金融市場システム——1850～1914年」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第63巻第3号.
- 河西勝[2016]「イギリスの株式会社——1880-1914」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第63巻第4号.
- 河西勝[2016]「ドイツの株式会社——1880～1914」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第64巻第1号.
- 河西勝[2016]「イギリス産業資本家の安楽死」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第64巻第2号.
- 河西勝[2017]『宇野理論と現代株式会社——法人企業400年ものがたり』社会評論社.
- 河西勝[2019]『「宇野理論と現代株式会社——法人企業400年ものがたり」に対する石井徹氏の書評へのリプライ』『季刊 経済理論』経済理論学会, 第56巻第1号.
- 河西勝[2022]「「経営者革命」論のジェネアロジー」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第69巻第3・4号.
- 嘉治真三[1963]「アメリカ合衆国における企業合同の発展」『社会科学の基本問題』(上), ＜創立15周年記念論文集＞東京大学社会科学研究所.
- 嘉治真三編[1963]『独占資本の研究』東京大学出版会.
- 梶山武雄編[1967]『現代資本主義論』東出版.

- 梶山武雄[1969]『国際金融と金の将来』東洋経済新報社(第2増補版, 1972年).
- 梶山武雄[1974]『国際金融——現状と将来』東洋経済新報社.
- 春日井薫・一泉知永[1963]『金融論』文雅堂書店.
- 數阪孝志[1988]「商業銀行の証券業務への進出について」『経済学研究』九州大学経済学会, 第53巻第6号.
- 數阪孝志[1988]「戦間期のターム・ローンと銀行行動」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第23号.
- 數阪孝志[1988]「セキュリタイゼーションと商業銀行」『経済学研究』九州大学経済学会, 第54巻第3号.
- 數阪孝志[1989]「金融の証券化と商業銀行の業務展開」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター, 第4号.
- 數阪孝志[1991]『アメリカ商業銀行の多角的展開』東洋経済新報社.
- 數阪孝志[1991]「アメリカの銀行買収・合併と再編」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター, 第6号.
- 數阪孝志[1992]「米銀再編の構図」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第179号.
- 數阪孝志[1992]「アメリカにおける銀行・証券業の収益・経営問題」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第27号.
- 數阪孝志[1993]「不良債権と銀行倒産」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター, 第8号.
- 數阪孝志[1998]『日本型金融システムの転機』東京大学出版会.
- 數阪孝志[1999]「地方債と地方銀行」『インベストメント』大阪証券取引所, 第52巻第2号.
- 數阪孝志[1999]「金融ビッグバンと金融改革の視角」『経営研究』大阪市立大学経済研究会, 第22巻第1号.
- 數阪孝志[2001]「日米の金融再編と地域金融機関」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会, 第24巻第1号.
- 粕谷信次[2006]『社会的企業が拓く市民的公共性の新次元——持続可能な経済・社会システムへの「もう一つの構造改革」』時潮社.
- 粕谷誠・伊藤正直・齋藤憲編[2010]『金融ビジネスモデルの変遷——明治から高度成長期まで』日本経済評論社.
- 粕谷誠・伊藤修・橋本寿朗[2011]『山一証券100年史』(上), 日本経営史研究所.
- 粕谷誠[2020]『戦前日本のユニバーサルバンク——財閥系銀行と金融市場』名古屋大学出版会.
- 加瀬正一[1974]『深化する金融危機』<エコノミスト選書>毎日新聞社.
- 加瀬正一[1977]『国際金融市場の知識』<日経文庫>日本経済新聞社(第2版, 1983年).
- 加瀬正一[1984]『国際金融問題を解く』<有斐閣ビジネス1>有斐閣.
- 片岡浩二[2014]「コンヴェンション派の金融理論——A. オルレアンのアプローチ」『横浜国立大学教育人間科学部紀要 社会科学』横浜国立大学教育人間科学部, 第16号.
- 片岡進[1995]「経営者支配論の再検討——新たな理論展開への予備的考察」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第33巻第6号.
- 片岡進[1995]「組織論における「経営者」把握の再検討——内部昇進型経営者と意思決定のネットワーク」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第34巻第4号.
- 片岡進[1996]「多元的・重層的な所有把握にもとづく意思決定論的「経営者」支配論の検討——北原勇の「会社それ自体」における「所有と決定」論を媒介にして」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第35巻第1号.
- 片岡進[2003]「企業にみられる所有概念に関する一考察——法的所有から経済的所有, 「所有者意識」までの多様性」『関西大学商学論集』関西大学商学会, 第48巻第5号.
- 片岡進[2006]「現代企業における所有の諸相に関する一考察——所有の多様性と整理枠組としての所有の一般理論」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第45巻第4号.

- 片岡進[2009]「取締役会の改革と会社経営者」, 細川孝・桜井徹編著『転換期の株式会社——拡大する影響力と改革課題』<現代社会を読む経営学4> ミネルヴァ書房.
- 片岡尹[1981]「解説」『川合一郎著作集 第2巻——資本と信用』有斐閣.
- 片岡尹[1986]『国際通貨と国際収支』勁草書房.
- 片岡尹[1999]「金融の証券化, 投資の機関化と金融流通の拡張」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第50巻第1・2号.
- 片岡尹[2001]『ドル本位制の通貨危機——国際資金ポンプとしての米国』勁草書房.
- 片岡尹[2004]「ドル本位制の構造——ドル本位制の反芻」『信用理論研究』信用理論研究会, 第22号.
- 片岡尹[2009]「サブプライム危機とドル本位制」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第60巻第2号.
- 片岡豊[1987]「明治期の株式市場と株価形成」『社会経済史学』社会経済史学会, 第53巻第2号.
- 片岡豊[1988]「明治期における株主と株主総会——鉄道業の合併をめぐる」『経営史学』経営史学会, 第23巻第2号.
- 片岡豊[1999]「明治期鉄道業の資金調達と証券市場」『鉄道史学』鉄道史学会, 第17号.
- 片岡豊[2003]「鉄道企業の資金調達と資本コスト」, 野田正穂・老川慶喜編『日本鉄道史の研究——政策・経営/金融・地域社会』八潮社.
- 片岡豊・丸淳子・寺西重郎[2004]「明治後期における株式市場の効率性の分析」(上・下), 『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第47号・第48号.
- 片岡豊[2006]『鉄道企業と証券市場』<近代日本の社会と交通 第7巻>日本経済評論社.
- 片山謙二[1939]「株金取立と株主平等」『銀行論叢』銀行問題研究会, 第33巻第1号.
- 片山謙二[1940]「株主平等の原則と株金払込催告」『銀行論叢』銀行問題研究会, 第34巻第1号.
- 片山謙二[1940]「株式会社の全体主義的構造」『銀行論叢』銀行問題研究会, 第35巻第5号.
- 片山謙二[1942]「会社成立後株式を以て支払うべき売買契約」『銀行論叢』銀行問題研究会, 第38巻第4号.
- 片山謙二[1943]「株式譲受人と発起人の責任」『銀行論叢』銀行問題研究会, 第41巻第2号.
- 片山謙二[1966]「世界的傾向としての企業の集中合併」『Chamber』大阪商工会議所, 第186号.
- 片山謙二[1967]『現代資本主義とEEC』銀行問題研究会.
- 片山謙二[1969]「変容するヨーロッパの企業——集中・合併・再編成は進む」『朝日ジャーナル』朝日新聞社, 第11巻第52号.
- 片山伍一[1956]「アメリカ株式会社における新株引受権の変遷(1)」『経済学研究』九州大学経済学会, 第21巻第2号.
- 片山伍一[1957]「アメリカ株式会社における経営者報酬の問題」『経済学研究』九州大学経済学会, 第23巻第2号.
- 片山伍一[1960]「株式配当 (Stock Dividends) の性格」, 日本経営学会編『日本の経営』<経営学論集 第32集>森山書店.
- 片山伍一[1960]「株式配当 (Stock Dividends) の性格」『経済学研究』九州大学経済学会, 第25巻第3号.
- 片山伍一[1960]「株式配当と企業資本の蓄積」(1・2・3), 『経済学研究』九州大学経済学会, 第26巻第3号・第4号・第27巻第1号.
- 片山伍一[1961]「株式の時価発行と企業資本の充実」『税経セミナー』税務経理協会, 第63号.
- 片山伍一[1962]「株価低落の意味」『税経セミナー』税務経理協会, 第68号.
- 片山伍一[1963]「企業資本構成の研究」(1・2), 『経済学研究』九州大学経済学会, 第28巻第6号・第29巻第2号.
- 片山伍一[1964]「企業金融——企業資本の集中集積・所有の「社会化」と支配集中」, 川口弘・川合一郎編『金融論講座1——貨幣・信用の理論』有斐閣.
- 片山伍一[1964]「わが国株式会社における時価発行の問題——企業資本の蓄積・所有形態の展開」『経済学研究』九州大学経済学会, 第30巻第2号.
- 片山伍一[1965]「時価発行と資本充実・市場正常化」

- 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第73号。
- 片山伍一[1966・67]「わが国における公募・時価発行——株式プレミアムの実態」(1・2)，『経済学研究』九州大学経済学会，第31巻第5・6号・第32巻第2号。
- 片山伍一[1967]「株式プレミアムと創業者利得——その処分可能性をめぐって」『経済学研究』九州大学経済学会，第32巻第5・6号。
- 片山伍一[1967]「時価発行と企業資本の充実」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第97号。
- 片山伍一[1967]「株式の時価発行と企業資本の充実」『40周年記念経済学論文集』九州大学経済学部。
- 片山伍一[1967]「投資理論における株式資本コスト——ソロモン教授の所説を中心に」『経済学研究』九州大学経済学会，第33巻第1号。
- 片山伍一[1967]「時価発行と企業資本の充実」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第97号。
- 片山伍一[1968]「わが国企業金融における「持ち合い」——企業資本の水増し的膨張と支配資本の節約」『経済学研究』九州大学経済学会，第33巻第5・6号。
- 片山伍一[1968]「わが国における時価発行と企業資本の充実」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号。
- 片山伍一[1968]「自己株式の基本的性格」『経済学研究』九州大学経済学会，第34巻第1号。
- 片山伍一[1969]「資本構成と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第4号。
- 片山伍一[1970]「デシジョン・メイキング」，杉原四郎・尾上久雄・置塩信雄編『科学としての経済学』<経済学基礎セミナー1>有斐閣。
- 片山伍一[1972]「配当と創業者利得」『経済学研究』九州大学経済学会，第37巻第1-6号。
- 片山伍一[1972]「株式プレミアムの本質と株主還元政策」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第112号。
- 片山伍一・後藤泰二編著[1973]『経営財務論』ミネルヴァ書房（新版，1975年）。
- 片山伍一[1973]「ヒルファディング「創業者利得」の定式について——配当と創業者利得(2)」『経済学研究』九州大学経済学会，第38巻合併号。
- 片山伍一[1975]「戦後日本的「持ち合い」による肥満児的財務体質と「所有なき支配」」『証券経済学会年報』証券経済学会，第10号。
- 片山伍一[1975]「ヒルファディング「創業者利得」における資本構造」『証券経済学会年報』証券経済学会，第10号。
- 片山伍一[1977]「「配当の利子化」について」『経済学研究』九州大学経済学会，第42巻合併号。
- 片山伍一[1977]「株式の時価発行と自己金融」『経済学研究』九州大学経済学会，第43巻第1号。
- 片山伍一[1977]「配当の利子化と自己金融」『経済学研究』九州大学経済学会，第43巻第2号。
- 片山伍一[1978]「「通過点」にある株式会社の性格」『証券経済学会年報』証券経済学会，第13号。
- 片山伍一[1980]「株式の公開・上場と創業者利得の形成・帰属」『証券経済学会年報』証券経済学会，第15号。
- 片山伍一[1981]「現代株式会社支配論の問題と方法」『証券経済学会年報』証券経済学会，第16号。
- 片山伍一・後藤泰二編著[1983]『現代株式会社の支配機構』<講座経営経済学3>ミネルヴァ書房。
- 片山伍一・後藤泰二編著[1983]『経営財務論』ミネルヴァ書房（改訂版，1987年）。
- 片山伍一[1985]「現代株式会社所有・支配論の意義と方法——支配論の前進・具体化のために」『インベストメント』大阪証券取引所，第38巻第2号。
- 片山伍一編著[1992]『現代企業の支配と管理』ミネルヴァ書房。
- 片山准一[1977]「株式会社における「機能資本家」概念」『法学・経営学論集』西南学院大大学院，第2号。
- 片山准一[1978]「株式会社における「機能資本家」概念・再論——有井行夫氏の所論をめぐって」『法学・経営学論集』西南学院大大学院，第3号。

- 片山准一[1980]「株式会社における「機能資本家」概念について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第15号。
- 片山准一[1984]「株式会社の成立指標について——楊枝嗣朗氏の所論を中心として」『九共経済論集』九州共立大学地域経済研究所，第9巻第1号。
- 片山准一[1985]「株式会社に於ける所有と支配——北原勇氏の所論を中心として」『九州共立大学紀要』九州共立大学経済学会，第20巻第1号。
- 片山准一[1988]「株式会社支配論・覚書——「経営者支配論」の展開を中心として」『九州共立大学紀要』九州共立大学経済学会，第42号。
- 片山准一[1990]「企業形態論・ノート」『九州共立大学紀要』九州共立大学経済学会，第46号。
- 片山准一[1992]「株式会社支配論の展開について」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第43巻第5号。
- 片山准一[1993]「自己金融と「経営者支配論」」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第44巻第4-6号。
- 片山准一[1996]「80年代後半の我が国の企業金融について——「バブル経済」とエクイティ・ファイナンスを中心として」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第48巻第3・4号。
- 片山准一[1997]「株式相互持合と自己株式について——持合」解消の受皿としての自己株式の取得」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第49巻第3・4号。
- 片山准一[1998]「持株会社「解禁」と独占禁止法「改正」について」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第50巻第4号。
- 片山准一[2000]「「会社それ自体」論と株式会社論について」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第51巻第5号。
- 片山准一[2004]「コーポレート・ガバナンスと純粋持株会社」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第55巻第6号。
- 勝田佳裕[2006]「日本銀行の国債オペレーションによるイールドカーブへの影響」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第38巻第1・2号。
- 勝田佳裕[2014]「日本の国債流通市場（現物）における外国人投資家の現状」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第54巻第2号。
- 勝田佳裕[2014]「日本の国債保有構造の現状——非居住者（外国人）を中心に」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第55巻第1号。
- 勝田佳裕[2015]「ドイツと南欧諸国の国債保有構造における非居住者（外国人）の割合と国債利回りへの影響」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第55巻第2号。
- 勝田佳裕[2015]「バブル崩壊以降の国債累増・国債保有構造と国内銀行の国債保有」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第89号。
- 勝田佳裕[2015]「日本とユーロ圏の国債保有構造の比較——非居住者（外国人）を中心に」『信用理論研究』信用理論研究会，第33号。
- 勝田佳裕[2017]「日本銀行による補完当座預金制度と銀行経営」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第97号。
- 勝田佳裕[2021]「GFC以降のスウェーデン商業銀行等の経営動向」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第114号。
- 勝村務[1998]「地代論研究の問題群」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会，第40号。
- 勝村務[2005]「ミッション志向企業としてのNPO」，SGCIME編『模索する社会の諸相』御茶の水書房。
- 勝村務・中村宗之編[2013]『貨幣と金融——歴史的転換期における理論と分析』社会評論社。
- 勝村務[2023]『マルクス経済学の論点——岐路に立つ世界を読むために』社会評論社。
- 加藤榮一[1977]「相対的安定期ドイツの地方債市場」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第28巻第4・5号。
- 加藤榮一[2006]『現代資本主義と福祉国家』<Minerva人文・社会科学叢書117>ミネルヴァ書房。
- 加藤健太[2005]「戦間期日本電力業の企業買収——株式取得を中心に」『社会経済史学』社会経済史学

- 会, 第 71 卷第 3 号.
- 加藤國彦[1984]「ベルリン大銀行と産業」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会, 第 27 号.
- 加藤國彦[1996]『1931 年ドイツ金融恐慌』御茶の水書房.
- 加藤國彦[2003]「書評 居城弘著『ドイツ金融史研究——ドイツ型金融システムとライヒスバンク』」『経営史学』経営史学会, 第 38 卷第 2 号.
- 加藤三郎[1967]「イギリス大蔵省証券の成立——短期債についての一考察」, 大塚久雄・武田隆夫編『帝国主義下の国際経済』<楊井克巳博士還暦記念論文集>東京大学出版会.
- 加藤三郎[1970]「リカードの公債論」, 武田隆夫・遠藤湘吉・大内力編『資本論と帝国主義論』(上), <鈴木鴻一郎教授還暦記念>東京大学出版会.
- 加藤三郎[2001]『政府資金と地方債——歴史と現状』日本経済評論社.
- 加藤三郎[2014]『イギリス国債史論』御茶の水書房.
- 加藤俊彦[1950]「金融資本」『新日本史講座——資本主義時代』(下), 中央公論社.
- 加藤俊彦[1960]『銀行合同史』<銀行叢書 第 97> 全国地方銀行協会.
- 加藤俊彦[1963]「財閥銀行についての覚書き——戦前・戦後の預金・貸出し・有価証券保有の比較」, 大河内一男編『日本の経済——戦前・戦後』東洋経済新報社.
- 加藤俊彦編[1968]『証券経済講座 第 3 卷——証券市場と金融機関』東洋経済新報社.
- 加藤俊彦[1973]「長期信用銀行の一考察——長期信用銀行の構想の形成過程」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第 25 卷第 1 号.
- 加藤俊彦[1975]「資本蓄積と金融市場——貸付市場を中心に」東京大学社会科学研究所編『戦後改革 8——改革後の日本経済』東京大学出版会.
- 加藤俊彦編[1983]『日本金融論の史的的研究』東京大学出版会.
- 加藤泰男・池田一新・清水川繁雄・三神俊信[1964]『経済学概論』青林書院新社.
- 加藤義忠[1977]『商業資本論の研究』<流通経済学選書 7>ミネルヴァ書房.
- 加藤義忠[1978]「独占と流通」(上・下), 『関西大学商学論集』関西大学商学会, 第 22 卷第 6 号・第 23 卷第 1 号.
- 加藤義忠[1978]「独占資本主義の流過程——ファウンケ他著『現代資本主義の商業構造』の検討」『関西大学商学論集』関西大学商学会, 第 23 卷第 3・4 号.
- 加藤義忠[1978・79]「独占的商業資本の理論」(上・下), 『関西大学商学論集』関西大学商学会, 第 23 卷第 5 号・第 6 号.
- 加藤義忠[1979]「ヒルファディングの流通経済論の検討」『関西大学商学論集』関西大学商学会, 第 24 卷第 2 号.
- 加藤義忠[1980]「ハインリックスたちの流通独占論の検討——『独占的商業の理論』第 2 章について」『関西大学商学論集』関西大学商学会, 第 25 卷第 3 号.
- 加藤義忠[1981]「P. ホフマンたちの流通独占論の検討」(1・2), 『関西大学商学論集』関西大学商学会, 第 26 卷第 1 号・第 2 号.
- 加藤義忠[1986]『現代流通経済の基礎理論』同文館出版.
- 金井雄一[1978]「利子生み資本論の再検討——資本論としての利子生み資本論」『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科, 第 25 卷第 4 号.
- 金井雄一[1989]『イングランド銀行金融政策の形成』名古屋大学出版会.
- 金井雄一[2004]『ポンドの苦闘——金本位制とは何だったのか』名古屋大学出版会.
- 金井雄一・中西聡・福澤直樹編[2010]『世界経済の歴史——グローバル経済史入門』名古屋大学出版会(第 2 版, 2020 年).
- 金井雄一[2014]『ポンドの譲位——ユーロダラーの発展とシティの復活』名古屋大学出版会.
- 金沢信[1953]「株価の構造と変動」, 日本証券投資協会編『株式相場の見方』ダイヤモンド社.
- 金沢信編[1957]『株』平凡社.
- 金沢信[1973]『現代の証券市場と資本蓄積』税務経理協会.
- 金谷義弘[1992]「株価上昇とインフレーション——

- 「資産インフレ」論と「バブル経済」論とを念頭に『証券経済学会年報』証券経済学会，第27号。
- 金谷義弘[1996]『管理通貨と金融資本の蓄積』文理閣。
- 金谷義弘[1996]「管理通貨と金融資本の蓄積——現代資本主義分析の方法との関連で」『唯物論と現代』関西唯物論研究会，第18号。
- 金谷義弘[2009]『管理通貨と現代資本主義——インフレーションと投機の経済学』文理閣。
- 金子ハルオ[1967]『経済学（上）——資本主義の基本的理論』新日本出版社。
- 金子ハルオ[1967]『経済学（下）——帝国主義の理論』新日本出版社。
- 金子ハルオ[1971]『資本論の学習』新日本出版社。
- 金子ハルオ・鶴田満彦・小野英祐・二瓶剛男編[1978]『経済学における理論・歴史・政策』＜横山正彦先生還暦記念＞有斐閣。
- 金子ハルオ編著[1979]『資本主義の原理と歴史』青木書店。
- 金子勝[2008]『閉塞経済——金融資本主義のゆくえ』＜ちくま新書＞筑摩書房。
- 金子勝・アンドリュー・デウィット[2008]『世界金融危機』＜岩波ブックレット＞岩波書店。
- 金子勝[2010]『新・反グローバリズム——金融資本主義を超えて』＜岩波現代文庫＞岩波書店。
- 金子勝[2015]『資本主義の克服——「共有論」で社会を変える』＜集英社新書＞集英社。
- 金子勝[2019]『平成経済衰退の本質』＜岩波新書＞岩波書店。
- 金田重喜[1965]「金融資本の変貌」，川口弘・川合一郎編『金融論講座3——現代資本主義と金融』有斐閣。
- 金田重喜[1974]「エス・メンシコフのアメリカ金融資本研究——S. Menshikov, Millionaires and Managers, 1969 Moscow, Progress Publishers, pp. 327を中心として」（上・中・下），『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科，第35巻第3号・第4号・第36巻第2号。
- 鎌倉孝夫[1969]「信用制度と株式資本（1）」『社会労働研究』法政大学社会学部学会，第15巻第3号。
- 鎌倉孝夫[1971]「株式資本の原理的展開」『経済学論集』東京大学経済学会，第37巻第3号。
- 鎌倉孝夫[1973]「資本の理念と擬制資本」『社会労働研究』法政大学社会学部学会，第19巻第3・4号。
- 鎌倉孝夫[1973]「現代帝国主義と株式資本」『現代の眼』現代評論社，第14巻第1号。
- 鎌倉孝夫[1974]『経済学方法論序説』弘文堂。
- 鎌倉孝夫[1976]「金融資本の蓄積構造」『唯物史観』十月社，第16号。
- 鎌倉孝夫編[1977]『続 大系国家独占資本主義4——日本資本主義の現段階（下）』河出書房新社。
- 鎌倉孝夫[1985]「利子生み資本と「資本」概念——「23冊ノート」を中心に」『社会科学論集』埼玉大学経済学会，第55号。
- 鎌倉孝夫[1990]「創業利得論争の回顧——株式資本論の発展にむけて」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第41巻第5号。
- 鎌倉孝夫[1990]『信用理論の形成と展開』有斐閣。
- 鎌倉孝夫[1996]『資本主義の経済理論——法則と発展の原理論』有斐閣。
- 鎌倉孝夫[2006]「株式・擬制資本原論——現状分析の理論的基準」『東日本国際大学経済学部研究紀要』東日本国際大学経済学部，第11巻第1号。
- 鎌倉孝夫[2008]「アメリカ金融危機深刻化——株式の擬制性の認識を」『進歩と改革』進歩と改革研究会，第683号。
- 鎌倉孝夫[2009]「金融危機の経済学——貨幣・信用そして株式・擬制資本の理論」『進歩と改革』進歩と改革研究会，第685号。
- 鎌倉孝夫[2010]「理念としての「それ自身に利子を生むものとしての資本」」，櫻井毅・山口重克・柴垣和夫・伊藤誠編著『宇野理論の現在と論点——マルクス経済学の展開』社会評論社。
- 鎌倉孝夫[2015]「『資本論』の株式会社論」『進歩と改革』進歩と改革研究会，第759号。
- 鎌倉孝夫[2017]「『資本論』の株式会社論」，社会主義理論学会編『マルクスと21世紀社会』本の泉

- 社.
- 鎌倉孝夫[2020]「貧困・格差をもたらす根本原因——株式・証券＝擬制資本主義経済」『進歩と改革』進歩と改革研究会, 第817号.
- 鎌倉孝夫[2020]『『資本論』エッセンス——全三巻徹底読解』(I・II), 時潮社.
- 鎌田正三[1950]「独占期におけるアメリカの企業」『株式会社金融』『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第20号.
- 鎌田正三[1951]「株式会社金融」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第23号.
- 鎌田正三[1953]「アメリカに於ける株式会社(1)」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第3号.
- 鎌田正三[1953]「アメリカにおけるトラスト金融——主としてトラストプロモーターについて」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第4号.
- 鎌田正三[1954]「アメリカにおける企業結合の支配機構」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第30・31号.
- 鎌田正三[1956]『アメリカの独占企業』時潮社.
- 鎌田正三[1957]「金融資本と株式会社」, 玉城肇・末永茂喜・鈴木鴻一郎編『マルクス経済学大系』(下), <宇野弘蔵先生還暦記念論文集>岩波書店.
- 鎌田正三[1957]「アメリカにおける企業集中の諸形態」『公正取引』公正取引協会, 第2巻第79号.
- 鎌田正三[1959]「株式会社金融再論——創業利得に関する研究ノート」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第21巻第1号.
- 鎌田正三[1964]「金融資本」, 川口弘・川合一郎編『金融論講座1——貨幣・信用の理論』有斐閣.
- 鎌田正三[1964]「両大戦間のアメリカ大会社の企業金融——研究ノート(1)」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第13巻第3・4号.
- 鎌田正三[1965]「大恐慌下のアメリカ大会社の企業金融」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第15巻第1号.
- 鎌田正三[1968]「U.S スチール会社の結成」, 鈴木鴻一郎編『マルクス経済学の研究』(下), 東京大学出版会.
- 鎌田正三[1968]「初期スタンダード石油の自己金融」, 中野正・玉野井芳郎・大島清・田中菊次編『経済学の方法』<末永茂喜教授還暦記念論文集>日本評論社.
- 鎌田正三・森杲・中村通義[1973]『講座 帝国主義の研究——両大戦間におけるその再編成 3』青木書店.
- 鎌田正三[1976]「アメリカ企業金融史考——19世紀終末～20世紀初頭のトラスト金融」(1・2), 『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第26巻第2号・第4号.
- 鎌田正三[1978]「アメリカ企業金融史考(3)——19世紀終末～20世紀初頭の大企業金融」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第28巻第2号.
- 鎌田正三[1979・81]「アメリカ企業金融史考——両大戦間の大企業金融」(4・5), 『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第29巻第3号・第30巻第4号.
- 鎌田正三[1982]『アメリカ企業金融史』御茶の水書房.
- 鎌田正三[1983]「Annual Report から見た1930-45年間のデュボン社——業務と財務の関連において」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第144号.
- 鎌田正三[1984]「1930-45年間のUS スチール社」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会, 第17巻第1号.
- 鎌田正三[1984]「1930-45年間のゼネラル・モーターズ社」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会, 第18巻第1・2号.
- 鎌田正三[1985]「1930-45年間のスタンダード石油(ニュージャージー)社——通称ジャージー社, 現在エクソン社」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会, 第19巻第1・2号.
- 鎌田正三[1986]「第2次大戦後のUS スチール社——1946-80年」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会, 第20巻第1・2号.

- 鎌田正三[1988]「1960-87年間のエクソン社」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会，第22巻第1・2号。
- 鎌田正三[1989]「1960～87年間のIBM社」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会，第23巻第1・2号。
- 鎌田正三[1991]「1960-89年間のデュポン社」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会，第24巻第2号。
- 鎌田正三[1991]「1960-89年間のUSX社」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会，第25巻第1号。
- 鎌田正三[1992]「1960-89年間のゼネラル・エレクトリック社」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会，第26巻第1号。
- 鎌田正三[1993]「1960-89年間のゼネラル・モーターズ社」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会，第27巻第1号。
- 上川孝夫[1981]「戦後イギリス国有化投資下の企業金融構造——資本蓄積と金融市場」(上・下)，『商学論纂』中央大学商学研究会，第23巻第1・2号・第3号。
- 上川孝夫[1982]「戦後イギリス企業金融の構造分析——主要産業の動向と金融機関の役割」(上・下)，『商学論纂』中央大学商学研究会，第24巻第2号・第3号。
- 上川孝夫[1983]「1950年代イギリスの証券発行市場と金融政策」『証券経済学会年報』証券経済学会，第18号。
- 上川孝夫[1983]「多国籍企業の財務活動と国際金融市場——BPの対外投資と資金調達(1945～75)の分析を中心に」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第145号。
- 上川孝夫[1986]「1970年代以降のイギリス預金銀行と国際金融市場——ユーロ市場における行動様式」『証券研究』日本証券経済研究所，第77号。
- 上川孝夫[1987]「株式会社論と「証券の多様化」——株式会社発展史の基本問題(1)」『経済学』愛媛大学法文学部，第20号。
- 上川孝夫[1987]「株式会社論と「自己資本—利子」——株式会社成立史の基本問題」『愛媛経済論集』愛媛大学経済学会，第7巻第1号。
- 上川孝夫・今松英悦編著[1997]『円の政治経済学——アジアと世界システム』同文館出版。
- 上川孝夫・藤田誠一・向壽一編[1999]『現代国際金融論』<有斐閣ブックス>有斐閣(新版，2003年。第3版，2007年。第4版，2012年)。
- 上川孝夫・新岡智・増田正人編[2000]『通貨危機の政治経済学——21世紀システムの展望』日本経済評論社。
- 上川孝夫[2003]「金融グローバリゼーションと国際通貨システム——構造と変容」『歴史と経済』政治経済学・経済史学会，第45巻第3号。
- 上川孝夫[2004]「金融グローバリゼーションの構造と変容」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所，第30号。
- 上川孝夫・矢後和彦編[2007]『国際金融史』<新・国際金融テキスト2>有斐閣。
- 上川孝夫[2009]「世界金融危機に関する覚書」『エコノミア』横浜経済学会，第60巻第2号。
- 上川孝夫・李暁編[2010]『世界金融危機 日中の対話——円・人民元・アジア通貨金融協力』春風社。
- 上川孝夫編[2011]『国際通貨体制と世界金融危機——地域アプローチによる検証』日本経済評論社。
- 上川孝夫[2015]「世界大恐慌とリフレ政策——1932年フーヴァー政権下の議論をめぐって」『経済学論纂』中央大学経済学研究会，第55巻第5・6号。
- 上川孝夫[2015]『国際金融史——国際金本位制から世界金融危機まで』日本経済評論社。
- 神木良三[1977]「国際証券取引所連合の最近の課題」『証券経済学会年報』証券経済学会，第12号。
- 神木良三[1979]「アメリカ証券市場の変貌とその構造改革——全米市場システムの開発を中心として」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第128号。
- 神木良三[1980]「アメリカ証券取引委員会の設立過程に関する史的考察」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第132号。
- 神木良三[1981]「SEC設立前における証券規制の発展に関する一考察」『証券経済学会年報』証券経済学会，第16号。

- 神木良三[1982]「取引所政策発達史序説」(上・下), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第140号・第141号.
- 神木良三[1983]「株式の上場効果に関する一考察」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第66号.
- 神木良三[1983]「わが国における株式上場政策について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第145号.
- 神木良三[1983]「わが国における株式の上場適格性について——その現代的問題点」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第68号.
- 神木良三[1984]「株式上場理論に関する一考察」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第19号.
- 神木良三[1984]「株式上場効果の変化について」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第69号.
- 神木良三[1984]「明治前期における株式取引所の取引客体について」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第71号.
- 神木良三[1985]「アメリカにおける株式上場効果の変化について」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第20号.
- 神木良三[1985]「証券流通システムに関する一考察」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第72号.
- 神木良三[1985]「株式の流動性に関するひとつの分析」『インベストメント』大阪証券取引所, 第38巻第3号.
- 神木良三[1986]「わが国の株式店頭市場に関する一考察」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第21号.
- 神木良三[1986]「証券流通市場の国際化といわゆる24時間取引体制」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第75号.
- 神木良三[1986]「証券売買の24時間取引体制について——市場リンケージ論への疑問」『インベストメント』大阪証券取引所, 第39巻第6号.
- 神木良三[1988]「グローバル・トレーディングと証券取引所」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第23号.
- 神木良三[1988]「「当所株」の上場問題について」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第82・83号.
- 神木良三[1989]『証券上場理論の展開』晃洋書房.
- 神木良三[1989]「「当所株」上場禁止論の検討——福田敬太郎教授の所説を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第24号.
- 神木良三[1990]「株式公開規制に関する一考察」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第86号.
- 神木良三[1991]「証券市場におけるモラル, モラルハザードおよび規制について」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第89号.
- 神木良三[1992]「アメリカにおける証券発行の規制原理について——開示主義を中心として」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第92号.
- 神木良三[1992]「証券市場における規制とモラルについて」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第27号.
- 神木良三[1995]「株式市場におけるPKOについて」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第30号.
- 神木良三[1995]「わが国における証券上場政策について——地方取引所の存在理由に関連して」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第30号.
- 神木良三[1997]「資本市場空洞化論に関する一考察——日経225先物取引について」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第32号.
- 神木良三[1999]「株価崩壊プロセスにおける公的介入問題とその実証分析——複雑系からの可能性を求めて」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第112・113号.
- 神木良三[2000]「株価崩落期における公的介入に関する実証分析について」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第117号.
- 神木良三[2001]『株式市場への公的介入——市場原理対政策論理』千倉書房.
- 神木良三[2001]「株価対策と公的介入に関する一考察について」『大阪商業大学論集』大阪商業大学商経学会, 第119号.

- 神木良三編著[2005]『現代日本の金融取引入門』晃洋書房.
- 亀島泰治[1956]「公信用」, 信用理論研究会編『講座信用理論体系Ⅱ——第1部 基礎理論篇(下)』日本評論新社.
- 上条勇[1981]『金融資本論』と「組織された資本主義」論——方法論的考察『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第31巻第1号.
- 上条勇[1982]「ヒルファディング「金融資本」概念の再検討」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第32巻第3号.
- 上条勇[1986]「組織された資本主義」論と『金融資本論』——「資本の集積集中」論と組織化『金沢大学経済論集』金沢大学経済学会, 第23号.
- 上条勇[1987]『ヒルファディングと現代資本主義——社会化・組織資本主義・ファシズム』梓出版社.
- 上条勇[1995]「ヒルファディング研究の新展開——黒滝正昭著『ルドルフ・ヒルファディングの理論的遺産』の意義と問題点」『研究論文集』宮城学院女子大学紀要編集委員会, 第81号.
- 上条勇[2005]「ヒルファディング恐慌論の意義と限界——『金融資本論』第4篇研究序説」『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 第25巻第2号.
- 上条勇[2011]『ルドルフ・ヒルファディング——帝国主義論から現代資本主義論へ』御茶の水書房.
- 神武庸四郎[1973]「19世紀後半におけるマーチャント・バンカーの公債発行業務の特質——ラテン・アメリカにおける活動を中心として」『金融経済』金融経済研究所, 第143号.
- 神武庸四郎[1976]「19世紀後半のロンドンにおける公債発行とイギリス株式銀行」『一橋論叢』日本評論社, 第76巻第5号.
- 神武庸四郎[1977]「第一次大戦前におけるイギリス海運企業金融の特質」『一橋論叢』日本評論社, 第77巻第6号.
- 神武庸四郎[1978]「19世紀後半のイギリスにおける株式会社形成過程の特質」『経済学研究』一橋大学, 第21号.
- 神武庸四郎[1979]「1879年改正会社法の歴史的意義——イギリスにおける株式銀行の成立によせて」『一橋論叢』日本評論社, 第82巻第4号.
- 神武庸四郎[1979]『イギリス金融史研究』御茶の水書房.
- 神武庸四郎[1981]「トーマス・ジョブリンにおける合本銀行の構図」『一橋論叢』日本評論社, 第85巻第1号.
- 神武庸四郎[1982]「書評 西村閑也著『国際金本位制とロンドン金融市場』」『社会経済史学』社会経済史学会, 第47巻第6号.
- 神武庸四郎[1984]「英帝国内における「銀行統合運動」の経済史的意義」『経済学研究』一橋大学, 第25号.
- 神武庸四郎[1992]『銀行と帝国——イギリス「銀行統合運動」史の研究』青木書店.
- 神武庸四郎[2000]「大塚久雄著『株式会社発生史論』(1938年刊)」『書齋の窓』有斐閣, 第500号.
- 神野光指郎[2004]「アメリカ国債市場の発達と各国の公的対米国債投資」『信用理論研究』信用理論研究会, 第22号.
- 神野光指郎[2010]「1980年代の国際資本市場における米系金融機関の競争力」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第60巻第4号.
- 神野光指郎[2010・11]「グローバル・トレーディングと金融機関の国際競争——発行市場の性格に規定されるユーロ債流通市場の構造」(1・2・3), 『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第55巻第2・3号・第56巻第1号・第2号.
- 神野光指郎[2013]「1980年代における米金融制度改革と金融システム分析の視点」(上・中・下), 『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第57巻第3・4号・第58巻第1・2号・第3号.
- 神野光指郎[2016]「証券化の拡大と裁定取引」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第60巻第3号.
- 神野光指郎[2019]『アメリカ金融仲介システムの動態』文眞堂.
- 神野光指郎[2019]「金融化」論の功罪『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第63巻第1・2号.

- 神野光指郎[2019]「金融危機後における金融市場と金融仲介過程の変容」(上・下),『経営研究』大阪市立大学経営学会,第70巻第1号・第2号.
- 神野光指郎[2019・20・21・22]「米大手投資銀行の事業展開」(1・2上・2下・3上・3下・4上・4中・4下前編),『経営研究』大阪市立大学経営学会,第70巻第3号・第71巻第1号・第2号・第4号・第72巻第1号・第73巻第1号・第2号・第3号.
- 神野光指郎[2022]「進化する米大手投資銀行のトレーディング業務」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所,第1731号.
- 神山義治[1990]「資本家規定と主体性——松尾秀雄『所有と経営の経済理論』によせて」『商学論纂』中央大学商学研究会,第32巻第3号.
- 神山義治[1993]「現代巨大企業体制における正当性問題——有井行夫『株式会社の正当性と所有理論』によせて」『商学論纂』中央大学商学研究会,第34巻第2・3号.
- 神山義治[1993]「現代巨大企業における私的所有と公共性——経営者支配論批判の基礎としての所有概念」『商学論纂』中央大学商学研究会,第34巻第4号.
- 榎守哲士[1990]「中小企業の「合弁」と経営管理——対中国直接投資におけるその展開過程」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会,第44巻第1号.
- 唐渡興宣[1976]「資本蓄積と信用」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院,第26巻第2号.
- 唐渡興宣[1977]「資本蓄積と信用(続)——その対外的側面の省察」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院,第27巻第3号.
- 川合一郎[1951]「株式会社と創業者利得について」,日本経営学会編『株式会社と企業経営の諸問題』<経営学論集 第22集>同文館.
- 川合一郎[1951]「金融資本とは何か——独占資本と株式会社」『経済評論』日本評論社,復刊第6巻第2号.
- 川合一郎[1952]「利子うみ資本と信用」,民主主義科学者協会編『講座 資本論の解明』第4分冊,理論社.
- 川合一郎[1953]「株式価格崩落の意味するもの」『バンキング』産業経済社,第65号.
- 川合一郎[1954]『資本と信用——金融経済論序説』有斐閣(『川合一郎著作集』有斐閣,第2巻,1981年).
- 川合一郎[1955]「擬制資本について」『バンキング』産業経済社,第89号.
- 川合一郎[1956]「擬制資本」,信用理論研究会編『講座 信用理論体系I——第1部 基礎理論篇(上)』日本評論新社.
- 川合一郎[1956]「証券制度——とくに株式会社制度について」,信用理論研究会編『講座 信用理論体系III——第2部 制度篇』日本評論新社.
- 川合一郎[1956]「株式市場と貨幣資本市場」『インベストメント』大阪証券取引所,第9巻第8号.
- 川合一郎[1957]「株価について」『バンキング』産業経済社,第108号.
- 川合一郎[1957]「株式市場と資金拘束」『インベストメント』大阪証券取引所,第10巻第10号.
- 川合一郎[1957]「独占と株価について」『経済評論』日本評論社,復刊第6巻第10号.
- 川合一郎[1958]「戦後日本の株式市場」『経済評論』日本評論社,復刊第7巻第2号.
- 川合一郎[1958]「アメリカ株式市場の性格の変貌について——配当の役割の変化」『インベストメント』大阪証券取引所,第11巻第8号.
- 川合一郎[1959]「戦後経済の構造変化と株価変動——株価騰貴の背景」『経済評論』日本評論社,復刊第8巻第2号.
- 川合一郎[1959]「証券市場論——研究のしおり」『経営研究』大阪市立大学経営学会,通号第41号.
- 川合一郎[1959]「創業利得と株式プレミアム——創業利得論争によせて」『経営研究』大阪市立大学経営学会,通号第43-45号.
- 川合一郎[1959]「貸付資本=利子・擬制資本=利廻り」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会,第41巻第6号.
- 川合一郎[1960]「証券投資の構造と性格——株式所有を中心として」,鈴木武雄・新庄博・高橋泰蔵・

- 林栄夫編『金融財政講座 第4巻——財政投資と民間投融資(下)』有斐閣.
- 川合一郎[1960]『株式価格形成の理論——擬制資本の研究』日本評論社(『川合一郎著作集』有斐閣, 第3巻, 1981年).
- 川合一郎[1960]「海運金融にあらわれたわが国資本市場構造の特質——岡庭博『日本海運金融発達史』『経営研究』大阪市立大学経営学会, 通号第49号.
- 川合一郎[1961]「日本の証券市場——「繁栄」の日本的性格」『月刊金融ジャーナル』金融ジャーナル社, 第2巻第2号.
- 川合一郎[1961]「現段階における証券市場政策の課題——「自己資本充実」と「技資家保護」」『インベストメント』大阪証券取引所, 第14巻第6号.
- 川合一郎[1961]「間接金融から直接金融へ」『エコノミスト』毎日新聞出版, 第39巻第46号.
- 川合一郎[1962]「戦後における証券担保金融市場の構造変化について」『バンキング』産業経済社, 第170号.
- 川合一郎[1963]「証券と流通資金」, 大阪市立大学商学部会計学研究室編『現代会計学の課題』森山書店.
- 川合一郎[1965]『信用制度とインフレーション』有斐閣.
- 川合一郎[1965]「金融・証券市場の機能」『経済セミナー』日本評論社, 第103号.
- 川合一郎[1965]「株式価格」, 大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典』岩波書店.
- 川合一郎[1965]「管理通貨制下の株価暴落と信用パニック」『経済評論』日本評論社, 復刊第14巻第8号.
- 川合一郎編著[1966]『日本証券市場の構造分析』有斐閣.
- 川合一郎・一泉知永編[1966]『証券市場論』<有斐閣双書>有斐閣.
- 川合一郎[1966]「資本市場の課題」『経済セミナー』日本評論社, 第125号.
- 川合一郎[1966]「株式会社と信用制度」『バンキング』産業経済社, 第222号(『川合一郎著作集』有斐閣, 第4巻, 1981年).
- 川合一郎[1966]「金融再編成と資本市場の位置づけ」『日本経済研究センター会報』日本経済研究センター, 第46号.
- 川合一郎・石原定和[1968]「証券政策とその問題点——自己資本充実(資金調達)策と「投資者保護」をめぐる」, 中村孝俊編『証券経済講座 第1巻——日本経済と証券・金融』東洋経済新報社.
- 川合一郎[1968]「信用制度と株式会社」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第118巻第5号(『川合一郎著作集』有斐閣, 第4巻, 1981年).
- 川合一郎編[1969]『証券経済講座 第2巻——企業と証券市場』東洋経済新報社.
- 川合一郎[1969]「株式会社と信用制度」, 川合一郎編『証券経済講座 第2巻——企業と証券市場』東洋経済新報社(『川合一郎著作集』有斐閣, 第4巻, 1981年).
- 川合一郎[1970]「書評 志村嘉一著『日本資本市場分析』」『経済評論』日本評論社, 復刊第19巻第6号.
- 川合一郎[1970]「商業流通と一般的流通——宇野弘蔵編『資本論研究5 利子・地代』(1968年)を読んで」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第108号.
- 川合一郎[1970]「信用制度と株式会社」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 通号第109号(『川合一郎著作集』有斐閣, 第4巻, 1981年).
- 川合一郎[1971]「二つの信用論——深町郁彌『所有と信用』, 飯田裕弥『信用論と擬制資本』」『金融経済』金融経済研究所, 第131号.
- 川合一郎[1972]「戦後わが国の証券政策」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第115号.
- 川合一郎[1972]「市場構造の変化と証券政策」『インベストメント』大阪証券取引所, 第25巻第4号.
- 川合一郎[1973]「銀行と証券——証券取引法65条をめぐる」『月刊金融ジャーナル』金融ジャーナル社, 第14巻第1号.

- 川合一郎[1973]「管理通貨と金融資本——2つの「組織された資本主義」論」『経営研究』大阪市立大学経営学会，通号第122-124号。
- 川合一郎[1973]「株価形成のメカニズム」『ジュリスト』有斐閣，第528号。
- 川合一郎[1973]「市場構造の変化と証券政策」『証券経済学会年報』証券経済学会，第8号。
- 川合一郎[1973]「現代資本主義と信用理論」『経営研究』大阪市立大学経営学会，通号第126号。
- 川合一郎[1974]『管理通貨と金融資本』有斐閣（『川合一郎著作集』有斐閣，第6巻，1982年）。
- 川合一郎[1975]「信用創造論から資産選択論へ——信用論から利子うみ資本論へ」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第26巻第2号。
- 川合一郎編[1976]『金融論を学ぶ』＜有斐閣選書＞有斐閣。
- 川合一郎[1976]「貨幣・信用論研究30年」『経済評論』日本評論社，復刊第25巻第7号（『川合一郎著作集』有斐閣，第6巻，1982年）。
- 川合一郎[1977]「擬制資本の金融論と貨幣数量説」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第27巻第4-6号。
- 川合一郎[1977]「スタグフレーションと証券市場」『インベストメント』大阪証券取引所，第30巻第2号。
- 川合一郎編[1978]『現代信用論（上）——資本制生産と信用』＜有斐閣ボックス＞有斐閣。
- 川合一郎編[1978]『現代信用論（下）——現代資本主義の信用構造』＜有斐閣ボックス＞有斐閣。
- 川合一郎[1978]「新しい証券市場論について——擬制資本の展開」『インベストメント』大阪証券取引所，第31巻第4号。
- 川合一郎[1979]「株式会社論争によせて」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第29巻第4・5号（『川合一郎著作集』有斐閣，第4巻，1981年）。
- 川合一郎編[1979]『日本の証券市場——証券恐慌以後』東洋経済新報社。
- 川合一郎[1981・82]『川合一郎著作集』有斐閣，全6巻。
- 川合研[1981]「債務と金融的不安定性——ハイマン・P. ミンスキーの見解を中心に」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部，第26巻第2号。
- 川合研[1982]「拡大再生産と流通貨幣量——信用創造との関連において」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第142号。
- 川合研[1986]「戦後アメリカにおける金融構造の変遷——銀行信用との関連を中心に」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部，第31巻第1号。
- 川合研[1992]「連邦準備制度以前の米国の小切手決済制度とその改革の試み——隔地間決済を中心に」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部，第36巻第4号。
- 川合研[1993]「連邦準備制度の成立と米国決済制度改革——普遍的額面送金制の推進とその限界」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第185号。
- 川合研[1994]「金融恐慌と内国為替市場の混乱——米国の1893年恐慌を中心に」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部，第38巻第4号。
- 川合研[1998]「19世紀末のアメリカにおける小切手決済制度の発展」『金融経済研究』日本金融学会，第15号。
- 川合研[1999]「米国における小切手決済制度の確立」『証券経済学会年報』証券経済学会，第34号。
- 川合研[2002]『アメリカ決済システムの展開』東洋経済新報社。
- 川合研[2003]「金融恐慌時における決済システムの変様と断絶——連邦準備制度以前のアメリカの経験」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部，第48巻第2号。
- 川合研[2004]「預金通貨の創造と決済システム」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部，第48巻第4号。
- 川合研[2010]「商業銀行の機能——決済と金融仲介」『桃山学院大学経済経営論集』桃山学院大学総合研究所，第51巻第2号。
- 河合信雄[1955]「資本剰余金の概念と分類」『関西大学商学論集』関西大学商学会，特別号。
- 河合信雄[1959]「資本剰余金と創業利得——岡部教授

- と内川講師の論争によせて」『関西大学商学論集』関西大学商学会，第3巻第6号。
- 河合信雄[1963]『複式簿記の構造——理論と実務の基礎』税務経理協会（改訂版，1966年）。
- 河合信雄[1963]「株式プレミアムと創業利得との相違——資本剰余金と創業利得再論」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第1巻第2号。
- 河合信雄[1981]「株式制度の改正と株式市場——経営者責任と個人株主」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第20巻第3・4号。
- 川上貫一[1948]『資本論読本』（下），ナウカ社。
- 川上忠雄[1971]『世界市場と恐慌』（上），法政大学出版局。
- 川上忠雄[2000・01]「1990年代アメリカの株式ブームとその行方」（上・下），『経済志林』法政大学経済学部学会，第68巻第1号・第69巻第2号。
- 川上忠雄[2002]「書評 稲富信博著『イギリス資本市場の形成と機構』」『経営史学』経営史学会，第36巻第4号。
- 川上忠雄[2003]『アメリカのバブル 1995-2000——ユーフォリアと宴の後』法政大学出版局。
- 川上忠雄[2003]「アメリカの株式ブーム（1995～2000）とその行方——世界大不況の様相」（上・中・下），『労働法律旬報』旬報社，第1552号・第1554号・第1556号。
- 川上忠雄[2009]「百年に一度の危機」『経済志林』法政大学経済学部学会，第76巻第4号。
- 川上忠雄[2010]「カタストロフィについて」『経済志林』法政大学経済学部学会，第77巻第3号。
- 川上忠雄[2010]「カタストロフィとしての「百年に一度の危機」」『季刊 経済理論』経済理論学会，第47巻第1号。
- 河上肇[1928]『マルクス主義経済学』上野書店。
- 河上肇[1928]『経済学大綱』＜経済学全集 第1巻＞改造社。
- 川口弘[1962]『新しい金融理論』＜銀行叢書 第107巻＞全国地方銀行協会。
- 川口弘・川合一郎編[1964]『金融論講座1——貨幣・信用の理論』有斐閣。
- 川口弘[1964]「コール市場と証券市場」，小泉明・篠原三代平編『日本経済大系V——日本の財政・金融』青林書院新社。
- 川口弘・川合一郎編[1965]『金融論講座2——現代の金融理論』有斐閣。
- 川口弘・川合一郎編[1965]『金融論講座3——現代資本主義と金融』有斐閣。
- 川口弘・川合一郎編[1965]『金融論講座4——国際金融と国際通貨機構』有斐閣。
- 川口弘・川合一郎編[1965]『金融論講座5——日本の金融』有斐閣。
- 川口弘[1966]『金融論』＜経済学全集17＞筑摩書房（第2版，1977年）。
- 川口弘[1966]『日本の金融——融資集中のメカニズム』日本評論社。
- 川崎文治[1968]「増地庸治郎——その学的本質の功罪」『経済評論』日本評論社，復刊第17巻第3号。
- 川崎文治[1978]「企業・経営論の基礎範疇について——支配論序説」（1・2），『経営研究』大阪市立大学経営学会，第28巻第6号・第29巻第1号。
- 川島信義[1972]『ステュアート研究——重商主義の社会・経済思想』未来社。
- 川鍋正敏[2005]『資本と恐慌』光陽出版社。
- 川波洋一[1981]「「貨幣資本と現実資本」論の萌芽——J. ウィルソンの金融市場逼迫論」『経済学研究』九州大学経済学会，第47巻第4号。
- 川波洋一[1990・91]「米国商業銀行によるリテイール・バンキングへの進出過程——管理通貨制度下における銀行信用浸透の一側面」（1・2・3），『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第173号・第175号・第177号。
- 川波洋一[1992]「「貨幣資本と現実資本」論の2つの型——マルクスとヴェブレン」『経済学研究』九州大学経済学会，第58巻第1号。
- 川波洋一[1995]『貨幣資本と現実資本——資本主義的信用の構造と動態』有斐閣。
- 川波洋一[1996]「『資本論』第3部第5篇の基本構成」，マルクス・エンゲルス研究者の会編『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』八朔社，第11巻第28・29号。

- 川波洋一[1997]「管理通貨制度下の金融危機——構造的  
的不均衡の発現」『証券経済学会年報』証券経済  
学会，第32号。
- 川波洋一[1998]「書評 宮田美智也著『ロンドン手形  
市場の国際金融構造——アメリカとの関連におけ  
る研究』」『証券経済研究』日本証券経済研究所，  
第11号。
- 川波洋一[1999]「現代の金融危機とマルクス信用論の  
射程」『経済学史学会年報』経済学史学会，第37  
号。
- 川波洋一[2000]「書評 小林真之著『株式恐慌とアメ  
リカ証券市場——両大戦間期の「バブル」の発生  
と崩壊』」『北海学園大学経済論集』北海学園大学  
経済学会，第48巻第2号。
- 川波洋一[2003]「起業金融とアメリカの投資銀行」，  
下平尾勲編著『現代の金融と地域経済』新評論。
- 川波洋一・上川孝夫編[2004]『現代金融論』＜有斐閣  
ブックス＞有斐閣（新版，2016年）。
- 川波洋一[2007]「成長経済への移行と金融業・金融シ  
ステムの変貌」『東北学院大学経済学論集』東北  
学院大学学術研究会，第164号。
- 川波洋一[2007]「金融システムの転換と市場の拡大」  
『証券経済学会年報』証券経済学会，第42号。
- 川波洋一[2010]「世界金融危機と現代金融の妖怪」  
『学士会会報』学士会，通号885号。
- 川波洋一・前田真一郎編著[2011]『消費金融論研究』  
消費金融論研究会。
- 川波洋一・地主敏樹[2013]「アメリカ経済と金融危  
機」，櫻川昌哉・福田慎一編『なぜ金融危機は起  
こるのか——金融経済研究のフロンティア』東洋  
経済新報社。
- 川波洋一[2014]「信用拡張の支持装置としての担保の  
架空性について——アメリカン・バンキング・プ  
ラクティスにおける収益力」『経済学研究』九州  
大学経済学会，第81巻第4号。
- 河野裕康[1979]『金融資本論』以前のヒルファディ  
ングの帝国主義認識『一橋論叢』日本評論社，  
第82巻第3号。
- 河野裕康[1979]「西欧の最近のヒルファディング研  
究」『経済評論』日本評論社，復刊第28巻第12  
号。
- 河野裕康[1981]「金融資本と諸階級——『金融資本  
論』研究の一視角」『一橋論叢』日本評論社，第  
85巻第2号。
- 河野裕康[1993]『ヒルファディングの経済政策思想』  
法政大学出版局。
- 河村哲二[1982]「1920年恐慌——アメリカを中心と  
して」，侘美光彦・杉浦克己編『世界恐慌と国際  
金融』有斐閣。
- 河村哲二[1988]「「ブラックマンデー」——アメリカ  
をめぐる金融的展開とその帰結」，降旗節雄編  
『日本経済危険な話』御茶の水書房。
- 河村哲二・柴田徳太郎編[1995]『現代世界経済システ  
ム——変容と転換』東洋経済新報社。
- 河村哲二[1995]『パックス・アメリカナの形成——  
アメリカ「戦時経済システム」の分析』東洋経済  
新報社。
- 河村哲二編著[1996]『制度と組織の経済学』日本評論  
社。
- 河村哲二[1998]『第二次大戦期アメリカ戦時経済の研  
究——「戦時経済システム」の形成と「大不況」  
からの脱却過程』＜武蔵大学研究叢書89＞御茶  
の水書房。
- 河村哲二[2003]『現代アメリカ経済』＜有斐閣アルマ  
＞有斐閣。
- 河村哲二・弘兼憲史[2009]『知識ゼロからのアメリカ  
経済入門』幻冬舎。
- 河村哲二[2009]「グローバル金融危機と現代資本主義  
の「グローバル資本主義」化」『生活経済政策』  
生活経済政策研究所，通号560号。
- 河村哲二[2009]「パックス・アメリカナの危機」  
（上・下），『情況 第三期』情況出版，第10巻  
第3号・第4号。
- 河村哲二[2009]「アメリカ発のグローバル金融危機  
——グローバル資本主義の不安定性とアメリカ」  
『季刊 経済理論』経済理論学会，第46巻第1  
号。
- 河村哲二[2010]「現代資本主義の「グローバル資本主  
義化」とグローバル金融危機」，斎藤叫編著『世  
界金融危機の歴史的位相』日本経済評論社。

- 河村哲二[2010]「世界恐慌の原因と対策」『社会理論研究』社会理論学会，第11号。
- 河村哲二[2015]「アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機とグローバル資本主義の不安定性」，SGCIME 編『グローバル資本主義の変容と中心部経済』＜グローバル資本主義の現局面 I＞日本経済評論社。
- 河村哲二[2016]「グローバル資本主義の段階論的解明——現代資本主義論の理論と方法」『季刊 経済理論』経済理論学会，第53巻第1号。
- 河村哲二[2017]「グローバル資本主義の現局面」『アメリカ発のグローバル金融危機とパックス・アメリカナの変質』，SGCIME 編『現代経済の解説——グローバル資本主義と日本経済 第3版』御茶の水書房。
- 河村哲二編[2018]『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌——中国，インド，ブラジル，メキシコ，東南アジア』ナカニシヤ出版。
- 河村哲二[2018]「グローバル金融危機・経済危機と「グローバル恐慌論」」，吉原直毅監修『経済セミナー増刊——されどマルクス』日本評論社。
- 河村哲二[2019]「グローバル資本主義と段階論——グローバル金融危機・経済危機の解明の理論と方法」(1・2)，『経済志林』法政大学経済学部学会，第87巻第1・2号。
- 川村朋貴[2020]『扉の向こうの帝国——「イースタン・バンク」発生史論』ナカニシヤ出版。
- 河村一[1988]「ニューヨーク貨幣市場の構造と機能——世紀交替期の「証券金融」」『月刊金融ジャーナル』金融ジャーナル社，第29巻第4号。
- 河村一[2007]『カナダ金融経済の形成——中央銀行の成立過程から見た』御茶の水書房。
- 河村一[2011]「現代カナダにおける金融経済の形成とその展開について」『社会科学研究』釧路公立大学，第23号。
- 川本明人[1990]『多国籍銀行と国際金融リスク』＜広島修道大学研究叢書 第55号＞広島修道大学総合研究所。
- 川本明人[1995]『多国籍銀行論——銀行のグローバル・ネットワーク』＜広島修道大学学術選書 8＞ミネルヴァ書房。
- 川本明人[2001]「クロスボーダーM&Aの増加とリスクマネジメント」『危険と管理』日本リスクマネジメント学会，第32号。
- 川本明人[2006]「国際金融業と機関投資家」，信用理論研究会編『金融グローバリゼーションの理論』大月書店。
- 川本明人[2006]「国際金融業の展開と国際銀行業規制」『信用理論研究』信用理論研究会，第24号。
- 川本明人[2006]「グローバル化のもとの金融業の国際展開と欧米メガバンク」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第47巻第1号。
- 川本明人[2011]「グローバル・サステイナブル・ファイナンスとエマージング市場——「環境金融」の一断面」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第52巻第1号。
- 川本明人[2012]「クラシックベンチャーキャピタルとマーチャントベンチャーキャピタル」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第53巻第1号。
- 川本明人[2012]『外国為替・国際金融入門』中央経済社(第2版，2018年)。
- 神崎克郎[1968]「証券会社の投資勧誘と投資者保護」『証券経済学会年報』証券経済学会，第2号。
- 神崎稔章[2005]「1960年代アメリカ金融市場における長短金利の逆転現象について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第40号。
- 神崎稔章[2017・18]「アメリカ金融市場の様相——1970年代後半～1980年代前半を中心に」(1・2)，『尾道市立大学経済情報論集』尾道市立大学経済情報学部，第17巻第2号・第3号。
- 神崎稔章[2018]「イギリス短期金融市場と信用」『尾道市立大学経済情報論集』尾道市立大学経済情報学部，第18巻第1号。
- 神崎稔章[2018]「投資家層と鉄道業の発展」『尾道市立大学経済情報論集』尾道市立大学経済情報学部，第18巻第1号。
- 神澤正典[1988]「国際金融とエクイタイゼーション——「債務の株式化」が提起する問題の広がり」

『阪南論集 社会科学編』阪南大学学会，第 23 卷第 3 号。

神澤正典[1995]『世界経済と開発金融』〈阪南大学叢書 44〉ミネルヴァ書房。

神田忠雄[1963]「「経営者支配」について——批判論 深化のための一試論」『経済志林』法政大学経済学部学会，第 30 卷第 4 号。

上林貞治郎・井上清[1957]『工業の経済理論——工業 経済と工業経営』ミネルヴァ書房。

上林貞治郎[1958]『現代企業における資本・経営・技 術』〈経営学叢書 2〉森山書店。

上林貞治郎[1961]『経営経済学』中央経済社。

上林貞治郎[1962]『近代経済学とマルクス経済学—— 東ドイツの経済科学』〈社会科学選書〉ミネルヴァ 書房。

上林貞治郎・井上清・儀我壮一郎[1962]『現代企業形 態論』ミネルヴァ書房。

上林貞治郎・井上清・前川恭一[1964]『現代独占企業 論』ミネルヴァ書房。

上林貞治郎・前川恭一・林昭[1967]『西ドイツの独占 資本』大月書店。

上林貞治郎[1969]『資本主義企業論』税務経理協会 (増補版，1970 年。新版 1976 年)。

上林貞治郎[1971]『経営経済学総論』ミネルヴァ書 房。

上林貞治郎[1971]『現代企業発展史論』〈経営学叢書 23〉森山書店 (増補版，1973 年。新版，1975 年)。

上林貞治郎[1976]『経営経済学・企業理論』所書店。

上林貞治郎[1978]『資本主義企業の経営経済学』森山 書店 (増補版，1979 年。新版，1983 年)。

上林貞治郎[1983]『現代企業総論』森山書店 (新版， 1987 年)。

上林貞治郎[1984]『経営学講義』森山書店。

上林貞治郎[1984]『経営学新講』森山書店 (新版， 1987 年)。

上林貞治郎[1985]『経営経済学入門』大月書店。

上林貞治郎編[1985]『経営学 I』森山書店。

上林貞治郎・笹川儀三郎編著[1989]『企業・経営の史 的展開』ミネルヴァ書房。

儀我壮一郎[1959]『現代中国の企業形態』森山書店。

儀我壮一郎[1960]「企業形態論」『経営研究』大阪市 立大学経営学会，第 50 号。

儀我壮一郎[1962]『現代日本の独占企業』ミネルヴァ 書房。

儀我壮一郎[1963]「新産業政策の特質と企業集中」 『経済評論』日本評論社，復刊第 12 卷第 5 号。

儀我壮一郎[1969]「現代日本の企業合同に関する若干 の資料〔商社を中心に〕」『経営研究』大阪市立大 学経営学会，第 99 号。

儀我壮一郎・林昭[1970]『現代の企業形態』世界書 院。

儀我壮一郎[1971]「日本における企業合同の問題 点」，日本経営学会編『経営学の発展課題と隣接 諸科学』〈経営学論集 第 41 集〉ダイヤモンド 社。

儀我壮一郎編[1971]『現代企業形態の研究』ミネルヴァ 書房。

儀我壮一郎編[1972]『現代企業論』汐文社。

儀我壮一郎[1976]『入門経営学叢書 2——企業形態』 法学書院。

儀我壮一郎[1976]「現代日本の金融資本主義」，加藤 睦夫・古川哲・良知力・鷲見友好編『現代資本主 義と国家』有斐閣。

菊池敏夫[1959]「米国証券市場と年金基金の進出—— 民間会社退職年金基金の証券投資」『インベスト メント』大阪証券取引所，第 12 卷第 5 号。

菊池敏夫[1960]「米国証券市場と機関投資の成長」 『インベストメント』大阪証券取引所，第 13 卷 第 7 号。

菊池敏夫[1961]「現段階における企業集団化の一契機 ——貿易自由化とカルテル体制」，日本経営学会 編『経営組織論の新展開——わが国企業の集団化 と分権化』ダイヤモンド社。

菊池敏夫[1961]「金融パニックと資本市場の諸条件 ——アメリカにおける 30 年代以降の制度的変 化」『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第 5 卷第 6 号。

菊池敏夫[1962]「最近におけるアメリカの銀行合同」 『金融経済』金融経済研究所，第 68 号。

- 菊池敏夫[1962]「企業合同の世界的動向と日本」『論争』論争社，第4巻第4号。
- 菊池敏夫[1962]「米国におけるグループ銀行組織と銀行持ち株会社」『バンキング』産業経済社，第176号。
- 菊池敏夫[1963]「企業金融と資本市場の構造」『千葉商大論叢』千葉商科大学，第1号。
- 菊池敏夫[1964]「企業資本構成と資本市場の諸条件」『バンキング』産業経済社，第198号。
- 菊池敏夫[1965]『企業金融と資本市場』文雅堂銀行研究社。
- 菊池敏夫[1966]『現代の経営学』税務経理協会。
- 菊池敏夫[1967]『企業金融政策』＜経営政策シリーズ6＞日刊工業新聞社。
- 菊池敏夫[1968]「企業年金投資と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号。
- 菊池敏夫[1975]『現代経営学』税務経理協会（改訂版，1981年，3訂版，1994年，4訂版，2006年）。
- 菊池敏夫[1975]『現代企業論』＜現代経営学叢書2＞新評論。
- 菊池敏夫[1983]「企業行動と証券市場規制——アメリカにおける証券関係規制の影響分析」『証券経済学会年報』証券経済学会，第18号。
- 菊池敏夫[1985]「米国における銀行持株会社の発展——経営戦略と法規制の関連分析」『経済集志』日本大学経済学部，第54巻第4号。
- 菊池敏夫[1989]「米国企業における所有構造の変化」，日本大学経済学研究会編『現代企業の行動分析』勁草書房。
- 菊池敏夫編著[1989]『現代企業の経営行動』同文館出版。
- 菊池敏夫[1995]「コーポレート・ガバナンス論における問題の分析——国際比較の視点」『経済集志』日本大学経済学部，第64巻第4号。
- 菊池敏夫[1995]「現代企業のガバナンス構造」『経営論集』明治大学経営学研究所，第43巻第1号。
- 菊池敏夫編著[1999]『現代の経営行動——課題と方向』同友館。
- 菊池敏夫・平田光弘編著[2000]『企業統治の国際比較』文眞堂。
- 菊池敏夫[2002]「コーポレート・ガバナンスから見た企業の所有構造——構造変化をめぐる動向と問題」『日本大学経済学部産業経営研究所所報』日本大学経済学部産業経営研究所，第50号。
- 菊池敏夫[2002]「企業統治と企業行動——欧米の問題状況が示唆するもの」『経済集志』日本大学経済学部，第72巻第2号。
- 菊池敏夫[2007]「日本の経営システムとコーポレート・ガバナンス」『経営学史学会年報』経営学史学会，第14集。
- 菊池敏夫[2007]『現代企業論——責任と統治』中央経済社。
- 菊池敏夫・平田光弘・厚東偉介編著[2008]『企業の責任・統治・再生——国際比較の視点』文眞堂。
- 菊池敏夫[2011]「コーポレート・ガバナンス問題の考察——取締役会構成を中心に」『中央学院大学社会システム研究所紀要』中央学院大学社会システム研究所，第11巻第2号。
- 菊池敏夫・太田三郎・金山権・関岡保二編著[2012]『企業統治と経営行動』文眞堂。
- 菊池敏夫・金山権・新川本編著[2007]『企業統治論——東アジアを中心に』税務経理協会。
- 菊池敏夫・櫻井克彦・田尾雅夫・城田吉孝編著[2018]『現代の経営学』税務経理協会。
- 菊池敏夫・櫻井克彦編著[2021]『新企業統治論』税務経理協会。
- 菊本義治・西山博幸・伊藤国彦・藤原忠毅・齋藤立滋・山口雅生・友野哲彦[2011]『グローバル化経済の構図と矛盾』桜井書店。
- 岸野和郎[1975]「信用の必然性と信用形態——一つの方法論的研究」『経営研究』大阪市立大学経営学会，通号135号。
- 岸野和郎[1976]「信用制度における二つの論理」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第26巻第5号。
- 岸野和郎[1977]「スタグフレーションと株式市場——資本蓄積機構変容の証券市場への影響について」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第28巻第1号。

- 岸野和郎[1977]「現代金融市場の論理構造・序説——証券市場の「転倒」と内生的過剰流動性の運動」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第28巻第3号。
- 岸本誠二郎[1948]『経済学原理』日本評論社。
- 岸本誠二郎[1948]『経済学の基礎理論』白日書院。
- 基礎経済科学研究所編[2010]『未来社会を展望する——甦るマルクス』大月書店。
- 基礎経済科学研究所編[2011]『世界経済危機とマルクス経済学』大月書店。
- 基礎経済科学研究所編[2021]『時代はさらに資本論——資本主義の終わりのはじまり』昭和堂。
- 木田剛[2010]「世界金融危機とアフリカ社会経済」『商学研究論集』明治大学大学院，第32号。
- 北川和彦[2007]「投機と投資——『一般理論』第12章における記述に関する一考察」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第60巻第3号。
- 北沢新次郎[1932]『経済組織論』東京泰文社。
- 北沢新次郎[1937]『経済原論』東京泰文社。
- 北沢新次郎[1938]『工業経済論』東京泰文社。
- 北沢新次郎[1941]『工業経済綱要』東京泰文社。
- 北野正一[2002]「金融不安と moral hazard」『商大論集』兵庫県立大学神戸商科キャンパス学術研究会，第53巻第5号。
- 北野正一[2009]「資本蓄積と銀行の長期与信——均衡蓄積軌道の安定性について」『季刊 経済理論』経済理論学会，第45巻第4号。
- 北野友士[2008]「イギリスにおける自己資本比率基準と国債管理」『証券経済学会年報』証券経済学会，第43号。
- 北野友士[2009]「イギリスの自己資本比率基準と国債のリスク・ウェイト——PSBR との関係を中心として」『経済論集』秋田経済法科大学総合研究センター経済研究所，第6号。
- 北野友士[2010]「イギリスにおける自己資本比率規制の展開——80年基準からパーゼル合意の適用まで」『証券経済学会年報』証券経済学会，第45号。
- 北野友士[2012]「パーゼル合意導入後のイギリスにおける銀行行動」『証券経済学会年報』証券経済学会，第47号。
- 北野友士[2015]「イギリスにおける金融規制監督アプローチの変化と課題」『金沢星稜大学論集』金沢星稜大学経済学会，第48巻第2号。
- 北野友士[2016]「ソブリンリスクに対する自己資本比率規制の対応と影響——イギリスの経験から」『証券経済学会年報』証券経済学会，第51号。
- 北野友士[2017]「イギリスにおける金融構造の変化と自己資本比率規制の導入過程の検証——イングランド銀行アーカイブ資料に基づいて」『経営研究』大阪公立大学経営学会，第67巻第4号。
- 北野友士[2018]「ポストBrexitのシティとEU金融市場」，嶋田巧・高屋定美・棚池康信編著『危機の中のEU経済統合——ユーロ危機，社会的排除，ブレグジット』文眞堂。
- 北野友士[2021]「バーゼルⅢおよびリングフェンス構造の導入がイギリス金融業に与えた影響の検証」『経営研究』大阪公立大学経営学会，第72巻第2号。
- 北原勇[1957]「資本の集積・集中と分裂・分散」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第50巻第7号。
- 北原勇[1958]「集積・集中と独占」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第51巻第5号。
- 北原勇[1959]「英国六産業における企業合併の諸効果——P.L.Cook and R.Cohen ; “Effects of Mergers”」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第52巻第7号。
- 北原勇[1974]「独占資本主義における諸矛盾の編成と展開——独占資本主義論総括」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第67巻第10号。
- 北原勇[1977]『独占資本主義の理論』有斐閣。
- 北原勇[1980]「巨大企業における「所有と支配」」『経済研究』一橋大学経済研究所，第31巻第4号。
- 北原勇[1981]「資本制個人企業における所有と決定——現代巨大会社論のための理論基準(1)」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第74巻第3号。
- 北原勇[1981]「株式会社における所有と決定——現代巨大会社論のための理論基準(2)」『三田学会雑誌』

- 誌』慶應義塾経済学会，第74巻第5号。
- 北原勇[1982]「巨大企業における所有と決定」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第75巻第2号。
- 北原勇[1982]「企業集団における所有と支配」（上・下），『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第75巻第4号・第5号。
- 北原勇[1983]「わが国巨大企業における「所有と決定」の特徴——株式持合いの構造と意義」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第76巻第1号。
- 北原勇[1984]『現代資本主義における所有と決定』＜現代資本主義分析3＞岩波書店。
- 北原勇[1986]「「会社それ自体」による所有と支配」『証券経済学会年報』証券経済学会，第21号。
- 北原勇・伊藤誠・山田鋭夫[1997]『現代資本主義をどう見るか』青木書店。
- 北原勇・鶴田満彦・本間要一郎編[2001]『資本論体系第10巻——現代資本主義』有斐閣。
- 北原勇[2005]「「会社」概念と「企業」概念——「株式会社企業における所有」論の前進のために」『商学論纂』中央大学商学研究会，第46巻第4号。
- 北原徹[1981]「大規模経済における株主一致性（平均・分散アプローチ）」『高知論叢』高知大学経済学会，第12号。
- 北原徹[1982]「株主——労働者共同支配企業の借入金依存について」『高知論叢』高知大学経済学会，第15号。
- 北原徹[1999]「投資信託と金融システム」『東京学芸大学紀要 第3部門 社会科学』東京学芸大学，第50号。
- 北原徹[2002]「証券化と資産変換」『証券経済学会年報』証券経済学会，第37号。
- 北原徹[2002]「ストラクチャード・ファイナンスと証券化の展開」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第56巻第1号。
- 北原徹[2005]「証券化における資産担保とマネジメント裁量性」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第58巻第3号。
- 北原徹[2006]「アメリカの不動産証券化と生命保険会社」『高知論叢 社会科学』高知大学経済学会，第85号。
- 北原徹[2007]「証券化・市場化と現代金融」『信用理論研究』信用理論研究会，第25号。
- 北原徹[2008]「アメリカにおける家計の資産保有増大とキャピタルゲイン」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第62巻第2号。
- 北原徹[2010]「サブプライム金融危機と証券化のリスク分担機能」『証券経済学会年報』証券経済学会，第45号。
- 北原徹[2016]「ポスト・リーマンの米国金融」『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学会，第22巻第3・4号。
- 北原徹[2016]「ポスト・リーマンの米国銀行・投資銀行」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第70巻第2号。
- 北原徹[2017]「ポスト・リーマンの米国金融と金融肥大化の終焉」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第71巻第2号。
- 北原徹[2019]「戦後アメリカの実体経済と金融経済——1980年代以降の金融経済の肥大化と変調」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部，第63巻第1・2号。
- 北原徹[2021]「戦後アメリカ資本主義と段階論——経営者資本主義から新金融資本主義へ」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第75巻第1号。
- 北原道貫編著[1966]『現代金融全集11——都市銀行』春秋社。
- 北原道貫[1976]「金融恐慌史概観——日本の事例を中心として」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会，第19巻第4号。
- 北村洋基[2009]『現代社会経済学』桜井書店（改訂新版，2013年）。
- 吉川顯磨[2000]「金融システム改革（金融ビッグバン）と日本の金融システム・金融システム改革に伴う金融機関の経営効率化と金融再編成」『金沢経済大学経済研究所年報』金沢経済大学経済研究所，第20号。
- 橘川武郎[1996]『日本の企業集団——財閥との連続と断絶』有斐閣。

- 木下悦二編[1974]『現代の世界経済——資本主義の運命』＜有斐閣選書＞有斐閣（新版，1983年）。
- 木下悦二[1974・75・77]「世界貨幣・外国為替・国際通貨」（1・2・3），『経済学研究』九州大学経済学会，第39巻合併号・第40巻第4-6号・第42巻合併号。
- 木下悦二[1978]『現代世界経済論』新評論。
- 木下悦二[1979]『国際経済の理論——その発展と体系化のために』有斐閣。
- 木下悦二[1980・81]「外国為替と国際通貨——『国際経済の理論』補遺」（1・2），『経済学研究』九州大学経済学会，第46巻第4・5号・第6号。
- 木下悦二・徳永正二郎編[1985]『世界経済と外国貿易』新評論。
- 木下悦二・村岡俊三編[1985]『資本論体系 第8巻——国家・国際商業・世界市場』有斐閣。
- 木下悦二[1986]「国際金融市場の新動向について——金融革新，世界的統合，証券化」『下関市立大学論集』下関市立大学学会，第30巻第2号。
- 木下悦二[1986]「外国為替と国際通貨——岡橋・岩野両教授に就いて」『経済学研究』九州大学経済学会，第52巻第1-4号。
- 木下悦二[1989]「外国為替市場の最近の発展と変貌について」『下関市立大学論集』下関市立大学学会，第33巻第2号。
- 木下悦二[1991]『外国為替論』有斐閣。
- 木下悦二・田中素香編著[1992]『ポスト冷戦の世界経済』文真堂。
- 木下悦二[2008]「21世紀初頭における「金融資本主義」とその挫折——信用デリバティブに焦点を当てて」（上・下），『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第52巻第9号・第10号。
- 木下悦二[2010]「米国資本主義の構造変化と金融危機」『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第54巻第5号。
- 木下悦二[2012]「金融資本主義と「国際通貨戦争」」『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学会，第19巻第1・2号。
- 木下悦二[2015]「欧州金融危機の一視角」，久留米大学経済学部20周年記念誌編集委員会編『低成長時代の経済学——20年を振り返って』九州大学出版会。
- 木下悦二[2015]「アメリカ資本主義の構造変化について」『経済学論纂』中央大学経済学研究会，第55巻第5・6号。
- 木村秀史[2016]『発展途上国の通貨統合』蒼天社出版。
- 木村二郎[2003]「日本銀行の「株買取」政策について」『桃山学院大学総合研究所紀要』桃山学院大学総合研究所，第28巻第3号。
- 木村隆俊・川浦康次[1966]『日本資本主義の経済構造——史的分析』日本評論社。
- 木村隆俊[1977]「日本金融資本の成立」『経済集志』日本大学経済学部，第46巻第4号。
- 木村隆俊[1978]『日本独占資本主義成立史』青木書店。
- 木村隆俊[1983]『日本戦時国家独占資本主義』御茶の水書房。
- 木村隆俊編著[1996]『日本経済史論』学文社。
- 木村隆俊[2006]「1920年代日本金融資本の形成」『経済集志』日本大学経済学部，第76巻第2号。
- 木村増三[1954]「証券需給の図式的表現」『商学討究』小樽商科大学，第4巻第4号。
- 木村増三[1954]「証券市場現象とその基盤」『商学討究』小樽商科大学，第5巻第2号。
- 木村増三[1955]「投資配分の選択」『商学討究』小樽商科大学，第5巻第4号。
- 木村増三[1955]「証券の投資採算における資本還元率」『商学討究』小樽商科大学，第6巻第2号。
- 木村増三[1956]「個別証券の市場価格」『商学討究』小樽商科大学，第7巻第2号。
- 木村増三[1957]「貸付資金と証券の流通」『一橋論叢』日本評論社，第38巻第3号。
- 木村増三[1958]「会社証券発行決意の分析」『一橋論叢』日本評論社，第40巻第4号。
- 木村増三[1960]「日本の証券市場と長期資金」，高橋泰蔵編『金融』＜日本経済の分析 第9＞春秋社。
- 木村増三[1960]「上場株式時価総額の指数化について」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究

- 所, 第7巻第4号.
- 木村増三[1960]「株価と配当および会社純益」『バンキング』産業経済社, 第144号.
- 木村増三[1961]『証券市場概論』<現代商学全集24>春秋社.
- 木村増三[1961]「総合株価指標の諸類型」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第9巻第1号.
- 木村増三[1961]「新株の額面発行と時価発行」『一橋論叢』日本評論社, 第45巻第5号.
- 木村増三[1962]「設備投資と証券市場」, 一橋大学一橋学会編『設備投資の基本問題』春秋社.
- 木村増三[1962]「株式取引における資金の流れ」『一橋論叢』日本評論社, 第48巻第2号.
- 木村増三[1962]「株式の取引所売買に伴う資金の流れ」『バンキング』産業経済社, 第175号.
- 木村増三[1962]「株式の信用取引と証券業者短期借入金」『証券投資信託月報』証券投資信託協会, 第27号.
- 木村増三[1963]「証券市場と貨幣資本——マハループの分析を中心として」『証券研究』日本証券経済研究所, 第7号.
- 木村増三[1963]「証券投資信託の資金収支の統計について」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第11巻第1号.
- 木村増三[1963]「株数から見た株式の信用取引残高について」『一橋論叢』日本評論社, 第50巻第5号.
- 木村増三[1963]「証券市場と資金フロー」『証券研究』日本証券経済研究所, 第8号.
- 木村増三[1964]「実質上の配当増減の計算方法について」『インベストメント』大阪証券取引所, 第17巻第7号.
- 木村増三[1964]「証券市場流通に関する基礎的研究」『一橋論叢』日本評論社, 第52巻第4号.
- 木村増三[1965]「普通株の投資価値の算式について」『バンキング』産業経済社, 第202号.
- 木村増三[1965]「株価批判の方法について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第112巻第5号.
- 木村増三[1966]「株価変動に対する「実効利回り」の経験の影響」『一橋論叢』日本評論社, 第55巻第3号.
- 木村増三[1966]「株価と発行会社」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第13巻第4号.
- 木村増三[1966]「戦後株価変動の分析」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会, 第4巻第5号.
- 木村増三[1966]「戦後日本の株価変動——若干の実証的分析」『証券研究』日本証券経済研究所, 第19号.
- 木村増三[1966]「株価批判の方法——再説」『インベストメント』大阪証券取引所, 第19巻第3号.
- 木村増三[1967]「無配期の株価に関する一分析」, 日本証券経済研究所編『日本証券市場の諸問題』東洋経済新報社.
- 木村増三[1967]「額面イリュージョンについて」『バンキング』産業経済社, 第227号.
- 木村増三[1967]「会社財務における「株価極大化」目標についての一考察」『一橋論叢』日本評論社, 第58巻第2号.
- 木村増三[1967]「発行者からみた証券の諸問題」『証券研究』日本証券経済研究所, 第22号.
- 木村増三編[1968]『証券経済講座 第4巻——証券流通市場と株価形成』東洋経済新報社.
- 木村増三[1968]「株価水準の適否判定についての一考察——証券市場規制の観点から」, 山中篤太郎博士退官記念論文集編集委員会編『経済政策と労働問題』有斐閣.
- 木村増三[1968]「会社財務における「株価極大化」目標——ゴードンの所説を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第1号.
- 木村増三[1968]「証券業経営についての覚え書」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第118巻第5号.
- 木村増三[1969]「証券業経営についての試論的覚え書」『証券研究』日本証券経済研究所, 第26号.
- 木村増三[1971]「投資分析論の課題と体系」『証券研究』日本証券経済研究所, 第30号.
- 木村増三[1971]「投資関連実務と投資分析論」『証券

- 経済学会年報』証券経済学会，第6号。
- 木村増三[1971]「証券分析論の課題」『一橋論叢』日本評論社，第65巻第4号。
- 木村増三[1971]「証券の危険品質に関するソーヴェイン説の吟味」『インベストメント』大阪証券取引所，第24巻第3号。
- 木村増三[1972]『証券市場論要講』春秋社。
- 木村増三[1972]「証券分析——入門的解説」『証券研究』日本証券経済研究所，第33号。
- 木村増三[1972]「普通株の評価算式について」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所，第19巻第4号。
- 木村増三[1972]「普通株の評価算式についての一考察」『証券経済学会年報』証券経済学会，第7号。
- 木村増三[1974]『株式投資分析入門』第三出版。
- 木村増三[1974]「普通株の収益性鑑定法の一分類」『インベストメント』大阪証券取引所，第27巻第1号。
- 木村増三[1974]「普通株の投資収益率の実績について」『商学研究』一橋大学，第17号。
- 木村増三[1974]「K. V. スミスの機関投資ポートフォリオ管理の構成」『証券研究』日本証券経済研究所，第39号。
- 木村増三[1974]「株価純資産比率について」『企業会計』中央経済社，第26巻第8号。
- 木村増三[1974]「転換社債について——証券分析の観点から」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所，第22巻第2号。
- 木村増三[1975]「株価の趨勢変動と循環変動に関する実証的一研究」『証券研究』日本証券経済研究所，第42号。
- 木村増三[1976]「信用取引制度の理論的一考察」『証券研究』日本証券経済研究所，第47号。
- 木村増三[1977]「証券投資採算尺度に関する一試論」『証券研究』日本証券経済研究所，第52号。
- 木村増三[1978]「普通債ポートフォリオの満期別構成について」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所，第25巻第4号。
- 木村増三・小野二郎[1980]『証券論』＜現代商学全集7＞中央経済社。
- 木村増三[1980]「債券の実効残余期間と債券価格の回り弾力性」『一橋論叢』日本評論社，第83巻第6号。
- 木村増三[1982]「普通債の価格変動性の指標について」『商学研究』一橋大学，第23号。
- 木村増三[1988]「証券市場概念の一面としての証券概念について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第23号。
- 木村和三郎監修[1956]『現代経営会計講座——戦後日本の経営会計批判 第1巻 形態・財務編』東洋経済新報社。
- 清田匡[2003]『戦後ドイツ金融とリテール・バンキング——銀行の大衆化と金融商品の価格』勁草書房。
- 清田匡[2007]「金融商品と金融サービス」『信用理論研究』信用理論研究会，第25号。
- 京都大学経済学部会計学研究室編[1968]『企業利潤論』ミネルヴァ書房。
- 近代経済学研究会編[1959]『マルクス経済学』＜原典経済学Ⅲ＞富士書店。
- 金原実[1966]「カール・オーベルマン著『ドイツにおける最初の株式銀行の役割——1848～1856年』1961」（上・下），『金融経済』金融経済研究所，通号第96号。
- 金原実[1972]「ドイツにおける株式銀行の生成とプロイセンの銀行政策——1848年～1853年」〔Ders (herg.) ; Probleme der Reichsgrundungszeit, 1848-1879, 1968 所収 H. Bohme 論文紹介〕『金融経済』金融経済研究所，第136号。
- 楠井敏朗[1970]「アメリカ産業革命と金融構造——19世紀前半のアメリカ資本主義の構造把握のための一視点」『経済学論集』東京大学経済学会，第35巻第4号。
- 楠井敏朗[1979]「アメリカ独占資本形成期の金融構造——「都市」と「農村」の利害対立および「国内派」と「国際派」の資本間対立の金融史的背景をめぐる一考察」（上・下），『エコノミア』横浜経済学会，第64号・第65号。

- 楠井敏朗[1986]『アメリカ資本主義と民主主義』多賀出版.
- 楠井敏朗[1990・91]「アメリカ資本主義とロンドン金融市場——Vincent P. Caross, The Morgans——Private International Bankers, 1854-1913, Cambridge, Mass. 1987, を読んでの一覧書」(上・下), 『横浜経営研究』横浜経営学会, 第11巻第3号・第12巻第1号.
- 楠井敏朗[1994]『法人資本主義の成立——20世紀アメリカ資本主義分析序論』日本経済評論社.
- 楠井敏朗[1994・95]「アメリカ資本主義と1857年恐慌——アメリカ金融史の一断面」(上・中・下), 『横浜経営研究』横浜経営学会, 第15巻第2号・第3号・第16巻第2号.
- 楠井敏朗・馬場哲・諸田實・山本通[1995]『エレメンタル西洋経済史』英創社.
- 楠井敏朗[1995・96]「法人資本主義の成立・展開・変質——20世紀アメリカ資本主義の発展構造〔含資料〕」『横浜経営研究』(上・中・下), 横浜経営学会, 第16巻第3号・第4号・第17巻第2号.
- 楠井敏朗[1997]『アメリカ資本主義の発展構造1——南北戦争前期のアメリカ経済』日本経済評論社.
- 楠井敏朗[1997]『アメリカ資本主義の発展構造2——法人資本主義の成立・展開・変質』日本経済評論社.
- 楠井敏朗[2005]『アメリカ資本主義とニューディーラー』日本経済評論社.
- 楠井敏朗[2008]『大塚久雄論』日本経済評論社.
- 杳水勇[1968]「マネーフロー表にみる国債発行と部門流動性の変化」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第3号.
- 工藤章[1974]「第一次大戦前のライヒスバンク——金融政策と金融市場」『金融経済』金融経済研究所, 第145号.
- 工藤章[1976]「20世紀初頭のライヒスバンク」『金融経済』金融経済研究所, 第159号.
- 工藤章[1977]「再建金本位制のライヒスバンク」『商学論集』福島大学経済学会, 第45巻第3号.
- 工藤章[1983]「1931年における中東ヨーロッパ金融恐慌の経済的背景」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第34巻第6号.
- 工藤章[1999]『20世紀ドイツ資本主義——国際定位と大企業体制』東京大学出版会.
- 工藤章・橘川武郎・グレン・D. フック編[2005・06]『現代日本企業』(1・2・3), 有斐閣.
- 工藤昌宏[1981]「両大戦間期における財閥の支配構造について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第137号.
- 工藤昌宏[1982]「戦後企業集団分析によせて」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第24巻第1号.
- 工藤昌宏[1982]「戦後日本の「証券民主化」運動とその意義について」『中央大学企業研究所年報』中央大学企業研究所, 第3号.
- 工藤昌宏[1989]「企業集団分析の課題と方法——諸説の検討」『中央大学企業研究所年報』中央大学企業研究所, 第10号.
- 工藤昌宏[1990]「企業集団形成の論理——産業組織論的アプローチをめぐって」『中央大学企業研究所年報』中央大学企業研究所, 第11号.
- 工藤昌宏[1991]『日本海運業の展開と企業集団』文眞堂.
- 国弘員人[1949]『企業形態の諸問題』正統社.
- 国弘員人[1949]『企業形態論』<新経営経済学大系第2巻>泉文堂(増訂, 1950年. 三訂, 1951年. 四訂, 1952年. 全訂新版, 1953年).
- 国弘員人[1949]『株式会社新論』<新経営経済学大系第17巻>泉文堂.
- 国弘員人[1956]『株式会社論』<経営全書>ダイヤモンド社.
- 久保新一[2010]「金融危機をめぐる諸説とその問題点——金融危機と相関する実体経済の構造分析への一視点」『経済系』関東学院大学経済経営学会, 第245号.
- 久保新一[2011]「金融危機の歴史的意義——近代工業化社会の破綻と再編の課題」『経済系』関東学院大学経済経営学会, 第246号.
- 熊谷重勝[1983]「イギリスにおける第一次企業合同運動とリザーヴ会計」『秋田経済大学・秋田短期大学論叢』秋田経済大学, 第31号.
- 熊谷重勝[1983]「株式会社のリザーヴ会計——L. R. デ

- イクシーのリザーヴ会計観を中心に」『秋田経済大学・秋田短期大学論叢』秋田経済大学，第32号。
- 熊谷重勝[1998]「コーポレート・ガバナンスと株主資本——ROE低下問題のスケッチ」『産業経理』産業経理協会，第57巻第4号。
- 熊谷重勝[1998]「利益率の低下傾向と会社支配」『社会主義』社会主義協会，第428号。
- 熊谷重勝[2002]「法人企業統計から見た「会計ビッグバン」の背景——有価証券の時価評価と株主資本」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第56巻第1号。
- 熊谷重勝[2007]「マルクス株式会社論ノート」『社会主義』社会主義協会，第543号。
- 熊谷重勝[2010]「ヒルファディング『金融資本論』(1・2・3)」『社会主義』社会主義協会，第572号・第573号・第574号。
- 熊谷重勝[2017]「会計政策の変容と株式所有構造」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第52巻第3号。
- 熊谷重勝[2021]「社会を支配する独占資本——機関投資家の投資構造を中心に」『社会主義』社会主義協会，第714号。
- 熊野剛雄[1966]「株式市場と景気底入れ」『経済評論』日本評論社，第15巻第6号。
- 熊野剛雄[1968]「証券発行・流通の機構と金融機関」，加藤俊彦編『証券経済講座 第3巻——証券市場と金融機関』東洋経済新報社。
- 熊野剛雄・呉天降[1969]「アメリカ商業銀行の株式保有と企業支配——パットマン報告書の内容と問題点」『証券研究』日本証券経済研究所，第26号。
- 熊野剛雄[1970]「金融再編成と証券会社」『証券経済学会年報』証券経済学会，第5号。
- 熊野剛雄[1971]「戦後日本の金融機構と証券市場の論理」，武田隆夫・遠藤湘吉・大内力編『資本論と帝国主義論』(下)，<鈴木鴻一郎教授還暦記念>東京大学出版会。
- 熊野剛雄編[1971]『大不況はくるか』東洋経済新報社。
- 熊野剛雄[1972]「公社債市場をめぐる諸問題」『金融』全国銀行協会，第298号。
- 熊野剛雄[1972]「公社債市場の問題点」『公社債月報』日本証券業協会，第196号。
- 熊野剛雄[1977]「アメリカの格付制度」(上・下)，『公社債月報』日本証券業協会，第250号・第251号。
- 熊野剛雄[1977]「国債大量発行における諸問題——序論にかえて」『証券研究』日本証券経済研究所，第53号。
- 熊野剛雄[1979]「証券ブローカー産業——非価格競争と非競争的価格形成」『証券研究』日本証券経済研究所，第59号。
- 熊野剛雄[1980]「株式所有の法人化と株式市場——その影響と対策についての研究メモ」『インベストメント』大阪証券取引所，第33巻第2号。
- 熊野剛雄[1980]「株式所有の法人化と株式市場」『証券経済時報』日本証券経済研究所，第20巻第17号。
- 熊野剛雄[1983]「わが国株式市場の基本問題——個人株主比率の低下をめぐる」『証券研究』日本証券経済研究所，第67号。
- 熊野剛雄[1984]『株式の話』<東経ブックス>東洋経済新報社。
- 熊野剛雄[1986]「銀行業務と証券業務」『金融経済』金融経済研究所，第217号。
- 熊野剛雄[1987]「金融の証券化と証券の金融化」『証券研究』日本証券経済研究所，第80号。
- 熊野剛雄[1988]「証券市場発展」の再検討——1970年代以降」『証券研究』日本証券経済研究所，第84号。
- 熊野剛雄[1989]『銀行と証券』<講談社現代新書>講談社。
- 熊野剛雄[1990]「書評 山口博教著『西ドイツの巨大企業と銀行——ユニバーサル・バンク・システム』」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第173号。
- 熊野剛雄[1991]「銀行の証券業務——証券取引審議会・金融制度調査会報告に関連して」『証券研究』日本証券経済研究所，第96号。
- 熊野剛雄・竜昇吉編[1992]『現代の金融』(下)，大月

書店.

熊野剛雄[1992]「戦後証券会社の行動原理——バブルよりの反省」『証券研究』日本証券経済研究所, 第105号.

熊野剛雄[1996]「戦後証券市場の総決算」『証券研究』日本証券経済研究所, 第114号.

熊野剛雄(大槻久志)[1998]『「金融恐慌」とビッグバン』新日本出版社.

熊野剛雄[2000]「わが国証券流通市場改革の批判的検討」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第26号.

熊野剛雄[2002]「市場構造と産業構造——株式市場間競争の背後」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第40号.

熊野剛雄[2007]「資本主義の現段階と株式会社」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第44巻第1号.

熊野剛雄[2008]「経済の成熟と金融・証券市場の変容」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第61号.

熊野剛雄(大槻久志)[2008]『金融化の災い——みんなのための経済の話』新日本出版社.

熊野剛雄[2009]「株式会社と株式市場の存在意義」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第44号.

熊野剛雄[2014]「シャドウ・バンキングと証券取引」『商学論叢』中央大学商学研究会, 第55巻第5・6号.

熊野剛雄[2019]『やさしい日本と世界の経済の話』新日本出版社.

倉田稔[1974]『金融資本論』論争史』歴史学研究』績文堂出版, 第411号.

倉田稔[1975]「ヒルファディングからレーニンへ——「純」経済学上の発展」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会, 第68巻第1・2号.

倉田稔[1975]「ヒルファディングと『金融資本論』の時代」『歴史学研究』績文堂出版, 第418号.

倉田稔[1975]『金融資本論の成立——ヒルファディングと帝国主義論史』青木書店.

倉田稔[1976]『金融資本論の成立』補遺』小樽商科大学人文研究』小樽商科大学, 第51号.

倉田稔[1984]『若きヒルファディング』<産業叢書>

丘書房.

倉田稔[1998]「ルードルフ・ヒルファディングの経済理論と思想の転換——『金融資本論』から「ドイツ経済批判」・「歴史的問題」へ」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会, 第207号.

倉田稔[2000]『グローバル資本主義の物語——その発展と矛盾』<NHK ブックス>日本放送出版協会.

倉田稔[2011]『ルードルフ・ヒルファディング研究』成文社.

栗田康之[1992]『競争と景気循環』学文社.

栗田康之[2003]「投資の諸形態と資本の過剰蓄積」, SGCIME 編『資本主義原理像の再構築』御茶の水書房.

栗田康之[2008]『資本主義経済の動態——原理的展開と日本経済の現状分析』御茶の水書房.

久留間健・小西一雄・山口義行編[1987]『現代経済と金融の空洞化』<有斐閣選書>有斐閣.

久留間健[1999]『貨幣・信用論と現代——不換制の理論』大月書店.

久留間健[2003]『資本主義は存続できるか——成長至上主義の破綻』大月書店.

久留間鮫造編[1968-1985]『マルクス経済学レキシコン——原典対訳』全15巻, 大月書店.

黒川博[1972]「アメリカ鉄鋼業における独占形成」『立教経済学論叢』立教大学大学院経済学研究会, 第6号.

黒川博[1976]「U. S. スティール社の成立に関する一考察」『立教経済学論叢』立教大学大学院経済学研究会, 第10号.

黒川博[1993]『U. S. スティール経営史——成長と停滞の軌跡』ミネルヴァ書房.

黒木龍三[2011]「金融危機とミンスキーサイクル」, 渡辺和則編『金融と所得分配』日本経済評論社.

黒沢清・柳川昇編[1959]『原価及び原価管理の理論』<中西寅雄先生還暦記念論文集>森山書店.

黒田巖[2011]『通貨・決済システムと金融危機』中央大学出版部(改訂版, 2013年).

黒滝正昭[1972]「ヒルファディング『金融資本論』における「社会化」論」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第33巻第3・4号.

- 黒滝正昭[1974]「ヒルファードニングの社会化論——権力問題との関連で」(上・下),『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科,第35巻第4号・第36巻第1号.
- 黒滝正昭[1991]『金融資本論』第5編と帝国主義的世界戦争——前後の論文と比較しつつ『商学論集』福島大学経済学会,第59巻第6号.
- 黒滝正昭[1995]『ルードルフ・ヒルファードニングの理論的遺産——『金融資本論』から遺稿まで』近代文芸社.
- 黒滝正昭[1995]『ルードルフ・ヒルファードニングの理論的遺産』再考——上条勇氏による拙著書評論文に答える『研究論文集』宮城学院女子大学紀要編集委員会,第82号.
- 桑野仁[1967]『国際金融論研究』法政大学出版局(改訂版,1969年).
- 桑野仁[1972]『国際金融論——資本主義国際通貨体制の構造的危機』法政大学出版局.
- 桑野仁[1978]『現代の国際通貨危機』<新日本新書>新日本出版社.
- 経営史学会編[1996]『日本会社史研究総覧』<経営史学会創立30周年記念>文真堂.
- 呉天降[1964]「アメリカにおける鉄道業の再建と銀行シンジケートの形成(1893-1897年)」『経済学季報』立正大学経済学会,第13巻第3・4号.
- 呉天降[1964]「1890-1905年におけるアメリカの銀行集中——ニューヨーク市銀行業の統合運動を中心にして」『経済学季報』立正大学経済学会,第14巻第1・2号.
- 呉天降[1965]「アメリカの金融機関と企業集中(1893~1907)」『経済学季報』立正大学経済学会,第14巻第3・4号.
- 呉天降[1965]「アメリカの企業年金と証券市場」『証券研究』日本証券経済研究所,第15号.
- 呉天降[1965]「アメリカの証券発行・引受機構の研究」『証券研究』日本証券経済研究所,第16号.
- 呉天降[1965]「金融集団による諸産業の再編成——アメリカの証券発行・引受機構の研究(2)」『証券研究』日本証券経済研究所,第16号.
- 呉天降[1966]「アメリカの金融集団の発展と再編成(1907-14)——アメリカの証券発行・引受機構の研究(3)」『証券研究』日本証券経済研究所,第20号.
- 呉天降[1967]「外国の対日証券投資と証券市場(1960-65年)」,日本証券経済研究所編『日本証券市場の諸問題』東洋経済新報社.
- 呉天降[1967・68]「第一次大戦前夜のアメリカ金融資本に関する一考察——主要金融集団の勢力再編成を中心にして(1907~14)」(1・2),『経済学季報』立正大学経済学会,第16巻第3・4号・第18巻第1号.
- 呉天降[1967]「大不況期におけるアメリカの資本集中(1873~92)——ニューヨーク金融機関と鉄道業および鉄鋼業の関係を中心にして」『経済学季報』立正大学経済学会,第17巻第2号.
- 呉天降[1968]「アメリカにおける企業集中の発展」『世界経済評論』国際貿易投資研究所,第12巻第9号.
- 呉天降[1969]『大不況期におけるアメリカの資本集中1873-92年——ニューヨーク金融機関と鉄道業および鉄鋼業の関係を中心に』<立正大学経済研究所研究報告2>立正大学経済研究所.
- 呉天降[1970]「アメリカの商業銀行と産業——パットマン委員会報告書に関する一考察」『経済と経済学』東京都立大学経済学会,第27号.
- 呉天降[1970]「パットマン報告書の意義と問題点」,アメリカ合衆国議会下院銀行・通貨委員会編・志村嘉一訳『銀行集中と産業支配——パットマン委員会報告』東洋経済新報社.
- 呉天降[1971]『アメリカ金融資本成立史』有斐閣.
- 呉天降[1973]「合衆国上院銀行通貨委員会『証券取引所調査報告書』に関する一考」『証券研究』日本証券経済研究所,第36号.
- 呉天降[1976]「日本のアメリカ帝国主義研究」,社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣.
- 呉天降[1976]「「コングロマリット企業調査報告書」について」『証券研究』日本証券経済研究所,第48号.
- 呉天降[1977]「1934年合衆国上院銀行通貨委員会

- 『証券取引所調査報告書』（ペコラ報告書）の意義と問題点『証券経済学会年報』証券経済学会，第12号。
- 吳天降[1980]「「ゴルマン・サックス帝国」の形成過程（1925-1929）——アメリカにおける投資会社と引受業者の関係に関する一考察」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第131号。
- 吳天降[1980]「両大戦間のアメリカの投資会社に関する一考察——イトン・グループとクリーブランドの銀行・産業との関係をめぐって（1926～30年）」『証券研究』日本証券経済研究所，第60号。
- 吳天降[1984]「大恐慌とアメリカ企業金融（1929～33年）——アメリカ金融資本の再編成と関連して」『証券研究』日本証券経済研究所，第74号。
- 吳天降[1986]「アメリカ商業銀行の企業金融（1938～41年）——ニューヨークの大銀行を中心とする協調融資活動の分析」『証券研究』日本証券経済研究所，第77号。
- 吳天降[1988]「アメリカにおける銀行ターム・ローンの展開過程（1929～41年）——1933年銀行法成立後の商業銀行の中期融資分野進出とその諸影響について」『証券研究』日本証券経済研究所，第82号。
- 吳天降[1988]「第2次大戦前のアメリカ電気通信産業の資金調達に関する一考察——企業金融をめぐるアメリカン電信電話会社と主要金融機関との関係の分析を中心に」『証券研究』日本証券経済研究所，第82号。
- 吳天降[1989]「アメリカの公的年金基金の証券投資——州・地方公務員年金基金の分析を中心に」『証券研究』日本証券経済研究所，第90号。
- 吳天降[1989]「第2次大戦前夜のアメリカ金融資本に関する一考察——企業金融からみた各産業部門内の主要金融資本グループの勢力配置」『証券研究』日本証券経済研究所，第90号。
- 吳天降[1991]「第2次大戦後のアメリカ電気通信産業の資金調達——分割後のAT&T及び地域電話持株会社と主要金融機関との関係の考察を中心に」『証券研究』日本証券経済研究所，第95号。
- 吳天降[1991]「第2次大戦前夜のアメリカ金融資本に関する一考察（2）——映画，小売，造船などにおける主要金融資本グループの勢力配置」『証券研究』日本証券経済研究所，第95号。
- 吳天降[1992]「第2次大戦前夜のアメリカ金融資本に関する一考察（3）——系列生命保険会社の社債投資」『証券研究』日本証券経済研究所，第103号。
- 吳天降[1993]「第2次大戦前夜のアメリカ金融資本に関する一考察（4）——主要銀行，生保会社の国債投資」『証券研究』日本証券経済研究所，第107号。
- 吳天降[1998]「第一次大戦後のアメリカ金融・証券市場の再編成（1918～1929年）——証券引受機関の勢力再編成を中心に」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第12号。
- 高英求[2020]『貨幣の制御——流動性の理論・思想史』文眞堂。
- 幸田精蔵[1975]『外国為替論入門』＜有斐閣双書＞有斐閣（第2版，1982年）。
- 古賀公治[1974]「投資決定論における株式価格問題について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第9号。
- 古賀公治[1977]「株式価格形成（論）に関する覚え書き——現代の株価理論の基礎構造」、『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第9巻第1-3号。
- 古賀公治[1981]「株式会社支配における信託制度の役割について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第16号。
- 古賀公治[1982]「アメリカにおける株式会社支配について」『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第14巻第3号。
- 古賀公治[1987]「金融機関の経営行動分析（1）——銀行持株会社について——商業銀行」『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第19巻第4号。
- 古賀公治[1988]「金融機関の経営行動分析（2）——投資銀行・証券業について」『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第21巻第3号。
- 古賀公治[1991]「金融機関の経営行動分析（3）——金融会社・保険会社」『佐賀大学経済論集』佐賀

- 大学経済学会，第24巻第3号。
- 古賀公治[1996]「持ち株会社をめぐる諸問題」『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第29巻第3・4号。
- 古賀公治・原田宏[2002]「証券市場の活性化——個人投資家を証券市場へ」『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第34巻第5号。
- 古賀公治[2002]「証券投資の意義」『流通科学研究』中村学園大学流通科学部，第2巻第2号。
- 古賀公治[2003]「企業創業についての諸問題——資金・財務の分野を中心に出资日期の視点から」『流通科学研究』中村学園大学流通科学部，第3巻第1号。
- 古賀大介[2000]「第一次大戦前におけるイギリス株式銀行の産業融資——ロイズ銀行の『支店長誌簿』(Private & Memoranda)を素材として」『土地制度史学』土地制度史学会，第43巻第1号。
- 古賀大介[2002]「19世紀末イギリス中小企業の証券発行と「プライベート・ルート」——ホワイト&バイク社の事例」『経営史学』経営史学会，第37巻第2号。
- 古賀大介[2002]「第一次大戦前におけるイギリス株式銀行の産業融資と流動資産再編」『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科，第49巻第4号。
- 古賀大介[2005]「第一次大戦期ロンドン・シティ金融界における人的関係の変容——戦時公債発行を手がかりに」(上・下)，『山口経済学雑誌』山口大学経済学会，第54巻第1号・第4号。
- 古賀大介[2015]「20世紀初頭のイギリス主要株式銀行における流動資産の国際的運用とその収益」『歴史と経済』政治経済学・経済史学会，第57巻第4号。
- 古賀大介[2016]「第一次大戦期におけるイギリス株式銀行とイングランド銀行の相克——アメリカ為替委員会を中心に」『社会経済史学』社会経済史学会，第82巻第2号。
- 古賀大介[2017]「20世紀初頭におけるロイズ銀行の企業統治——取締役役員及び幹部行員の分析を中心に」(上・下)，『山口経済学雑誌』山口大学経済学会，第66巻第1・2号・第3号。
- 古賀英正[1952]『支配集中論』有斐閣。
- 古賀英正[1957]『日本金融資本論』東洋経済新報社。
- 国際銀行史研究会編[2012]『金融の世界史——貨幣・信用・証券の系譜』悠書館。
- 国際銀行史研究会編[2018]『金融の世界現代史——凝集する富・グローバル化する資本取引・派生される証券の実像』一色出版。
- 古結昭和[1974]「株式資本論の方法と原理的展開」『一橋論叢』日本評論社，第72巻第2号。
- 古結昭和[1979]「利子生み資本の概念について——通説に欠落せる一論点」『高知論叢』高知大学経済学会，第7号。
- 古結昭和[1983]「利子生み資本の現実的生成と銀行制度——信用制度の基本的枠組」(1・2)，『高知論叢』高知大学経済学会，第16号・第18号。
- 古結昭和[1986・89・91・92]「現代わが国における金融システムの展開——金融自由化に関連して」(上・中・下1・下2)，『高知論叢』高知大学経済学会，第27号・第36号・第40号・第45号。
- 古結昭和[1997]「債券現物と債券先物——債券の基本規定とその価格形式」『高知論叢』高知大学経済学会，第60号。
- 小坂直人[1986]「書評 松葉正文著『金融資本と社会化』」『土地制度史学』土地制度史学会，第28巻第3号。
- 小島昌太郎[1934]『金融機構論——企業金融論講義序論』雄風館書房。
- 小島昌太郎[1939]『金融論』有斐閣。
- 小島昌太郎[1950]『金融論入門』<入門経済学叢書> 広文社(新版，1955年)。
- 小島昌太郎[1957]『経営学序説』有斐閣。
- 小島昌太郎[1958]『比較株式会社形態論』有斐閣。
- 小島昌太郎[1967]『金融論講義』広文社。
- 小島精一[1928]『恐慌と独占』日本評論社。
- 小島精一[1929]『日本金融資本論』千倉書房。
- 小島精一[1929]『産業合理化』<商学全集 第9巻> 千倉書房。
- 小島恒久編[1991]『現代日本の経済・労働』<大系現代の世界と日本 第3巻> えるむ書房。
- 小島寛[1979]「架空資本と信用創造」，山口重克・佐

- 美美彦・伊藤誠編『競争と信用』有斐閣.
- 越村信三郎[1947]『働く者の経済学』社会評論社.
- 越村信三郎[1950]『経済学概論』＜現代経済学全書3＞労働文化社.
- 越村信三郎[1953]『図解資本論 第3巻——資本主義的生産の総過程の分析』春秋社.
- 越村信三郎[1959]『最近の独占研究』東洋経済新報社.
- 越村信三郎[1966]『図解資本論 新訂版』春秋社.
- 小竹豊治[1950]「米国の証券取引所管理機構——その発展と背景」『証券』東京証券取引所総務部, 第11号.
- 小竹豊治[1951]「ロンドン株式取引所会員の機能分離」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会, 第44巻第5号.
- 小竹豊治[1957]「近時のイギリス証券市場政策」『インベストメント』大阪証券取引所, 第10巻第3号.
- 小竹豊治[1958]「証券市場構造の類型」『インベストメント』大阪証券取引所, 第11巻第1号.
- 小竹豊治[1958]「アメリカ場外証券市場の特質と諸問題」(1・2), 『証券業報』日本証券業協会, 第109号・第110号.
- 小竹豊治[1959]「証券取引構造のイギリス的類型——その歴史的類型の研究」『インベストメント』大阪証券取引所, 第12巻第2号.
- 小竹豊治[1960]「福沢諭吉の投機投資論」『証券業報』日本証券業協会, 第125号.
- 小竹豊治[1961]「初期株式取引所の性格形成」『インベストメント』大阪証券取引所, 第14巻第3号.
- 小竹豊治[1961]「ニューヨーク株式取引所の管理機構」『証券研究』日本証券経済研究所, 第1号.
- 小竹豊治[1962]「株式市場の変動要因」『証券研究』日本証券経済研究所, 第4号.
- 小竹豊治[1962]「株式市場研究——個人的意見および少数意見を付せる 1955年合衆国上院銀行・通貨委員会報告書」『証券研究』日本証券経済研究所, 第5号.
- 小竹豊治[1962]「証券市場の基礎理論」『証券経済月報』大阪証券経済研究所, 第32号.
- 小竹豊治[1967]「運用預り金融と山一証券恐慌」『三田商学研究』慶應義塾大学, 第10巻第3号.
- 小竹豊治[1967]「福沢諭吉の取引所投機・投資論」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会, 第60巻第11号.
- 小竹豊治[1968]「研究対象としての証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第1号.
- 小竹豊治[1968]「証券市場構造の比較的類型——金融資本の構造的特質との関連において」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第118巻第5号.
- 小竹豊治[1969]「証券金融の諸問題」, 日本証券経済研究所編『証券と金融をめぐる諸問題』日本証券経済研究所.
- 小竹豊治[1972]「擬制資本としての証券経済論の体系化へ」『月刊金融ジャーナル』金融ジャーナル社, 第13巻第4号.
- 小竹豊治[1973]『証券経済論——擬制資本論要綱』慶應義塾生活協同組合.
- 小竹豊治[1976]「証券経済への道」『三田商学研究』慶應義塾大学, 第19巻第4号.
- 小竹豊治[1978]「占領下の証券政策と若干の資料」『インベストメント』大阪証券取引所, 第31巻第4号.
- 児玉博和[1977]「信用擬制形態としての擬制資本」『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科, 第24巻第4号.
- 後藤新一[1968]『本邦銀行合同史』金融財政事情研究会.
- 後藤新一[1979]『大量国債と銀行——昭和初期の銀行経営』＜日経新書＞日本経済新聞社.
- 後藤新一・呉文二・樋爪龍太郎[1982]『日本の金融革命——国際化・証券化・自由化の潮流』＜有斐閣選書＞有斐閣.
- 後藤新一[1983]『国債——何が起きようとしているか』＜有斐閣新書＞有斐閣.
- 後藤新一[1990]『銀証自由化の経済学』日本経済評論社.
- 後藤新一[1991]『銀行合同の実証的研究』日本経済評論社.

- 後藤泰二[1962]「金融資本概念における株式会社の理解について」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第8巻第2号。
- 後藤泰二[1962・63]「『金融資本論』における株式会社の理解について——その金融資本理論と関連して」(1・2)，『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第9巻第2号・第3号。
- 後藤泰二[1964]「自己金融と株式会社」『証券経済月報』大阪証券経済研究所，第57号。
- 後藤泰二[1964]「ヒルファディング創業利得論の理解について」(1・2・3・4)，『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第10巻第2号・第3号・第4号・第11巻第1号。
- 後藤泰二[1967]「株式会社の資本について——経済学における株式会社論への疑問」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第13巻第3号。
- 後藤泰二[1967]「株式会社論の方法」『税経セミナー』税務経理協会，第141号。
- 後藤泰二[1968]「利潤の分割」と株式会社——宇野教授の株式会社論について(1)『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第15巻第3号。
- 後藤泰二[1970]『株式会社の経済理論』ミネルヴァ書房。
- 後藤泰二[1970]「株式会社論の方法」『証券経済学会年報』証券経済学会，第5号。
- 後藤泰二[1972]「株式会社設立様式の経済的意味」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第19巻第3号。
- 後藤泰二[1976]「19世紀後半における米国生命保険会社の資産運用について」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第22巻第4号。
- 後藤泰二[1976]「プライベートプレイスメントにおける最近の傾向について」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第23巻第1号。
- 後藤泰二[1976]「戦後日本の生命保険会社における金融機能的地位の回復」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第23巻第2号。
- 後藤泰二[1978]「英国生命保険会社の普通株投資」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第25巻第3号。
- 後藤泰二[1982]「有限責任と企業形態」『経済学研究』九州大学経済学会，第47巻第5・6号。
- 後藤泰二[1983]「有限責任と資本家規定——有限責任と擬制資本(1)」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第29巻第3・4号。
- 後藤泰二[1988]「有限責任と資本の動化——有限責任と擬制資本(2)」『名城商学』名城大学商学会，第38巻第2号。
- 後藤泰二[1995]「会社それ自体」論について『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第42巻第1・2号。
- 後藤泰二[1996]「証券市場と信用」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所，第42巻第3・4号。
- 後藤泰二[1997]「株式会社論覚え書——30周年記念報告「証券経済研究の課題」」『証券経済学会年報』証券経済学会，第32号。
- 後藤泰二[1998]「書評 杉野博貴著『自己資本構造論』」『九州産業大学経営学論集』九州産業大学経営学会，第9巻第1号。
- 後藤泰二・小西広満[1998]「相互会社の株式会社化——新保険業法にみる相互主義の変質」『九州産業大学経営学論集』九州産業大学経営学会，第9巻第2号。
- 後藤泰二編著[2001]『現代日本の株式会社』<Minerva 現代経営学叢書10>ミネルヴァ書房。
- 後藤康夫[2011]「21世紀型危機からネット新世界への主体・歴史・理論」，基礎経済科学研究所編『世界経済危機とマルクス経済学』大月書店。
- 小西一雄[2006]「アメリカの対外債務累積と「カジノ資本主義」の新段階——その構造・意味・限界」『季刊 経済理論』経済理論学会，第43巻第2号。
- 小西一雄[2014]『資本主義の成熟と転換——現代の信用と恐慌』桜井書店。
- 小西一雄[2016]「資本主義の「金融化」とは何か」『東京交通短期大学研究紀要』豊沼学園東京交通短期大学，第21号。

- 小西一雄[2016]「資本主義の「金融化」、その構造と意味」『経済科学通信』基礎経済科学研究所，第140号。
- 小西一雄[2016]「大谷禎之介著『マルクスの利子生み資本論』全4巻を読む」『経済』新日本出版社，第254号。
- 小西一雄[2017]「『資本論』の恐慌・信用の理論と現代」『季刊 経済理論』経済理論学会，第53巻第4号。
- 小西一雄[2018]「マルクスの利子生み資本論の射程——『資本論』と現代」『信用理論研究』信用理論研究会，第36号。
- 小西一雄[2019]「『マルクス信用論』における草稿研究の意義」大谷禎之介・前畑憲子編『マルクスの恐慌論——久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』を軸に』桜井書店。
- 小西一雄[2019]「『資本論』の恐慌・信用の理論と現代」大谷禎之介・前畑憲子編『マルクスの恐慌論——久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』を軸に』桜井書店。
- 小西一雄[2019]「マルクスの利子生み資本論と「金融化」現象」『経済科学通信』基礎経済科学研究所，第147号。
- 小西一雄[2020]『資本主義の成熟と終焉——いま私たちはどこにいるのか』桜井書店。
- 小西砂千夫[1988]「有価証券のキャピタル・ゲインの課税方法について」『租税研究』日本租税研究協会，第470号。
- 小西砂千夫[2008]「書評 土居丈朗著『地方債改革の経済学』」『経済学論集』東京大学経済学会，第73巻第4号。
- 小西砂千夫編著[2011]『市場と向き合う地方債——自由化と財政秩序維持のバランス』有斐閣。
- 小西宏美[1999]「1920年代のアメリカ証券市場における外国証券発行——発行者，引受機関，投資家」『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会，第12巻第2号。
- 小西宏美[2003]「書評 代田純著『日本の株式市場と外国人投資家』」『立命館国際地域研究』立命館大学国際地域研究所，第21号。
- 小西宏美[2009]「アメリカ株式市場における自社株買い——擬制資本への投資と利潤の実物資本への不転化」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第40巻第4号。
- 小西宏美[2017]『グローバル資金管理と直接投資』日本経済評論社。
- 小西宏美[2019]「アメリカにおける企業金融と金融市場に関する論点の整理」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第50巻第4号。
- 小林栄吾[1960]「絶対王制の経済的基礎の動揺——独占・金融体系」大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編『西洋経済史講座——封建制から資本主義への移行 III』岩波書店。
- 小林和子[1982]「SEC機関投資家調査の背景と影響」『証券研究』日本証券経済研究所，第66号。
- 小林和子[1987]『証券』＜産業の昭和社會史10＞日本経済評論社。
- 小林和子監修[1991-96]『日本証券史資料——戦後編』（7・8・9・10），日本経済評論社。
- 小林和子[1993]『昭和の証券アナリスト群像——総合証券4社の調査部・研究所を築いた人びと』中央経済社。
- 小林和子[1995]『株式会社の世紀——証券市場の120年』日本経済評論社。
- 小林和子[1998]『繁栄と破綻——金融機関バブルのコスト』日本経済評論社。
- 小林和子[2012]『日本証券史論——戦前期市場制度の形成と発展』日本経済評論社。
- 小林和子監修[2000-14]『日本証券史資料——戦前編』全10巻，日本経済評論社。
- 小林啓志[1992]「株式資本の原理的規定について」『信州短期大学研究紀要』信州短期大学，第4巻第2号。
- 小林啓志[1993]「19世紀イギリス株式会社法の展開と経済学原理論における株式資本論」『信州短期大学研究紀要』信州短期大学，第5巻第2号。
- 小林啓志[1997]「『日本版金融ビッグバン』への金融機関の対応（1）」『信州短期大学研究紀要』信州短期大学，第9巻第2号。
- 小林啓志[2004]「金融機関の再編とリテール戦略の動

- 向」, SGCIME 編『金融システムの変容と危機』御茶の水書房.
- 小林啓志[2010]「金融システムの変容と金融の再編」, SGCIME 編『現代経済の解説——グローバル資本主義と日本経済』御茶の水書房(増補新版, 2013年).
- 小林袈裟治[1979]『アメリカ企業経営史研究』有斐閣.
- 小林襄治[1973]「第一次大戦前, イギリス鉄鋼業の地域別・企業別分析——独占形成未成熟の諸要因について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第118号.
- 小林襄治[1974]「第一次大戦前, イギリスの海外投資の一側面——独占企業の海外直接投資」『証券研究』日本証券経済研究所, 第39号.
- 小林襄治[1975]「フランスの証券税制」『証券研究』日本証券経済研究所, 第43号.
- 小林襄治[1975]「戦後イギリスの海外投資」『証券研究』日本証券経済研究所, 第45号.
- 小林襄治[1976]「フランスの定期取引制度」『証券研究』日本証券経済研究所, 第47号.
- 小林襄治[1977]「ユーロ債市場」『証券研究』日本証券経済研究所, 第54号.
- 小林襄治[1979]「英国の国債市場」『公社債月報』日本証券業協会, 第277号.
- 小林襄治[1981]「英国の証券業」『証券研究』日本証券経済研究所, 第63号.
- 小林襄治[1982]「イギリスのジョーピング制度について」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第17号.
- 小林襄治[1983]「事業法人の株式保有」『証券研究』日本証券経済研究所, 第67号.
- 小林襄治[1983]「英国における銀行と証券——ウィルソン報告と英国金融制度」『証券研究』日本証券経済研究所, 第70号.
- 小林襄治[1983]「英国の国債管理政策——マネー・サプライ抑制のための国債管理」『公社債月報』日本証券業協会, 第328号.
- 小林襄治・高橋文郎・三上哲治・三樹淳一[1985]『海外資金調達——進む企業金融の国際化』有斐閣.
- 小林襄治[1985]「英国証券取引所の改革——新売買制度と証券界の再編」『証券研究』日本証券経済研究所, 第75号.
- 小林襄治[1985]「証券手数料の自由化——米英の場合と日本」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第20号.
- 小林襄治[1986]「国際金融・資本市場」, 馬場宏二編『シリーズ世界経済 I 国際的連関——焦点と回路』御茶の水書房.
- 小林襄治[1987]「ビッグ・バンの提起するもの」『証券研究』日本証券経済研究所, 第80号.
- 小林襄治[1987]「ビッグ・バン後の英国証券市場」『インベストメント』大阪証券取引所, 第40巻第2号.
- 小林襄治[1987]「最近の英国国債市場」『公社債月報』日本証券業協会, 第374号.
- 小林襄治[1988]「1980年代の国際資本市場試論」『証券研究』日本証券経済研究所, 第84号.
- 小林襄治[1990]「ビッグ・バン後の英国証券業者」『証券研究』日本証券経済研究所, 第91号.
- 小林襄治[1990]「英国における金融制度改革」『青山経済論集』青山学院大学経済学会, 第42巻第1・2号.
- 小林襄治[1990]「国際資金移動と国債資本市場」『信用理論研究』信用理論研究会, 第7号.
- 小林襄治[1992]「英国マーケット・メーカー制の一考察——エルウェス委員会の議論をめぐって」『証券研究』日本証券経済研究所, 第105号.
- 小林襄治[1993]「信用取引と貸株市場」『青山経済論集』青山学院大学経済学会, 第45巻第3号.
- 小林襄治[1994]「証券ブローカーとマーチャント・バンク——英国証券ブローカー, カザノブ社の歴史から」『証券研究』日本証券経済研究所, 第109号.
- 小林襄治[1995]「ベアリングズの崩壊」『青山経済論集』青山学院大学経済学会, 第47巻第3号.
- 小林襄治[1996]「市場の「分裂」と競争——SEC市場規制局『マーケット2000』をめぐって」『証券研究』日本証券経済研究所, 第114号.
- 小林襄治[1998]「金融市場の変貌と証券経営」『証券

- レビュー』日本証券経済研究所，第38巻第7号。
- 小林襄治[2000]「金融サービス市場法の成立」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第28号。
- 小林襄治[2002]「東京証券取引所の変貌と証券市場改革」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第40号。
- 小林襄治[2003]「英国金融制度の変貌——マクミラン・ラドクリフ・ウィルソン委員会とその後」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第42号。
- 小林襄治[2009]「国際通貨・金融・資本市場」，馬場宏二・工藤章編『現代世界経済の構図』＜Minerva 人文・社会科学叢書151＞ミネルヴァ書房。
- 小林襄治[2009]「山一証券の破綻」（上・中・下），『証券経済研究』日本証券経済研究所，第67号・第68号・第69号。
- 小林襄治[2010]「英国銀行危機とシステミック・リスク」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第72号。
- 小林襄治[2012]「英国『独立銀行委員会報告』英国の金融構造改革——大きすぎて救えない——リングフェンスと17%の損失吸収資本」『経済志林』法政大学経済学部学会，第79巻第3号。
- 小林襄治[2013]「英国の新金融監督体制とマクロプルーデンス政策手段」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第82号。
- 小林襄治[2013]「山一証券の蹉跌と環境変化」『証券経済学会年報』証券経済学会，第48号。
- 小林襄治[2014]「投資銀行とトレーディング業務」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第85号。
- 小林襄治[2014]「投資銀行とトレーディング」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第54巻第7号。
- 小林襄治[2016]「トレーディング規制と投資銀行」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第56巻第8号。
- 小林威雄[1962]「利子と信用」，本間要一郎・高野利治・小林威雄・井上周八・金子ハルオ・種瀬茂・清水嘉治『マルクス経済学演習』春秋社（新版，1973年）。
- 小林威雄[1987]『金融の基礎論』泉文堂。
- 小林威雄[1987]『経済学入門——資本主義経済の基底』亜紀書房。
- 小林昇[1965]『原始蓄積期の経済諸理論』未来社。
- 小林正人[2018]「サブプライム金融危機の機序と「サブプライム証券化機構」」『季刊 経済理論』経済理論学会，第55巻第1号。
- 小林賢齊[1980]「ドイツ鉄鋼業」の「新秩序」とその再編——合同製鋼の解体と新ATH=Thyssenグループの形成を中心に（1・2・3），『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第27巻第6号・第28巻第1号・第28巻第2・3号。
- 小林賢齊[1983]『西ドイツ鉄鋼業——戦後段階＝戦後合理化』有斐閣。
- 小林賢齊[1997]『概説経済学原理』青山社。
- 小林賢齊[2010]『マルクス「信用論」の解明——その成立史的視座から』八朔社。
- 小林真之[1989]「優先株と資本構造の再編——1930年代のアメリカ独占企業と擬制資本」（1・2），『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第37巻第1号・第2号。
- 小林真之[1993]「1920年代末の株式ブームとアメリカ金融市場」（1・2），『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第41巻第1号・第2号。
- 小林真之[1993]「大恐慌期におけるアメリカ独占資本主義と擬制資本」『信用理論研究』信用理論研究会，第10号。
- 小林真之[1994]「「過大」資本化と資本の水抜き——1887～1929年のアメリカ産業大企業」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第41巻第4号。
- 小林真之[1994・95]「1929年大恐慌と減資政策——アメリカ大企業と擬制資本の動態」（1・2），『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第42巻第3号・第43巻第1号。
- 小林真之[1995]「利子生み資本と株式市場——金融市

- 場論への一視点」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第43巻第3号。
- 小林真之[1996]「大恐慌期のアメリカ株式市場」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第44巻第3号。
- 小林真之[1997]「アメリカ証券市場と銀行制度」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第45巻第3号。
- 小林真之[1997]「株式擬制資本と金融市場」『信用理論研究』信用理論研究会，第15号。
- 小林真之[1998]『株式恐慌とアメリカ証券市場——両大戦間期の「バブル」の発生と崩壊』北海道大学図書刊行会。
- 小林真之[1998]「信託会社の破綻と1907年恐慌——20世紀初頭のアメリカ金融市場」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第45巻第4号。
- 小林真之[1999]「米商業銀行と預金者保護政策——1920年代の銀行破産と預金者・株主」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第47巻第2号。
- 小林真之[1999]「擬制資本と信用恐慌——大恐慌期における現実資本と貨幣資本の価値破壊」『信用理論研究』信用理論研究会，第17号。
- 小林真之[1999・2000]「銀行合併と株主資本——大恐慌期の米商業銀行再編(1)」(上・下)，『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第47巻第3号・第4号。
- 小林真之[2000]『金融システムと信用恐慌——信用秩序の維持とセーフティ・ネット』<現代経済政策シリーズ2>日本経済評論社。
- 小林真之[2000]「両大戦間期のアメリカ普通株市場——株価動向を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会，第35号。
- 小林真之[2006]「連邦預金保険制度の成立と銀行集中」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第53巻第4号。
- 小林真之[2009]『アメリカ銀行恐慌と預金者保護政策——1930年代における商業銀行の再編』北海道大学出版会。
- 小林真之[2010]「信用恐慌と金融危機対策——1930年代と現代の比較考察」『信用理論研究』信用理論研究会，第28号。
- 小林真之[2013]「両大戦間期のアメリカ投資信託」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第60巻第4号。
- 小林真之[2013]「大恐慌期における投資信託業界の再編」(1・2)，『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第61巻第2号・第3号。
- 小林弥六[1978]『経済原論』御茶の水書房。
- 小林陽介[2012]「アメリカ経済の金融化と企業金融——事業再構築との関連で」『季刊 経済理論』経済理論学会，第49巻第3号。
- 小林陽介[2014]「アメリカ経済の金融化と企業金融——企業と金融機関との関係に注目して」『季刊 経済理論』経済理論学会，第50巻第4号。
- 小林陽介[2014]「アメリカにおける企業と投資銀行との関係——1980年代における証券発行を中心として」『証券経済学会年報』証券経済学会，第49号。
- 小林陽介[2015]「金融化と金融資本研究」『季刊 経済理論』経済理論学会，第52巻第1号。
- 小林陽介[2016]「米国証券業の最近の動向と中堅証券会社——スティーフル社の紹介を中心に」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第56巻第6号。
- 小林陽介[2017]「フィンテックの流行をどうみるか——金融業と技術革新の歴史からの検討」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第57巻第2号。
- 小林陽介[2017]「フィンテックが証券業にもたらす便益とリスク——IOSCOレポートの紹介」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第57巻第8号。
- 小林陽介[2018]「フィンテックとリテール証券」『資本市場』資本市場研究会，第393号。
- 小林陽介[2018]「フィンテックとわが国リテール証券」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第58巻第7号。
- 小林陽介[2019]「金融危機後の米国大手金融機関の変化——バランスシートの検討を中心に」『証券レ

- ビュー』日本証券経済研究所, 第 59 卷第 1 号.
- 小林陽介[2019]「金融危機後の米国社債市場の流動性について」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 59 卷第 7 号.
- 小林陽介[2019]「金融危機後の米国社債市場の流動性をめぐる議論について」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 108 号.
- 小林陽介[2020]「信用理論と証券取引所——ブロックチェーンの証券市場への適用実験を材料として」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 38 号.
- 小林陽介[2020]「金融危機後の米国証券引受業務に関する一論点」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 60 卷第 7 号.
- 小林陽介[2022]「グローバル金融危機後の金融化の進展——米国株式市場の検討を中心に」『経済志林』法政大学経済学部学会, 第 89 卷第 2 号.
- 小林陽介[2022]「新型コロナウイルス感染症の流行と金融資産累積の関係について」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 62 卷第 9 号.
- 小林好宏[1980]『企業集団の分析』北海道大学図書刊行会.
- 小林龍馬[1980]「クレディ・モビリエの評価について」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 19 卷第 3 号.
- 小林龍馬[1990]『金融経済論』啓文社.
- 小林龍馬[1990]「連邦準備制度理事会と銀行持株会社」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 28 卷第 4・5 号.
- 小牧聖徳[1958]「戦後における大銀行の推移——預金, 貸出, 証券, 借入を中心として」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第 6 卷第 6 号.
- 小牧聖徳[1964]「金融資本にかんする一考察」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第 12 卷第 4 号.
- 小牧聖徳[1964]「金融資本の検討」(上・下), 『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第 13 卷第 4 号・第 5 号.
- 小牧聖徳[1967]「金融資本における信用と国家」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第 16 卷第 2 号.
- 小牧聖徳[1976]「銀行信用・利子生み資本の理論的前提——信用論批判」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第 25 卷第 2・3 号.
- 小牧聖徳[1979]「公信用の展開——信用, 利子生み資本および国家との関連」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第 28 卷第 1 号.
- 小牧聖徳[1984]「信用資本についての考察」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第 32 卷第 5・6 号.
- 小牧聖徳[1997]『金融経済の研究——マクロとミクロからのアプローチ』ミネルヴァ書房.
- 小松章[1973]「ヴェブレンの株式会社論——ヴェブレン経済学への経営学的接近」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第 32 号.
- 小松章[1975]「暖簾についての経営学的考察」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第 35 号.
- 小松章[1976]「暖簾と合併差益」, 日本経営学会編『現代の経営参加』千倉書房.
- 小松章[1977・78]「株式会社金融制度の原理的展開」(1・2・3・4・5), 『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第 40 号・第 41 号・第 42 号・第 43 号・第 44 号.
- 小松章[1980]『株式会社金融の理論』同文館出版.
- 小松章[1980]「独立科学としての経営学——中西「経営経済学」説の批判的検討——」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第 46 号.
- 小松章[1981・82]「わが国大企業の大株主構造と経営者」(上・下), 『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第 48 号・第 50 号.
- 小松章[1982]「経営学の論理——馬場克三「経営学」説の再評価」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第 49 号.
- 小松章[1983]『企業の論理——社会科学としての経営学』三嶺書房.
- 小松章[1983]「企業支配をめぐる最近の研究動向——近著の書評をかねながら」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第 52 号.
- 小松章[1986・88]「現代巨大企業における支配の構図——北原理論をめぐる」(1・2・3), 『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第 57 号・第 59 号・第

- 63号.
- 小松章[1990]『企業形態論』＜新経営学ライブラリ5＞新世社（第2版，2000年．第3版，2006年）．
- 小松章[2003]『経営学』＜基礎コース 経営学1＞新世社（第2版，2006年．第3版，2016年）．
- 小松章[2009]「会社法の制定と株式会社」，細川孝・桜井徹編著『転換期の株式会社——拡大する影響力と改革課題』＜現代社会を読む経営学4＞ミネルヴァ書房．
- 小松章[2009]「株式会社の再定義」『武蔵野大学政治経済研究所年報』武蔵野大学政治経済研究所，第1号．
- 小松章・菊澤研宗・廣瀬幹好・佐々木恒男[2010]「株式会社の再定義と企業価値の変容」，日本経営学会編『社会と企業——いま企業に何が問われているか』千倉書房．
- 小松章[2013]「株式会社をめぐる問題認識の整理」『社会科学論集』埼玉大学経済学会，第139号．
- 小松章[2019]「日本株式会社の再設計」，日本経営学会編『日本の経営の現在——日本の経営の何を残し，何を变えるか』千倉書房．
- 小松善雄[1988・89]「マルクス信用論における「金融の空洞化」」（上・中・下），『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第42巻第2号・第3号・第4号．
- 小松芳喬[1952]『英国産業革命史』一条書店．
- 五味健吉[1968]「アメリカ金融資本形成過程における鉄道業と農業の連関について」『経済志林』法政大学経済学部学会，第36巻第3号．
- 五味久壽[1969]「帝国主義段階における資本輸出と過剰資本——レーニン，ヒルファディングの金融資本論を中心に」『季刊社会科学』経済往来社，第16号．
- 五味久壽[1993]「国際金融市場と国際通貨体制」（1・2・3），『経済学季報』立正大学経済学会，第43巻第1号・第2号・第3号．
- 五味久壽[1993]「国際金融市場と国際景気循環」『経済学季報』立正大学経済学会，第43巻第4号．
- 五味久壽[1999]『グローバルキャピタリズムとアジア資本主義——中国・アジア資本主義の台頭と世界資本主義の再編』批評社．
- 五味久壽[2005]『中国巨大資本主義の登場と世界資本主義——WTO加盟以降の中国製造業の拡張再編と日本の選択』批評社．
- 五味久壽[2012]「中国金融改革の現代的課題——リーマン・ショック後の中国経済と金融改革」『経済学季報』立正大学経済学会，第61巻第3・4号．
- 小湊繁[1967]「1920年代におけるベルリン大銀行とドイツの資本蓄積」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会，第8号．
- 小湊繁[1970]「相対的安定期におけるドイツの大銀行と産業の資本蓄積」（1・2），『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第22巻第1号・第2号．
- 小湊繁[1973]「西ドイツの戦後企業金融（1）」『証券研究』日本証券経済研究所，第37号．
- 小湊繁[1975]「アメリカの独占資本に関する一考察」『信州大学経済学論集』信州大学経済学部，第9号．
- 小湊繁[1989]「西ドイツ対外直接投資の実態」『証券研究』日本証券経済研究所，第88号．
- 小室澄子[1980]「現代資本主義の蓄積構造と利子生み資本運動——資産選択モデルの批判的検討のために」『明治大学社会科学研究所紀要』明治大学社会科学研究所，第18号．
- 小山賢一[1971]「英国の有限責任の歴史——南海泡沫条例の廃止まで」『大阪経大論集』大阪経大会，第83号．
- 小山賢一[1981]『アメリカ株式会社法形成史』商事法務研究会．
- 紺井博則[1986]「フランス貨幣・信用構造の特質とパリ金融市場——国際金本位制の確立期～第1次世界大戦」『国学院経済学』国学院大学経済学会，第34巻第3・4号．
- 紺井博則[1990]「フランス型預金銀行の「兼営的」性格について——ソシエテ・ジェネラルの第1次大戦前の業務展開を中心に」『国学院経済学』国学院大学経済学会，第38巻第2号．
- 紺井博則[1991]「第2帝政期フランスの銀行・信用制度とクレディ・モビリエ」『国学院大学紀要』国

- 学院大学, 第 29 号.
- 紺井博則・上川孝夫編[2003]『グローバル化と国際通貨』日本経済評論社.
- 紺井博則[2009]「信用創造の変容と世界的金融・経済危機——過剰貨幣資本の形成要因に関連して」『国学院大学経済学研究』国学院大学大学院, 第 41 号.
- 紺井博則[2009]「転換点に立つ金融の国際化・証券化と基軸通貨ドル体制」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 27 号.
- 紺井博則[2010]「転換点に立つ国際通貨・金融システムとアジア」, 上川孝夫・李暁編『世界金融危機日中の対話——円・人民元・アジア通貨金融協力』春風社.
- 紺井博則[2014]「現代資本主義と過剰貨幣資本」『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会, 第 61 巻第 4 号.
- 紺井博則[2015]「現代資本主義下での貨幣資本蓄積の特質について——米国発の世界的金融危機を契機として」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 33 号.
- 紺井博則[2017]「現代の金融危機と経済危機」, 牧野裕・紺井博則・上川孝夫編著『複合危機——ゆれるグローバル経済』日本経済評論社.
- 紺井博則[2021]「現代資本主義と債務累積のグローバル化」, 松本朗編著『グローバル経済と債務累積の構造』晃洋書房.
- 権上康男[1985]『フランス帝国主義とアジア——インドシナ銀行史研究』東京大学出版会.
- 権上康男[1999]『フランス資本主義と中央銀行——フランス銀行近代化の歴史』東京大学出版会.
- 権上康男[2013]『通貨統合の歴史的起源——資本主義世界の大転換とヨーロッパの選択』〈横浜商科大学学術叢書〉日本経済評論社.
- 権上康男[2021]『自由主義経済の真実——リュエフとケインズ』知泉書館.
- 今野登[1958]「ルール重工業におけるコンツェルンの生成過程について」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会, 第 6 巻第 2 号.
- 今野登[1958]「ルール重工業におけるトラストの形成過程について」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第 48 号.
- 今野登[1959]「株式会社の基礎範疇についての考察」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会, 第 7 巻第 1-3 号.
- 今野登[1960]「第一次世界大戦後のドイツ金融資本の再編過程について——ルール重工業の建設とそれをめぐるベルリンの大銀行の活動を中心に」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会, 第 8 巻第 2 号.
- 今野登[1965]「西ドイツにおけるヒルファディング研究——一つの紹介」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会, 第 13 巻第 1・2 号.
- 齊藤栄司[1976]「独占形成論の基礎視角について」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第 74 巻第 4 号.
- 齊藤栄司[1977]「「集積」・「集中」・「蓄積」規定の理論問題——中川スミ氏・鶴田満彦氏の所説によせて」『大阪経大論集』大阪経大会, 第 43 巻第 1 号.
- 齊藤栄司[1977]「「集積」・「集中」規定の論理構造——『資本論』第 1 部第 7 編第 23 章第 2 節の各版異同によせて」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第 76 巻第 3 号.
- 齊藤栄司[1977]「〈資本の集積〉・〈資本の集中〉規定の理論問題——仏語版『資本論』第 1 部第 7 編第 25 章第 2 節を中心に」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第 77 巻第 6 号.
- 齊藤栄司[1980]「西ドイツにおける独占論争——J. フッフシュミットと E. アルトファーターの論争によせて」『大阪経大論集』大阪経大会, 第 137 号.
- 齋藤英里[2015・17・19]「比較経済史の誕生——大塚久雄『株式会社発生史論』に関する一考察」(1・2・3・4), 『武蔵野大学政治経済研究所年報』武蔵野大学政治経済研究所, 第 10 号・第 14 号・第 15 号・第 19 号.
- 齋藤叫編著[2010]『世界金融危機の歴史的位相』日本経済評論社.
- 齊藤正[1990]「低成長下の金融資本的蓄積と信用制

- 度』『信用理論研究』信用理論研究会，第7号。
- 齊藤正[1991]「金融制度と信用秩序——高度成長期と低成長期との比較」『経済学論纂』中央大学経済学研究会，第32巻第1・2号。
- 齋藤智美[2010]「ユーロ国際通貨としての発展」，田中素香編著『世界経済・金融危機とヨーロッパ』勁草書房。
- 齊藤壽彦[1984]「厳重な外国為替管理期における外国為替資金証券の発行」『千葉商大論叢』千葉商科大学国府台学会，第22巻第1号。
- 齊藤壽彦[1999]「貨幣・金融における信用の重要性」『政経研究』政治経済研究所，第73号。
- 齊藤壽彦[2002]『信頼・信認・信用の構造——金融核心論』泉文堂（改訂版，2005年。第3版，2007年）。
- 齊藤壽彦[2003]「日本銀行の銀行保有株式買入」『千葉商大論叢』千葉商科大学国府台学会，第40巻第4号。
- 齋藤晴造[1957]「19世紀末におけるドイツの地方銀行——ライン・ヴェストファーレンにおける大銀行と中小現行」，玉城肇・末永茂喜・鈴木鴻一郎編『マルクス経済学大系』（下），＜宇野弘蔵先生還暦記念論文集＞岩波書店。
- 齋藤晴造[1960]「独占段階における銀行業」，大島清・齋藤晴造・加藤俊彦・玉野井昌夫『金融論』東京大学出版会。
- 齋藤晴造[1960]「19世紀末におけるドイツの銀行集中と恐慌」（1・2），『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科，第22巻第2号・第3号。
- 齋藤晴造[1977]『ドイツ銀行史の研究』法政大学出版局。
- 齊藤美彦[1990]「1960，70年代イギリスにおけるリーテイル・バンキングの展開」『証券研究』日本証券経済研究所，第92号。
- 齊藤美彦[1990]「金融自由化の進展と都市銀行の対応」『証券研究』日本証券経済研究所，第93号。
- 齊藤美彦[1990]「1980年代における英国住宅金融組合の動向」『金融』全国銀行協会，第524号。
- 齊藤美彦[1991]「1980年代イギリスにおけるリーテイル・バンキングの展開」『証券研究』日本証券経済研究所，第97号。
- 齊藤美彦[1992]「イギリス職域年金の発展と証券市場」『証券研究』日本証券経済研究所，第101号。
- 齊藤美彦[1993]「イギリスにおける年金改革——問題点と可能性」『証券研究』日本証券経済研究所，第106号。
- 齊藤美彦[1994]『リーテイル・バンキング——イギリスの経験』＜金融研究会叢書10＞時潮社。
- 齊藤美彦[1994]「イギリス年金制度の諸問題」『証券研究』日本証券経済研究所，第109号。
- 齊藤美彦[1994]「シンガポールの年金制度——住宅取得と証券投資」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第34巻第7号。
- 齊藤美彦[1994]「金融規制と証券規制——その特殊性と根拠について」『資本市場』資本市場研究会，第111号。
- 齊藤美彦[1996]「イギリスにおける株式保有構造」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第36巻第10号。
- 齊藤美彦[1997]「近年の英国住宅金融組合の動向」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第6号。
- 齊藤美彦[1997]「貯蓄金融機関の生成・発展とその性格変化」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第7号。
- 齊藤美彦[1997]「イギリス生命保険業の発展と個人貯蓄」『証券経済学会年報』証券経済学会，第32号。
- 齊藤美彦[1997]「イギリス年金制度の歴史的展開と近年の改革の流れ」『海外社会保障情報』国立社会保障・人口問題研究所，第119号。
- 齊藤美彦[1997]「ヨーロッパにおけるバンカシュアランス」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第10号。
- 齊藤美彦[1998]「イギリスにおける住宅政策と住宅金融」『住宅問題研究』住宅金融普及協会，第14巻第1号。
- 齊藤美彦[1999]『イギリスの貯蓄金融機関と機関投資家』日本経済評論社。

- 齊藤美彦[1999]「チリ年金制度改革と証券市場」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第20号.
- 齊藤美彦[1999]「メインバンクとコーポレート・ガバナンス——都市銀行による企業審査・モニタリングの実際について」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第22号.
- 齊藤美彦[2000]「イギリス住宅金融組合とその相互組織性——住宅信用の原理を求めて」『住宅問題研究』住宅金融普及協会, 第16巻第3号.
- 齊藤美彦[2000]「1990年代のイギリス四大銀行」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第28号.
- 齊藤美彦[2000]「英国金融サービス・市場法について」『金融』全国銀行協会, 第644号.
- 齊藤美彦[2002]「英国の金融サービス補償機構について——預金補償制度を中心に」『金融』全国銀行協会, 第667号.
- 齊藤美彦[2003]「英国金融サービス補償機構の2002年度の活動」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第43巻第9号.
- 齊藤美彦[2003]「英国における個人投資・貯蓄優遇税制——PEP・TESSAからISAへ」『金融』全国銀行協会, 第679号.
- 齊藤美彦[2005]「量的緩和」後の金融政策」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第49号.
- 齊藤美彦[2005]「イギリス住宅金融とマイルズ・レポート」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第50号.
- 齊藤美彦[2006]『金融自由化と金融政策・銀行行動』日本経済評論社.
- 齊藤美彦[2006]「国債累積と金融システム」『季刊経済理論』経済理論学会, 第43巻第3号.
- 齊藤美彦[2007]「イギリスの住宅金融市場の動向と金融機関」『個人金融』ゆうちょ財団, 第2巻第4号.
- 齊藤美彦・須藤時仁[2009]『国債累積時代の金融政策』日本経済評論社.
- 齊藤美彦・築田優[2010]『イギリス住宅金融の新潮流』時潮社.
- 齊藤美彦[2010]「世界金融危機下のイギリス金融機関」『信用理論研究』信用理論研究会, 第28号.
- 齊藤美彦[2011]「世界金融危機とイギリス預金補償制度」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第51巻第9号.
- 齊藤美彦[2012]「国債累積と金融システム・中央銀行」『経済研究所年報』成城大学経済研究所, 第25号.
- 齊藤美彦[2014]『イングランド銀行の金融政策』金融財政事情研究会.
- 齊藤美彦[2014]「イギリスにおける金融危機と国債管理政策」『経済学論究』関西学院大学経済学部研究会, 第68巻第1号.
- 齊藤美彦[2014]「イングランド銀行の量的緩和と政策と国債」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第49号.
- 齊藤美彦[2016]「書評 伊豆久著『金融危機と中央銀行』」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第96号.
- 齊藤美彦[2017]「金融システムの変容と金融の再編」, SGCIME 編『現代経済の解説——グローバル資本主義と日本経済 第3版』御茶の水書房.
- 齊藤美彦[2018]「書評 代田純著『日本国債の膨張と崩壊——日本の財政金融政策』」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第55巻第2号.
- 齊藤美彦・高橋亘[2020]『危機対応と出口への模索——イングランド銀行の戦略』晃洋書房.
- 齊藤美彦[2021]「金融化」時代におけるイギリス住宅金融の変化」『大阪経大論集』大阪経大学会, 第72巻第2号.
- 齊藤美彦[2021]『ポスト・ブレイグジットのイギリス金融——政策・規制・ペイメント』文眞堂.
- 佐賀卓雄[1972]「英国初期鉄道会社の金融と資本市場の展開」『金融経済』金融経済研究所, 第137号.
- 佐賀卓雄[1973]「イギリスにおける有限責任法の成立——「泡沫条例」以後の株式会社の発展」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第127号.
- 佐賀卓雄[1974]「イギリスにおける法人格なき会社の発展」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第9号.
- 佐賀卓雄[1975]「イギリスにおける金融市場の形成

- 英国地方証券取引所の形成と展開を中心として』『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第19巻第6号。
- 佐賀卓雄[1976]「資本構成と資本コスト——ベン・シヤハールの所説を中心として」『商学討究』小樽商科大学，第26巻第4号。
- 佐賀卓雄[1976]「第三次企業合併運動と資本コスト論争——MM命題の性格規定をめぐって」『証券経済学会年報』証券経済学会，第11号。
- 佐賀卓雄[1976・78・79]「機関投資家と経営者支配」(1・2・3)，『商学討究』小樽商科大学，第27巻第2号・第29巻第1号・第4号。
- 佐賀卓雄[1978]「機関投資家と「経営者支配」論」『証券経済学会年報』証券経済学会，第13号。
- 佐賀卓雄[1980]「経営者報酬の構造と経営者支配論」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第134号。
- 佐賀卓雄[1982]「いわゆる「経営者支配」論について」『商学討究』小樽商科大学，第32巻第3号。
- 佐賀卓雄[1983]「米国における株式分割と自社株買戻しについて」『インベストメント』大阪証券取引所，第36巻第2号。
- 佐賀卓雄[1983・84・85]「70年代米国証券市場における株価形成について」(1・2・3・4)，『経営研究』大阪市立大学経営学会，第34巻第1号・第3号・第35巻第3号・第5号。
- 佐賀卓雄[1983]「70年代アメリカ証券市場における株価形成について——「株価の成長」以後」『証券経済学会年報』証券経済学会，第18号。
- 佐賀卓雄[1984]「戦後日本の企業金融と社債市場」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第34巻第5・6号。
- 佐賀卓雄[1984]「低成長下の企業金融と社債市場改革」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会，第7巻第2号。
- 佐賀卓雄[1985]「社債市場改革について」(上・中)，『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第151号・第153号。
- 佐賀卓雄[1985]「無担保社債の導入について」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第36巻第3号。
- 佐賀卓雄[1986]「手数料自由化と証券業——米国の場合」(上・下)，『インベストメント』大阪証券取引所，第39巻第2号・第4号。
- 佐賀卓雄[1986]「グラス・スティーガル法をめぐる最近の動向」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第1号。
- 佐賀卓雄[1987]「一括登録制度と証券業」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第2号。
- 佐賀卓雄[1988]「情報開示制度と一括登録制度」『証券研究』日本証券経済研究所，第84号。
- 佐賀卓雄[1988]「暴落後の米国証券市場改革」『インベストメント』大阪証券取引所，第41巻第6号。
- 佐賀卓雄[1989]「派生商品市場の機能とブラック・マンデー」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第40巻第1号。
- 佐賀卓雄[1989]「金融制度改革をめぐって」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第40巻第3号。
- 佐賀卓雄[1990]「ジャンク・ボンド市場とドレクスル・バーナム・ランベール社——80年代ウォール街の一断面」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第41巻第3号。
- 佐賀卓雄[1990]「米国証券業の再編成」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第41巻第4号。
- 佐賀卓雄[1991]『アメリカの証券業——変貌過程と規制緩和』東洋経済新報社。
- 佐賀卓雄[1991]「銀行・証券分離主義の基本理念とファイアー・ウォール」『証券研究』日本証券経済研究所，第96号。
- 佐賀卓雄[1991]「アメリカの金融制度改革」『インベストメント』大阪証券取引所，第44巻第4号。
- 佐賀卓雄[1992]「アジアの金融・証券市場と関西」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第7号。
- 佐賀卓雄[1993]「米国社債市場の機構」『インベストメント』大阪証券取引所，第46巻第1号。
- 佐賀卓雄[1993]「アメリカ証券業の危機と制度改革——「メーデー」前夜の証券業」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，

- 第 8 号.
- 佐賀卓雄・三和裕美子[1994]「米国証券市場の機関化とコーポレート・ガバナンス」(1・2),『インベストメント』大阪証券取引所, 第 47 巻第 1 号・第 2 号.
- 佐賀卓雄[1994]「アメリカ証券業における競争と集中」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会, 第 17 巻第 2 号.
- 佐賀卓雄[1995]「アメリカにおける証券取引システムの変貌」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター, 第 10 号.
- 佐賀卓雄[1996]「証券市場統合のグランド・デザイン——ナショナル・マーケット・システム(NMS)と『マーケット 2000』」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 114 号.
- 佐賀卓雄[1996]「規制緩和と米国証券会社」『インベストメント』大阪証券取引所, 第 49 巻第 1 号.
- 佐賀卓雄[1996]「アメリカの証券会社」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 2 号.
- 佐賀卓雄[1997]「米国商業銀行の投資信託販売について」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 6 号.
- 佐賀卓雄[1997]「アメリカ証券業界の地殻変動——大型合併の意味するもの」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 37 巻第 4 号.
- 佐賀卓雄[1997]「銀行の投信販売について——アメリカの実情とわが国での課題」『資本市場』資本市場研究会, 第 145 号.
- 佐賀卓雄[1999]「証券経営の戦略的課題と展望」『資本市場』資本市場研究会, 第 166 号.
- 佐賀卓雄[2000]「インターネットと証券業」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 24 号.
- 佐賀卓雄[2001]「証券市場の活性化策について」『資本市場』資本市場研究会, 第 188 号.
- 佐賀卓雄[2002]「オンライン証券取引の将来性——新しいビジネスモデルたりうるか」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 37 号.
- 佐賀卓雄[2002]「アメリカ資本市場と会計不信」『資本市場』資本市場研究会, 第 204 号.
- 佐賀卓雄[2002]「オンライン証券取引をめぐる規制動向」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 39 号.
- 佐賀卓雄[2002]「証券市場改革の動向について」『資本市場』資本市場研究会, 第 206 号.
- 佐賀卓雄[2003]「アメリカにおけるリテール証券営業の現状について」『資本市場』資本市場研究会, 第 213 号.
- 佐賀卓雄[2005]「戦後アメリカにおける M&A ファイナンスの変遷」『資本市場』資本市場研究会, 第 238 号.
- 佐賀卓雄[2007]「経営者報酬の構造とナンバーズ・ゲーム」(上・下),『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 68 号・第 69 号.
- 佐賀卓雄[2008]「金融システムの不安定性とサブプライム・ローン問題」『資本市場』資本市場研究会, 第 275 号.
- 佐賀卓雄[2008]「証券市場改革とリテール証券業の変化」『資本市場』資本市場研究会, 第 279 号.
- 佐賀卓雄[2009]「証券会社のガバナンス構造の欠陥と破綻処理」, 日本証券経済研究所編『金融サービス業のガバナンス——規律付けメカニズムの再検討』金融財政事情研究会.
- 佐賀卓雄[2009・10]「金融システム危機と金融規制改革」(上・下),『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 68 号・第 69 号.
- 佐賀卓雄[2010]「世界金融危機後の規制と規律の再構築——サブプライム証券化商品の格付けと金融規制改革」『資本市場』資本市場研究会, 第 296 号.
- 佐賀卓雄[2011]「アメリカにおけるリテール証券業務の現状」『資本市場』資本市場研究会, 第 309 号.
- 佐賀卓雄[2015]「リテール証券業のビジネスモデルについて」, 証券経営研究会編『資本市場の変貌と証券ビジネス』日本証券経済研究所.
- 佐賀卓雄[2016]「金融機関のガバナンス構造と金融規制」『資本市場』資本市場研究会, 第 366 号.
- 佐賀卓雄[2019]「アメリカ株式市場における公募・私募の境界の曖昧化について」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 108 号.

- 佐賀卓雄[2020]「アメリカ株式市場の変貌とプライベート・エクイティ (PE)」『資本市場』資本市場研究会, 第 414 号.
- 佐賀卓雄[2020]「デュアル・クラス・シェア (DCS)・ストラクチャとコーポレート・ガバナンス (CG)」『資本市場』資本市場研究会, 第 422 号.
- 佐賀卓雄[2021]「アメリカにおける非公開株式流通市場 (セカンダリー・マーケット) について」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 114 号.
- 佐賀卓雄[2021]「アイザック・ニュートンと南海泡沫事件 (サウス・シー・バブル)」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 61 巻第 10 号.
- 坂井昭夫[1978]「法人資本主義 論についての覚え書——経済理論学会の報告・討論を手がかりとして」『経済科学通信』基礎経済科学研究所, 第 21 号.
- 酒井一夫・西村閑也編著[1992]『比較金融史研究——英・米・独・仏の通貨金融構造 1870~1914 年』ミネルヴァ書房.
- 酒井正三郎[1943]『経済的経営の基礎構造』敝文館.
- 酒井正三郎[1948]『経営者社会の理論と構造』巖松堂書店.
- 酒井治郎[1977]「株式時価発行に関する一考察——日本楽器製造株式会社の場合を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 16 巻第 3 号.
- 酒井治郎[1979]「会計理論と会計主体——主として「機能資本家理論」に関連して」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 18 巻第 4・5 号.
- 酒井治郎[1981]「創業利得と自己金融——創業利得の取得主体を中心として」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 20 巻第 3・4 号.
- 酒井治郎[1984]「法律的所有と経済的所有をめぐって——奥村宏氏の所説を中心にして」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 23 巻第 2 号.
- 酒井治郎[1985]「企業実体概念をめぐる問題——黒沢清教授の所説を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 24 巻第 1 号.
- 酒井治郎[1985]「会計上の利益と企業者利得をめぐる問題」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 24 巻第 4 号.
- 酒井治郎[1988]「会計理論及び企業会計原則のとり企業実体説の検討——配当に関する税法との差異を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 27 巻第 2 号.
- 酒井治郎[1988]「創業者利得の取得主体と創業者利得概念の一考察——ヒルファディング創業者利得論の解釈をめぐる問題を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 27 巻第 3・4 号.
- 酒井治郎[1989]「アメリカ法人税の発達と資本主理論——H. R. Hatfield の所説の検討を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 27 巻第 5・6 号.
- 酒井治郎[1990]「会計主体論争に関する問題——「所有と機能の分離」の考察」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 28 巻第 6 号.
- 酒井治郎[1990]「ビジネス・エンティティ観と会計主体——山榊忠恕教授の所説に関連して」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 29 巻第 2 号.
- 酒井治郎[1991]「利益処分項目」とそれらの財務諸表上の表示問題——法人税, 配当金, 役員賞与の検討を通して」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 29 巻第 4・5 号.
- 酒井治郎[1991]「アンソニー財務会計論」の一考察——主として持分と持分利子の概念を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 30 巻第 2 号.
- 酒井治郎[1992]『会計主体と資本会計——会計学基本問題の研究』中央経済社.
- 酒井治郎[1993]「アメリカ FASB の「持分」概念をめぐる問題——非営利組織体の「純資産」概念に関連して」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 32 巻第 3 号.
- 酒井治郎[1995]「株式プレミアムと合併差益をめぐる問題——最近の事例と大正期プレミアム論争における評価益説に関連して」『産業経理』産業経理協会, 第 55 巻第 1 号.
- 酒井治郎[1995]「株式会社論をめぐる主要問題——内川菊義・中村義彦共著『現代株式会社論』に関連して」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 34 巻第 3 号.

- 酒井治郎[1996]「大正期の株式プレミアム＝「非利益説」の検討——下野直太郎・上田貞次郎両教授の見解を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第34巻第6号。
- 酒井治郎[1996]「大正期の株式プレミアム＝「利益説」の検討——プレミアムに対する課税問題に関連して」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第35巻第1号。
- 酒井治郎[1997]「プレミアム課税論争の検討——昭和初期までの課税肯定論と否定論をめぐって」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第35巻第6号。
- 酒井治郎[1998]「「株式プレミアム論争」に関する批判的見解——寺田稔教授の所説を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第37巻第2号。
- 酒井治郎[1999]「会計主体と資本剰余金をめぐる問題——「企業体理論」と「持分」の検討を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第37巻第5号。
- 酒井治郎[1999]「株式会社会計と学校法人会計——会計主体と「持分（純資産）」の検討を中心に」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第37巻第6号。
- 酒井治郎[1999]「所要機能資本説の検討——別府正十郎教授の所説をめぐって」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第38巻第3号。
- 酒井治郎[2000]「ヒルファディング創業者利得論をめぐって——主として『金融資本論』（第2編）第7章「株式会社」の検討」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第39巻第2号。
- 酒井治郎[2001]『簿記会計学入門講義』税務経理協会。
- 酒井治郎[2005]「営利企業と非営利組織体の会計における調和化をめぐる問題——会計主体と「持分（純資産）」の検討を中心に」『産業・社会・人間』産業社会学会，第5号。
- 酒井治郎[2005]「商法の資本制度の変遷と株式会社観」『産業・社会・人間』産業社会学会，第6号。
- 酒井治郎[2005]「自己株式に関する商法と会計上の問題——併せて2001（平成13）年改正商法の配当可能利益概念の検討」『羽衣学園短期大学研究紀要』羽衣学園短期大学，第41号。
- 酒井治郎[2006]『資本制度の会計問題——商法・会社法に関連して』中央経済社。
- 酒井治郎[2007]「会計主体論の研究序説」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第46巻第4号。
- 酒井治郎[2013]『会計学の基本問題——会計観の株主＜資本主＞中心から企業本位への変遷』文理閣。
- 境毅[2016]「グローバル資本市場での高利資本のヘゲモニー」『進歩と改革』進歩と改革研究会，第776号。
- 境毅[2020]「過渡期における協同組合と株式会社との歴史的役割の共通性」，柏井宏之・樋口兼次・平山昇共編『西暦2030年における協同組合——コロナ時代と社会的連帯経済への道』＜ダルマ舎叢書3＞社会評論社。
- 堺雄一[1969]「機関投資家と証券市場の発達」『証券経済学会年報』証券経済学会，第4号。
- 堺雄一[1970]「1930年代のアメリカ生命保険会社と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第5号。
- 堺雄一[1976]「証券市場と機関投資家問題」『証券経済学会年報』証券経済学会，第11号。
- 堺雄一[1993]『アメリカ私募証券市場の発展と構造——生命保険会社の証券引受活動と証券引受機構の研究』有斐閣。
- 阪上孝[1979]「サン＝シモニアンのエconomic批判」『人文学報』京都大学人文科学研究所，第47号。
- 阪上孝[1981]『フランス社会主義——管理か自立か』新評論。
- 坂口明義[1990]「国際通貨体制の行方をめぐって——M.アグリエッタとR.サンドレットの国際通貨論について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第173号。
- 坂口明義[1992]「貯蓄貸付組合（S&L）問題の意味するもの——議会・規制当局の対応とその帰結についての考察」『東北学院大学論集 経済学』東北学院大学学術研究会，第120号。

- 坂口明義[1997]「金融自由化に関する M. アグリエッタの所説——『金融のマクロ経済学』(1995年)の理論枠組を探る」『東北学院大学論集 経済学』東北学院大学学術研究会, 第 135 号.
- 坂口明義[2005]「レギュレーション派の貨幣金融論——概念的成果とその課題」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第 42 巻第 2 号.
- 坂口明義[2008]『貨幣経済学の基礎』ナカニシヤ出版.
- 坂口明義[2012]「書評 宇仁宏幸・山田鋭夫・磯谷明徳・植村博恭著『金融危機のレギュレーション理論——日本経済の課題』」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第 48 巻第 4 号.
- 坂野幹夫[1958]『新しい株式投資』ダイヤモンド社.
- 坂野幹夫[1960]『投資信託の実際知識』東洋経済新報社.
- 坂野幹夫[1962]『投資信託入門』東洋経済新報社.
- 坂野幹夫[1968]「証券会社」, 木村増三編『証券経済講座 第 4 巻——証券流通市場と株価形成』東洋経済新報社.
- 坂野幹夫[1980]『証券市場通論』文雅堂銀行研究社.
- 坂野幹夫[1985]『最新証券市場論』文雅堂銀行研究社.
- 坂野幹夫[1987]「韓国の金融・資本市場」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 80 号.
- 坂野幹夫[1991]「台湾金融資本市場の現況と問題点」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 100 号.
- 坂本正[1976]「ヒルファディング証券市場論と産業支配の構造」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 11 号.
- 坂本正[1976]『金融資本論』の基本構成——金融資本と金融市場 (1)『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第 38 号.
- 坂本正[1977]「金融市場論の理論展開——『金融資本論』を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 12 号.
- 坂本正[1977]「ヒルファディング「独占形成」論の構造——金融資本と金融市場 (2)」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第 39 号.
- 坂本正[1977]「流通信用」と再生産——ヒルファディングにおける商業銀行機能の把握 (1)『経済学研究』九州大学経済学会, 第 43 巻第 4 号.
- 坂本正[1978]「「資本信用」と商業銀行——ヒルファディングにおける商業銀行機能の把握 (2)」『現代経済学の諸問題』<熊本商科大学経済学部開設 10 周年記念論文集>熊本商科大学.
- 坂本正[1983]「金融寡頭制と国際金融市場——J.P. モルガン商会とドーズ公債」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 18 号.
- 坂本正[1983]「金融資本と独占——ヒルファディング独占理論の意義」『岡山大学経済学会雑誌』岡山大学経済学会, 第 14 巻第 3・4 号.
- 坂本正[1988]「ターム・ローンの流動性と証券市場——資本信用と信用制度」『海外事情研究』熊本学園大学付属海外事情研究所, 第 16 巻第 1 号.
- 坂本正[1988]「資本信用と信託会社——アメリカの第一次金融革新と信託会社の勃興」, 高瀬泰之編集代表『現代経済学の諸問題 2』熊本商科大学.
- 坂本正[1989]「資本信用と商業銀行の構造変化」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 6 号.
- 坂本正[1992]「証券業資本と金融革新——アメリカを中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 27 号.
- 坂本正[1994]「深 $\equiv$ の株の取引」『海外事情研究』熊本学園大学付属海外事情研究所, 第 21 巻第 2 号.
- 坂本正[1997]「1935 年銀行法と銀行の証券引受拡大策——グラスによる資本市場復興策」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 32 号.
- 坂本正[1997]『金融革新の源流』<熊本学園大学付属海外事情研究所研究叢書 19>熊本学園大学付属海外事情研究所.
- 坂本正[1997]「金融革新と擬制資本」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 15 号.
- 坂本正・岡本恵也・平岡賢司[1998]『現代金融の諸問題』<熊本学園大学産業経営研究所研究叢書 27>熊本学園大学産業経営研究所.
- 坂本正[1999]「1935 年銀行法と公開市場操作」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 34 号.
- 坂本正[2000]「グラム＝リーチ＝ブライリー法の衝撃

- グラス＝スティーガル法の改正と銀行・証券・保険の統合化』『海外事情研究』熊本学園大学付属海外事情研究所，第27巻第2号。
- 坂本正[2000]「グラム＝リーチ＝プライリー法と金融統合——グラス＝スティーガル法の改正と証券業務」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第24号。
- 坂本正[2001]「アメリカの金融制度改革と金融統合」『信用理論研究』信用理論研究会，第19号。
- 坂本正[2003]「アメリカの金融革新とファースト・アカウンツ」，下平尾勲編著『現代の金融と地域経済』新評論。
- 坂本正[2007]「擬制資本と銀行」『信用理論研究』信用理論研究会，第25号。
- 坂本正[2010]「金融革新の破綻と政府による市場の再生——金融政策と金融行政の役割」『信用理論研究』信用理論研究会，第28号。
- 坂本正・詹向阳編[2019]『サブプライム金融危機と国家市場経済』蒼天社出版。
- 坂本恒夫[1974]「現代株式会社金融論の分析視角について——馬場克三教授の所説を中心に」『経営論集』明治大学経営学研究所，第22巻第1号。
- 坂本恒夫[1977]「現代株式会社支配論の分析視角について——とりわけ配当政策を中心に」『経営論集』明治大学経営学研究所，第24巻第3・4号。
- 坂本恒夫[1977]「企業支配概念と法人化現象」『証券経済学会年報』証券経済学会，第12号。
- 坂本恒夫[1980・81]「企業集団財務論——とりわけその財務的機能について」(1・2・3・4)，『第一経大論集』第一経済大学経済研究会，第10巻第1号・第2号・第3号・第4号。
- 坂本恒夫[1982]「『日本の経営財務』と企業集団財務」，日本経営財務研究会編『日本の経営財務の解明』中央経済社。
- 坂本恒夫[1982・86]「株式会社財務論の方法——企業集団財務論方法序説」(1・2・3)，『創価経営論集』創価大学経営学会，第6巻第2号・第10巻第2号・第11巻第1号。
- 坂本恒夫[1982・83・89・90]「減量経営下における株式持合いの構造と機能」(1・2・3・4・5)，『創価経営論集』創価大学経営学会，第7巻第1号・第2号・第8巻第1号・第14巻第1号・第2号。
- 坂本恒夫[1983]「企業集団財務における内部取引と外部取引——インタレストグループの交錯取引に関連して」『経営論集』明治大学経営学研究所，第31巻第2号。
- 坂本恒夫[1984]「企業集団財務の機能的特質」『証券経済学会年報』証券経済学会，第19号。
- 坂本恒夫[1987]「都市銀行の国際戦略と企業集団財務の変容——国際金融証券市場の重層化と分割化」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第159号。
- 坂本恒夫[1987]「国際金融・証券市場の構造変化と企業集団財務の変容」『創価経営論集』創価大学経営学会，第12巻第1号。
- 坂本恒夫[1988]「合併・買収と会社財務」『創価経営論集』創価大学経営学会，第13巻第1号。
- 坂本恒夫[1990]『企業集団財務論』泉文堂。
- 坂本恒夫[1990]「企業集団経営論の視点と課題」『創価経営論集』創価大学経営学会，第15巻第1号。
- 坂本恒夫[1991]「企業集団経営の史的分析」『創価経営論集』創価大学経営学会，第15巻第2号。
- 坂本恒夫[1991]「『成果占有者支配論』と企業集団」『経営論集』明治大学経営学研究所，第38巻第2号。
- 坂本恒夫[1991]「『経営者支配理論』と企業集団」『創価経営論集』創価大学経営学会，第15巻第3号。
- 坂本恒夫[1993]『企業集団経営論』同文館出版。
- 坂本恒夫[1993]「BIS規制と企業集団財務」(上・下)，『経営論集』明治大学経営学研究所，第40巻第1・2号・第3・4号。
- 坂本恒夫[1994]「企業集団研究方法序説」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第47巻第3号。
- 坂本恒夫[1995]「大企業の財務管理と企業集団」『経営論集』明治大学経営学研究所，第42巻第1

- 号.
- 坂本恒夫・佐久間信夫編[1996]『企業集団研究の方法』<シリーズ企業集団研究 1>文真堂.
- 坂本恒夫[1996]「都市銀行支配とコーポレート・ガバナンス論」『同志社商学』同志社大学商学会, 第48巻第1号.
- 坂本恒夫[1997]「企業集団支配とコーポレート・ガバナンス論」『明治大学社会科学研究所紀要』明治大学社会科学研究所, 第35巻第2号.
- 坂本恒夫・佐久間信夫編[1998]『企業集団支配とコーポレート・ガバナンス』<シリーズ企業集団研究 2>文真堂.
- 坂本恒夫・佐久間信夫編[2000]『企業集団と企業間結合の国際比較』<シリーズ企業集団研究 2>文真堂.
- 坂本恒夫[2001]「多国籍銀行の経営戦略と銀行・株式市場間関係——英国4大銀行を中心に」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第48巻第3・4号.
- 坂本恒夫編[2002]『現代コーポレートファイナンス論』税務経理協会.
- 坂本恒夫編[2002]『テキスト財務管理論』中央経済社(第2版, 2005年. 第3版, 2007年. 第4版, 2011年. 第5版(坂本恒夫・鳥居陽介編), 2015年).
- 坂本恒夫[2003]「英国四大銀行のコーポレート・ガバナンス」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第44巻第3号.
- 坂本恒夫・大坂良宏編著[2004]『テキスト現代企業論』同文館出版(改訂版, 2007年. 第3版, 2012年. 第4版(坂本恒夫・大坂良宏・鳥居陽介編著), 2015年).
- 坂本恒夫[2004]「役員報酬と業績・株価」『明治大学社会科学研究所紀要』明治大学社会科学研究所, 第43巻第1号.
- 坂本恒夫・文堂弘之編著[2006]『図解M&Aのすべて』税務経理協会.
- 坂本恒夫・文堂弘之編著[2008]『M&A戦略のケース・スタディ——ディール・プロセス別』中央経済社.
- 坂本恒夫・文堂弘之編著[2010]『M&Aと制度再編』同文館出版.
- 坂本恒夫[2010]「市場のグローバリゼーションと企業ガバナンス」, 飯田和人編著『危機における市場経済』日本経済評論社.
- 坂本恒夫[2012]『イギリス4大銀行の経営行動1985-2010——株主価値経営の形成・展開・崩壊』中央経済社.
- 坂本恒夫・鳥居陽介編[2014]『テキスト経営分析』税務経理協会.
- 坂本恒夫[2015]「米国巨大銀行における株主価値経営破綻の構図とその後の経営行動の特質に関する研究」『明治大学社会科学研究所紀要』明治大学社会科学研究所, 第53巻第2号.
- 坂本恒夫・鳥居陽介編著[2018]『企業財務と証券市場の研究』中央経済社.
- 坂本恒夫[2018]「財務から見た証券市場」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第65巻第2-4号.
- 坂本恒夫[2019]「リーマン・ショック以降におけるシティーグループの経営行動(2000年前後から今日まで)——ポスト株主価値経営の行方」『熊本学園商学論集』熊本学園大学商学会, 第23巻第2号.
- 坂本恒夫[2019]「リーマン・ショック以降におけるJPモルガン・チェースの経営行動(2000年前後から今日まで)——ポスト株主価値経営の行方」『明治大学社会科学研究所紀要』明治大学社会科学研究所, 第57巻第2号.
- 向坂逸郎[1948]「ルドルフ・ヒルファディングと『金融資本論』」『書評』日本出版協会, 第3巻第10号.
- 崎山政毅・井上康[2017]「新たな段階の架空資本の解明に向けた理論的準備」『立命館文学』立命館大学人文学会, 第653号.
- 作道潤[1980・81]「19世紀フランスにおける株式会社制度の発展(1807-1867)——C.E.フリードマンの業績によせて(1・2)」, 『神戸学院経済学論集』神戸学院大学経済学会, 第12巻第3号・第13巻第1・2号.
- 佐久間隆人[1981]「独占形成期におけるイギリス株式

- 会社の特徴と鉄鋼業の資本構造について——  
“Stock Exchange Official Intelligence”  
(1882-1914年)の検討を通じて『経済系』関  
東学院大学経済経営学会，第130号。
- 佐久間信夫[2009]「株式会社の機関設計とコーポレー  
ト・ガバナンス」，細川孝・桜井徹編著『転換期  
の株式会社——拡大する影響力と改革課題』＜現  
代社会を読む経営学4＞ミネルヴァ書房。
- 櫻井公人[2010]「金融グローバリゼーションと「カジ  
ノ資本主義」——サブプライム問題の歴史的位  
相」，馬田啓一・木村福成・田中素香編著『検  
証・金融危機と世界経済——危機後の課題と展  
望』勁草書房。
- 櫻井毅・浜田好通・春田素夫・山口重克・永谷清・河  
西勝[1979]『経済原論』＜経済学叢書＞世界書  
院。
- 櫻井毅・山口重克・佐美光彦・伊藤誠編[1980]『経済  
学Ⅰ——資本主義経済の基礎理論』＜有斐閣大学  
双書＞有斐閣。
- 櫻井毅・山口重克・佐美光彦・伊藤誠編[1980]『経済  
学Ⅱ——資本主義経済の発展』＜有斐閣大学双書  
＞有斐閣。
- 櫻井毅[2014]「岩田弘の世界資本主義論とその内的叙  
述としての経済理論」『武蔵大学論集』武蔵大学  
経済学会，第62巻第1号。
- 櫻井毅[2015]「覚書・「資本の商品化」にひそむ論点  
——宇野純粋資本主義論に関連して」『武蔵大学  
論集』武蔵大学経済学会，第63巻第1号。
- 櫻井毅[2019]『宇野経済学方法論私解』社会評論社。
- 櫻井毅[2021]「資本家と経営者の概念(1)——西山  
教授による現代日本の株式会社における「経営  
者」の理解」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学  
会，第69巻第1号。
- 櫻井徹[2009]「現代株式会社の社会的責任と社会的規  
制」，細川孝・桜井徹編著『転換期の株式会社  
——拡大する影響力と改革課題』＜現代社会を読  
む経営学4＞ミネルヴァ書房。
- さくら原論研究会編・泉正樹・江原慶・柴崎慎也・結  
城剛志著[2019]『これからの経済原論』ぱる出  
版。
- 佐合統一[1971]「アメリカの投資銀行と商業銀行」  
『経営研究』大阪市立大学経営学会，第114号。
- 佐合統一[1973]「投資銀行の機能とその限界——J.ク  
ック商会倒産の意義」『経営研究』大阪市立大学  
経営学会，第125号。
- 佐合統一[1974]「アメリカ金融資本における財務構造  
の展開——1920年代」『経営研究』大阪市立大学  
経営学会，第133号。
- 佐合統一[1976]「金融資本への移行期におけるアメリ  
カ鉄道会社の金融構造」『経営研究』大阪市立大  
学経営学会，第27巻第3号。
- 佐合統一[1977]「アメリカ鉄道業における独占形成と  
財務構造の展開——いわゆる「モルガン化政策」  
 (“Morganization”) の意義」『経営研究』大阪市  
立大学経営学会，第28巻第4号。
- 佐合統一[1980]「証券投機信用論について——川合教  
授の所説について」『証券経済』日本証券経済研  
究所大阪研究所，第131号。
- 佐合統一[1984]「アメリカ工業証券市場の成立過程に  
ついて——Navin & Sears の見解の再検討」『経  
営研究』大阪市立大学経営学会，第34巻第5・6  
号。
- 佐合統一[1985]「アメリカ工業証券市場の形成」『経  
営研究』大阪市立大学経営学会，第36巻第4  
号。
- 佐合統一[1986]『企業財務と証券市場——アメリカ株  
式会社金融の成立』同文館出版。
- 佐合統一[1986]「アメリカにおける巨大株式会社の形  
成と財務政策」『経営研究』大阪市立大学経営学  
会，第36巻第5・6号。
- 佐合統一[1987]「世紀転換期におけるアメリカ商業銀  
行と投資銀行業務——世紀転換期アメリカにおけ  
る銀行業と証券業(1)」『経営研究』大阪市立大  
学経営学会，第37巻第5・6号。
- 佐合統一[1987]「大企業の成立と企業財務の変化——  
世紀転換期アメリカにおける銀行業と証券業  
(2)」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第38  
巻第5号。
- 佐合統一[1987]「アメリカの商業銀行と投資銀行——  
世紀転換期を中心として」『信用理論研究』信用

- 理論研究会, 第4号.
- 佐合絏一[1988]「アメリカ鉄道業における過大資本化と証券・資本規制——19世紀における州規制」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第39巻第4号.
- 佐合絏一[1989]「アメリカ鉄道証券・財務に対する連邦規制の展開——1887年州際通商法から1920年運輸法まで」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第40巻第3号.
- 佐合絏一[1990]「エクイティファイナンスと擬制資本の運動」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第40巻第5・6号.
- 佐合絏一[1990]「オーバーキャピタリゼーションとエクイティファイナンス」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第25号.
- 佐合絏一[1991]「過大資本の2つの側面——ヴェブレンとミードの資本概念」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第42巻第1号.
- 佐合絏一[1997]「擬制資本運動の展開に関する一考察」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第48巻第2号.
- 佐合絏一[1997]「擬制資本の展開」『信用理論研究』信用理論研究会, 第15号.
- 佐合絏一[1998]「アメリカ初期株式会社の財務政策」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター, 第13号.
- 佐合絏一[1998]「ボストンにおける資金形成と株式会社の生成」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第33号.
- 佐合絏一[1998]「ニュー・イングランドにおける繊維株式会社の形成と株主」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第49巻第3号.
- 佐合絏一[1999]「株価と企業財務からみた外国人投資家の投資行動」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター, 第14号.
- 佐合絏一[2000]「日本株市場における外国人の投資動向——国内投資家との比較」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第51巻第1号.
- 佐合絏一[2000]「台湾における株式市場と企業の財務政策——企業の成長性と資金の大衆性」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第51巻第3号.
- 佐合絏一[2001]「ニュー・イングランド初期商業銀行と繊維株式会社」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第52巻第3号.
- 佐合絏一[2002]「リスク管理とコーポレート・ガバナンス」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第52巻第4号.
- 佐合絏一[2003]『ニューイングランド繊維株式会社とボストン金融機関——アメリカ初期株式会社の資本蓄積構造』泉文堂.
- 佐々木吉郎[1948]『経営経済学への道』白山書房.
- 佐々木吉郎編[1948]『経営経済学』東洋書館.
- 佐々木吉郎・古川栄一編[1955]『経営学講座 第2』巖松堂書店.
- 佐々木建[1969]「第二次大戦前におけるフランス資本主義の分析視角——いわゆる「高利貸の帝国主義」の規定をめぐって」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第101-103号.
- 佐々木建[1970]「フランス金融資本成立過程をめぐる諸問題——統計分析を中心として」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第104-106号.
- 佐々木建[1970]「フランス金融資本の戦後危機対応過程の基本論理」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第109号.
- 佐々木建[1972・73]「西ドイツ炭鉱業における独占体支配構造の再編成」(上・下), 『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第116-118号・第125号.
- 佐々木建[1973]「ド・ゴール体制下におけるフランス金融資本の再編成の基本構造」(上・下), 『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第122-124号・第127号.
- 佐々木建[1980]「企業経営の史的分析と歴史認識——一つの仮説的覚書」(1・2・3), 『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第31巻第1号・第2号・第3号.
- 佐々木秀太[1981]『金融資本論』における株式会社, 独占と金融資本」(上・下), 『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第29巻第6号・第30巻第2号.
- 佐々木秀太[1983]「金融資本概念の理論的考察」

- (上・下),『立命館経済学』立命館大学経済学会,第32巻第3号・第4号.
- 佐々木秀太[1985]「資本家的所有と株式会社」『経済科学通信』基礎経済科学研究所,第47号.
- 佐々木秀太[1987]「現代資本主義論と株式会社」,基礎経済科学研究所編『講座・構造転換4——経済学の新展開』青木書店.
- 佐々木隆雄[1977]「石油カルテルとユーロ・カレンシー市場」『証券研究』日本証券経済研究所,第54号.
- 佐々木隆雄[2006]「アメリカの住宅ブーム」『経済志林』法政大学経済学部学会,第73巻第3号.
- 佐々木隆雄[2010]「大バブルの長期的反復の危険性」『経済志林』法政大学経済学部学会,第77巻第3号.
- 佐々木隆雄・上野昂[2019]「経済・産業・実務シリーズ 国債・レポ取引の決済期間短縮と清算リスク管理」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会,第57巻第11号.
- 佐々木隆雄[2022]「日本国債の新しい清算システムが稼働——リプレースに合わせて利便性向上策の導入やBCP体制を強化」『資本市場』資本市場研究会,第440号.
- 佐々木仁[1970]「戦後アメリカの銀行集中——銀行合同運動と銀行持株会社の銀行構造的視点での理解」『名城商学』名城大学商学会,第20巻第2号.
- 佐々木仁[1974]「1960年代アメリカにおける銀行株式会社の展開」『名城商学』名城大学商学会,第24巻第1号.
- 佐々木仁[1975]「銀行持株会社とコルレス銀行組織——最近のアメリカ商業銀行構造把握の一視点」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科,第36巻第4号.
- 佐々木隆治[2021]「資本主義の最終の発展形態としての「レント資本主義」」『神奈川大学評論』神奈川大学広報委員会,第99号.
- 笹原昭五[1963]「金融・証券」,井汲卓一・今井則義編『日本経済分析』至誠堂.
- 笹原昭五[1967]「わが国の初期石油業における企業集中過程と資金調達性格」『経済学論纂』中央大学経済学研究会,特別号.
- 貞松茂[1980]「R. A. ゴードン著『ビジネス・リーダーシップ——アメリカ大会社の生態』に関する一考察」『法学・経営学論集』西南学院大学大学院,第5号.
- 貞松茂[1981]「バーリ・ミーンズ著『近代株式会社と私有財産』に関する一考察」『法学・経営学論集』西南学院大学大学院,第6号.
- 貞松茂[1982]「J. バーナム著『経営者革命』に関する一考察」『経営学研究論集』西南学院大学大学院,第1号.
- 貞松茂[1986]「巨大株式会社と機能資本——アメリカ経営学説の検討」『徳島文理大学研究紀要』徳島文理大学研究紀要編集委員会,第31号.
- 貞松茂[1986]「巨大株式会社における所有と支配」『証券経済学会年報』証券経済学会,第21号.
- 貞松茂[1986]「J. スコットの企業支配論」『徳島文理大学研究紀要』徳島文理大学研究紀要編集委員会,第32号.
- 貞松茂[1987]「ドラッカーの「支配なき所有」論——『産業人の未来』を中心として」『徳島文理大学研究紀要』徳島文理大学研究紀要編集委員会,第33号.
- 貞松茂[1987]「ドラッカーの「所有なき支配」論——The New Societyを中心として」『徳島文理大学研究紀要』徳島文理大学研究紀要編集委員会,第34号.
- 貞松茂[1988]「J. K. ガルブレイスのテクノストラクチャ論——The New Industrial Stateを中心として」『徳島文理大学研究紀要』徳島文理大学研究紀要編集委員会,第35号.
- 貞松茂[1988]「フィッチとオープンハイマーの金融支配論」『徳島文理大学研究紀要』徳島文理大学研究紀要編集委員会,第36号.
- 貞松茂[1989]「巨大株式会社の支配構造——個別資本の運動法則と企業形態展開の論理とを基礎として」『徳島文理大学研究紀要』徳島文理大学研究紀要編集委員会,第37号.
- 貞松茂[1990]「イギリス大会社の所有と支配——ニイ

- マン＝シルバーストンの所説を中心として」『徳島文理大学研究紀要』徳島文理大学研究紀要編集委員会，第39号。
- 貞松茂[1991]「巨大株式会社の支配形態——「共同支配モデル」の理論的および経験的基礎づけの試み」『徳島文理大学研究紀要』徳島文理大学研究紀要編集委員会，第41号。
- 貞松茂[1992]「巨大株式会社の支配モデル」『証券経済学会年報』証券経済学会，第27号。
- 貞松茂[1992]「証券市場と株式会社——アメリカにおける株式証券市場の展開と株式会社の所有・支配構造の変化」『熊本商大論集』熊本商科大学，第39巻第1号。
- 貞松茂[1994]『株式会社支配の研究』ミネルヴァ書房。
- 貞松茂[1995・96]「企業経済における証券市場——コーポレート・ガバナンス問題に寄せて」(1・2)，『産業経営研究』熊本学園大学付属産業経営研究所，第14号・第15号。
- 貞松茂[1996]「国民経済における証券市場——バブル経済のマクロ分析を通して」(1・2)，『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学会，第2巻第2号・第3・4号。
- 貞松茂[1997]「国際経済と証券市場——為替レートの株価への影響関係についての理論的基礎づけの試み」『長崎県立大学論集』長崎県立大学経済学部学術研究会，第30巻第3号。
- 貞松茂[1998]「株式市場によるコーポレート・ガバナンスとその経済的意義」『産業経営研究』熊本学園大学付属産業経営研究所，第17号。
- 貞松茂[2001]「わが国の証券市場改革と株式会社の変化——コーポレート・ガバナンス問題に寄せて」『証券経済学会年報』証券経済学会，第36号。
- 貞松茂[2002]「コーポレート・コントロールとコーポレート・ガバナンス」『証券経済学会年報』証券経済学会，第37号。
- 貞松茂[2004]『コーポレート・コントロールとコーポレート・ガバナンス』<Minerva 現代経営学叢書22>ミネルヴァ書房。
- 貞松茂[2006]「日本のコーポレート・ガバナンス・システム——監査役設置会社と委員会等設置会社の比較——銀行を例として」『産業経営研究』熊本学園大学付属産業経営研究所，第25号。
- 貞松茂[2007]「コーポレート・ガバナンス・システムと自由，権力の正当性および価値論」『産業経営研究』熊本学園大学付属産業経営研究所，第26号。
- 佐藤一光[2021]「福祉国家論の理論的再検討」『季刊経済理論』経済理論学会，第58巻第3号。
- 佐藤勝則[1978]「オーストリア・ハンガリー帝国史研究をめぐる諸問題(1)——研究の現状とその問題点」『西洋史研究』西洋史研究会，第7号。
- 佐藤勝則[1979]「オーストリア・ハンガリー帝国史研究をめぐる諸問題(2)——当該金融資本成立史研究に関する覚書」『茨城大学政経学会雑誌』茨城大学政経学会，第41号。
- 佐藤勝則[1987]「第1次大戦前のオーストリア・ハンガリーの信用構造とその特質」『茨城大学政経学会雑誌』茨城大学政経学会，第53号。
- 佐藤勝則[2005]「19世紀末オーストリアにおける都市建設と不動産抵当証券——ウィーン取引所史を手がかりに」『文化』東北大学文学会，第68巻第3・4号。
- 佐藤金三郎[1968]『『資本論』と宇野経済学』<現代経済学叢書7>新評論。
- 佐藤金三郎・岡崎栄松・降旗節雄・山口重克編[1977]『資本論を学ぶ』<有斐閣選書>有斐閣，全5巻。
- 佐藤定幸[1962]「ルドルフ・ヒルファディング」『一橋論叢』日本評論社，第47巻第4号。
- 佐藤定幸[1964]『世界の大企業』<岩波新書>岩波書店。
- 佐藤茂行[1978]「フランス初期社会主義と信用改革——「金融封建制」をめぐる試み」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第28巻第1号。
- 佐藤拓也[2010]「2008年世界経済危機と現代資本主義の性格」，一井昭編『グローバル資本主義の構造分析』<中央大学経済研究所研究叢書49>中央大学出版部。

- 佐藤正[1975]「米国大規模企業における所有と支配の分離——1960年代中頃に関する二つの実証的研究の検討」『新潟大学商学論集』新潟大学商業短期大学部，第8・9号。
- 佐藤俊幸[1993]「1986-87年の日本と西ドイツにおける金融動向の比較研究——株式市場を中心に」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科，第55巻第2号。
- 佐藤俊幸[1994]「1990年第1四半期における日本の株価暴落と西ドイツの株高・債券高との関連について——実体経済の動向と政府の経済政策を踏まえて」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科，第56巻第2号。
- 佐藤俊幸[1995]「1992年における日本政府の株価対策の株価への影響について——1991-92年における日本とドイツの株価動向の比較研究序説」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科，第57巻第1号。
- 佐藤俊幸[1998]「1991-92年における日本とドイツの実体経済と株式価格」『岐阜経済大学論集』岐阜経済大学学会，第31巻第4号。
- 佐藤俊幸[1998]「「バブル」期における株価諸理論の検討」『岐阜経済大学論集』岐阜経済大学学会，第32巻第1号。
- 佐藤俊幸[2002]『バブル経済の発生と展開——日本とドイツの株価変動の比較研究』新評論。
- 佐藤昇・高橋元・木村由紀雄・相沢幸悦著[1993]『入門 現代の証券市場』東洋経済新報社（第2版，2003年）。
- 佐藤昇[1994]「近年における資金シフトの特徴と債券市場の現状」『証券経済学会年報』証券経済学会，第29号。
- 佐藤昇・木村由紀雄・戸田壯一・小峰みどり・高橋元・相沢幸悦著[1994]『現代経済と証券市場』＜有斐閣ブックス＞有斐閣。
- 佐藤昇[1996]「証券会社の公社債業務」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第4号。
- 佐藤秀夫[2001]『国際経済の理論と現実』＜Minerva 現代経済学叢書43＞ミネルヴァ書房。
- 佐藤秀夫[2007]『国際経済——理論と現実』＜Minerva 現代経済学叢書92＞ミネルヴァ書房。
- 佐藤洋一[2012]「世界金融危機における国家金融資本主義の終焉」『社会情報学研究』大妻女子大学社会情報学部，第21号。
- 里見賢治[1970]「日本の産業資金調達構造の特質について——昭和30年代と40年代との対比を中心に」『経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第63巻第3号。
- 里見賢治[1971]「自己金融問題の理論化についての覚書」『経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第65巻第3号。
- 里見賢治[1975]「資本集中と株式会社」『社会問題研究』大阪社会事業短期大学社会問題研究会，第25巻第1-4号。
- 里見賢治[1975]「株式会社と自己金融」『社会問題研究』大阪社会事業短期大学社会問題研究会，第26巻第1-4号。
- 佐羽菊次[1968]「ヒルファディングの「流通信用」と「資本信用」」『立川短大論集』東京都立立川短期大学，第18号。
- 沢田武[1960]「株式会社の資本連結と会計形成の基盤」，山田盛太郎編『日本資本主義の諸問題』未来社。
- 蕭文嫻[1997]「清末上海における事業投資とその資金調達——ゴム株式恐慌（1910年）に至る過程を中心に」『社会経済史学』社会経済史学会，第63巻第5号。
- 蕭文嫻[1998]「香港上海銀行と中国政治借款の展開——1-1875年の清国政府第一次国債発行を中心に」『経済論叢』京都大学経済学会，第161巻第3号。
- 蕭文嫻[2005]「清末上海金融市場の形成における伝統金融機関山西票号の役割」『経済史研究』大阪経済大学日本経済史研究所，第9号。
- 蕭文嫻[2015]「1930年代における中国と国際金融センター——チャータード銀行の外国為替業務を中心に」『大阪経大論集』大阪経大学会，第66巻第3号。
- 蕭文嫻[2017]「香港金融の歴史と現在」『大阪経大論集』大阪経大学会，第68巻第2号。

- 塩沢由典[1990]『市場の秩序学——反均衡から複雑系へ』筑摩書房（ちくま学芸文庫，1998年）。
- 塩沢由典[1997]『複雑系経済学入門』生産性出版（増補，2020年，ちくま学芸文庫，筑摩書房）。
- 塩見治人[1978]『現代大量生産体制論——その成立史的研究』森山書店。
- 塩見治人・谷口明丈・溝田誠吾・宮崎信二[1986]『アメリカ・ビッグビジネス成立史——産業的フロンティアの消滅と寡占体制』東洋経済新報社。
- 重田澄男[2010]『再論資本主義の発見——マルクスと宇野弘蔵』桜井書店。
- 篠田武司[1975]「利子うみ資本論に関する一考察」『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科，第22巻第4号。
- 篠田武司[1976]『「要綱」における信用の必然性について』『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科，第23巻第3号。
- 篠田武司[1977]「T. トークの信用論について」『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科，第24巻第2号。
- 篠田武司[1979]「株式会社の「通過点」規定に関する一考察」『岐阜大学工学部研究報告』岐阜大学工学部，第29号。
- 篠田武司[1980]「株式会社と社会的資本」『岐阜大学工学部研究報告』岐阜大学工学部，第30号。
- 篠田武司[1982]「株式会社における所有と支配」『岐阜大学工学部研究報告』岐阜大学工学部，第32号。
- 篠田武司[1983]「株式会社における所有と支配」『証券経済学会年報』証券経済学会，第18号。
- 篠田武司[1984]「株式会社における所有問題」『評論』日本評論社，復刊第33巻第9号。
- 篠原三郎[1966]「「創業者利得論争」と株式会社——株式会社における所有を中心にして」『経済系』関東学院大学経済経営学会，第62号。
- 篠原三郎[1966]「擬制資本成立の基礎——「株式プレミアム論争」をめぐって」『経済系』関東学院大学経済経営学会，第65号。
- 篠原三郎[1966]「資本金の根本問題——「払込資本」論批判」『経済系』関東学院大学経済経営学会，第66号。
- 篠原三郎[1966]「馬場克三著『株式会社金融論』——T君への手紙」『経済系』関東学院大学経済経営学会，第68号。
- 篠原三郎・片岡信之著[1972]『批判的経営学』＜マルクス経済学全書20＞同文館出版。
- 篠原三郎[1978]「企業の「支配構造論」」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第16巻第5・6号。
- 篠原三郎[1982]「現代経営者論と日本的経営論の視点——産業官僚制論覚え書き」『法経研究』静岡大学法経学会，第30巻第3・4号。
- 篠原三郎[1983]「株式会社と経営者——監督賃金観念の成立をめぐって」『法経研究』静岡大学法経学会，第32巻第1号。
- 篠原三郎[1983]「会社所有の発展——「通過点」問題によせて」『法経研究』静岡大学法経学会，第32巻第3号。
- 篠原三郎[1985]「「会社それ自体」について——山口重克氏の否定論をめぐって」『法経研究』静岡大学法経学会，第33巻第3・4号。
- 篠原三郎[1985]「「財産の終焉」論をめぐって——「個人所有・機関所有パラダイム」批判」『法経研究』静岡大学法経学会，第34巻第1号。
- 篠原三郎[1985]「資本主義的生産過程の「二重性」論をめぐって——「個別資本論序説」からみた「財産の終焉」」『法経研究』静岡大学法経学会，第34巻第2号。
- 篠原三郎[1986]「管理の二重性論と株式会社論——稲村毅氏の批判にこたえて」『法経研究』静岡大学法経学会，第34巻第4号。
- 篠原三郎[1986]「株式会社論の課題——伊藤誠氏の「株式資本論の方法と展開」によせて」『法経研究』静岡大学法経学会，第35巻第2号。
- 篠原三郎[1987]「経営管理の「主体」——金融資本か，それとも」『法経研究』静岡大学法経学会，第35巻第3・4号。
- 篠原三郎[1987]「株式プレミアムと経営支配論——森岡孝二氏の創業利得論をめぐって」『法経研究』静岡大学法経学会，第36巻第2号。
- 篠原三郎[1990]「現代株式会社と「私的所有」」『法経

- 研究』静岡大学法経学会，第 39 卷第 3 号。
- 柴垣和夫[1961]「生川栄治『現代銀行論』——ドイツ信用銀行と資本形成』『経済評論』日本評論社，復刊第 10 卷第 8 号。
- 柴垣和夫[1963・64]「日本金融資本研究序説——財閥型金融資本の構造分析」(1・2)，『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第 15 卷第 2 号・第 3・4 号。
- 柴垣和夫[1964]「高度成長と金融資本の再編成』『思想』岩波書店，第 480 号。
- 柴垣和夫[1964]「自己金融と株式会社』『証券経済月報』大阪証券経済研究所，第 57 号。
- 柴垣和夫[1965]『日本金融資本分析』<東大社会科学研究叢書 14>東京大学出版会。
- 柴垣和夫[1966]「資本主義の「世界性」と「国民性」——帝国主義論の方法・覚え書』『思想』岩波書店，第 499 号。
- 柴垣和夫[1967]「金融寡頭制の成立——財閥の形成」，家永三郎・井上清・他編『近代日本の争点』(中)，毎日新聞社。
- 柴垣和夫[1968]『三井・三菱の百年——日本資本主義と財閥』<中公新書>中央公論社。
- 柴垣和夫[1968]「財閥と綿工業独占体——日本帝国主義の論理』『社会経済史学』社会経済史学会，第 33 卷第 6 号。
- 柴垣和夫[1968]「日本財閥の復活と再編成』『現代の眼』現代評論社，第 9 卷第 9 号。
- 柴垣和夫[1969]「開放体制下の日本金融資本』『経済評論』日本評論社，復刊第 18 卷第 14 号。
- 柴垣和夫[1970]「新しい金融資本——企業集団と日本資本主義』『金融財政事情』金融財政事情研究会，第 21 卷第 1 号。
- 柴垣和夫[1971]『日本資本主義の論理』<UP 選書>東京大学出版会。
- 柴垣和夫[1971]「「財閥」から「企業集団」へ——金融資本の形態変化とその意義』『経済評論』日本評論社，復刊第 20 卷第 3 号。
- 柴垣和夫[1972]「大企業金融』『証券研究』日本証券経済研究所，第 35 号。
- 柴垣和夫[1972]「日本金融資本の特質——拙著『日本金融資本分析』への書評をめぐって』『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第 24 卷第 2 号。
- 柴垣和夫[1975]「自己金融論再説——別府，中村両教授の批判にこたえて』『経済研究』一橋大学経済研究所，第 26 卷第 3 号。
- 柴垣和夫[1979]「財閥の特殊性と金融資本概念——富森虔児氏の再批判への回答』『社会科学の方法』御茶の水書房，第 12 卷第 8 号。
- 柴垣和夫[1981・82]「いわゆる法人資本主義についての覚書——国家独占資本主義論との関連で』『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第 33 卷第 5 号・第 33 卷第 6 号。
- 柴垣和夫[1995]『知識人の資格としての経済学』大蔵省印刷局。
- 柴垣和夫[1997]『現代資本主義の論理——過渡期社会の経済学』日本経済評論社。
- 柴垣和夫[1999]「資本と企業の経済理論・補遺——企業論・コーポレートガバナンス論との関連で』『証券経済研究』日本証券経済研究所，第 19 号。
- 柴垣和夫[2009]「世界恐慌と産業グローバル化の行方』『生活経済政策』生活経済政策研究所，第 149 号。
- 柴垣和夫[2014]「グローバル資本主義と経済政策——景気対策に焦点を置いて』『季刊 経済理論』経済理論学会，第 51 卷第 3 号。
- 柴崎慎也[2016]「商業資本のもとにおける債務の集積』『季刊 経済理論』経済理論学会，第 53 卷第 2 号。
- 柴崎慎也[2022]「株式資本論研究の展開』『経済志林』法政大学経済学部学会，第 89 卷第 2 号。
- 柴崎慎也[2022]「利子論から市場機構論への転回』『専修経済学論集』専修大学経済学会，第 57 卷第 2 号。
- 柴田信也[1965]「利子生み資本と信用制度——『資本論』第 3 部第 5 篇についての一考察』『研究年報 経済学』東北大学大学院経済学研究科，第 27 卷第 1 号。
- 柴田信也[1968]「『資本論』における信用制度論』『研

- 究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科，第29巻第1・2号。
- 柴田信也[1974]「流通費と信用制度」『金融経済』金融経済研究所，第144号。
- 柴田信也編著[2001]『政治経済学の原理と展開』創風社。
- 柴田信也編著[2011]『政治経済学の再生』創風社。
- 柴田武男[1987]「アメリカ資本市場におけるジャンク・ボンド発行の意味——委員会報告書を中心に」『証券研究』日本証券経済研究所，第80号。
- 柴田武男[1988]「ジャンク・ボンドと企業金融」『証券研究』日本証券経済研究所，第81号。
- 柴田武男[1988]「アメリカにおける起債市場の変貌——低格付債を中心にして」『証券研究』日本証券経済研究所，第84号。
- 柴田武男[1989]「株式市場の構造と日本経済」『月刊自治研』自治労サービス，第31巻第4号。
- 柴田武男・高橋豊治・斉藤美彦[1991]『金融・証券のしくみが<3時間>でわかる事典』明日香出版社。
- 柴田武男[1995]「ドレクセル社倒産後のジャンク・ボンド市場」『証券研究』日本証券経済研究所，第111号。
- 柴田武男[1995]「ディスカウント・ブローカー業の発展と業際問題」『証券研究』日本証券経済研究所，第113号。
- 柴田武男[1997]「年金資産運用と株式市場」『金融構造研究』金融構造研究会，第19号。
- 柴田武男[2002]「東京都の債券市場構想について」『聖学院大学論叢』聖学院大学，第15巻第1号。
- 柴田武男[2003]「中小企業金融と債券市場」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第41号。
- 柴田武男[2011]「金利規制と社債市場——利息制限法を中心として」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第51巻第12号。
- 柴田努[2008]「日本におけるM&A法制的規制緩和と株主重視の企業経営への転換——資本分配（株主配分・役員報酬）の増加と貸金抑制構造をめぐって」『日本の科学者』日本科学者会議，第43巻第5号。
- 柴田努[2009]「日本における株主配分の増加と貸金抑制構造——M&A法制的規制緩和との関わりで」『季刊 経済理論』経済理論学会，第46巻第3号。
- 柴田努[2011]「アメリカにおける株主価値重視の企業経営への転換——経済の金融化とコーポレート・ガバナンス」『工学院大学研究論叢』工学院大学，第49巻第1号。
- 柴田努[2011]「バーリ&ミーンスの株式会社論——巨大株式会社規制の理論的根拠をめぐって」『都留文科大学研究紀要』都留文科大学，第74号。
- 柴田努[2014]「成長戦略とコーポレート・ガバナンス——日本経済の構造変化と株主価値重視経営」『唯物論研究年誌』唯物論研究協会，第19号。
- 柴田努[2017]「株主価値重視経営と日本経済」『日本の科学者』日本科学者会議，第52巻第2号。
- 柴田努[2020]『企業支配の政治経済学——経営者支配の構造変化と株主配分』日本経済評論社。
- 柴田努[2021]「ステークホルダー資本主義への変化をどう捉えるか」『唯物論研究年誌』唯物論研究協会，第26号。
- 柴田徳太郎[1985]「1930年代アメリカ金融構造の特質——ニュー・ディール期の金融機構（1）」『西南学院大学経済学論集』西南学院大学学術研究所，第20巻第1号。
- 柴田徳太郎[1985・86・87]「ニューディール期の景気と金融——ニューディール期の金融機構（2）」（1・2・3），『西南学院大学経済学論集』西南学院大学学術研究所，第20巻第2・3号・第21巻第3号・第22巻第1号。
- 柴田徳太郎[1992・93・94]「大恐慌論の再検討——アメリカを中心として」（1・2・3・4），『経済学論集』東京大学経済学会，第58巻第1号・第4号・第59巻第2号・第4号。
- 柴田徳太郎編[1996]『大恐慌と現代資本主義——進化的論的アプローチによる段階論の試み』東洋経済新報社。
- 柴田徳太郎編[2007]『制度と組織——理論・歴史・現状』桜井書店。

- 柴田徳太郎[2009]『資本主義の暴走をいかに抑えるか』<ちくま新書>筑摩書房.
- 柴田徳太郎[2011]「世界金融危機とドル体制の行方」『比較経済研究』比較経済体制学会, 第48巻第1号.
- 柴田徳太郎編著[2016]『世界経済危機とその後の世界』日本経済評論社.
- 柴田徳太郎[2021]『J. R. コモンズの制度的経済学』日本経済評論社.
- 渋谷博史[1986]『現代アメリカ財政論』御茶の水書房.
- 渋谷博史[1992]『レーガン財政の研究』東京大学出版会.
- 渋谷博史・首藤恵・井村進哉編[2002]『アメリカ型企業ガバナンス——構造と国際的インパクト』東京大学出版会.
- 渋谷博史編[2011]『アメリカ・モデルの企業と金融——グローバル化とITとウォール街』<シリーズ・アメリカ・モデル経済社会 第10巻>昭和堂.
- 渋谷博史・河崎信樹・田村太一編[2013]『世界経済とグローバル化』<グローバル化を読みとく1>学文社.
- 渋谷博史・樋口均・塙武郎編[2013]『アメリカ経済とグローバル化』<グローバル化を読みとく2>学文社.
- 渋谷隆一・加藤隆・岡田和喜編[1989]『地方財閥の展開と銀行』日本評論社.
- 嶋田巧編著[2006]『世界経済』八千代出版(増補改訂版, 2009年).
- 嶋田巧・高屋定美・棚池康信編著[2006]『危機の中のEU経済統合——ユーロ危機, 社会的排除, プレグジット』文眞堂.
- 嶋野智仁[2015]「金融化が日本経済の資本蓄積に与える影響に関する実証分析——日本企業における「株主価値志向」浸透の観点から」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第51巻第4号.
- 嶋野智仁[2016]「日本経済における資本蓄積の様式の変化の要因——日本の非金融・保険業の金融化に着目した実証分析」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第53巻第3号.
- 嶋野智仁[2021]「日本製造業の金融化と資本蓄積——マイクロ・データによる実証分析」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第57巻第4号.
- 島本得一[1953]『徳川時代の証券市場の研究』産業経済社.
- 島本得一[1960]『蔵米切手の基礎的研究』産業経済社.
- 島本得一[1964]『米切手図録——徳川時代の有価証券』明徳舎.
- 島本得一編[1970]『堂島米会所文献集——世界最古の証券市場文献』所書店.
- 清水敦[2004]「信用・貨幣制度の原理と現代の金融危機」, SGCIME編『金融システムの変容と危機』御茶の水書房.
- 清水正昭[2013]「アメリカの金融自由化・証券化とS&L危機」『千葉商大論叢』千葉商科大学国府台学会, 第50巻第2号.
- 清水正昭[2018]『金融システムの不安定性と金融危機——日米英のバブルの発生と崩壊』日本経済評論社.
- 清水正昭[2022]「現代の金融危機とShadow Banking System——サブプライム金融危機に関連して」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第58巻第4号.
- 清水真志[2000]「証券市場論の生成と商業資本」『経済理論学会年報』経済理論学会, 第27集.
- 清水真志[2001]「商業資本論の展開と資本結合」『香川大学経済論叢』香川大学経済研究所, 第73巻第4号.
- 清水真志[2003]「企業統治と市場機構」『香川大学経済論叢』香川大学経済研究所, 第76巻第2号.
- 清水真志[2004]「銀行資本と信用機構」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第41巻第1号.
- 清水真志[2006]『商業資本論の射程——商業資本論の展開と市場機構論』ナカニシヤ出版.
- 清水真志[2006]「資本市場と企業統治」, SGCIME編『グローバル資本主義と企業システムの変容』御茶の水書房.
- 清水真志[2009・10]「商品経済の物神崇拜的性格」

- をめぐって」(1・2・3),『専修経済学論集』専修大学経済学会,第44巻第1号・第2号・第3号.
- 清水真志[2016・17]「貨幣資本家と資本——今日の「金融化」を背景にして」(1・2・3),『専修経済学論集』専修大学経済学会,第51巻第1号・第2号・第3号.
- 清水真志[2019]「金融化の原理的考察のために——貨幣的経済学の批判的検討」『季刊 経済理論』経済理論学会,第55巻第4号.
- 清水真志[2019]「「非資本」のいる市場と金融化——江原慶氏の批判に答える」『専修経済学論集』専修大学経済学会,第54巻第1号.
- 清水良樹[2012]「金融・経済危機におけるユーロシステム」『季刊 経済理論』経済理論学会,第49巻第1号.
- 清水嘉治[1965]『帝国主義論研究序説』有斐閣.
- 志村嘉一[1964]「アメリカの証券税制」『証券研究』日本証券経済研究所,第10号.
- 志村嘉一[1964]「株式市場の歴史性と本質——証券市場研究に関するノート」『専修大学論集』専修大学学会,第35号.
- 志村嘉一[1965]「証券市場の特殊性」,川口弘・川合一郎編『金融論講座5——日本の金融』有斐閣.
- 志村嘉一[1965]「株式市場の問題点と最近の対策をめぐって」『農林金融』農林中央金庫,第18巻第4号.
- 志村嘉一[1965]「日本証券市場の構造分析」(1・2),『証券研究』日本証券経済研究所,第15号・第17号.
- 志村嘉一[1966]「発行市場と証券所有——日本証券市場の構造分析」『証券研究』日本証券経済研究所,第18号.
- 志村嘉一[1967]「公社債市場の特質と低金利政計」,日本証券経済研究所編『日本証券市場の諸問題』東洋経済新報社.
- 志村嘉一[1968]「資本市場研究の課題」,鈴木鴻一郎編『マルクス経済学の研究』(下),東京大学出版会.
- 志村嘉一[1968]「日本資本市場における信託会社——資本市場の拡大・発展と信託会社の進出(1920年代後半～30年代)」『信託』信託協会,第73号.
- 志村嘉一[1968]「戦前の株式流通市場の金融的構造と特徴」『証券研究』日本証券経済研究所,第25号.
- 志村嘉一・野田正穂編[1969]『証券経済講座 第5巻——公社債と証券市場』東洋経済新報社.
- 志村嘉一[1969]『日本資本市場分析』東京大学出版会.
- 志村嘉一[1969]「証券市場と資本信用」『証券経済学会年報』証券経済学会,第4号.
- 志村嘉一[1969]「日本における優先株発行」『専修経営学論集』専修大学経営学会,第6号.
- 志村嘉一[1970]「企業金融の多様化と金融市場」『経済評論』日本評論社,復刊第19巻第6号.
- 志村嘉一[1971]「金融再編成と企業集団」『経済評論』日本評論社,復刊第20巻第7号.
- 志村嘉一[1972]「証券市場の構造変化」『証券研究』日本証券経済研究所,第35号.
- 志村嘉一[1974]「証券制度改革」,東京大学社会科学研究所編『戦後改革7——経済改革』東京大学出版会.
- 志村嘉一[1974]「現代金融資本の変貌と寄生性」『経済評論』日本評論社,復刊第23巻第2号.
- 志村嘉一[1975]「資本蓄積と証券市場」,東京大学社会科学研究所編『戦後改革8——改革後の日本経済』東京大学出版会.
- 志村嘉一[1978]『現代日本公社債論』東京大学出版会.
- 志村嘉一編著[1980]『日本公社債市場史』東京大学出版会.
- 志村嘉一[1981]「金融市場の現局面」『経済評論』日本評論社,復刊第30巻第5号.
- 志村嘉一・山口重克・小野英祐・佐々木隆雄・春田素夫[1983]『現代金融の理論と構造』東洋経済新報社.
- 志村嘉一監修・日本証券経済研究所編[1984]『戦後証券史を語る』(上・下),日本証券経済研究所.
- 志村嘉一[1984]「公信用膨張の金融的影響」『証券研

- 究』日本証券経済研究所，第72号。
- 志村嘉一編[1986]『現代日本の公社債市場』東京大学出版会。
- 下川浩一[1973]「寡占体制と経営者支配」，野口裕・片山伍一・荒川邦寿編『現代日本の株式会社』南雲堂深山社。
- 下川浩一[1976]「『日本株式会社』のアウトサイダー」，森川英正編『日本経営史講座 第4巻——日本の企業と国家』日本経済新聞社。
- 下平尾勲[1969]「利子論の方法——宇野理論の批判的研究」『経済・経営研究』九州経済学会，第7号。
- 下平尾勲[1974]『貨幣と信用——形態論研究』新評論。
- 下平尾勲[1978]『信用と景気循環』新評論。
- 下平尾勲[1988]『円高と金融自由化の経済学』新評論。
- 下平尾勲[1997]「信用制度について」『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第30巻第3・4号。
- 下平尾勲[1998]「信用制度の発展について——簡単なスケッチ」『商学論集』福島大学経済学会，第66巻第4号。
- 下平尾勲[1999]『信用制度の経済学』新評論。
- 下平尾勲[2000・01]「金融再編成の構図」(1・2・3・4)，『商学論集』福島大学経済学会，第69巻第1号・第2号・第3号・第4号。
- 下平尾勲編著[2003]『現代の金融と地域経済』新評論。
- 証券経営研究会編[1998]『金融市場の変貌と証券経営』日本証券経済研究所。
- 証券経営研究会編[2001]『証券会社の組織と戦略』日本証券経済研究所。
- 証券経営研究会編[2004]『証券ビジネスの再構築』日本証券経済研究所。
- 証券経営研究会編[2011]『金融規制の動向と証券業』日本証券経済研究所。
- 証券経営研究会編[2015]『資本市場の変貌と証券ビジネス』日本証券経済研究所。
- 証券経営研究会編[2018]『変貌する金融と証券業』日本証券経済研究所。
- 証券経営研究会編[2021]『現代金融資本市場の総括的分析』日本証券経済研究所。
- 証券経済学会・日本証券経済研究所編[2017]『証券事典』金融財政事情研究会。
- 白川清[1968]『資本主義発展と国際貿易』亜紀書房。
- 白川清[1972]「株式資本の論理と独占価格」『土地制度史学』土地制度史学会，第14巻第3号。
- 白川清[1974]『経済学原論』時潮社。
- 白川清[1975]「独占資本形成の論理」『名城商学』名城大学商学会，第25巻第2号。
- 白川清[1976]「生産過程の巨大化と独占資本——独占資本形成の基礎」『名城商学』名城大学商学会，第26巻第1号。
- 白川清[1976]「ドイツ独占資本の成立」『名城商学』名城大学商学会，第26巻第2号。
- 白川清[1976]「資本信用と株式会社——資本の所有と機能の分離」(上・下)，『名城商学』名城大学商学会，第27巻第3号・第4号。
- 白川清[1979]「銀行の産業株式所有」『名城商学』名城大学商学会，第29巻第1号。
- 白川清[1980]「独占資本の資本家階級」『名城商学』名城大学商学会，第29巻第3号。
- 白川清[1980]「産業大企業の経済構造」『名城商学』名城大学商学会，第30巻第1号。
- 白川清[1981]『制御資本主義論——株式統合企業の経済理論』亜紀書房。
- 白川清[1983]「信用が前貸資本に及ぼす影響——自己金融，商業・銀行・資本信用」『名城商学』名城大学商学会，第32巻第3号。
- 白川清[1990・91]「現代株式会社経済論」(1・2・3・4・5)，『名城商学』名城大学商学会，第40巻第1号・第2号・第3号・第4号。
- 白川清[1991]『現代株式会社経済論』亜紀書房。
- 白川清[1991・92・93・94]「21世紀株式会社への課題」(1・2・3・4・5・6・7)，『名城商学』名城大学商学会，第41巻第3号・第4号・第42巻第1号・第2号・第4号・第43巻第4号。第44巻第1号。
- 白坂亨[1993]「企業集団の支配及び所有構造」『経営論集』明治大学経営学研究所，第41巻第1号。

- 白坂亨[1995]「会社間関係における支配構造——企業集団における都市銀行の位置づけ」『経営学理論集』明治大学大学院，第2号。
- 白坂亨[1997]「コーポレート・ガバナンスとメインバンク・システム——青木昌彦氏の所論の検討を中心として」『経済論集』大東文化大学経済学会，第69号。
- 白坂亨[1997]「日本におけるコーポレート・ガバナンスの変遷」『経済論集』大東文化大学経済学会，第70号。
- 白坂亨[2000]「メインバンクの形成とコーポレート・ガバナンス」『経営論集』明治大学経営学研究所，第47巻第2・3号。
- 白坂亨[2001]「株式所有構造の変化とコーポレート・ガバナンス」『証券経済学会年報』証券経済学会，第36号。
- 白坂亨[2004]「明治初期における「株式」会社発生過程」『Research papers』大東文化大学経営研究所，NO. J-43。
- 白坂亨[2010]「明治時代初期の株式会社の配当政策の変遷に関する一考察」『経営論集』大東文化大学経営学会，第20号。
- 代田純[1992]「80年代イギリス機関投資家の成長と投資行動」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第181号。
- 代田純[1993]「ロンドン証券取引所と国内産業金融の一側面——USM〔未上場証券市場〕閉鎖問題を中心に」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第183号。
- 代田純[1993]「80年代イギリスの機関投資家と株式市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第28号。
- 代田純[1993]「イギリスの証券税制改革——その財政・金融的意義」『証券研究』日本証券経済研究所，第106号。
- 代田純[1993]「1920年代イギリスの証券保有構造試論——機関化傾向の萌芽形成」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第184号。
- 代田純[1993]「確立期のイギリス機関投資家——1950年代の保険・年金とマーチャント・バンカー」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第186号。
- 代田純[1994]「ロンドンのSEAQインターと証券市場間競争」『インベストメント』大阪証券取引所，第47巻第1号。
- 代田純[1994]「80年代以降の欧州大陸機関投資家——資産運用の特質を中心として」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第187号。
- 代田純[1994]「機関化傾向と取引所改革——ビッグ・バンの意味するもの」『証券研究』日本証券経済研究所，第109号。
- 代田純[1995]『ロンドンの機関投資家と証券市場』法律文化社。
- 代田純[1995]「80年代イギリスの年金基金と証券投資——マーチャント・バンカーの関与を中心に」『経済学論纂』中央大学経済学研究会，第35巻第5・6号。
- 代田純[1995]「ロンドンの日本株取引再論」『インベストメント』大阪証券取引所，第48巻第4号。
- 代田純[1996]「ロンドン証券市場分析の基礎視角——その課題と構成」『証券経済学会年報』証券経済学会，第31号。
- 代田純[1996]「ロンドンの日本株取引について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第31号。
- 代田純[1996]「アジアとEUの経済交流——証券市場を中心として」『インベストメント』大阪証券取引所，第49巻第4号。
- 代田純[1997]「欧州投資銀行による公的金融と証券発行」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第5号。
- 代田純[1997]「ハンガリーの市場経済移行と証券市場」『インベストメント』大阪証券取引所，第50巻第1号。
- 代田純[1998]「EU統合化の為替自由化と国債発行市場」『インベストメント』大阪証券取引所，第51巻第3号。
- 代田純[1998]「イギリスの国債市場と大蔵省証券」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第15号。
- 代田純[1998]「80年代以降のイギリスにおける金融

- 政策と大蔵省証券』『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会，第11巻第2号。
- 代田純[1999]『現代イギリス財政論』勁草書房。
- 代田純[1999]「株式保有構造と年金基金——イギリスと日本の比較」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第22号。
- 代田純[2000]「年金税制と金融機関の年金運用——日英比較を中心として」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第28号。
- 代田純[2001]「日本の株式市場と外国人投資家」『インベストメント』大阪証券取引所，第54巻第2号。
- 代田純[2001]「ロンドンの日本株取引と不良債権処理問題」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第33号。
- 代田純[2001]「欧州系機関投資家の日本株投資」『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会，第14巻第2号。
- 代田純[2001]「株式相互持ち合いの解消と日本版401(k)の始動」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第34号。
- 代田純[2002]『日本の株式市場と外国人投資家』東洋経済新報社。
- 代田純[2003]「金融システムの再生と投資信託——イギリス，アメリカとの比較」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第42号。
- 代田純[2004]「信託銀行の変貌と投資信託の将来像」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第36巻第3号。
- 代田純・勝田佳裕[2005]「国債オペに関する日本とイギリスの比較」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第50号。
- 代田純[2005]「簡易保険と証券投資——現状と将来像」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第37巻第1号。
- 代田純[2006]『図説やさしい金融財政』丸善（新版，2009年）。
- 代田純[2006]「郵便貯金と国債」『経済学論纂』中央大学経済学研究会，第46巻第3・4号。
- 代田純[2006]「日本の国債と地方債の累積と問題点」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第46巻第9号。
- 代田純[2006]「地方債の改革と簡易保険の資産運用」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第55号。
- 代田純[2007]『日本の国債・地方債と公的金融』税務経理協会。
- 代田純[2007]「欧州系外国人投資家の動向（2005～2006年）について——オイルマネーの日本株売買をめぐって」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第58号。
- 代田純[2007]「所得格差の拡大と株式市場」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第39巻第2号。
- 代田純・勝田佳裕[2008]「国債流通市場における外国人投資家」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第64号。
- 代田純編著[2010]『金融危機と証券市場の再生』同文館出版。
- 代田純[2010]「世界金融危機の構図——欧州系銀行の関与を中心として」『経済学論纂』中央大学経済学研究会，第50巻第3・4号。
- 代田純[2010]「金融危機以降の邦銀と公社債投資」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第71号。
- 代田純[2010]「欧州経済の現状と対日株式投資の動向」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第50巻第10号。
- 代田純[2010]「ギリシャの財政危機と欧州系銀行の国債保有」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第72号。
- 代田純[2011]「ユーロ危機と銀行の国債保有——ソブリンリスクと銀行の資金調達リスク」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第75号。
- 代田純[2012]『ユーロと国債デフォルト危機』税務経理協会。
- 代田純[2012]「ドイツの財政収支と国債——ドイツでユーロは「危機」なのか?」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第80号。
- 代田純[2013]「イタリア，スペインの国債と銀行」

- 『立命館国際研究』立命館大学国際関係学会，第25巻第3号。
- 代田純[2013]「ユーロの動向と海外投資家の対日投資」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第53巻第12号。
- 代田純[2014]「アベノミクスと証券市場——ヘッジファンドとデリバティブの影響を中心に」『商学論纂』中央大学商学研究会，第55巻第5・6号。
- 代田純[2015]「超長期国債の借換発行増加と国債整理基金特別会計・日本銀行」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第89号。
- 代田純[2016]『誰でもわかる金融論』学文社。
- 代田純[2016]「国債先物市場と海外投資家の投資行動」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第69巻第3号。
- 代田純[2016]「マイナス金利と国債市場——日独国債とレポ取引」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第95号。
- 代田純[2017]『日本国債の膨張と崩壊——日本の財政金融政策』文眞堂。
- 代田純[2017]「日本における国債市場の流動性と日本型レポ市場」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第97号。
- 代田純[2017]「ドイツの国債市場と欧州中央銀行の金融政策」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第98号。
- 代田純[2018]「マイナス金利と銀行の再編成——ドイツの動向」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第58巻第6号。
- 代田純[2019]「ドイツにおける銀行再編の動向——州銀行の二極分化と大銀行の合併問題」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第106号。
- 代田純[2020]「銀行のCLO保有とコロナショック」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第60巻第6号。
- 代田純・小西宏美・深見泰孝編著[2021]『ファイナンス入門』＜学問へのファーストステップ3＞ミネルヴァ書房。
- 代田純[2021]「銀行の有価証券保有とCLO」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第113号。
- 代田純[2022]『デジタル化の金融論』学文社。
- 新谷哲男[1979]「株式会社における「支配」と機能資本家規定——三戸，小松，有井諸氏の所説を中心として」『修大論叢』広島修道大学大学院，第3号。
- 新谷哲男[1980]「マルクス株式会社論の若干の考察——いわゆる「通過点」規定を中心に」『修大論叢』広島修道大学大学院，第4号。
- 新谷哲男[1982]「アメリカ大企業における金融支配について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第17号。
- 新谷哲男[1990]「株式会社制度について」『日本文理大学商経学会誌』日本文理大学商経学会，第9巻第1号。
- 新谷哲男[1991]「含み資産と株式会社金融」『日本文理大学商経学会誌』日本文理大学商経学会，第9巻第2号。
- 新谷哲男[1991]「株式とその種別化について」『日本文理大学商経学会誌』日本文理大学商経学会，第10巻第1号。
- 新谷哲男[1992]「無額面株の性格について」『日本文理大学商経学会誌』日本文理大学商経学会，第10巻第2号。
- 進藤寛[1973]「昭和初期地方銀行の合同過程の実態と合同政策をめぐる論議」『茨城大学政経学会雑誌』茨城大学政経学会，第30号。
- 真藤素一[1954]「金融資本の再編過程」『経済評論』日本評論社，復刊第3巻第1号。
- 神野直彦[1979]「馬場税制改革案」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第127号。
- 神野直彦[1979]「馬場税制改革案（続）」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第128号。
- 神野直彦[1981]「1940年（昭和15年）の税制改革」（1・2），『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第135号・第136号。
- 神野直彦[1995]「有価証券取引税とキャピタルゲイン課税」『租税研究』日本租税研究協会，第552号。
- 神野直彦[1996]「有価証券取引税の現状と課題」『公社債月報』日本証券業協会，第478号。

- 信用理論研究会編[1956]『講座 信用理論体系』(I-IV), 日本評論新社.
- 信用理論研究会編[1981]『信用論研究入門』有斐閣.
- 信用理論研究学会編[2006]『現代金融と信用理論』大月書店.
- 信用理論研究学会編[2006]『金融グローバリゼーションの理論』大月書店.
- 末廣昭[1986]『タイの企業集団』盤谷日本人商工会議所.
- 末廣昭・南原真[1986]『タイの財閥——ファミリービジネスと経営改革』同文館出版.
- 末廣昭[2000]『キャッチアップ型工業化論——アジア経済の軌跡と展望』名古屋大学出版会.
- 末廣昭編[2002]『タイの制度改革と企業再編——危機から再建へ』<研究双書 524>日本貿易振興会アジア経済研究所.
- 末廣昭[2006]『ファミリービジネス論——後発工業化の担い手』名古屋大学出版会.
- 末廣昭[2014]『新興アジア経済論——キャッチアップを超えて』<シリーズ現代経済の展望>岩波書店.
- 菅原秀人[1967]『株式会社社会論』森山書店(増補版, 1973年. 新訂版, 1976年).
- 菅原秀人[1969]「自己株式の会計」『経済論叢』京都大学経済学会, 第103巻第2号.
- 菅原陽心編著[2011]『中国社会主義市場経済の現在——中国における市場経済化の進展に関する理論的実証的分析』御茶の水書房.
- 菅原陽心[2012]『経済原論』御茶の水書房.
- 頭川博[1978]「利子生み資本範疇と貸付概念」『土地制度史学』土地制度史学会, 第20巻第2号.
- 頭川博[1981]「利子生み資本と貨幣前貸の二つの区別」『一橋論叢』日本評論社, 第85巻第6号.
- 頭川博[1982]「資本の商品化のメカニズム——『資本論』における利子生み資本範疇の生成」『金融経済』金融経済研究所, 第196号.
- 杉浦克己[1971]「1840年代のイギリス鉄道投資」『経済志林』法政大学経済学会, 第39巻第3号.
- 杉野博貴[1998]『自己資本構造論——株式の時価発行と自己株式取得による自己資本構造の変容』中央経済社.
- 杉原四郎[1964]『マルクス経済学の形成』未来社.
- 杉本俊朗編[1965]『マルクス経済学研究入門』<有斐閣双書>有斐閣.
- 杉山和雄[1976]「明治期綿紡会社における配当政策」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第24巻第3号.
- 杉山和雄[1976]「株式会社制度の発展——紡績・鉄道を中心に」, 小林正彬・下川浩一・杉山和雄・梅井義雄・三島康雄・森川英正・安岡重明編『日本経営史を学ぶ(1)——明治経営史』<有斐閣選書>有斐閣.
- 杉山和雄[1977]「企業金融」, 宮本又次・中川敬一郎監修『日本経営史講座(5)——日本的経営』日本経済新聞社.
- 杉山和雄[1977]「明治30年代における鉄道会社の株主と経営者」『成蹊大学経済学部論集』成蹊大学経済学部学会, 第7巻第2号.
- 杉山和雄[1980]「三井銀行株式の1部公開(大正8年)に関する覚え書」『成蹊大学経済学部論集』成蹊大学経済学部学会, 第10巻第2号.
- 杉山和雄[1980]「三井銀行の株式会社化に関する一考察」『三井文庫論叢』三井文庫, 第14号.
- 杉山和雄[1981]『海運業と金融——不況期の資金調達』<日本海運経営史4>日本経済新聞社.
- 杉山和雄[1983]「昭和戦前期における財閥生保会社の株式・社債所有」『成蹊大学経済学部論集』成蹊大学経済学部学会, 第14巻第1号.
- 杉山和雄[1992]『海運復興期の資金問題——助成と市中資金』<戦後日本海運造船経営史2>日本経済評論社.
- 杉山和雄[2000]「金融恐慌後の銀行合同と不良資産——日向中央銀行設立のケース」『成蹊大学経済学部論集』成蹊大学経済学部学会, 第30巻第2号.
- 杉田正夫[1960]『現代帝国主義の構造』<戦後資本主義の分析1>青木書店.
- 鈴木勝男[2007]『信用論・恐慌論の研究』梓出版社.
- 鈴木邦夫[1992]「財閥から企業集団・企業系列へ——1940年代後半における企業間結合の解体・再編

- 過程』『土地制度史学』土地制度史学会，第34巻第3号。
- 鈴木圭介編[1972]『アメリカ経済史』＜東京大学社会科学研究所研究報告 第20集＞東京大学出版会。
- 鈴木圭介編[1980]『アメリカ独占資本主義——形成期の基礎構造』弘文堂。
- 鈴木圭介[1980]『アメリカ経済史の基本問題』岩波書店。
- 鈴木圭介編[1988]『アメリカ経済史Ⅱ 1860年代—1920年代』東京大学出版会。
- 鈴木健[1977]「戦後企業集団の生成過程に関する一考察——柴垣和夫氏の「連続」説の検討を中心として」『商学論纂』中央大学商学研究会，第19巻第2号。
- 鈴木健[1979]「戦後経済復興と企業集団」『中央大学大学院論究 経済学・商学研究科篇』中央大学大学院生研究機関誌編集委員会，第11巻第1号。
- 鈴木健[1981]「金融資本の概念について」『中央大学大学院論究 経済学・商学研究科篇』中央大学大学院生研究機関誌編集委員会，第13巻第1号。
- 鈴木健[1981]「金融資本と株式会社——富森虔児氏の所説によせて」『商学論纂』中央大学商学研究会，第23巻第1・2号。
- 鈴木健[1982]「芙蓉グループにおける機能上の関係と株式所有——昭和20～30年代を中心として」『中央大学企業研究所年報』中央大学企業研究所，第3号。
- 鈴木健[1992]『独占資本主義の研究』文真堂。
- 鈴木健[1993]『日本の企業集団——戦後日本の企業と銀行』大月書店。
- 鈴木健[1994]「銀行融資と株式所有——企業集団研究の新しい動向について」『商学論纂』中央大学商学研究会，第35巻第5・6号。
- 鈴木健[1998]『メインバンクと企業集団——戦後日本の企業間システム』＜Minerva 現代経営学叢書2＞ミネルヴァ書房。
- 鈴木健[1999]「株式相互持ち合いの「解消」について」『立命館経済学』立命館大学経済学会，第48巻第3号。
- 鈴木健[2005]「メインバンク関係と株式相互持ち合いの現状」『商学論纂』中央大学商学研究会，第46巻第4号。
- 鈴木健[2008]『六大企業集団の崩壊——再編される大企業体制』新日本出版社。
- 鈴木鴻一郎編[1958]『独占資本』＜現代日本資本主義大系 第1巻＞弘文堂。
- 鈴木鴻一郎[1959]『続マルクス経済学』＜経済学全集17＞弘文堂。
- 鈴木鴻一郎ほか[1959]「宇野教授『経済原論』における論理構成」『経済評論』日本評論社，復刊第8巻第4号。
- 鈴木鴻一郎[1959]「「創業利得」について——ヒルファディングの株式会社論にたいする一つの疑問」，楊井克巳・大河内一男・大塚久雄編『帝国主義研究』（下），＜矢内原還暦記念論文集＞岩波書店。
- 鈴木鴻一郎編[1960・62]『経済学原理論』（上・下），＜経済学大系2・3＞東京大学出版会。
- 鈴木鴻一郎[1962]「帝国主義論と原理論」，中村常次郎・大塚久雄・鈴木鴻一郎編『世界経済分析』＜脇村義太郎教授還暦記念論文集Ⅰ＞岩波書店。
- 鈴木鴻一郎編[1964]『帝国主義研究』日本評論社。
- 鈴木鴻一郎編[1967]『経済学研究入門』東京大学出版会。
- 鈴木鴻一郎編[1968]『マルクス経済学の研究』（上・下），東京大学出版会。
- 鈴木鴻一郎[1969]「「帝国主義論の方法」の方法——同志社大学人文科学研究所『帝国主義論の方法——諸理論の分析と展望』について」『経済学論集』東京大学経済学会，第35巻第3号。
- 鈴木鴻一郎編著[1974]『マルクス経済学』＜セミナー経済学教室1＞日本評論社。
- 鈴木鴻一郎[1977]「解題 ヒルファディングの金融資本規定を中心にして」，有沢広巳・脇村義太郎『カルテル・トラスト・コンツェルン』御茶の水書房。
- 鈴木鴻一郎[1981]「帝国主義論の方法について」『帝京経済学研究』帝京大学経済学会，第14巻第1・2号。

- 鈴木武雄・新庄博・高橋泰蔵・林栄夫編[1960]『金融財政講座4——財政投資と民間投融資(下)』有斐閣.
- 鈴木武雄・原司郎・志村嘉一[1970]『機関投資家としてみた簡保資金』郵政省簡易保険局資金運用課.
- 鈴木武・田村正紀編[1974]『現代流通論の論理と展開』<森下二次也先生還暦記念>有斐閣.
- 鈴木武[1975]『商業と市場の基礎理論』ミネルヴァ書房.
- 鈴木俊夫[1975・1977・1980]「イギリス近代株式会社の生成過程」(1・2上・2下・3上・3下),『金融経済』金融経済研究所,第155号・第163号・第164号・第181号・第182号.
- 鈴木俊夫[1976]「「泡沫会社禁止条例(Bubble Act)」に関する一考察」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会,第19巻第4号.
- 鈴木俊夫[1980]「1847年恐慌と「鉄道マニア」」,渡辺佐平編著『マルクス金融論の周辺』法政大学出版局.
- 鈴木俊夫[1980]「The Western Bank of Scotlandの崩壊——スコットランド銀行業の特質をめぐって」『経営史学』経営史学会,第14巻第3号.
- 鈴木俊夫[1986]「「南海泡沫(South Sea Bubble)」事件——初期ウィッグ重商主義の構造」『中央商学論叢』中京大学商学会,第33巻第1号.
- 鈴木俊夫[1989]「ロンドン金融市場における外国政府債の発行(1870-1913年)」『中央商学論叢』中京大学商学会,第35巻第3・4号.
- 鈴木俊夫[1990]「「外債発行と債務国の対応」——19世紀の国際債務問題」『中央商学論叢』中京大学商学会,第37巻第1号.
- 鈴木俊夫[2001]「戦間期のロンドン外債市場」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会,第43巻第6号.
- 鈴木直次[1977]「コングロマリット合併の構造と意義——Ling-Temco-Vought Inc.を中心に」『専修経済学論集』専修大学経済学会,第11巻第2号.
- 鈴木直次[1981]「株式ブーム下のアメリカ自動車産業——乗用車生産を中心に」『社会科学年報』専修大学社会科学研究所,第15号.
- 鈴木茂三郎[1931]『日本独占資本主義の展望』白揚社.
- 鈴木茂三郎[1934]『日本財閥論』改造社.
- 鈴木茂三郎[1935]『日本独占資本の解剖』学芸社.
- 鈴木良隆・大東英祐・武田晴人[2004]『ビジネスの歴史』<有斐閣アルマ>有斐閣.
- 鈴木芳徳[1962]「金融資本と銀行資本」『経済論究』九州大学大学院経済学会,第12号.
- 鈴木芳徳[1964]「『帝国主義論』における方法上の特質」『経済学研究』九州大学経済学会,第30巻第2号.
- 鈴木芳徳[1964]「株式会社発生史論の問題点」『経済論究』九州大学大学院経済学会,第14号.
- 鈴木芳徳[1966]「株式会社論の史的展開」『商経論叢』神奈川大学経済学会,第2巻第2号.
- 鈴木芳徳[1967]「英国初期鉄道会社の創業と金融」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所,第4号.
- 鈴木芳徳[1967]「株式会社論の系譜」『月刊金融ジャーナル』金融ジャーナル社,第8巻第4号.
- 鈴木芳徳[1968]「資本集中と株式会社——株式会社論の基礎」『商経論叢』神奈川大学経済学会,第3巻第3号.
- 鈴木芳徳[1968]「株式会社論の史的展開」『証券経済学会年報』証券経済学会,第3号.
- 鈴木芳徳[1970]「信用制度と株式会社」『商経論叢』神奈川大学経済学会,第5巻第3・4号.
- 鈴木芳徳[1970]「『金融資本論』における株式会社と銀行」『商経論叢』神奈川大学経済学会,第6巻第1号.
- 鈴木芳徳[1970]「利子つき資本と株式会社」『商経論叢』神奈川大学経済学会,第6巻第3号.
- 鈴木芳徳[1972]「個別資本と株式会社〔後藤泰二著『株式会社の経済理論』の検討〕」『商経論叢』神奈川大学経済学会,第7巻第4号.
- 鈴木芳徳[1972]「『金融資本論』における株式会社」『証券経済学会年報』証券経済学会,第7号.
- 鈴木芳徳[1972]「英国初期の有限責任」『商経論叢』神奈川大学経済学会,第8巻第2号.
- 鈴木芳徳[1973]「創業利得の二重性」『月刊金融ジャ

- ーナル』金融ジャーナル社，第14巻第13号。
- 鈴木芳徳[1974]『信用制度と株式会社』新評論。
- 鈴木芳徳[1974]「株式会社の基礎構造（1）」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第10巻第1号。
- 鈴木芳徳[1976]「株式会社の基礎構造（2）——株式擬制資本と株式証券市場」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第12巻第1号。
- 鈴木芳徳[1977]「アダム・スミスの株式会社論」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所，第5号。
- 鈴木芳徳[1977]「証券市場と歴史の逆説」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第13巻第2号。
- 鈴木芳徳[1978]「わが国における株式会社論の展開——戦前期」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所，第6号。
- 鈴木芳徳[1978]「アダム・スミスの株式会社論の意義——『諸国民の富』第5篇における組織と個人」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第14巻第1号。
- 鈴木芳徳[1978]「ジョン・ステュアート・ミルの株式会社論」『金融経済』金融経済研究所，第173号。
- 鈴木芳徳[1979]「わが国における株式会社論の展開——戦後期」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所，第7号。
- 鈴木芳徳[1979]「ジョン・ステュアート・ミルのアンシエーション論——ミル株式会社論の背景」『神奈川大学創立50周年記念論文集』神奈川大学。
- 鈴木芳徳[1979]『証券経済論』税務経理協会。
- 鈴木芳徳[1980]「株式会社論の研究動向と問題点」『証券経済学会年報』証券経済学会，第15号。
- 鈴木芳徳[1981]「W. ゴンバルトの株式会社論について」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第16巻第3号。
- 鈴木芳徳[1983]『株式会社の経済学説』新評論社。
- 鈴木芳徳[1983]「株式会社論邦語文献目録」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第18巻第2号。
- 鈴木芳徳[1984]「信用理論の方法——V. F. ワグナーの場合」『金融構造研究』金融構造研究会，第6号。
- 鈴木芳徳編著[1986]『銀行論講義』新評論。
- 鈴木芳徳[1987・88・89・90]「信用理論の基本構造」（1・2・3・4），『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所，第12・13号・第14号・第15号・第16号。
- 鈴木芳徳編著[1990]『現代金融論』文真堂。
- 鈴木芳徳[1992]「田口卯吉の取引所論」『証券研究』日本証券経済研究所，第105号。
- 鈴木芳徳[1993]「田口卯吉の株式会社論」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第28巻第2号。
- 鈴木芳徳[1993]「先物取引と投機」『信用理論研究』信用理論研究会，第10号。
- 鈴木芳徳編著[1995]『金融論——理論・歴史・政策』ミネルヴァ書房。
- 鈴木芳徳[1995]「天野為之の取引所論」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第30巻第3号。
- 鈴木芳徳[1995]「明治の取引所論」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部，第39巻第3・4号。
- 鈴木芳徳[1995]「天野為之の取引所論とその特質」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第30巻第4号。
- 鈴木芳徳[1996]「取引所の意義と役割——福沢諭吉に学ぶ」『証券研究』日本証券経済研究所，第114号。
- 鈴木芳徳[1996]「福沢諭吉の取引所論」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第31巻第2号。
- 鈴木芳徳[1996]「投機論史小考」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第31巻第4号。
- 鈴木芳徳[1996]「福沢諭吉の取引所論・追補」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第32巻第3号。
- 鈴木芳徳[1997]「明治の取引所論」、『現代経済の諸問題』＜神奈川大学大学院経済学研究科創立30周年記念論文集＞神奈川大学大学院経済学研究科。
- 鈴木芳徳[1997]「明治の証券市場論」『証券経済学会年報』証券経済学会，第32号。
- 鈴木芳徳[1997]「柳田国男の信用組合論」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第32巻第4号。
- 鈴木芳徳[1998]『明治の取引所論』白桃書房。
- 鈴木芳徳[2002]「株式会社とジョイント・ストック・カンパニー」『商経論叢』神奈川大学経済学会，

- 第 38 巻第 1 号.
- 鈴木芳徳[2003]「証券取引所の環境変化とデミューチュアリゼーション」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 38 巻第 4 号.
- 鈴木芳徳[2003]「取引所市場の構造変化——中央卸売市場流通の場合」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 39 巻第 2 号.
- 鈴木芳徳[2004]『金融・証券ビッグバン——金融・証券改革のゆくえ』<神奈川大学入門テキストシリーズ>御茶の水書房.
- 鈴木芳徳[2004]『金融・証券論の研究』<神奈川大学経済貿易研究叢書 第 19 号>白桃書房.
- 鈴木芳徳[2004]『金融・証券改革の深層底流——金融・証券評論集』御茶の水書房.
- 鈴木芳徳[2004]『わかりやすい証券市場論入門』白桃書房(新訂版, 2007 年. 全訂版, 2009 年).
- 鈴木芳徳[2004]「ケインズ「美人投票論」の謎」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 40 巻第 1 号.
- 鈴木芳徳[2005]「敵対的買収 (hostile takeover) に関する覚書」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所, 第 31 号.
- 鈴木芳徳[2005]『現代証券金融論の課題』白桃書房.
- 鈴木芳徳[2005]「制度論の位相と制度設計——「制度」の把握についての覚書」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 40 巻第 3 号.
- 鈴木芳徳[2006]「黄金株についての覚書」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 41 巻第 2 号.
- 鈴木芳徳[2006]「金融商品取引法の歴史的意義」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 41 巻第 3・4 号.
- 鈴木芳徳[2006]「「自己資本」という問題」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 41 巻第 3・4 号.
- 鈴木芳徳[2006]「去来する投資家と株式会社の対市場責任」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 42 巻第 1 号.
- 鈴木芳徳[2006]「機関投資家と株主総会」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 42 巻第 1 号.
- 鈴木芳徳[2006]「M&A と証券市場」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 42 巻第 2 号.
- 鈴木芳徳[2006]「自主規制機関としての証券取引所」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 42 巻第 2 号.
- 鈴木芳徳[2006]「証券市場と株式会社」『商経論叢』神奈川大学経済学会, 第 42 巻第 3 号.
- 鈴木芳徳[2007]「三角合併 (triangular merger) と日本経済」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所, 第 33 号.
- 鈴木芳徳[2007]「株式会社制度の行方——投資ファンド化への変化の予兆」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所, 第 33 号.
- 鈴木芳徳[2007]『証券市場と株式会社』<神奈川大学経済貿易研究叢書 第 22 号>白桃書房.
- 鈴木芳徳[2007]「証券取引所の統合再編問題」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 59 号.
- 鈴木芳徳[2008]「投資家像の変貌と現代資本主義」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所, 第 34 号.
- 鈴木芳徳[2008]「成熟経済下の株式会社」『商学研究』日本大学商学部商学研究所, 第 24 号.
- 鈴木芳徳[2008]「世界金融資本主義と金融・資本市場の変容」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 61 号.
- 鈴木芳徳[2008]『グローバル金融資本主義——ドル離れとサブプライムローンの深淵』白桃書房.
- 鈴木芳徳[2008]「機関投資家と株主総会」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 43 号.
- 鈴木芳徳[2008]「投資家像の変貌と現代資本主義」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 26 号.
- 鈴木芳徳[2009]「資本化と現在価値」『経済貿易研究』神奈川大学経済貿易研究所, 第 35 号.
- 鈴木芳徳[2009]『現在価値と株式会社』<Hakuto economics>白桃書房.
- 須藤功[1993]「アメリカにおける金融自由化と銀行再編 (1980-1992 年)」『名古屋工業大学紀要』名古屋工業大学, 第 45 号.
- 須藤功[1997]『アメリカ巨大企業体制の成立と銀行——連邦準備制度の成立と展開』名古屋大学出版会.
- 須藤功[2003]「アメリカ銀行規制の歴史的展開——大恐慌期の金融制度改革を中心に」『政経論叢』明

- 治大学政治経済研究所, 第71巻第5・6号.
- 須藤功[2005]「ニューディール金融制度改革とマネタリズム——ラクリン・カリーの役割を中心に」『政経論叢』明治大学政治経済研究所, 第73巻第5・6号.
- 須藤功[2008]『戦後アメリカ通貨金融政策の形成——ニューディールから「アコード」へ』名古屋大学出版会.
- 須藤修[1984]「資本のオートノミーと権力の正当性——法人企業の組織と行動」『経済評論』日本評論社, 復刊第33巻第9号.
- 須藤修[1984]「株式資本と資本の自律化」, 伊藤誠・櫻井毅・山口重克編『利子論の新展開』<マルクス経済学叢書2>社会評論社.
- 須藤修[1988]『ノイズと経済秩序——資本主義の自己組織化』日本評論社.
- 須藤修[1990]『経済原論——資本制経済の基礎理論』<新経済学ライブラリ2>新世社.
- 須藤時仁[2003]『イギリス国債市場と国債管理』日本経済評論社.
- 住ノ江佐一郎[1959]『株価分析の理論』法律文化社.
- 住ノ江佐一郎[1959]『株価分析の基礎理論——株価分析論の構造的な研究』ダイヤモンド社(新版, 1970年).
- 住ノ江佐一郎[1963]『株式価格要論』ダイヤモンド社.
- 住ノ江佐一郎[1964]『証券上場の理論——およびその周辺の諸問題』玄文社.
- 住ノ江佐一郎・嶋田昭孝・杉江雅彦[1967]『証券論』ダイヤモンド社(改訂版, 1970年).
- 住ノ江佐一郎・嶋田昭孝・杉江雅彦[1968]『証券投資の理論』東洋経済新報社.
- 住ノ江佐一郎編著[1969]『現代取引所論』千倉書房.
- 住ノ江佐一郎編著[1970]『地方証券取引所論』千倉書房.
- 住ノ江佐一郎・越智和雄・岡本勝美・高橋弘・山下保・嶋田昭孝・杉江雅彦・森恭輔[1973]『現代証券論』カルチャー出版社.
- 住ノ江佐一郎編[1975]『新証券論』ソーテック社.
- 住ノ江佐一郎[1979]『証券理論の展開』多賀出版.
- 住ノ江佐一郎[1979]『株式価格の基礎理論』多賀出版.
- 住ノ江佐一郎[1981]『わが国証券理論の展開と文献』千倉書房.
- 住谷悦治[1950]『経済学』三和書房(改訂版, 1957年).
- 住谷悦治[1961]『経済学総論』啓文社.
- 角谷登志雄[1971・72]「株式会社と資本主義の基本矛盾」(1・2), 『名城商学』名城大学商学会, 第21巻第1号・第3号.
- 角谷登志雄[1973]『現代帝国主義と企業——資本主義企業の生成・発展・消滅』汐文社.
- 角谷登志雄[1973]「現代における独占資本主義の寄生性と腐朽——株式・土地投機問題を中心に」『経営会計研究』愛知大学経営会計研究所, 第21号.
- 角谷登志雄[1975]「株式会社・独占資本と帝国主義の現代的特質」『立命館大学人文科学研究所紀要』立命館大学人文科学研究所, 第21号.
- 角谷登志雄[1981]「社会主義経済と企業=管理の理論」『経済理論学会年報』経済理論学会, 第18集.
- 角谷登志雄[1982]『日本経済と六大企業集団——現代日本資本主義の支配構造』新評論.
- 角谷登志雄[1992]『日本株式会社』<新日本新書>新日本出版社.
- 『生活経済政策』編集委員会編[2009]『世界金融恐慌と現代資本主義』<生活研ブックス27>生活経済政策研究所.
- 清野良栄[1990]「現代資本主義における過剰蓄積と擬制資本市場」『松山大学論集』松山大学総合研究所, 第2巻第5号.
- 清野良栄[1992]『現代経済と蓄積体制——競争と独占の経済学』晃洋書房.
- 瀬尾崇[2015]「シュピーートホフ景気理論と宇野恐慌論」『金沢大学経済論集』金沢大学経済学経営学系, 第36巻第1号.
- 瀬尾崇[2020]「書評 さくら原論研究会編・泉正樹・江原慶・柴崎慎也・結城剛志著『これからの経済原論』」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第57

卷第3号.

- 瀬尾芙巳子[1960]「アメリカにおける資本集中運動とその若干の論点について」『関西大学商学論集』関西大学商学会, 第5巻第2号.
- 瀬川新一[2009]「株式所有構造と株主行動の変化」, 細川孝・桜井徹編著『転換期の株式会社——拡大する影響力と改革課題』<現代社会を読む経営学4>ミネルヴァ書房.
- 関口尚志[1959]「イギリス初期地方銀行の存在形態とその基盤——名誉革命前後のイングランドにおける市場および信用の構造とロンドンの地位」『金融経済』金融経済研究所, 第55号.
- 関口尚志[1959]「17, 8世紀イングランドにおける信用の構造と収税の機構」(1・2), 『史学雑誌』史学会, 第68巻第7号・第8号.
- 関口尚志[1959]「名誉革命後の金融危機と土地所有——利子論争ならびに土地銀行企画の社会的基盤」『土地制度史学』土地制度史学会, 第2巻第1号.
- 関口尚志[1960]「金融制度の変革——イギリス市民革命における金融問題を中心として」, 大塚久雄・高橋幸八郎・松田智雄編『西洋経済史講座——封建制から資本主義への移行 IV』岩波書店.
- 関口尚志[1963]「イギリス「国民経済」の形成と信用関係の展開」(1・2・3), 『経済学論集』東京大学経済学会, 第29巻第1号・第2号・第3号.
- 関口尚志[1968]「イギリス産業資本の確立と金融改革——その世界的インパクトを中心に」, 大塚久雄・安藤良雄・松田智雄・関口尚志編『資本主義の形成と発展』<山口和雄博士還暦記念論文集>東京大学出版会.
- 関下稔[1986]『現代世界経済論——パクス・アメリカーナの構造と運動』有斐閣.
- 関下稔・芦田亘・柳ヶ瀬孝三[1989]『現代資本主義』<有斐閣Sシリーズ>有斐閣.
- 関下稔編著[1989]『現代金融資本の諸理論——多国籍企業と多国籍銀行の多重的ネットワーク』同文館出版.
- 関下稔・坂井昭夫編著[2000]『アメリカ経済の変貌——ニューエコノミー論を検証する』同文館出

版.

- 関根猪一郎[1997]「新メガ(『資本論』第三巻草稿)の研究(第五篇)利子と企業者利得とへの利潤の分裂。利子生み資本」『経済』新日本出版社, 第19号.
- 関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄[2000]『金融論』青木書店.
- 関根順一[1992]「金融不安定化と成長の持続性」『経済学研究』九州大学経済学会, 第58巻第1号.
- 関根順一[2019]『現代の経済』中央経済社.
- 関根順一[2022]「貨幣経済下の債券取引——基本モデルの構成」『エコノミクス』九州産業大学経済学会, 第26巻第2号.
- 関根友彦[1996]「資本弁証法における利子論の解明」(上・中・下), 『愛知学院大学論叢 商学研究』愛知学院大学商学会, 第39巻第3・4号・第40巻第1・2号・第3・4号.
- 関根友彦[2004]『経済原論教科書』創英社.
- 関野秀明[2018]『金融危機と恐慌——『資本論』で考える現代資本主義』新日本出版社.
- 瀬戸健助[1930]『独占資本主義——独占資本の分析批判』大同書院.
- 瀬戸岡紘[2005]『アメリカ理念と現実——分かっているようで分からないこの国を読み解く』時潮社.
- 総合研究開発機構編[1985]『21世紀の日本の株式会社像——「所有と支配」からみた分析』東洋経済新報社.
- 副島種典[1962]『教養経済学』<青木全書>青木書店.
- 副島種典[1966]『マルクス経済学原理』東洋経済新報社.
- 十河利明[1997]「財政赤字膨張下における国債流通市場の再編成——アメリカの政府証券専門取扱業者と「1986年国債法」」『龍谷大学経済学論集』龍谷大学経済学会, 第36巻第2-4号.
- 外島健嗣・高屋定美[2003]「株式投資単位のくくり直しの流動性効果に関する実証分析」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第41号.
- 外島健嗣・高屋定美[2003]「株式上場市場の変更が流動性に与える影響」『証券経済学会年報』証券経

- 济学会, 第 38 号.
- 外島健嗣・高屋定美[2004]「株式市場の変更に  
よる流動性への影響」『証券経済研究』日本証券  
経済研究所, 第 46 号.
- 外島健嗣・高屋定美[2005]「マーケットメイク制度導  
入が株式流動性に与える影響——制度導入初期の  
実証分析」『関西大学商学論集』関西大学商学  
会, 第 50 巻第 1 号.
- 外島健嗣[2006]「株式併合が株式市場に与える影響」  
『生駒経済論叢』近畿大学経済学会, 第 4 巻第 2  
号.
- 外島健嗣[2011]「ETF 上場が対象証券に与える影響」  
『国際研究論叢』大阪国際大学, 第 24 巻第 3  
号.
- 園田実[1938]『経済学の基礎原理』巖松堂.
- 園田実[1940]『金融経済学入門』巖松堂(増訂版,  
1941 年).
- 園田実[1941]『経済と国家』巖松堂書店.
- 園田実[1953]『社会経済学 増補』三和書房.
- 大黒弘慈[2000]『貨幣と信用——純粹資本主義批判』  
東京大学出版会.
- 大東英祐・武田晴人・和田一夫・粕谷誠[2007]『ビジ  
ネス・システムの進化——創造・発展・企業者活  
動』有斐閣.
- 高哲男[1975]「ヴェブレンにおける「貸付信用」と株  
式会社」『経済論究』九州大学大学院経済学会,  
第 34 号.
- 高哲男[1979]「ヴェブレンの株式会社論(1) ——  
『企業の理論』研究」『広島大学経済論叢』広島  
大学経済学会, 第 3 巻第 2 号.
- 高哲男[1980]「世紀転換期アメリカにおける投資銀行  
と金融資本(1) ——P. M. スウィージーの所説を  
手がかりにして」『年報経済学』広島大学経済学  
部, 第 1 巻.
- 高哲男[1981]「世紀転換期アメリカにおける投資銀行  
と金融資本(2) ——信用制度と証券市場」『年報  
経済学』広島大学経済学部, 第 2 巻.
- 高哲男[1984]「ヴェブレン『企業の理論』研究——貸  
付信用と株式会社」『広島大学経済論叢』広島大  
学経済学会, 第 7 巻第 4 号.
- 高哲男[1991]『ヴェブレン研究——進化論的経済学の  
世界』ミネルヴァ書房.
- 高懸雄治[1995]『ドル体制と NAFTA——中枢=周辺関  
係の現代的構図』青木書店.
- 高懸雄治[2006]「途上国の国際金融——債務危機と金  
融危機」, 信用理論研究会編『金融グローバリ  
ゼーションの理論』大月書店.
- 高木彰[1996]『現代経済学の基礎理論』創風社.
- 高木幸二郎[1955]「書評 川合一郎著『資本と信  
用』」『経済評論』日本評論社, 復刊第 4 巻第 1  
号.
- 高木暢哉[1955]「利子つき資本と信用」『福岡商大論  
叢』福岡商科大学研究所, 第 6 巻第 2 号.
- 高木暢哉[1956]「利子つき資本の史的発展——信用形  
態と歴史の問題」, 信用理論研究会編『講座 信  
用理論体系Ⅱ——第 1 部 基礎理論篇(下)』日  
本評論新社.
- 高木暢哉[1957]『再生産と信用』有斐閣.
- 高木暢哉[1959]『信用制度と信用学説』日本評論新  
社.
- 高木仁・黒田晁生・渡辺良夫[1999]『金融システムの  
国際比較分析』東洋経済新報社.
- 高木仁・黒田晁生・渡辺良夫編著[2001]『金融市場の  
構造変化と金融機関行動』<明治大学社会科学研  
究所叢書>東洋経済新報社.
- 高倉泰夫[1981]「株式資本と資本制的所有」『経営と  
経済』長崎大学経済学部研究会, 第 61 巻第 1  
号.
- 高倉泰夫[1986]「「競争」から「信用」への移行と金  
融市場」『経営と経済』長崎大学経済学部研究  
会, 第 65 巻第 4 号.
- 高倉泰夫[1989]「利子生み資本と拡大再生産」『経営  
と経済』長崎大学経済学部研究会, 第 68 巻第 4  
号.
- 高倉泰夫[1990]「資本蓄積と信用制度」『経営と経  
済』長崎大学経済学部研究会, 第 69 巻第 4 号.
- 高倉泰夫[1991]「資本蓄積と金融市場」『経営と経  
済』長崎大学経済学部研究会, 第 70 巻第 4 号.
- 高倉泰夫[1994]「社会的再生産過程と信用」『経営と  
経済』長崎大学経済学部研究会, 第 74 巻第 2

- 号.
- 高倉泰夫[2003]「利子生み資本と資本蓄積と物象化」『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学会, 第9巻第3・4号.
- 高倉泰夫[2006]「物象化の複合と株式会社」『経営と経済』長崎大学経済学部研究会, 第85巻第3・4号.
- 高倉泰夫[2008]「金融主導型蓄積体制と金融化」『経営と経済』長崎大学経済学部研究会, 第88巻第3号.
- 高倉泰夫[2009]「物象化の浸透とその拡大の基盤——金融浸透型成長体制の理論化のために」『経営と経済』長崎大学経済学部研究会, 第88巻第4号.
- 高倉泰夫[2010]「世界的金融恐慌と物象化の進展」『経営と経済』長崎大学経済学部研究会, 第89巻第4号.
- 高島佐一郎[1931]『金融統制論』<商学全集 第41巻>千倉書房.
- 高須賀義博[1962]「わが国における企業集団化の現段階」『フェビアン研究』日本フェビアン研究所, 第13巻第1・2号.
- 高須賀義博[1963]「「転型期」の企業集団化問題」『フェビアン研究』日本フェビアン研究所, 第14巻第1・2号.
- 高須賀義博編[1978]『独占資本主義論の展望』東洋経済新報社.
- 高瀬恭介[1988]『金融変革と金融再編成——日本型金融革命の全体像』日本評論社.
- 高瀬恭介[1995]『金融変革と銀行経営』日本評論社(新版, 1999年).
- 高瀬浄[1962]『経営哲学入門』論争社.
- 高田太久吉[1989]「銀行持株会社の金融構造——持株会社(親会社)の金融機能を中心に」『証券研究』日本証券経済研究所, 第90号.
- 高田太久吉[1993]「1980年代米国銀行業の合併運動と州際活動」『証券研究』日本証券経済研究所, 第107号.
- 高田太久吉・ベス・ミンツ・マイケル・シュワーツ編著[1996]『現代企業の支配とネットワーク——日本とアメリカ』<中央大学企業研究所研究叢書 11>中央大学出版部.
- 高田太久吉[1998]「金融持株会社の規制・監督——機能別規制論をめぐって」『中央大学企業研究所年報』中央大学企業研究所, 第19号.
- 高田太久吉[1998]「銀行持株会社における株主責任の拡大」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第51巻第4号.
- 高田太久吉[1998]「持株会社における株主有限責任の排除」『商学論叢』中央大学商学研究会, 第39巻第3・4号.
- 高田太久吉[2000]『金融グローバル化を読み解く——10のポイント』新日本出版社.
- 高田太久吉[2001]「アメリカの大手銀行とヘッジファンドの関係」『信用理論研究』信用理論研究会, 第19号.
- 高田太久吉[2008]「現代資本主義論としての「経済の金融化」論」『企業研究』中央大学企業研究所, 第14号.
- 高田太久吉[2008]「サブプライム問題から見た現代の金融市場」『中央大学企業研究所研究活動年報』中央大学企業研究所, 2008年度.
- 高田太久吉[2009]『金融恐慌を読み解く——過剰な貨幣資本はどこから生まれるのか』新日本出版社.
- 高田太久吉編著[2013]『現代資本主義とマルクス経済学——経済学は有効性を取りもどせるか』新日本出版社.
- 高田太久吉[2015]『マルクス経済学と金融化論——金融資本主義をどう分析するか』新日本出版社.
- 高田敏文[2003]「株価形成要因としてのガバナンス構造」, 下平尾勲編著『現代の金融と地域経済』新評論.
- 高田好章[2010]「未来社会論における株式会社の現状と可能性」, 基礎経済科学研究所編『未来社会を展望する——甦るマルクス』大月書店.
- 高野利治・清水嘉治・久保田順[1965]『経済学の歴史と理論』新評論.
- 高橋昭三[1971]『経営財務論——株式会社金融と企業の投資理論』<経営学叢書 第26巻>森山書店(新訂版, 1979年).

- 高橋昭三[1971]「投資決定論における株価極大化原理」『証券経済学会年報』証券経済学会，第6号。
- 高橋昭三[1974]「イギリスにおける経営者支配論批判の一考察——企業合同と会社支配をめぐる諸問題」，高宮晋・岩尾裕純・諸井勝之助編『現代経営学の課題』＜中村常次郎還暦記念＞有斐閣。
- 高橋昭三[1976]「資本市場と財務政策——ポートフォリオ選択理論と投資決定論の統合についての覚え書」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第30巻第3号。
- 高橋昭三[1978]「財務管理論の新展開」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第31巻第4号。
- 高橋昭三[1978]「株価極大化基準と資本市場」『会計』森山書店，第114巻第4号。
- 高橋昭三[1978]「証券市場と財務論」『証券経済学会年報』証券経済学会，第14号。
- 高橋昭三[1980]『現代経営財務』税務経理協会（改訂版，1984年。2訂版，1988年。3訂版，1992年）。
- 高橋昭三編[1984]『経営財務の基礎理論』同文館出版。
- 高橋昭三編著[1992]『資本市場の変容と経営財務』中央経済社。
- 高橋亀吉・森垣淑[1968]『昭和金融恐慌史』＜清明会新書1＞清明会出版部（講談社学術文庫，1993年）。
- 高橋俊治[1991]『日本の公社債市場と金融システム——流動性の創造機構』東洋経済新報社。
- 高橋精之[1964]「株式会社の研究（1）——大塚久雄氏の株式会社論」『社会労働研究』法政大学社会学部学会，第18号。
- 高橋精之[1964]「株式会社の研究（2）——宇野弘蔵氏の株式会社論」『社会労働研究』法政大学社会学部学会，第11巻第2号。
- 高橋精之[1966]「信用理論の研究」（1・2），『社会労働研究』法政大学社会学部学会，第13巻第1号・第2号。
- 高橋勉[2009]『市場と恐慌——資本主義経済の安定性と不安定性』法律文化社。
- 高橋哲雄[1967]『イギリス鉄鋼独占の研究』ミネルヴァ書房。
- 高橋久弥[1994]「南北戦争期における貨幣・信用政策の展開」『松山大学論集』松山大学総合研究所，第6巻第3号。
- 高橋衛[1995]「金融バブルの膨張・収縮メカニズムの再検討——1980年代後半わが国の資金需給構造とエクイティファイナンスの意義」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第48巻第3号。
- 高浜光信・高屋定美編著[2021]『国際金融論のエッセンス』文眞堂。
- 高宮晋[1943]『企業集中論』有斐閣。
- 高宮晋[1961]『経営組織論』ダイヤモンド社。
- 高屋定美[2001]「本邦保険会社および簡易保険による国際証券投資と国際資金循環における役割に関する実証的研究」『商経学叢』近畿大学経営学部，第47巻第3号。
- 高屋定美・外島健嗣[2005]「機関投資家の資産運用と市場の流動性」『関西大学商学論集』関西大学商学会，第49巻第6号。
- 高屋定美[2009]『ユーロと国際金融の経済分析』関西大学出版部。
- 高屋定美[2009]『EU通貨統合とマクロ経済政策』＜Minerva 現代経済学叢書102＞ミネルヴァ書房。
- 高屋定美編著[2010]『EU経済』ミネルヴァ書房。
- 高屋定美[2010]「世界金融危機下でのEU経済」『比較経済研究』比較経済体制学会，第47巻第2号。
- 高屋定美[2011]『欧州危機の真実——混迷する経済・財政の行方』東洋経済新報社。
- 高屋定美[2015]『検証 欧州債務危機』中央経済社。
- 高山浩二[2009]「アメリカにおける金融統合の進展と銀行業と商業の分離」『経営研究』大阪公立大学経営学会，第60巻第2号。
- 高山浩二[2009]「証券化とアメリカ自動車メーカーの金融依存——GMACの銀行持株会社化の意義」『経営研究』大阪公立大学経営学会，第60巻第3号。
- 高山（佐藤）朋子[1972]「フランス企業の資本蓄積と信用制度——両大戦間期について」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第22巻第3

- 号.
- 高山朋子[1974]「フランス証券市場の生成発展過程について——その株式会社との関りを中心にして」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第24巻第4号.
- 高山朋子[1978]「第1次大戦前のフランスの証券市場——国債を中心として」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第13号.
- 高山朋子[1978]「信用構造の変容と株式会社の内部金融」, 松井安信・三木毅編『信用と外国為替』ミネルヴァ書房.
- 高山朋子[1983]「企業者利得と創業者利得」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第134号.
- 高山朋子[1985]「資本概念と株式プレミアム」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第142号.
- 高山朋子[1985]「株式プレミアムに関する資本説の検討」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第143号.
- 高山朋子[1998・99]「擬制資本と会計——擬制資本と土地および暖簾についての若干の考察」(1・2), 『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第210号・第212号.
- 高山朋子[1998]「グッドウィルをめぐる諸問題と擬制資本」『会計』森山書店, 第154巻第6号.
- 高山朋子[2000]「価値の評価方法と企業会計——M&Aと企業価値評価を中心として」『東京経大会誌経営学』東京経済大学経営学会, 第220号.
- 高山朋子[2004]「法定準備金の取崩, 評価損益, 配当をめぐる主要問題」『東京経大会誌 経営学』東京経済大学経営学会, 第238号.
- 高山満[1978]「金融資本」分析と価値法則——「金融資本」体制の構造分析か, 「独占化」=「過渡期」=「移行期」の「理論」か, 金子ハルオ・鶴田満彦・小野英祐・二瓶剛男編『経済学における理論・歴史・政策』<横山正彦先生還暦記念>有斐閣.
- 高山洋一[1980]「アメリカ管理通貨制度の確立——連邦準備券の国債・公信用との結合と法貨規定」『金融経済』金融経済研究所, 第184号.
- 高山洋一[1984]「『金融資本論』の課題と信用論」『信用理論研究』信用理論研究会, 第1号.
- 高山洋一[1992]「貨幣資本と現実資本」の課題——山本孝則著『現代信用論の基本問題』によせて『経済論集』大東文化大学経済学会, 第54号.
- 高山洋一[1995]「書評 中田常男著『擬制資本論の理論的展開』——ヒルファディング『金融資本論』研究①」, 中田常男著『金融資本と独占の理論——ヒルファディング『金融資本論』研究②』『土地制度史学』土地制度史学会, 第37巻第3号.
- 侘美光彦[1964]「金融資本の形成とイギリス資本市場」, 鈴木鴻一郎編『帝国主義研究』日本評論社.
- 侘美光彦[1972]「ヒルファディング」, 鈴木鴻一郎編『マルクス経済学講義』<青林講義シリーズ>青林書院新社.
- 侘美光彦[1976]『国際通貨体制——ポンド体制の展開と崩壊』<東大社会科学叢書50>東京大学出版会.
- 侘美光彦[1980]『世界資本主義——『資本論』と帝国主義論』日本評論社.
- 侘美光彦・杉浦克己編[1982]『世界恐慌と国際金融——大戦間恐慌史研究』有斐閣.
- 侘美光彦・杉浦克己編[1986]『国際金融——基軸と周辺』<マルクス経済学叢書4>社会評論社.
- 侘美光彦[1994]『世界大恐慌——1929年恐慌の過程と原因』御茶の水書房.
- 侘美光彦[1998]『「大恐慌型」不況』講談社.
- 武井邦夫[1960]「「利子生み資本」論の方法について」『茨城大学文理学部紀要 社会科学』茨城大学文理学部, 第10号.
- 武井邦夫[1960]「ヒルファディングの信用理論」『茨城大学文理学部紀要 社会科学』茨城大学文理学部, 第11号.
- 武井邦夫[1962]「利子生み資本と信用制度」『茨城大学文理学部紀要 社会科学』茨城大学文理学部, 第13号.
- 武井邦夫[1971]「『資本論』研究(6)——資本利子と

- 株式資本』『唯物史観』十月社，第10号。
- 武井邦夫[1972]『利子生み資本の理論』時潮社。
- 武井邦夫[1978]「株式資本論の原理的展開」『経済理論学会年報』経済理論学会，第15集。
- 武井邦夫[1985]「擬制資本論の諸問題」『信用理論研究』信用理論研究会，第2号。
- 武井邦夫[1989]『経済原論』古今書院。
- 武井邦夫[2003]「金融資本の概念と類型」『研究紀要』つくば国際大学，第9号。
- 竹内晴夫[1997]『信用と貨幣——貨幣存立の根拠を問う』御茶の水書房。
- 竹田茂夫[2001]『信用と信頼の経済学——金融システムをどう変えるか』<NHK ブックス>日本放送出版協会。
- 竹田茂夫[2001]『思想としての経済学——市場主義批判』青土社。
- 竹田茂夫[2009]「金融危機と覇権の構造」、『生活経済政策』編集委員会編『世界金融恐慌と現代資本主義』<生活研ブックス 27>生活経済政策研究所。
- 武田隆夫・遠藤湘吉編[1961・65]『帝国主義論』(上・下)，<経済学大系 4・5>東京大学出版会。
- 武田隆夫[1963]「原理論と帝国主義論——鈴木鴻一郎教授の批判に答えて」『経済学論集』東京大学経済学会，第29巻第3号。
- 武田隆夫・遠藤湘吉・大内力編[1971]『資本論と帝国主義論』(上・下)，<鈴木鴻一郎教授還暦記念>東京大学出版会。
- 武田信照[1995]「アダム・スミスの株式会社論」『経済論集』愛知大学経済学会，第137号。
- 武田信照[1995]「J.S.ミルの株式会社論(上)——株式会社観の転換」『経済論集』愛知大学経済学会，第138号。
- 武田信照[1996]「J.S.ミルの株式会社論(下)——アソシエーションと株式会社」『経済論集』愛知大学経済学会，第141号。
- 武田信照[1998]『株式会社像の転回』梓出版社。
- 武田信照[1999]「J.S.ミルとマルクス株式会社論と協同組合論」『経済論集』愛知大学経済学会，第149号。
- 武田晴人[1987]「書評 麻島昭一著『三菱財閥の金融構造』」『土地制度史学』土地制度史学会，第29巻第4号。
- 武田晴人[1987]『日本産銅業史』東京大学出版会。
- 武田晴人[1995]『財閥の時代——日本型企業の源流をさぐる』新曜社。
- 武田晴人[2017]『鈴木商店の経営破綻——横浜正金銀行から見た一側面』日本経済評論社。
- 武田晴人[2019]『日本経済史』有斐閣。
- 武田晴人[2020]『日本経済の発展と財閥本社——持株会社と内部資本市場』東京大学出版会。
- 武田晴人[2020]『財閥の時代』<角川ソフィア文庫>KADOKAWA。
- 武田晴人・関口かをり[2020]『三菱財閥形成史』東京大学出版会。
- 竹中一雄編[1968]『長期金融機構の分析』東洋経済新報社。
- 竹中一雄[1970]「長期金融と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第5号。
- 竹永進[2000]『リカード経済学研究——価値と貨幣の理論』御茶の水書房。
- 竹村脩一[1953]「信用形態の概念をめぐる」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第5巻第1号。
- 竹村脩一[1956]「仮空資本について」，金融学会編『金融論選集Ⅲ』東洋経済新報社。
- 竹村脩一編[1968]『金融経済論』<有斐閣双書>有斐閣。
- 竹村脩一・玉野井昌夫編[1978]『金融経済論 新版』<有斐閣双書>有斐閣。
- 竹村孝雄[1966]「フランスにおける預金銀行の成立と株式会社制度」『一橋論叢』日本評論社，第55巻第2号。
- 竹村孝雄[1966・67]「フランスにおける預金銀行と資本市場——クレディ・リヨネの成立過程に即して」(上・中)，『証券研究』日本証券経済研究所，第17号・第20号。
- 竹村孝雄[1971]「信用制度と株式会社」，見田石介・宇佐見誠次郎・横山正彦監修『マルクス主義経済

- 学講座』(下), 新日本出版社.
- 竹村孝雄[1971]「ヒルファディング『金融資本論』における「株式会社」論と証券市場」『中央大学商学部60周年記念論集』第3分冊, 中央大学商学研究会.
- 田坂元[1967]「株式会社にかんする原理的一考察——株式と社債との対比をとおして」『経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第55巻第3・4号.
- 田坂元[1968]「株式会社と資本信用——株式会社の内部構造との関連で」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第59号.
- 田坂元[1970]「投機信用の基本的性格」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第66号.
- 田坂元[1970]「信用制度としての株式会社」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第5号.
- 田坂元[1970]「投機信用発展についての原理的考察」(上・中), 『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第67号・第68号.
- 田坂元[1973]「資本信用と擬制資本——株式会社論への序論として(上)」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第83号.
- 田坂元[1974]「個人投資家の後退について」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第88号.
- 田坂元[1975]「個人投資家の動向と階層変化」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第10号.
- 田坂元[1976]「昭和40年代の株式価格運動——下方硬直性の論理」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第97・98号.
- 田坂元[1981]「株式価格と投機」(上・下), 『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第119号・第121号.
- 田坂元[1984]『現代証券市場論——投機と株価』有斐閣.
- 田島陽一[2013]「アルゼンチンに関わる投資家対国家の紛争処理——日本への教訓」『ラテンアメリカレポート』アジア経済研究所研究支援部, 第30巻第2号.
- 田添篤史[2017]「日本経済の金融化に関する検討——産業資本の性格の変化に注目して」『統計学』経済統計学会, 第112号.
- 田添篤史[2020]「金融的収益の重要化と格差の変動の関係——資本収益率均等化の観点から」『地研年報』三重短期大学地域問題研究所, 第25号.
- 楯岡重行[1975]「ドイツ銀行恐慌への1過程」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第20巻第1号.
- 楯岡重行[1976]「ドイツ銀行恐慌—ダナートバンクの破綻をめぐって」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第21巻第2号.
- 建部正義[1979]「ケインズの株式市場観について」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第14号.
- 建部正義[1980]『管理通貨制度と現代』<現代資本主義シリーズ>新評論.
- 建部正義[1993]『マネー』<科学全書>大月書店.
- 建部正義[1997]『貨幣・金融論の現代的課題』大月書店.
- 建部正義[1999]『はじめて学ぶ金融論』大月書店(第2版, 2005年).
- 建部正義[2000]「新しい金融論の誕生に向けて」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第41巻第6号.
- 建部正義編著[2002]『21世紀の金融システム』<中央大学企業研究所研究叢書22>中央大学出版社.
- 建部正義[2004]「金融再生プログラム」批判」『信用理論研究』信用理論研究会, 第22号.
- 建部正義[2005]「わが国金融システムの将来ビジョンについて」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第46巻第3号.
- 建部正義[2007]「書評 齊藤美彦著『金融自由化と金融政策・銀行行動』」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第57号.
- 建部正義・張亦春編著[2009]『日中の金融システム比較』<中央大学企業研究所研究叢書28>中央大学出版社.
- 建部正義[2009]「金融サイドから見たサブプライムローン・ショック」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第46巻第1号.
- 建部正義[2009]「国際金融危機——世界大恐慌とマルクス経済理論」『政経研究』政治経済研究所, 第

- 92号.
- 建部正義[2010]『金融危機下の日銀の金融政策』中央大学出版部.
- 建部正義・高橋由明・梅原秀継・田中廣滋編著・石崎忠司監修[2010]『失われた10年——バブル崩壊からの脱却と発展』＜中央大学学術シンポジウム研究叢書7＞中央大学出版部.
- 建部正義[2011]「書評 井村喜代子著『世界的金融危機の構図』」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第48巻第3号.
- 建部正義[2013]『21世紀型世界経済危機と金融政策』新日本出版社.
- 建部正義[2014]「国債問題と内生的貨幣供給理論」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第55巻第3号.
- 建部正義[2015]「書評 小西一雄著『資本主義の成熟と転換——現代の信用と恐慌』」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第52巻第2号.
- 建部正義・高橋豊治編著[2016]『日中の金融制度・金融政策比較』＜中央大学企業研究所研究叢書37＞中央大学出版部.
- 建部正義[2017]「大恐慌の原因に関するフリードマンの解釈をめぐって——『合衆国金融史1867-1960』を読み直す」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第58巻第5・6号.
- 建部正義[2017]「書評 大谷禎之介著『マルクスの利子生み資本論』全4巻」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第54巻第3号.
- 建部正義[2018]「書評 清水正昭著『金融システムの不安定性と金融危機』」『政経研究』政治経済研究所, 第111号.
- 建部正義[2021]「21世紀型世界経済危機論再考」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第63巻第1・2号.
- 田中章喜[1988]「産業資本の所有と経営——イギリス綿工業企業を対象として, 1780-1850年」『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会, 第65号.
- 田中章喜[1988]「産業資本の蓄積様式——イギリス綿工業における資本調達, 1780-1854年」『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会, 第66号.
- 田中章喜[1990]「企業と市場は変質したか——産業資本と金融資本の同質性と異質性」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第171号.
- 田中章喜[1998]「産業資本主義と資本集中——19世紀前半イギリス綿工業における企業規模」『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会, 第105号.
- 田中生夫[1966]『イギリス初期銀行史研究』日本評論社.
- 田中生夫[1980]『戦前戦後日本銀行金融政策史』有斐閣.
- 田中生夫[1985]『日本銀行金融政策史』有斐閣.
- 田中幾三郎・三浦寛也編[1968]『証券人のおしゃべり』千城出版.
- 田中菊次編著[1980]『経済原論——学問としての経済学を求めて』青木書店.
- 田中五八・三浦寛也[1970]『金融論』千城書房.
- 田中史郎[2018]『現代日本の経済と社会——景気, 人口, 格差, 原発』社会評論社.
- 田中清助[1967]「マルクスにおけるAssoziationの概念について」『社会学評論』日本社会学会, 第18巻第3号.
- 田中素香[1982]『欧州統合——EC発展の新段階』＜有斐閣経済学叢書3＞有斐閣.
- 田中素香[1991]『EC統合の新展開と欧州再編成』東洋経済新報社.
- 田中素香編著[1996]『EMS: 欧州通貨制度——欧州通貨統合の焦点』有斐閣.
- 田中素香[1999]「ユーロ通貨圏の成立と金融証券市場」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第39巻第7号.
- 田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治[2001]『現代ヨーロッパ経済』＜有斐閣アルマ＞有斐閣(新版, 2006年. 第3版, 2011年. 第4版, 2014年. 第5版, 2018年. 第6版, 2022年).
- 田中素香編著[2002]『単一市場・単一通貨とEU経済改革』文眞堂.
- 田中素香[2002]『ユーロ——その衝撃とゆくえ』＜岩波新書＞岩波書店.

- 田中素香・春井久志・藤田誠一編著[2004]『欧州中央銀行の金融政策とユーロ』有斐閣.
- 田中素香・岩田健治編[2008]『現代国際金融』<新・国際金融テキスト3>有斐閣.
- 田中素香[2009]「ゆらぐ国際金融と米欧経済」、『生活経済政策』編集委員会編『世界金融恐慌と現代資本主義』<生活研ブックス27>生活経済政策研究所.
- 田中素香編著[2010]『世界経済・金融危機とヨーロッパ』勁草書房.
- 田中素香[2010]『ユーロ——危機の中の統一通貨』<岩波新書>岩波書店.
- 田中素香[2016]『ユーロ危機とギリシャ反乱』<岩波新書>岩波書店.
- 田中英明[2017]『信用機構の政治経済学——商人的機構の歴史と論理』日本経済評論社.
- 田中秀親[1997]「日本の対外証券投資」『淑徳大学社会学部研究紀要』淑徳大学社会学部, 第31号.
- 田中裕之[2009]「アメリカ金融危機と世界システムの再編成——資本蓄積の現実的進行過程について」(1・2), 『経済学季報』立正大学経済学会, 第58巻第4号・第59巻第1号.
- 田中宏道[1976]「ヒルファディングの『金融資本論』の背景と金融資本概念について」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第25巻第4号.
- 田中祐二[1988]「金融資本の国際的展開と帝国主義の諸理論——M. フェンネマによる役員兼任分析の批判的検討」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第26巻第5号.
- 田中良明[1981]『『金融資本論』第5篇について』愛知大学法経論集 経済・経営篇I』愛知大学法経学会, 第94・95号.
- 田中綾一[2004]「国際通貨ユーロとロンドン金融市場——イギリスのユーロ参加問題の観点から」『関東学院教養論集』関東学院大学法学部教養学会, 第14号.
- 田中綾一[2010]「国際金融危機と民主主義」, 糠塚康江・藤田潤一郎編『民主主義を考える——過去, 現在そして未来へ』関東学院大学出版会.
- 田中綾一[2012]「欧州危機と通貨統合の行方——1950年代の経験からの分析」『海外事情』拓殖大学海外事情研究所, 第60巻第5号.
- 田中綾一[2017]「複合危機とグローバル・インバランス」, 牧野裕・紺井博則・上川孝夫編著『複合危機——ゆれるグローバル経済』日本経済評論社.
- 谷口明丈[1984]『アメリカ初期トラストの研究——アメリカ独占資本主義成立史へのプロローグ』大阪経済大学経営研究所.
- 谷口明丈[1990]「アメリカ合同企業(1882~1904)の類型分析」『経営史学』経営史学会, 第25巻第3号.
- 谷口明丈[1997]「所有者の衰退と専門経営者の台頭——アメリカ巨大合同企業のコーポレート・ガバナンス 1900-1930 (1)」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第59巻第1号.
- 谷口明丈[1997]「コーポレート・ガバナンスの類型分析——アメリカ巨大合同企業のコーポレート・ガバナンス 1900-1930 (2)」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第59巻第2号.
- 谷口明丈[2002]『巨大企業の世紀——20世紀アメリカ資本主義の形成と企業合同』有斐閣.
- 谷口明丈[2005]「アメリカ巨大企業のコーポレート・ガバナンス(1899年-1999年)——取締役と執行役員分析」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第54巻第3号.
- 谷口明丈・須藤功編[2017]『現代アメリカ経済史——「問題大国」の出現』有斐閣.
- 谷田庄三[1961]「金融資本の概念について」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第56号.
- 谷田庄三[1965]「金融資本と株式資本——とくに岩田説との関連において」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第76号.
- 谷田庄三[1965]「今日の金融資本にかんする若干の問題」『経済評論』日本評論社, 復刊第14巻第7号.
- 谷田庄三[1970]「金融再編成と銀行資本」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第104-106号.
- 谷田庄三[1975]『現代日本の銀行資本——金融再編成の論理と現実』ミネルヴァ書房.
- 谷田庄三[1980]「現代日本の金融資本」, 日本科学者

- 会議編『現代の世界経済と日本経済』(下), 大月書店.
- 谷田庄三編[1986]『金融自由化と金融制度改革』大月書店.
- 谷田庄三[1987]「1980年代における金融資本の集中化状況」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第37巻第5・6号.
- 谷田庄三編[1989]『現代資本主義と金融経済』大月書店.
- 種瀬茂[1966]『マルクス経済学——基礎研究』春秋社.
- 種瀬茂編[1986]『現代資本主義論』青木書店.
- 田野慶子[2003]『ドイツ資本主義とエネルギー産業——工業化過程における石炭業・電力業』東京大学出版会.
- 玉城肇・末永茂喜・鈴木鴻一郎編[1957]『マルクス経済学大系』(上・下), <宇野弘蔵先生還暦記念論文集>岩波書店.
- 玉城肇[1959]『経済史概論』青春出版社.
- 玉城肇[1967]『現代日本産業発達史 29——総論(上)』現代日本産業発達史研究会.
- 玉城肇[1976]『日本財閥史』社会思想社.
- 玉城肇[1981]『地方財閥と同族結合』御茶の水書房.
- 玉置紀夫[1967]「スタンダード石油トラストの形成・展開・「解体」——個別的金融資本の成立過程にかんする一研究」『経済学年報』慶應義塾経済学会, 第10号.
- 玉置紀夫[1968]「スタンダード石油トラストの成立過程」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第1号.
- 玉置紀夫[1972]「ベアリング商会とフランス公債(1816-1818年)」『三田商学研究』慶應義塾大学商学会, 第14巻第6号.
- 玉置紀夫[1983]「イギリス金融史研究の最近の成果と19世紀イギリス銀行業の一実態」『金融経済』金融経済研究所, 第201号.
- 玉置紀夫[1994]『日本金融史——安政の開国から高度成長前夜まで』<有斐閣>有斐閣選書.
- 玉野井昌夫[1953]「イングランド銀行の成立とイギリス金融制度の展開」『学習院大学政経学部研究年報』学習院大学政経学会, 第1号.
- 玉野井昌夫[1953]「初期におけるイギリス金融制度についての一考察」『金融経済』金融経済研究所, 第20号.
- 玉野井昌夫[1957]「イギリス金融資本の成立と貨幣市場の展開」, 玉城肇・末永茂喜・鈴木鴻一郎編『マルクス経済学大系』(下), <宇野弘蔵先生還暦記念論文集>岩波書店.
- 玉野井昌夫[1957]「金融市場に関する一考察」『学習院大学政経学部研究年報』学習院大学政経学会, 第4号.
- 玉野井昌夫[1959]「イギリスにおける銀行集中の態様——ロイズ・バンクの合同について」『学習院大学政経学部研究年報』学習院大学政経学会, 第6号.
- 玉野井昌夫[1964]「利子生み資本」, 川口弘・川合一郎編『金融論講座 1——貨幣・信用の理論』有斐閣.
- 玉野井昌夫[1965]「ドイツの証券取引所と資本市場」『証券研究』日本証券経済研究所, 第14号.
- 玉野井昌夫[1967]「戦後におけるドイツ証券市場の特色」『証券研究』日本証券経済研究所, 第21号.
- 玉野井昌夫[1968]「国内投資の市場と金融機関——帝国主義段階のイギリスについて」, 鈴木鴻一郎編『マルクス経済学の研究』(下), 東京大学出版会.
- 玉野井昌夫[1968]「独占形成期の証券市場と金融機関——イギリスの場合について」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第2号.
- 玉野井昌夫[1973]「イギリス金融市場の構造と金融政策——新金融調節方式をめぐって」, 大内力・加藤俊彦・三瀧信邦編『世界経済と日本経済』東京大学出版会.
- 玉野井昌夫[1975]「証券市場の動向について——経済学会連合のサーベイに関連して」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第10号.
- 玉野井昌夫[1975]「イギリスの証券市場——近年における発展」『証券研究』日本証券経済研究所, 第44号.
- 玉野井昌夫[1979]「イギリスの発行市場——1970年

- 代の変動』『証券研究』日本証券経済研究所，第 58 号。
- 玉野井昌夫[1986]「金融システムの検討」『金融経済』金融経済研究所，第 219 号。
- 玉野井昌夫[1991]『金融制度と金融論の研究』〈学習院大学研究叢書 19〉学習院大学。
- 玉野井芳郎編著[1964]『大恐慌の研究——1920 年代アメリカ経済の繁栄とその崩壊』東京大学出版会。
- 近廣昌志[2009]「国債発行の市中消化に関する考察——内生的貨幣供給理論の見地から」『企業研究』中央大学企業研究所，第 15 号。
- 近廣昌志[2017]「日本型危機の深層と金融政策」，牧野裕・紺井博則・上川孝夫編著『複合危機——ゆれるグローバル経済』日本経済評論社。
- 千葉準一[1980]「近代会社会計の基礎構造（1）——英国株式会社会計に関する一考察」『経済と経済学』東京都立大学経済学会，第 44 号。
- 千葉準一[1981]「近代会社会計の基礎構造（2）——英国株式会社会計制度と信託法理」『経済と経済学』東京都立大学経済学会，第 46 号。
- 千葉準一[1982]「近代会社会計の基礎構造（3）——英国株式会社会計と 20 世紀法制化の問題」『経済と経済学』東京都立大学経済学会，第 48 号。
- 千葉準一[1983]「近代会社会計の基礎構造（4）——英国株式会社会計制度の近代化過程」『経済と経済学』東京都立大学経済学会，第 52 号。
- 千葉準一[1983]「近代会社会計の基礎構造（5）——英国 Public Accounting の構造転換と“true and fair view”の意味」『経済と経済学』東京都立大学経済学会，第 53 号。
- 千葉準一[1991]『英国近代会計制度——その展開過程の探究』中央経済社。
- 千葉準一[1999]『株式会社会計』中央経済社。
- 長幸男[1953]「日本金融資本の戦後再編成」『経済評論』日本評論社，復刊第 2 巻第 5 号。
- 長幸男[1969]『現代金融論』時潮社。
- 塚本健[1959]「「利子うみ資本」の問題点——貨幣貸付と資本前貸」，鈴木鴻一郎編『貨幣論研究』青木書店。
- 塚本健[1964]『ナチス経済——成立の歴史と論理』東京大学出版会。
- 塚本健[1964]「ドイツ金融資本と資本市場」，鈴木鴻一郎編『帝国主義研究』日本評論社。
- 塚本健[1964]「西ドイツの証券税制」『証券研究』日本証券経済研究所，第 10 号。
- 塚本健[1971]「西ドイツ独占資本の構造」『経済評論』日本評論社，復刊第 20 巻第 8 号。
- 塚本健[1973]「西ドイツの景気調整的財政金融政策と資本市場」『証券研究』日本証券経済研究所，第 37 号。
- 塚本健[1975]「西ドイツの法人所得課税と資産譲渡益課税」『証券研究』日本証券経済研究所，第 43 号。
- 塚本健[1980]『経済学原論』東京大学出版会。
- 塚本健[1989]「1980 年代西ドイツ財政と資本市場」『証券研究』日本証券経済研究所，第 88 号。
- 塚本恭章[2011]「経済危機をめぐる欧米マルクス派」，基礎経済科学研究所編『世界経済危機とマルクス経済学』大月書店。
- 次田健作[1972・73]「19 世紀におけるフランスの鉄道建設——国家との関連を中心として」(1・2)，『大阪大学経済学』大阪大学大学院経済学研究科，第 22 巻第 1 号・第 2 号。
- 次田健作[1975]「クレディ・モビリエ研究の一視角（上）——「実践的サン・シモニスム」の理念と現実」『大阪大学経済学』大阪大学大学院経済学研究科，第 24 巻第 4 号。
- 津田和夫[1990]『巨大機関投資家』〈講談社現代新書〉講談社。
- 津田和夫[1993]『巨大銀行の構造』〈講談社現代新書〉講談社。
- 津田和夫[1995]『現代銀行論入門——金融システムの安定性と活性化』経済法令研究会。
- 津田和夫[2003]「証券サイドから見た金融の不安定性・金融危機の現状について」『信用理論研究』信用理論研究会，第 21 号。
- 津田和夫[2003]『現代銀行論研究序説——市場経済成熟化へ向けた本邦金融構造改革』〈研究叢書 18〉桃山学院大学総合研究所。

- 津谷彰一[1957]「大企業における株式所有」, 玉城肇・末永茂喜・鈴木鴻一郎編『マルクス経済学体系』(下), <宇野弘蔵先生還暦記念論文集>岩波書店.
- 津谷彰一[1958]「戦前・戦時の財閥」, 鈴木鴻一郎編『独占資本』<現代日本資本主義大系 第1巻>弘文堂.
- 津谷彰一[1963]「経営者支配論への反省——企業の所有と経営の分離に関する一考察」『季刊調査と研究』三菱経済研究所, 第2巻第1号.
- 土屋守章・岡本久吉[2003]『コーポレート・ガバナンス論——基礎理論と実際』有斐閣.
- 都築栄司[2011]「新古典派とポスト・ケインジアン」『マクロ動学』, 渡辺和則編『金融と所得分配』日本経済評論社.
- 恒木健太郎[2005]「取引所の投機に関するマックス・ヴェーバーとヴェルナー・ゾンバルトの共通認識」『社会システム研究』京都大学大学院人間・環境学研究科社会システム研究刊行会, 第8号.
- 恒木健太郎[2006]「大塚久雄の「前期的資本」批判——『株式会社発生史論』との関連で」『情況第三期』情況出版, 第7巻第4号.
- 恒木健太郎[2006]「「所有と経営の分離」にかんする二大潮流——大塚久雄『株式会社発生史論』とのかわり」『社会システム研究』京都大学大学院人間・環境学研究科社会システム研究刊行会, 第9号.
- 恒木健太郎[2015]「他所者の無記名証券による隠匿——ヴェルナー・ゾンバルトのユダヤ人観の一断面」(1・2), 『専修大学人文科学研究月報』専修大学人文科学研究所, 第277号・第278号.
- 恒木健太郎[2017]「世界商業戦下における経営者エートスの理想——大塚久雄と『株式会社発生史論』」『社会科学年報』専修大学社会科学研究所, 第51号.
- 都野尚典[1985]『ドル本位制とアジア・ダラー市場——現代世界経済の展開と国際金融市場の変貌』<東南アジア研究叢書23>長崎大学東南アジア研究所.
- 角野信夫[1986]「現代株式会社論(1)——経済活動の内部化」『経済学』愛媛大学法文学部, 第19号.
- 角野信夫[1986]「アメリカ経営思想の発展(2)——株式会社論の生成と発展」『愛媛経済論集』愛媛大学経済学会, 第6巻第1号.
- 角野信夫[1987]「「近代株式会社と私有財産」とその現代的評価」『経済学』愛媛大学法文学部, 第20号.
- 角野信夫[1987]『アメリカ企業・経営学説史』文真堂(増補改訂版, 1993年).
- 角野信夫[1988]「Adolf A. Berleの生涯」『愛媛経済論集』愛媛大学経済学会, 第7巻第2号.
- 角野信夫・生駒道弘編[1995]『現代株式会社と経営財務』文真堂.
- 角野信夫[1995]『アメリカ経営組織論』文真堂(増補版, 1998年).
- 角野信夫[2001]『経営組織』新世社.
- 角野信夫[2011]「近代株式会社とCSR」『神戸学院大学経営学会論集』神戸学院大学経営学会, 第7巻第2号.
- 角山栄[1960]『イギリス毛織物工業史論——初期資本主義の構造』ミネルヴァ書房.
- 津村英文[1979]『証券市場論』税務経理協会(改訂版, 1984年).
- 津村英文[1981]『配当——その光と影』税務経理協会.
- 津村英文編[1991]『証券市場論入門』有斐閣.
- 津村英文[1999]『日本株式市場分析』白桃書房.
- 津守常弘[1961]「ドイツ独占確立期における自己金融と決算政策」(1・2), 『経済論叢』京都大学経済学会, 第88巻第5号・第6号.
- 津守常弘[1962]『配当計算原則の史的展開』山川出版社.
- 津守常弘[1964]「ドイツ独占資本主義と秘密積立金政策」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第3巻第2・3号.
- 津守常弘[1966]「「自己金融」概念の変化とその本質」『企業会計』中央経済社, 第18巻第6号.
- 津守常弘[1972]「財務諸表公開制度の基本的意義」『会計』森山書店, 第101巻第4号.

- 津守常弘[1973]「財務諸表公開の論理」『経済学研究』九州大学経済学会，第38巻合併号。
- 津守常弘[1975・76]「財務諸表公開原理の現実性と「論理性」(1・2)，『会計』森山書店，第108巻第3号・第109巻第2号。
- 津守常弘[1979]「アメリカにおける「会計的支配機構」批判の展開とその意義——メトカーフ委員会報告を中心として」(1・2)，『会計』森山書店，第115巻第1号・第2号。
- 津守常弘[1979]「「財務諸表公開の論理」再論」『経済学研究』九州大学経済学会，第44巻第4-6号。
- 津守常弘[1989]「西ドイツ株式会社社会計制度の新局面と秘密積立金問題」『企業会計』中央経済社，第41巻第2号。
- 津守常弘編[1990]『現代社会と経営・経済指標』海鳥社。
- 津守常弘[2002]『会計基準形成の論理』森山書店。
- 都留重人[1944]『米国の政治と経済政策——ニューディールを中心として』<米国講座叢書 第6編>有斐閣。
- 都留重人[1949]『アメリカ資本主義の展開』近代思想社。
- 都留重人編[1951]『資本主義——マルクスとケインズ 第1巻』<現代経済学の課題>春秋社。
- 都留重人・内田義彦・末永隆甫編[1958]『経済学入門』東京出版。
- 鶴田満彦[1964]「近代独占理論とマルクス経済学」『経済学季報』立正大学経済学会，第14巻第1・2号。
- 鶴田満彦[1965]「独占と資本蓄積」『商学論纂』中央大学商学研究会，第6巻第2号。
- 鶴田満彦[1967]「独占資本主義論の方法—— balan = スウィージャーの所論によせて」『商学論纂』中央大学商学研究会，第8巻第3号。
- 鶴田満彦[1968]「再生産論と帝国主義分析」『商学論纂』中央大学商学研究会，第9巻第6号。
- 鶴田満彦[1971]「独占資本主義と物価問題」『商学論纂』中央大学商学研究会，第12巻第1・2号。
- 鶴田満彦[1972]『独占資本主義分析序論』有斐閣。
- 鶴田満彦[1972]「金融資本の概念についての覚え書」『商学論纂』中央大学商学研究会，第13巻第1-3号。
- 鶴田満彦[1976]「『帝国主義論』と現代」日本科学者会議編『講座 現代人の科学9——『資本論』と現代資本主義』大月書店。
- 鶴田満彦[1977]『現代政治経済学の理論』青木書店。
- 鶴田満彦[1984]「資本の集積と集中」『商学論纂』中央大学商学研究会，第25巻第4・5号。
- 鶴田満彦編[1994]『現代経済システムの位相と展開』大月書店。
- 鶴田満彦編著[2005]『現代経済システム論』日本経済評論社。
- 鶴田満彦[2009]『グローバル資本主義と日本経済』桜井書店。
- 鶴田満彦[2010]「金融危機と過剰生産恐慌」『商学論纂』中央大学商学研究会，第51巻第5・6号。
- 鶴田満彦[2010]「2008年世界経済恐慌の基本性格」『季刊 経済理論』経済理論学会，第47巻第2号。
- 鶴田満彦・長島誠一編[2015]『マルクス経済学と現代資本主義』桜井書店。
- 鶴田満彦[2016]「グローバル資本主義と金融化」『政経研究』政治経済研究所，第107号。
- 靄見誠良編[1988]『金融のグローバリゼーション1』<比較経済研究所研究シリーズ2>法政大学出版局。
- 靄見誠良・林直嗣編[1988]『金融のグローバリゼーション2』<比較経済研究所研究シリーズ3>法政大学出版局。
- 靄見誠良[1991]『日本信用機構の確立——日本銀行と金融市場』有斐閣。
- 靄見誠良編[2000]『アジアの金融危機とシステム改革』<比較経済研究所研究シリーズ16>法政大学出版局。
- 手嶋正毅編[1968]『経済学の基礎——所有の歴史』有斐閣。
- 寺川隆一郎・柴田徳太郎[2013]「住宅抵当債権の証券化と法の不確実性の問題——J. R. コモンズの視点から」『経済学論集』東京大学経済学会，第79巻第3号。

- 寺園徳一郎[1968]『資本と競争』ミネルヴァ書房。
- 寺田稔[1969]「利子生み資本と資本の物神性——宇野弘蔵氏の所説によせて」(上・下),『立教経済学研究』立教大学経済学研究会,第23巻第1号・第2号。
- 寺田稔[1970]「マルクスの株式会社論についての一考察——中村通義氏の所説によせて」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会,第24巻第3号。
- 寺田稔[1971]「擬制資本について——株式会社の資本との関連を中心に」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会,第25巻第3号。
- 寺田稔[1972]「ヒルファディングの株式会社論についての一考察——株主と貨幣資本家の関係を中心に」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会,第26巻第2号。
- 寺田稔[1974]「ヒルファディングの創業利得論」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会,第28巻第1号。
- 寺田稔[1977]「株式会社におけるいわゆる「自己資本の他人資本化」について——馬場克三氏の所説によせて」『日本福祉大学研究紀要』日本福祉大学,第31・32号。
- 寺田稔[1979]「株式プレミアムと創業利得——いわゆる「株式プレミアム論争」によせて」『日本福祉大学研究紀要』日本福祉大学,第38・39号。
- 寺田稔[1981]「株式会社の資本の所有についての一考察——岡部利良氏の所説によせて」『日本福祉大学研究紀要』日本福祉大学,第47号。
- 寺田稔[1981]「株式会社におけるいわゆる「他人資本の自己資本化」について」『日本福祉大学研究紀要』日本福祉大学,第50号。
- 寺田稔[1988]『株式会社論研究』光和堂。
- 寺田稔[1990]「株式会社と経営者支配」『証券経済学会年報』証券経済学会,第25号。
- 寺地孝之[1998]『近代金融システム論』<関西学院大学研究叢書 第87編>有斐閣。
- 寺村鉄三[1965]「社会主義金融論」,川口弘・川合一郎編『金融論講座3——現代資本主義と金融』有斐閣。
- 遠山弘徳[2010]『資本主義の多様性分析のために——制度と経済パフォーマンス』<静岡大学人文科学部研究叢書第24号>ナカニシヤ出版。
- 時永淑[1967]『経済学史』学文社。
- 常盤政治・井村喜代子・北原勇・飯田裕康[1980]『経済原論』<有斐閣ブックス>有斐閣。
- 得田雅章[2001]「金融システムショック下の貨幣と実体経済」『早稲田経済学研究』早稲田大学大学院経済学研究科経済学研究会,第53号。
- 得田雅章[2002]「貨幣総量と実体経済との関係——金融システムショックを考慮に入れて」,諏訪貞夫教授古希記念論文集刊行委員会編『日本経済の新たな進路——実証分析による解明』文眞堂。
- 徳永潤二[2002]「1992年以降のアメリカをめぐる国際資本移動——直接投資と証券投資を中心に」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会,第55巻第3号。
- 徳永潤二[2008]『アメリカ国際通貨国特権の研究』学文社。
- 徳永潤二[2008]「「世界の金融コングロマリット」としてのアメリカ」『信用理論研究』信用理論研究会,第26号。
- 徳永潤二[2009]「国際過剰資本がバブルを生んだ」,山口義行編『バブル・リレー——21世紀型世界恐慌をもたらしたもの』岩波書店。
- 徳永潤二[2011]「国際的過剰貨幣資本と世界金融経済危機」,基礎経済科学研究所編『世界経済危機とマルクス経済学』大月書店。
- 徳永正二郎[1986]「金融の証券化と資本の自由化——過剰流動性問題と規制解除金融システム」『経済学研究』九州大学経済学会,第52巻第1-4号。
- 徳永正二郎[1987]「金融の証券化と資本の自由化——過剰流動性の世界と金融市場の変質」『信用理論研究』信用理論研究会,第4号。
- 戸田壯一[2014]『アメリカにおける銀行危機と連邦預金保険制度』<神奈川大学経済貿易研究叢書 第26号>白桃書房。
- 戸原四郎[1957]「金融資本成立期におけるドイッチェ・バンクの変遷」,玉城肇・末永茂喜・鈴木鴻一郎編『マルクス経済学大系』(下),<宇野弘蔵先生還暦記念論文集>岩波書店。

- 戸原四郎[1957]「レーニンの金融資本の概念について——「帝国主義ノート」より」『経済評論』日本評論社，復刊第6巻第9号。
- 戸原四郎[1958]「ドイツ金融資本成立過程の研究——ルール地方の重工業と銀行との関係」(1・2)，『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第10巻第1号・第2・3号。
- 戸原四郎[1960]『ドイツ金融資本の成立過程』東京大学出版会。
- 戸原四郎[1968]「ドイツにおける証券市場と金融機関」，加藤俊彦編『証券経済講座 第3巻——証券市場と金融機関』東洋経済新報社。
- 戸原四郎[1973]「西ドイツにおける占領政策と企業再編成」『証券研究』日本証券経済研究所，第37号。
- 戸原四郎[1976]「書評 倉田稔著『金融資本論の成立』」『歴史学研究』歴史学研究会，第432号。
- 戸原四郎・加藤榮一編[1992]『現代のドイツ経済——統一への経済過程』有斐閣。
- 戸原四郎・加藤榮一・工藤章編[2003]『ドイツ経済——統一後の10年』有斐閣。
- 戸原四郎・工藤章・藤澤利治編[2006]『ドイツ資本主義——戦間期の研究』桜井書店。
- 富塚文太郎[1964]「再生産と信用」，川口弘・川合一郎編『金融論講座1——貨幣・信用の理論』有斐閣。
- 富塚文太郎[1990]『ドル体制の矛盾と帰結——通貨危機から保護主義へ』読売新聞社。
- 富塚良三[1976]『経済原論——資本主義経済の構造と動態』有斐閣。
- 富永裕[1972]『企業自己金融の理論』千倉書房。
- 富森虔児[1970]「帝国主義研究における若干の問題点」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第20巻第3号。
- 富森虔児[1971]「帝国主義研究における二つの偏向」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第20巻第4号。
- 富森虔児[1971]「経済学の方法と帝国主義論」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第21巻第1号。
- 富森虔児[1971]「「歴史主義」の問題点——大塚久雄氏の『株式会社発生史論』『初期独占論』に即して」『唯物論』札幌唯物論研究会，第18号。
- 富森虔児[1973]『帝国主義論の根本問題』ミネルヴァ書房。
- 富森虔児[1973]「イギリス帝国主義研究への一接近」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第22巻第4号。
- 富森虔児[1974]「株式資本の本質とその高次展開——鈴木芳徳氏の所説に関連して」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第24巻第3号。
- 富森虔児[1975]「資本物化の極限化過程としての現代資本主義」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第25巻第3号。
- 富森虔児[1976]「資本物化の極限化過程と「経営者支配」」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第26巻第1号。
- 富森虔児[1977]『現代資本主義の理論——金融資本の変質と「経営者支配」』新評論。
- 富森虔児[1978]「スウェーデンの主要企業における所有＝支配の特質」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第28巻第2号。
- 富森虔児[1979]「現代資本主義と腐朽性」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第29巻第1号。
- 富森虔児[1982]「巨大会社と「資本家の物化」」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第32巻第3号。
- 富森虔児編[1985]『現代の巨大企業——国際比較の視点から』新評論。
- 富森虔児[1986]「「所有」と巨大株式会社」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第35巻第3号。
- 富山康吉[1968]「証券経済と法学——河本一郎『有価証券制度』を素材として」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号。
- 富山康吉[1969]『現代資本主義と法の理論』法律文化社。
- 友岡久雄[1947]『貨幣・資本・信用』巖松堂書店。
- 豊原治郎[1972]「書評 呉天降著『アメリカ金融資本

- 成立史』『社会経済史学』社会経済史学会，第38巻第1号。
- 鳥居伸好[2020]『なるほどマル経——時の流れを読む経済学』桜井書店。
- 鳥谷一生[1986]「「ナチス広域経済圏」についての考察——フランス金融資本との対抗関係の視角から」『同志社大学大学院商学論集』同志社大学大学院商学研究科院生会，第21号。
- 鳥谷一生・松浦一悦編著[2013]『グローバル金融資本主義のゆくえ——現代社会を理解する経済学入門』ミネルヴァ書房。
- 鳥谷一生[2010]『国際通貨体制と東アジア——「米ドル本位制」の現実』<Minerva 現代経済学叢書105>ミネルヴァ書房。
- 鳥谷一生[2020]『中国・金融「自由化」と人民元「国際化」の政治経済学——「改革・開放」後の中国金融経済40年史』晃洋書房。
- 鳥畑与一[1987]「80年代における独占的産業資本と独占的銀行資本の関係の一考察——外債発行引受を中心に」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第38巻第2号。
- 鳥畑与一[2008]「現代金融危機の構造——サブプライム金融危機が示すもの」『行財政研究』行財政総合研究所，第68号。
- 鳥畑与一[2009]『略奪的金融の暴走——金融版新自由主義がもたらしたもの』学習の友社。
- 鳥畑与一[2009]「サブプライム金融危機に見る投機的市場と規制の相克」『季刊 経済理論』経済理論学会，第46巻第2号。
- 童適平[2013]『中国の金融制度』勁草書房。
- 内藤敦之[2011]『内生的貨幣供給理論の再構築——ポスト・ケインズ派の貨幣・信用アプローチ』日本経済評論社。
- 永井義雄編著[1992]『経済学史概説——危機と矛盾のなかの経済学』<Basic books>ミネルヴァ書房。
- 永江真夫[1980]「明治期の株式会社研究について」『社会経済史学』社会経済史学会，第45巻第6号。
- 中尾茂夫[1988]『世界マネーフロー——国際金融市場の歴史と現代』同文館出版。
- 中尾茂夫[2001]『金融グローバリズム』<大阪市立大学経済研究所所報 第49集>大阪市立大学経済研究所。
- 長岡新吉[1976]「日本における帝国主義研究の問題点」，社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣。
- 長岡豊[1956]「金融資本とは何か」『六甲大論集』神戸大学大学院研究会，第2巻第4号。
- 長岡豊[1970]「現代資本主義における「所有と支配の分離」」『経済学論究』関西学院大学経済学部研究会，第24巻第1号。
- 中川清[1989]「書評 松尾秀雄著『所有と経営の経済理論』」『愛知大学法経論集 経済・経営篇I』愛知大学法経学会，第118・119号。
- 中川敬一郎[1959]「ユニリーヴァ・トラストの成立——その経営史的素描」，楊井克巳・大河内一男・大塚久雄編『帝国主義研究』岩波書店。
- 中川敬一郎[1965]「米国における巨大企業の成立とマス・マーケティングの発達」『経済学論集』東京大学経済学会，第31巻第3号。
- 中川敬一郎編[1990]『企業経営の歴史的研究』岩波書店。
- 中川淳平[2008]「企業は誰のものか」，吾郷健二・佐野誠・柴田徳太郎編『現代経済学——市場・制度・組織』<岩波テキストボックス>岩波書店。
- 中川淳平[2016]「コーポレートガバナンスの変質と高株価経営」，柴田徳太郎編著『世界経済危機とその後の世界』日本経済評論社。
- 中川スミ[1997]「レーニンの「生産の集積」概念について」，野口雄一郎編『コンビナートと現代産業・地域』<野口雄一郎教授古稀記念論文集>御茶の水書房。
- 中川信義[2000]「クロスボーダーなM&A（企業合併・買収）およびアライアンスと自動車産業の世界的再編成——世界的集中・集積序説」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第15号。
- 中木康夫[1960]『ロスチャイルド家——世界を動かした金融王国』誠文堂新光社。

- 長坂聡[1954]「ベルンシュタインの『金融資本論』批判をめぐって」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第4巻第4号。
- 長坂聡[1958]「金融資本規定における銀行の役割」『社会科学論集』東京教育大学文学部，第6号。
- 長坂聡[1958]「創業利得の一考察」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所，第10巻第4号。
- 長坂聡[1961]「金融資本概念の再検討」，武田隆夫・遠藤湘吉編『帝国主義論』（上），＜経済学大系4＞東京大学出版会。
- 長坂聡[1965・67]「相対的安定期のドイツ金融市場（1・2）」『社会科学論集』東京教育大学文学部，第12号・第14号。
- 長坂聡[1968]「レーニン『帝国主義論』の若干の問題——金融資本規定を中心として」『経済学論集』東京大学経済学会，第33巻第4号。
- 長坂聡[1970]「帝国主義の寄生性について」『経済評論』日本評論社，復刊第19巻第7号。
- 長坂聡[1971]「株式会社と自己金融」，武田隆夫・遠藤湘吉・大内力編『資本論と帝国主義論』（下），＜鈴木鴻一郎教授還暦記念＞東京大学出版会。
- 中塩聖司[1994・96]「経営者支配論と所有と機能の分離（1・2）」『国学院商学』国学院大学栃木短期大学商学会，第3号・第5号。
- 中塩聖司[1996]「企業の所有と機能の分離，人格化について——企業の契約論的アプローチと所有論的アプローチによせて」『国学院経済学』国学院大学経済学会，第44巻第3・4号。
- 中塩聖司[2007]「株式会社における所有と人格化」『国学院商学』国学院大学栃木短期大学商学会，第16号。
- 中島将隆[1972]「機関投資家と証券市場——機関資金の形成構造」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第114号。
- 中島将隆[1973]「米国機関投資家の資金形成構造」『証券経済学会年報』証券経済学会，第8号。
- 中島将隆[1975]「低金利政策下における債券流通市場——条件付債券売買について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第122号。
- 中島将隆[1979]「起債統制機構の成立過程——昭和20年代を中心として」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第129号。
- 中島将隆[1979]「高度経済成長下の起債統制——昭和30年代を中心として」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第130号。
- 中島将隆[1980]「起債統制と自由化の動き——昭和40年代を中心として」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第131号。
- 中島将隆[1991]「社債制度改革の論点——社債の発行限度規制と受託制度について」『甲南経済学論集』甲南大学経済学会，第32第2号。
- 中島将隆[1996]「日本における債券貸借市場の再編成——日本版レポ市場の成立について」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第4号。
- 中島将隆[2009]「リーマン・ブラザーズ証券の破綻とフェイル慣行の整備に向けて」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第1657号。
- 中島将隆[2010]「リーマンショックとレポ市場の整備——二つのワーキング・グループ」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第1659号。
- 長島誠一[1974]『独占資本主義の景気循環——法則的解明への試論』新評論。
- 長島誠一[1981]『現代資本主義の循環と恐慌』＜現代資本主義分析6＞岩波書店。
- 長島誠一[1994]『景気循環論』青木書店。
- 長島誠一[1996]『経済学原論——現代資本主義分析の基礎』青木書店。
- 長島誠一[2001]『戦後の日本資本主義』桜井書店。
- 長島誠一[2006]『現代の景気循環論』桜井書店。
- 長島誠一[2008]『現代マルクス経済学』桜井書店。
- 長島誠一[2016・17・18]「資本主義の発展段階」（1・2・3・4），『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会，第291号・第293号・第295号・第297号。
- 長島誠一[2018・19]「「グローバル資本主義」のバブル循環と世界金融危機」（1・2），『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会，第299号・第301号。
- 中條誠一[2011]『アジアの通貨・金融協力と通貨統

- 合』文眞堂.
- 中條誠一[2012]『現代の国際金融を学ぶ——理論・実務・現実問題』勁草書房（新版，2015年）.
- 中條誠一・小森谷徳純編著[2015]『金融危機後の世界経済の課題』＜中央大学経済研究所研究叢書60＞中央大学出版部.
- 中條誠一[2019]『ドル・人民元・リブラ——通貨でわかる世界経済』＜新潮新書＞新潮社.
- 中條秀治[2003]「会社は誰のものか——「会社それ自体」論の可能性」『中京経営研究』中京大学経営学会，第12巻第2号.
- 中條秀治[2003]「株式会社の内部構造——「会社それ自体」の三側面」『中京経営研究』中京大学経営学会，第13巻第1号.
- 中條秀治[2005]「集団の概念と団体の概念——合名会社と株式会社」『中京経営研究』中京大学経営学会，第14巻第2号.
- 中條秀治[2005]『株式会社新論——コーポレート・ガバナンス序説』＜中京大学経営研究双書23＞中京大学経営学部.
- 中條秀治[2007]「株式会社を問う」，経営学史学会編『経営学の現在——ガバナンス論，組織論・戦略論』文眞堂.
- 中條秀治[2007]「法人論争とは何であったか——稲村毅による『株式会社新論』批判への反論（1）」『中京経営研究』中京大学経営学会，第17巻第1・2号.
- 中條秀治[2008]「株式会社は誰のものか——稲村毅による『株式会社新論』批判への反論（2）」『中京経営研究』中京大学経営学会，第18巻第1号.
- 中條秀治[2009]「集団概念と団体概念——稲村毅による『株式会社新論』批判への反論（3）」『中京経営研究』中京大学経営学会，第18巻第2号.
- 中條秀治[2009]「「団体の時代」と組織——稲村毅による『株式会社新論』批判への反論（4）」『中京経営研究』中京大学経営学会，第19巻第1号.
- 中條秀治[2011]「株式会社団体論と資本主義の未来——会社観の変遷と資本主義の可能性」『中京経営研究』中京大学経営学会，第20巻第1・2号.
- 中條秀治[2011]「株式会社団体論——超資本主義と株式会社観」『経営哲学』経営哲学学会，第8巻第1号.
- 中條秀治[2015]「株式会社の起源——大塚久雄『株式会社発生史論』の再検討（1）」『中京経営研究』中京大学経営学会，第24号.
- 中條秀治[2016]「株式会社発生前史としての「分散型」と「集中型」の二つのマグナ・ソキエタス——大塚久雄『株式会社発生史論』の再検討（2）」『中京経営研究』中京大学経営学会，第25号.
- 中條秀治[2016]「株式会社の本質」，日本経営学会編『株式会社の本質を問う——21世紀の企業像』千倉書房.
- 中條秀治[2017]「「組成型」企業としてのオランダ東インド会社——大塚久雄『株式会社発生史論』の再検討（3）」『中京経営研究』中京大学経営学会，第26号.
- 中條秀治[2018]「「組合」から「法人」への歩みとしてのイギリス東インド会社——大塚久雄『株式会社発生史論』の再検討（4）」『中京経営研究』中京大学経営学会，第27号.
- 中條秀治[2020]『コルプス・ミスティクムとは何か——教会・国家・株式会社を貫く団体の概念』文眞堂.
- 仲田正機[1982]「現代企業の所有と機能——現代企業管理の分析視角（3）」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第21巻第4号.
- 仲田正機[1999]「コーポレート・ガバナンスの性格と主要論点」『同志社商学』同志社大学商学会，第51巻第1号.
- 仲田正機[1999]「所有と支配に関する若干の考察」『龍谷大学経営学論集』龍谷大学経営学会，第39巻第1号.
- 仲田正機編著[2005]『比較コーポレート・ガバナンス研究——日本・英国・中国の分析』中央経済社.
- 中田常男[1975・76・77]『『金融資本論』の論理構造』（1・2・3・4），『商学論纂』中央大学商学研究会，第17巻第1号・第2号・第18巻第1号・第19巻第1号.
- 中田常男[1982・83・86・87]「金融資本の蓄積様式」

- (1・2・3・4), 『高知大学学術研究報告 社会科学編』高知大学, 第31号・第32号・第35号・第36号.
- 中田常男[1993]『擬制資本論の理論的展開——ヒルファディング』『金融資本論』研究①』未来社.
- 中田常男[1993]『金融資本と独占の理論——ヒルファディング』『金融資本論』研究②』未来社.
- 中田常男[2011]『金融資本論と恐慌・産業循環』八朔社.
- 中田常男[2012]『株式会社論と経営者支配』八朔社.
- 中田常男[2012]「現代巨大企業と株式会社一般——北原勇氏の所説の検討・補遺」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第54巻第3・4号.
- 永田数夫[1972]「株式会社の特長」『駒澤大学経営学部研究紀要』駒澤大学, 第2号.
- 永田数夫[1972]「Joint Stock Company——米国の「連帯株式会社」と英国の「近世的株式会社」」『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第4巻第1号.
- 永田数夫[1973]「米国の Joint Stock Company」『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第5巻第1号.
- 永田数夫[1973]「英国の現行会社法下に於ける Joint Stock Company」『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第5巻第2号.
- 永田数夫[1974]「英国の Private Company——その特長」『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第6巻第1号.
- 永田数夫[1974]「Private Company の3制限と短所」『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第6巻第2号.
- 永田数夫[1975]「米国の合資会社と有限会社」『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第6巻第3・4号.
- 永田数夫[1975]「英国の Public Company」『駒澤大学経営学部研究紀要』駒澤大学, 第5号.
- 永田数夫[1975]「英国の保証会社」『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第7巻第1号.
- 永田数夫[1976]「米国の合名会社」『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第7巻第2号.
- 永田裕司[1984]「アメリカ金融資本と自己金融 (1)——独占形成期の株式会社金融の特質をめぐって」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第28巻第4号.
- 永田裕司[1987]「米企業の資金調達とCP市場」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第32巻第3号.
- 永田裕司[1989]「米国における金融の証券化と企業金融」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第24号.
- 永田裕司[1992]「米国における金融の証券化と商業銀行——米銀の経営危機との関連で」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第37巻第1号.
- 永田裕司[1999]「アメリカ機関投資家の最近の動向について——運用形態の変化と金融仲介への影響」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第43巻第3号.
- 永田裕司[2002]「機関投資家の経済分析」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第46巻第3・4号.
- 中谷武[1995]「株式市場と投資決定」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第172巻第2号.
- 永谷清[2004]『資本主義とは何か——原理論』DTP出版.
- 中西市郎[1963]「アメリカの対外証券投資とその金融機構——1920年代を中心として」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第65号.
- 中西市郎[1964]「アメリカの対外証券投資について」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第70号.
- 中西市郎[1965]『現代国際投資論——理論と現実』ダイヤモンド社.
- 中西市郎・岩野茂道[1972]『国際金融論の新展開』新評論.
- 中西市郎[1986]『国際金融——理論と現実』新評論.
- 中西聡[2008]「両大戦間期日本における地方資産家の銀行借入と株式投資——間接金融と直接金融の関連を中心として」『地方金融史研究』全国地方銀行協会, 第39号.
- 中西聡[2016]「地方資産家の投資行動からみた近代日本——資産家資本主義の生成」『三田学会雑誌』

- 慶應義塾経済学会，第108巻第4号。
- 中西聡[2019]『資産家資本主義の生成——近代日本の資本市場と金融』慶應義塾大学出版会。
- 中西寅雄[1928]「株式会社の議決権及び機関に就て」『経営学論集』日本経営学会，第2集。
- 中西寅雄[1931]『経営経済学』＜現代経済学全集 第24巻＞日本評論社。
- 中西寅雄[1932]「株式会社に於ける「所有と経営の分離」」，経営経済研究編集所編『経営経済研究 第13冊』同文館。
- 中野正[1985]『経済学原理——『資本論』の問題点』ミネルヴァ書房。
- 中野保男[1981]「初期のイギリス友愛協会」『人文学報』京都大学人文科学研究所，第50号。
- 中野嘉彦[2009]『マルクスの株式会社論と未来社会』ナカニシヤ出版。
- 中野嘉彦[2009]「社会主義への通過点論としての河上肇の株式会社論」『経済論叢』京都大学経済学会，第183巻第3号。
- 中宮光隆[1992]「フランスにおける金融システムの変化——金融・資本市場の拡大とユニバーサル・バンク化」『熊本女子大学学術紀要』熊本女子大学，第44号。
- 中宮光隆[1995]「シスモンディ擬制資本論再考——歴史的背景と現代的意義」『証券経済学会年報』証券経済学会，第30号。
- 中宮光隆[1997]『シスモンディ経済学研究』三嶺書房。
- 中村一彦[1960]『経営者支配の法的研究』評論社。
- 中村太和[1977]「所有と管理に関する一考察——「社会主義の準備」について」『経済理論』和歌山大学経済学会，第156号。
- 中村太和[1978]「マルクス株式会社論に関する一考察——「所有と機能の分離」について」『経済理論』和歌山大学経済学会，第166号。
- 中村太和[1984]「法人所有と資本家範疇」『経済理論』和歌山大学経済学会，第201号。
- 中村孝俊[1953]「インフレーションと株価」，日本証券投資協会編『株式相場の見方』ダイヤモンド社。
- 中村孝俊[1951]「株価統計の見方」，東京証券講習所編『証券講座2——株式投資の方法』ダイヤモンド社（新版，1954年）。
- 中村孝俊[1960]「書評 川合一郎著『株式価格形成の理論』」『経済評論』日本評論社，復刊第9巻第10号。
- 中村孝俊[1961]『日本の大企業』＜岩波新書＞岩波書店。
- 中村孝俊[1963]『日本の証券市場』＜岩波新書＞岩波書店。
- 中村孝俊[1965]『高度成長と金融・証券』＜岩波新書＞岩波書店。
- 中村孝俊[1965]『証券市場を探る』毎日新聞社。
- 中村孝俊編[1967]『証券市場読本』東洋経済新報社。
- 中村孝俊[1967]「現代資本主義と証券市場」『思想』岩波書店，第518号。
- 中村孝俊編[1968]『証券経済講座 第1巻——日本経済と証券・金融』東洋経済新報社。
- 中村孝俊[1968]「資本自由化と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号。
- 中村孝俊編[1968]「最近の企業集中の特徴と銀行」『経済評論』日本評論社，復刊第17巻第7号。
- 中村孝俊[1969]「金融再編成と証券市場」，日本証券経済研究所編『証券と金融をめぐる諸問題』日本証券経済研究所。
- 中村孝俊[1969]「金融再編成と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第4号。
- 中村孝俊[1970]「企業の資本充実と株式時価発行について」『租税財政論集』日本租税研究協会，第2集。
- 中村孝俊[1970]「現代証券市場論への覚え書」『経営志林』法政大学経営学会，第6巻第3・4号。
- 中村孝俊[1983]『日本の巨大企業』＜岩波新書＞岩波書店。
- 中村孝俊[1985]『「金融革命」とは何か』大月書店。
- 中村常次郎・大塚久雄・鍋島達・藻利重隆編[1968]『現代経営学の研究』＜柳川昇先生還暦記念論文集＞柳川昇先生還暦記念会。
- 中村常次郎編[1970]『経営学』＜有斐閣双書＞有斐閣（増補改訂版，1978年。第3版（中村常次郎・

- 高柳暁編), 1987年).
- 中村常次郎編[1977]『経営学原理』<入門経営学叢書1>法学書院.
- 中村常次郎編[1980]『現代経営学説』有斐閣.
- 中村常次郎・鈴木英寿・小島三郎編[1980]『現代ドイツ経営学説』同文館出版.
- 中村常次郎著・『ドイツ経営経済学』刊行会編[1982]『ドイツ経営経済学』東京大学出版会.
- 中村秀一郎・杉岡碩夫・竹中一雄[1966]『日本産業と寡占体制』新評論.
- 中村秀一郎[1977]『大企業体制の革新——続・大規模時代の終り』ダイヤモンド社.
- 中村雅秀[1988]「多国籍企業の国際財務戦略とタックス・ヘイヴン」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第165号.
- 中村雅秀[1988]「多国籍企業とカリブ海タックス・ヘイヴン——資産運用基地＝バハマの分析を中心に」『経済論叢』京都大学経済学会, 第142巻第4号.
- 中村雅秀[1995]『多国籍企業と国際税制——海外子会社, タックス・ヘイヴン, 移転価格, 日米租税摩擦の研究』東洋経済新報社.
- 中村雅秀[2000]『帝国主義と資本の輸出——パクス・ブリタニカの盛衰とアジア』<Minerva 現代経営学叢書35>ミネルヴァ書房.
- 中村雅秀・奥田宏司・田中祐二編著[2004]『グローバル戦略の新世紀パラダイム』晃洋書房.
- 中村雅秀[2010]『多国籍企業とアメリカ租税政策』岩波書店.
- 中村雅秀[2021]『タックス・ヘイヴンの経済学——グローバルリズムと租税国家の危機』京都大学学術出版会.
- 仲村政文[1964]「独占と中小資本——支配従属関係の成立について」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第13号.
- 中村萬次[1953]『簿記学概論』税務経理協会(増補版, 1957年).
- 中村萬次[1967]『アメリカ独占体の会計政策』<神戸商科大学研究叢書IX>神戸商科大学学術研究会.
- 中村萬次[1969]『会計政策論——アメリカ独占体の会計政策』ミネルヴァ書房.
- 中村萬次[1991]『英米鉄道会計史研究』同文館出版.
- 中村萬次[1994]『米国鉄道会計史研究』同文館出版.
- 中村萬次[1997]『恐慌と会計——鉄道会計史の視座』晃洋書房.
- 中村通義[1961]「アメリカにおける銀行の集中」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 通号第18号.
- 中村通義[1966]「株式会社と自己金融」(1・2), 『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第15巻第3・4号・第16巻第1号.
- 中村通義[1969]『株式会社論』亜紀書房.
- 中村通義[1976]「株式会社と自己金融・再論」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第26巻第3号.
- 中村通義[1977]「株式会社と平均利潤」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第27巻第1号.
- 中村通義[1978]「株式会社と金融資本」『経済理論学会年報』経済理論学会, 第15集.
- 中村通義[1980・81]「帝国主義段階論について」(1・2), 『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第30巻第1号・第4号.
- 中村通義[1986]「書評 佐合紘一著『企業財務と証券市場——アメリカ株式会社金融の成立』」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第36巻第3号.
- 中村通義[1997]「創業者利得と株式プレミアム」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第32号.
- 中村泰治[1983]「株式資本と資本の競争機構」『唯物史観』十月社, 第25号.
- 中村泰治[1991]「金融資本の蓄積機構と不況の短期化」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会, 第39巻第2・3号.
- 中村泰治[2001]「株式会社と原理論」『浦和論叢』浦和大学・浦和大学短期大学部, 第27号.
- 中村泰治[2002]「金融資本分析のために」『浦和論叢』浦和大学・浦和大学短期大学部, 第28号.
- 中村泰治[2003]「株式会社と原理論」, SGCIME編『資本主義原理像の再構築』御茶の水書房.

- 中村泰治[2012]「原理論の証券市場」『浦和論叢』浦和大学・浦和大学短期大学部，第46号。
- 中村雄司[1980]「私的所有について——個人の個人化」『上武大学論集』上武大学学会，第11号。
- 中村雄司[1981]「企業の社会化について（1）」『上武大学論集』上武大学学会，第12号。
- 中村雄司[1982]「経営者支配論へのアプローチ」『上武大学論集』上武大学学会，第13号。
- 中村雄司[1985]「企業形態論の方法について」『上武大学論集』上武大学学会，第16号。
- 中村雄司[1985]「企業形態論の方法について（続）」『上武大学論集』上武大学学会，第17号。
- 中村雄司[2003]「企業統治と経営者の裁量について」『上武大学経営情報学部紀要』上武大学経営情報学部，第26号。
- 中本悟[1983]「戦後アメリカにおける企業年金の発展と企業の支配構造——企業年金，銀行，投資先企業」『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第27巻第3号。
- 中本悟[1983]「アメリカ金融資本の国際的展開について——パストレの所説の紹介と検討を中心に」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第146号。
- 中本悟[1987]「現代アメリカ企業の支配構造——E. S. ハーマンの研究の検討」『法経研究』静岡大学法経学会，第35巻第3・4号。
- 中本悟[1989]「アメリカの「双子の赤字」と株式市場——1980年代の株式市場の基本的性格」『証券研究』日本証券経済研究所，第87号。
- 中本悟[1989]「アメリカ産業の国際競争力の低下と株式市場——1980年代の株式市場の基本的性格」『証券経済学会年報』証券経済学会，第24号。
- 中本悟[1990]「1980年代アメリカにおける企業合併・買収運動——LBOを中心に」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会，第13巻第2号。
- 中本悟[1992]「企業経営と金融市場の関係に関する覚書」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第7号。
- 中本悟[1997]「アメリカの「ニューエコノミー」論と株式市場——1990年代アメリカ経済論に関する覚え書」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第12号。
- 中本悟[2000]「1990年代アメリカ経済再生と株式市場」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第15号。
- 中本悟[2011]「2008年アメリカのバブル経済循環の崩壊」基礎経済科学研究所編『世界経済危機とマルクス経済学』大月書店。
- 中本悟・宮崎礼二編[2013]『現代アメリカ経済分析——理念・歴史・政策』日本評論社。
- 中屋信彦[2009]「中国における株式会社」細川孝・桜井徹編著『転換期の株式会社——拡大する影響力と改革課題』＜現代社会を読む経営学4＞ミネルヴァ書房。
- 中山弘正[1988]『帝政ロシアと外国資本』岩波書店。
- 永山利和[2009]「現代市場論批判——2008年金融システム危機・世界同時不況に寄せて」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第62巻第4号。
- 夏目啓二[2004]「現代アメリカのコーポレート・ガバナンス」『龍谷大学経営学論集』龍谷大学経営学会，第44巻第1号。
- 夏目啓二[2005]「コーポレート・アメリカの企業統治」『比較経営学会誌』比較経営学会，第29号。
- 鍋島直樹[1996]「ケインズ派金融経済論の過去と現在——金融構造とマクロ経済変動」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第97巻第4号。
- 鍋島直樹[1998]「金融システムの変容と現代危機——日本における金融のレギュレーション」『富大経済論集』富山大学経済学部，第43巻第2号。
- 鍋島直樹[2001]『ケインズとカレツキ——ポスト・ケインズ派経済学の源泉』名古屋大学出版会。
- 鍋島直樹[2015]「金融不安定性仮説の意義と限界——アメリカ・ラディカル派のミンスキー論」『季刊経済理論』経済理論学会，第52巻第3号。
- 鍋島直樹[2016]「金融化と現代資本主義」大澤真幸・佐藤卓己・杉田敦・中島秀人・諸富徹編『岩波講座現代3——資本主義経済システムの展望』岩波書店。

- 鍋島直樹[2017]『ポスト・ケインズ派経済学——マクロ経済学の革新を求めて』名古屋大学出版会.
- 波形昭一編著[1997]『近代アジアの日本人経済団体』同文館出版.
- 新岡智・上川孝夫編著[2007]『国際経済関係の焦点——揺れる覇権と通貨』同文館出版.
- 新村聡[2010]「アダム・スミスと金融恐慌」『経済科学通信』基礎経済科学研究所, 第 122 号.
- 二上季代司[1986・87・89]「本邦証券会社史論序説——顧客網と店舗設置の動向を中心に」(1・2・3), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 156 号・第 159 号・第 170 号.
- 二上季代司[1987]「最近の証券市場論研究の動向——学説史的検討」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 22 号.
- 二上季代司[1988]「米国証券会社の構造的特質」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 164 号.
- 二上季代司[1988]「メインバンクと幹事証券の歴史的系譜」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 84 号.
- 二上季代司[1989]「1980 年代の規制緩和と証券業」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 167 号.
- 二上季代司[1990]『日本の証券会社経営——歴史・現状・課題』東洋経済新報社.
- 二上季代司[1991]「中小証券経営について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 175 号.
- 二上季代司[1992]「わが国証券業界の構造的特質」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 27 号.
- 二上季代司[1992]「社員外務員と歩合外務員」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 105 号.
- 二上季代司[1992]「アジアにおける邦銀と日系証券」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 182 号.
- 二上季代司編著[1994]『日本型金融システムの転換』中央経済社.
- 二上季代司[1994]「イギリスのリテール・ストック・ブローカー」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 187 号.
- 二上季代司[1994]「ロンドンの SEAQ インターナショナル (外国株) 市場——グローバル化と取引構造の分極化」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会, 第 17 巻第 2 号.
- 二上季代司[1995]「証券取引所システムの変化」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会, 第 33 巻第 12 号.
- 二上季代司[1996]「店頭エクイティ・デリバティブズについて」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 31 号.
- 二上季代司[1997]「アメリカにおける 75 年証券市場改革の意義」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 5 号.
- 二上季代司[1997]「ビッグバン以降の英国取引所制度の改革」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会, 第 35 巻第 2 号.
- 二上季代司[1997]「証券取引所と PTS」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 6 号.
- 二上季代司[1997]「日本の金融改革について」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 7 号.
- 二上季代司[1998]「投資家保護基金について」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1556 号.
- 二上季代司[1999]「債権貸借市場と短期金融市場」『インベストメント』大阪証券取引所, 第 52 巻第 2 号.
- 二上季代司[1999]「構造転換が進む証券界」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 21 号.
- 二上季代司[2000]「証券会社の経営組織と人事制度」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 27 号.
- 二上季代司[2000]「証券会社における企業戦略と経営組織」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 40 巻第 12 号.
- 二上季代司[2001]「証券取引所の組織構造とガバナンス」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 33 号.
- 二上季代司[2001]「情報化の進展と証券会社の変ぼう」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会, 第 39 巻第 12 号.

- 二上季代司[2002]「清算機関のガバナンス——競争と市場インフラ」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 37 号.
- 二上季代司[2003]「市場間競争と証券取引所の株式会社化」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 38 号.
- 二上季代司[2004]「投資信託のガバナンス」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会, 第 42 巻第 6 号.
- 二上季代司[2006]「オプション取引と 4 つのリスク対応類型 (投機, 賭博, ヘッジ, 保険)」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第 357 号.
- 二上季代司[2006]「証券市場の構造的変化と企業ガバナンスの変化」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 41 号.
- 二上季代司[2007]「証券市場論の回顧と展望——最近 10 年間」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 42 号.
- 二上季代司[2008]「新株発行の割当規制における上場規則の役割」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第 374 号.
- 二上季代司[2009]「金融危機と今後の証券業」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 49 巻第 5 号.
- 二上季代司・代田純編[2011]『証券市場論』<有斐閣ブックス>有斐閣.
- 二上季代司[2011]「証券業の経済的機能とその変化」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第 390 号.
- 二上季代司[2012]「証券ブローカー業の起源」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第 391 号.
- 二上季代司[2012]「証券市場の機能と証券業務」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第 394 号.
- 二上季代司[2012]「証券社会のビジネスモデルについて」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 52 巻第 11 号.
- 二上季代司[2013]「証券ビジネスのアンバンドリング——中堅・中小証券を中心に」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第 395 号.
- 二上季代司[2015]「日本の証券会社の収益性分析」, 証券経営研究会編『資本市場の変貌と証券ビジネス』日本証券経済研究所.
- 二上季代司[2015]「わが国証券市場, 証券業界の戦後 70 年」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第 406 号.
- 二上季代司[2015]「証券業者ビジネスの変容について」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 55 巻第 8 号.
- 二上季代司[2016]「わが国証券会社経営の類型化について」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第 56 巻第 7 号.
- 二上季代司[2019]「証券業界の構造変化について——平成年間の 30 年」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 108 号.
- 二上季代司[2020]「戦後日本の株価形成要因について (上) ——バブル崩壊まで」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第 425 号.
- 二上季代司[2022]「日本における外国証券業者について」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第 431 号.
- 西洋[2014]『所得分配・金融・経済成長——資本主義経済の理論と実証』日本経済評論社.
- 西尾圭一郎[2005]「シンガポールにおける多国籍企業の進出と基軸通貨ドル」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 40 号.
- 西尾圭一郎[2006]「アジアの債券市場育成と国際資金フロー」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 41 号.
- 西尾圭一郎[2008]「グローバル経済下の ASEAN と国際通貨システム」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 26 号.
- 西尾圭一郎[2010]「サブプライムローン危機と東南アジアのドル本位制」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第 60 巻第 4 号.
- 西尾圭一郎[2011]「通貨危機後の東南アジアとサブプライムローン危機」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 46 号.
- 西尾圭一郎[2012]「アジア債券市場育成の取り組みと成長過程」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 1675 号.
- 西尾圭一郎[2013]「投資家保有構造から考える日本国債の安定性」『証券レポート』日本証券経済研究

- 所大阪研究所, 第 1679 号.
- 西尾圭一郎[2015]「金融システムと金融規制の類型化の難しさ——インドの金融システムをケースとして」『松山大学論集』松山大学総合研究所, 第 26 卷第 6 号.
- 西尾圭一郎[2019]「書評 入江恭平著『戦後国際金融の歴史的諸相——帰結としての世界金融危機』」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 108 号.
- 西尾圭一郎[2020]「書評 大橋陽・中本悟編著『ウォール・ストリート支配の政治経済学』」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 111 号.
- 西尾夏雄・赤羽裕・池袋昌子編著[2010]『世界経済危機と日本経済』時潮社.
- 西尾夏雄[2012]「金融危機後の米国経済と経済政策——「アメリカン・グローバリゼーション」についての考察」『信用理論研究』信用理論研究会, 第 30 号.
- 西川純子[1968]「アメリカ公益企業における初期持株会社の成立」『経営史学』経営史学会, 第 3 卷第 3 号.
- 西川純子[1969]「持株会社についての一考察——TNEC 報告第 29 巻を中心に」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第 20 卷第 3・4 号.
- 西川純子[1969]「公益企業持株会社と 1920 年代のアメリカ証券市場——電力, ガス産業を中心に」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 27 号.
- 西川純子[1970]「1920 年代アメリカの企業金融分析——金融資本展開過程の一側面」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第 21 卷第 2・3 号.
- 西川純子[1973]「1920 年代アメリカにおける金融機関の集中」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第 24 卷第 3 号.
- 西川純子[1973]「両大戦間アメリカにおける金融寡頭制支配——公益事業を中心に」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 36 号.
- 西川純子[1973]「商業銀行と企業金融——1920 年代アメリカの場合」『土地制度史学』土地制度史学会, 第 15 卷第 4 号.
- 西川純子[1977]「両大戦間におけるアメリカの企業金融——電力と鉄鋼を中心に」『経営史学』経営史学会, 第 12 卷第 1 号.
- 西川純子[1980]『アメリカ企業金融の研究——1920 年代を中心として』東京大学出版会.
- 西川純子・松井和夫[1989]『アメリカ金融史——建国から 1980 年代まで』<有斐閣選書>有斐閣.
- 西川純子[1998]「真正手形主義についての一考察 (1) ——グラス・ティール法の思想的背景を求めて」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 12 号.
- 西川純子[2001]「真正手形主義についての一考察 (2) ——連邦準備法からグラス・スティーガル法まで」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第 30 号.
- 西川純子[2010]「ニューディールの金融改革——1935 年銀行法を中心に」『経済史研究』大阪経済大学日本経済史研究所, 第 14 号.
- 西川純子[2012]「ニューディールの金融改革——証券三法とニューディール」『アメリカ経済史研究』アメリカ経済史研究会, 第 10 号.
- 西川純子[2013]「金融規制の政治経済学」, 中本悟・宮崎礼二編『現代アメリカ経済分析——理念・歴史・政策』日本評論社.
- 西倉高明[1998]『基軸通貨ドルの形成』勁草書房.
- 西田颯生[2010]「私募債市場の日本的意義」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第 56 卷第 3・4 号.
- 西田博[1967]「アメリカ独占確立期におけるトラスト形成と「株式水割り」財務方策」『経済論叢』京都大学経済学会, 第 100 卷第 4 号.
- 西田博[1968]「アメリカ独占確立期における「水割り」財務方策と公表会計実務」『経済論叢』京都大学経済学会, 第 101 卷第 6 号.
- 西田博[1969]「1920 年代アメリカ企業会計実務の考察——「暖簾」の償却実務をめぐる」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 7 卷第 4-6 号.
- 西田博[1972]「アメリカ合衆国における資産再評価実務——1920 年代を中心として」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第 11 卷第 3・4 号.

- 西田博[1979]「合衆国における「株式水割」財務統制と公開制(1)」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第30巻第1号.
- 西田博[1980]「米国無額面株式制度展開の一考察——「株式水割問題」との関連において」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第30巻第5・6号.
- 西田博[1982]「1920年代米国における公益事業持株会社および投資信託の設立財務——ワラントまたはオプションをめぐる」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第32巻第5号.
- 西田博[1984]「米国におけるプロモーター所得としてのワラントまたはオプションの考察(1・2)」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第34巻第5・6号・第35巻第2号.
- 西田博[1986・87・88]「1960年代米国の合併運動と合併会計(1・2・3)」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第36巻第5・6号・第38巻第2号・第39巻第2号.
- 西田博[1989]「公益事業持株会社支配機構の構築と企業会計実務——米国の第2次合併運動と合併会計の考察」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第40巻第2号.
- 西田博[1990]「1920年代米国合併会計実務の考察」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第28巻第6号.
- 西野嘉一郎[1935]『近代株式会社論——持株会社の研究』森山書店.
- 西野勉[1989]『経済学と所有——『経・哲草稿』から『資本論』』世界書院.
- 西野宗雄[1980]「利子生み資本の基本的規定」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第27巻第2号.
- 西野宗雄[1982]「株式会社と株式制度」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第29巻第1号.
- 西野宗雄[1995]「株式出資と貨幣信用」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第42巻第1・2号.
- 西原誠司[1986]「独占的商業資本の運動形態」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第35巻第3号.
- 西原誠司[1994]「金融資本の資本蓄積と恐慌の新たな発現形態——バブル経済との関わりで」『鹿児島短期大学研究紀要』鹿児島短期大学, 第53号.
- 西原誠司[2000]『グローバリゼーションと現代の恐慌』文理閣.
- 西原誠司[2010]「金融危機下のヨーロッパ——EU統合とグローバリズムのはざままで」『唯物論と現代』関西唯物論研究会, 第44号.
- 西部忠[2014]『貨幣という謎——金と日銀券とビットコイン』<NHK出版新書435>NHK出版
- 西村明[1977]『財務公開制度の研究』同文館.
- 西村明[1988]「中国株式制度の現況と問題」『会計』森山書店, 第134巻第4号.
- 西村閑也[1959]「イギリスの銀行合同運動について(1・2)」『金融経済』金融経済研究所, 第55号・第56号.
- 西村閑也[1962]「イギリスの銀行合同運動について再論(1・2・3)」『金融経済』金融経済研究所, 第74号・第75号・第78号.
- 西村閑也[1962]「信用・貨幣論」, 渡辺佐平編『論争・現代の経済理論』日本評論新社.
- 西村閑也[1965]「国際金融市場」, 川口弘・川合一郎編『金融論講座4——国際金融と国際通貨機構』有斐閣.
- 西村閑也[1975]「ヨーロッパ経済通貨統合と資本市場」『証券研究』日本証券経済研究所, 第45号.
- 西村閑也[1979]「イギリスの経済成長と産業投資」『証券研究』日本証券経済研究所, 第58号.
- 西村閑也[1980]『国際金本位制とロンドン金融市場』法政大学出版局.
- 西村閑也[1981]「国際金本位制とロンドン金融市場1870~1913」『経営志林』法政大学経営学会, 第18巻第3号.
- 西村閑也[1983]「英国産業の生産性と経済成長」『証券研究』日本証券経済研究所, 第70号.
- 西村閑也[1986]「サッチャー政権下の英国におけるマネタリー・コントロール」『証券研究』日本証券経済研究所, 第79号.
- 西村閑也[1987]「第1次大戦前の銀行集中運動——イ

- ギリスとフランスの比較』『経営志林』法政大学経営学会，第24巻第3号。
- 西村閑也[1990]「サッチャー政権下の英国経済」『証券研究』日本証券経済研究所，第91号。
- 西村閑也・深町郁彌・小林襄治・坂本正[1991]『現代貨幣信用論』名古屋大学出版会。
- 西村閑也[1994]「サッチャー以後の英国金融政策」『証券研究』日本証券経済研究所，第109号。
- 西村達夫[1954]「資本制信用の諸特質」『東北学院大学論集』東北学院大学文経学会，第15号。
- 西村達夫[1955]「独占の形成と利子生み資本」『東北学院大学論集』東北学院大学文経学会，第18号。
- 西村はつ・吉田賢一[1996]『経済学の歴史と理論』学文社。
- 西村友作[2005]「低迷する中国証券市場の現状——信用危機脱却の必要性」『中国経済』日本貿易振興機構，第474号。
- 西村友作[2008]「中国株式市場と主要株式市場間における株価連動性分析」『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学会，第14巻第1-4号。
- 西村友作[2009]「中国株式市場の現状と国際比較」『中国経済』日本貿易振興機構，第8号。
- 西村友作[2009]「中国株式市場国際連動性のパズル」『証券経済学会年報』証券経済学会，第44号。
- 西村友作・筒井義郎・平山健二郎[2011]「金融危機と日中ボラティリティ——日米中株式市場の比較分析」『大阪大学経済学』大阪大学大学院経済学研究科，第61巻第3号。
- 西村友作・孫便霞・門明[2012]「金融危機における米中株式市場間情報伝達の考察」『金融経済研究』日本金融学会，第34号。
- 西村友作[2013]「世界金融危機下の中国株式市場——市場クラッシュとボラティリティ」『証券経済学会年報』証券経済学会，第48号。
- 西村友作[2016]「金融危機と米中株価連動」『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学会，第22巻第3・4号。
- 西山忠範[1961]『株式会社における資本と利益——企業会計法の問題点』勁草書房。
- 西山忠範[1969]「現代企業の支配構造にかんする仮説——株式会社制度の崩壊」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第16巻第4-6号。
- 西山忠範[1971]「現代企業の支配構造分析——対象と方法」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第19巻第2-4号。
- 西山忠範[1974]「企業の合併と支配構造」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第21巻第6号。
- 西山忠範[1975]『現代企業の支配構造——株式会社制度の崩壊』有斐閣。
- 西山忠範[1979]「支配構造の変容と企業会計」『経営論集』明治大学経営学研究所，第26巻第3号。
- 西山忠範[1979]「法人資本主義論批判——富森虔児氏と奥村宏氏への反論」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第26巻第5・6号。
- 西山忠範[1979]「会社による会社支配——宮崎義一氏の所説批判」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第27巻第1号。
- 西山忠範[1979]「機能資本と無機能資本——馬場克三氏の所説批判」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第27巻第3-5号。
- 西山忠範[1979]「株式会社無機能化の象徴——株主総会——株主総会白書（1979年版）を読んで」『旬刊商事法務』商事法務研究会，第856号。
- 西山忠範[1979]「企業の支配構造とその社会的影響——日本資本主義の崩壊と管理主義社会の成立」，諸井勝之助・土屋守章編『企業と社会』＜東京大学産業経済研究叢書＞東京大学出版会。
- 西山忠範[1980]「所有と支配——現代日本企業の支配構造分析」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第27巻第6号。
- 西山忠範[1980]『支配構造論——日本資本主義の崩壊』文真堂。
- 西山忠範[1981]『日本は資本主義ではない』三笠書房。
- 西山忠範[1982]「会社合併と企業の支配構造」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第30巻第1号。
- 西山忠範[1982]「溺者の藁か法人資本主義論——奥村宏氏と柴垣和夫氏への反論（上・下）」『経済評論』日本評論社，第31巻第11号・第12号。

- 西山忠範[1983]「個人所有と機関所有——三戸公氏の所説批判と反論」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第30巻第5・6号。
- 西山忠範[1983]「法人資本主義論の虚妄——奥村宏氏と富森虔児氏への再反論」『経済評論』日本評論社，復刊第32巻第12号。
- 西山忠範[1984]「支配関係の構造序説——企業と国家の支配構造仮説および北原説批判」『経済評論』日本評論社，復刊第33巻第9号。
- 西山忠範[1985]「資本と株式——「切断」の徹底」，加藤盛弘・斎藤静樹編『企業会計の機能と制度』森山書店。
- 西山忠範[1986]「占有と支配の構造変化」『武蔵大学論集』武蔵大学経済学会，第34巻第2-4号。
- 西山忠範[1992]『日本企業論——株式会社制度の廃棄と新しい企業形態の構想』文真堂。
- 西山忠範[1993]「「持分の保有」と「組織の管理」——「所有と経営の分離」と「所有と支配の分離」について」『組織科学』組織学会，第26巻第4号。
- 仁昌寺正一[1982]「ガルブレイスの企業論——テクノストラクチャ概念の現代的意義」『東北学院大学論集 経済学』東北学院大学文経法学会，第87・88号。
- 新田滋[1994]「経済学における企業組織，公共機関，自生的秩序——市場原理と現代経済学」『茨城大学教養部紀要』茨城大学教養部，第27号。
- 新田滋[1995]「資本の物神性と資本利子率——宇野弘蔵説と武井邦夫説の検討」『茨城大学政経学会雑誌』茨城大学政経学会，第63号。
- 新田滋[1995]「所得分配と資本利子率の物神性——山口重克説の検討と資本物神論の再構成」『茨城大学教養部紀要』茨城大学教養部，第28号。
- 新田滋[1998]『段階論の研究——マルクス・宇野経済学と＜現在＞』御茶の水書房。
- 新田滋[1999]「資本市場と恐慌——原理論と段階論・現状分析の間」『茨城大学人文学部紀要 社会科学論集』茨城大学人文学部，第32号。
- 新田滋[2001]『恐慌と秩序——マルクス＜資本論＞と現代思想』情況出版。
- 新田滋[2001]『超資本主義の現在——極端な資本主義と脱・資本主義との交錯としての』御茶の水書房。
- 新田滋[2001]「セキュリティタイゼーションと「金融資本」概念の再評価——ヒルファディングにおける「資本の流動化」と「金融資本」の概念をめぐる」『茨城大学政経学会雑誌』茨城大学政経学会，第71号。
- 新田滋[2013]「2008年恐慌における資本の絶対的過剰と管理通貨制——宇野『恐慌論』／大内『国家独占資本主義』再考」『専修大学社会科学研究所月報』専修大学社会科学研究所，第600号。
- 新田滋[2015]「資本結合をめぐる原理論的諸問題——証券市場，株式会社，独占・寡占，資本-利子をめぐる」『専修大学社会科学研究所月報』専修大学社会科学研究所，第629号。
- 新田俊三[1961]「利子附資本の基本的規定について——資本の商品化の意味するもの」『大分大学経済論集』大分大学経済学会，第13巻第2号。
- 二宮健史郎[2001]「カルドア型循環モデルと金融の不安定性」『ファイナンス研究』日本証券経済研究所，第27号。
- 二宮健史郎[2005]「負債荷重と金融政策」『季刊 経済理論』経済理論学会，第41巻第4号。
- 二宮健史郎[2006]『金融恐慌のマクロ経済学』中央経済社。
- 二宮健史郎[2006]「金融の不安定性と政策金融の役割——金融不安定性のマクロ動学モデルによる再検討」『季刊 経済理論』経済理論学会，第43巻第3号。
- 二宮健史郎[2007]「金融不安定性理論とワルラス法則」『彦根論叢』滋賀大学経済学会，第364号。
- 二宮健史郎[2009]「負債加重，金融資産，及び金融の不安定性」『季刊 経済理論』経済理論学会，第46巻第2号。
- 二宮健史郎[2010]「「長期」と「短期」のマクロ経済モデルと金融の不安定性——ポスト・ケインズ派金融不安定性分析の位置づけと評価」『季刊 経済理論』経済理論学会，第46巻第4号。
- 二宮健史郎[2010]「貨幣と金融」，中谷武・中村保編

- 著『1からの経済学』碩学舎.
- 二宮健史郎・得田雅章[2011]「構造変化と金融の不安定性」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第48巻第2号.
- 二宮健史郎[2011]「ポスト・ケインズ派 金融不安定性分析の射程と可能性」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第390号.
- 二宮健史郎[2012]「金融危機と金融恐慌——再論」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第394号.
- 二宮健史郎[2015]「負債荷重, 確信, 金融の不安定性と循環」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第51巻第4号.
- 二宮健史郎・得田雅章[2017]「金融資産の蓄積による金融化と経済の不安定性」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第54巻第3号.
- 二宮健史郎[2018]『金融不安定性のマクロ動学』大月書店.
- 二宮健史郎[2019]「金融構造の変化とポスト・ケインズ派マクロ動学——展望」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第73巻第2号.
- 日本経済学会連合編[1975]『経済学の動向』中巻, 東洋経済新報社.
- 日本経済学会連合編[1982]『経済学の動向』第2集, 東洋経済新報社.
- 日本証券経済研究所編[1967]『日本証券市場の諸問題』東洋経済新報社.
- 日本証券経済研究所編[1969]『証券と金融をめぐる諸問題』日本証券経済研究所.
- 日本証券投資協会編[1960]『新証券講座2——株価の変動と相場の見方』ダイヤモンド社.
- 布目真生[1974]「マーチャント・バンクとマルチナショナル・バンク」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第9号.
- 布目真生[1975]「ユーロカレンシー市場とマルチナショナル・バンク」『証券研究』日本証券経済研究所, 第45号.
- 布目真生[1976]『マーチャント・バンキング』金融財政事情研究会.
- 布目真生[1977]「両大戦間のイギリスの金融政策と金融市場の変遷」『経済研究』一橋大学経済研究所, 第28巻第3号.
- 布目真生[1982]「国際金融・資本市場の現在の動向」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第17号.
- 布目真生[1983]「金融機関国有化論とウィルソン報告」『証券研究』日本証券経済研究所, 第70号.
- 布目真生[1985]『インターナショナル・バンキング——債務危機への対応』<有斐閣選書>有斐閣.
- 布目真生[1990]「イギリスにおける私有化の経験と評価」『証券研究』日本証券経済研究所, 第91号.
- 布目真生[1994]「イギリスのプライベート化——その経験と影響の再評価」『証券研究』日本証券経済研究所, 第109号.
- 布目真生[1997]「エマージング・マーケットへの資本の流れ」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第10号.
- 根本久雄[1979]「ドイツ産業革命期における株式会社の設立とその意義」, 栗原福也・山田欣吾・米川伸一編『ヨーロッパ——経済・社会・文化』<増田四郎先生古稀記念論集>創文社.
- 野口祐[1957]「巨大株式企業管理・利害者集団の分析」『経済学年報』慶應義塾経済学会, 第1号.
- 野口祐[1960]『日本の合理化と労働運動』大月書店.
- 野口祐・関口操・石坂巖・小島三郎[1961]『経営通論』学文社.
- 野口祐[1964]『日本の企業合同——合同・合併の経営問題』ダイヤモンド社.
- 野口祐[1964]『現代企業集中論——日本企業集中の特質』<商学研究叢書3>有斐閣.
- 野口祐・菰淵正晃・中村瑞穂・川辺平八郎[1965]『経営学総論』世界書院.
- 野口祐・片山伍一・荒川邦寿編[1973]『現代日本の株式会社』南雲堂深山社.
- 野口祐編著 [1979]『日本の六大コンツェルン——三菱・三井・住友・第一勧銀・富士・三和』新評論.
- 野口祐教授還暦記念論文編集委員会編[1987]『現代企業における技術と経営の展開』森山書店.
- 野口裕・片山伍一・荒川邦寿編[1973]『現代日本の株式会社』南雲堂深山社.
- 野口真[2004]「現代金融システムと信用論——金融脆

- 弱性の理論と現代の金融危機」, SGCIME 編『金融システムの変容と危機』御茶の水書房.
- 野口雄一郎・安部一成編[1972]『現代大企業論——日本の大企業体制』＜経済学基礎セミナー5＞有斐閣.
- 野下保利[1984]「企業合併と資本蓄積——石油・天然ガス産業の最近の事例（1978-80年）を中心に」『経済学研究』九州大学経済学会, 第50巻第3・4号.
- 野下保利[1984]「企業合併と金融市場——Stephen J. Entin “Merger Activity and Credit” について」『経済学研究』九州大学経済学会, 第50巻第5号.
- 野下保利[2000]「レボ取引とアメリカ証券市場の変貌」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第26号.
- 野下保利[2002]「証券市場とは何か——資本市場論と証券市場構造」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第40号.
- 野下保利・徐曉斌[2006]「中国株式市場と「国有株流通問題」——グラジュアリズム政策の成功と限界」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第41号.
- 野下保利[2008]「金融資本主導下の貨幣的均衡——現代資本主義分析におけるポスト・ケインズ派とマルクス派」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第45巻第2号.
- 野下保利[2012]「証券市場と銀行システム——ガーリー＝ショー金融構造論の再検討」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第77号.
- 野下保利[2014]「現代資本市場論の源流——ベーム＝バベルク資本利子説の意味するもの」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第85号.
- 野下保利[2016]「証券市場, 投資家行動, そして効用価値論——ジェヴォンズ自由資本概念の含意」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第94号.
- 野下保利[2018]「国際通貨改革と戦後米国株式市場——ベラージオ会議 (Bellagio Group Conferences) における議論を中心に」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第102号.
- 野下保利[2020]「株価の価値源泉を求めて——ベンサムのアダム・スミス批判の含意」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第110号.
- 野田弘英[1967]「ヒルファディング『金融資本論』の理論的性格について」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第19号.
- 野田弘英[1968]「『金融資本論』の研究——「総カルテル」論の特質」『経済学研究』九州大学経済学会, 第34巻第4号.
- 野田弘英[1970]「ヒルファディングの貨幣・信用理論」『熊本商大論集』熊本商科大学, 第31号.
- 野田弘英[1971]「ヒルファディングの金融資本理論の特質」『金融経済』金融経済研究所, 第127号.
- 野田弘英[1972・73]「ヒルファディングの擬制資本論」(1・2), 『熊本商大論集』熊本商科大学, 第36号・第38号.
- 野田弘英[1973]「「配当と創業利得」について——擬制資本再論」『熊本商大論集』熊本商科大学, 第39号.
- 野田弘英[1975]「金融資本概念に関する一考察——ヒルファディングの所説を中心として」『海外事情研究』熊本学園大学附属海外事情研究所, 第3巻第1号.
- 野田弘英[1975・76]「独占形成と株式会社——『金融資本論』の検討」(上・中), 『熊本商大論集』熊本商科大学, 第46号・第49号.
- 野田弘英[1978]「独占形成と株式会社——『金融資本論』の検討」(下)『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第41号.
- 野田弘英[1978]「わが国における「金融資本論」の研究の動向」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第13号.
- 野田弘英[1979]「資本信用に関する一考察」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第43号.
- 野田弘英[1980]「通貨と信用——『金融資本論』の検討」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第45号.
- 野田弘英[1981]『金融資本の構造——『金融資本論』研究』新評論.

- 野田弘英[1981]「銀行制度と株式会社」『社会科学論集』埼玉大学経済学会，第47号。
- 野田弘英[1983]「独占化と銀行支配——『金融資本論』の構成との関連」『社会科学論集』埼玉大学経済学会，第51号。
- 野田弘英[1988]「金融資本と「経営者」」『経済学研究』九州大学経済学会，第54巻第4・5号。
- 野田弘英[1991]「「所有と支配」の主要問題」『社会科学論集』埼玉大学経済学会，第72号。
- 野田弘英[1993]「資本信用と信用創造」『社会科学論集』埼玉大学経済学会，第80号。
- 野田弘英[2010]「成熟経済と金融危機」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会，第267号。
- 野田弘英[2015]「独占・金融資本の理論」，鶴田満彦・長島誠一編『マルクス経済学と現代資本主義』桜井書店。
- 野田弘英[2016]「金融資本主義の一考察」『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学会，第22巻第3・4号。
- 野田正穂[1959]「イギリス株式会社の構造的性質について」『経済志林』法政大学経済学部学会，第27巻第2号。
- 野田正穂[1960]「「労働者株式会社」小論」『経済志林』法政大学経済学部学会，第28巻第3号。
- 野田正穂[1962]「満州事変以後におけるわが国株式市場の構造変化について」『経済志林』法政大学経済学部学会，第30巻第2号。
- 野田正穂[1962]「ランカシア綿工業における株式会社の形成——いわゆる Oldham Limiteds の構造的性質について」『経済志林』法政大学経済学部学会，第30巻第3号。
- 野田正穂[1964]「明治期における私有鉄道の発達と株式発行市場の展開——わが国における私有鉄道の発達と証券市場の形成(1)」『経済志林』法政大学経済学部学会，第32巻第1号。
- 野田正穂[1966・67・68]「明治期における鉄道会社金融の展開——わが国における私有鉄道の発達と証券市場の形成(2)」(上・中・下)，『経営志林』法政大学経営学会，第3巻第1号・第3号・第5巻第3号。
- 野田正穂[1966]「明治初期の公債投機と株式取引所の成立」『金融経済』金融経済研究所，第99号。
- 野田正穂[1968]「戦前・戦後の資本蓄積と証券・金融」，中村孝俊編『証券経済講座 第1巻——日本経済と証券・金融』東洋経済新報社。
- 野田正穂[1969]「明治期における鉄道株流通市場の展開——わが国における私有鉄道の発達と証券市場の形成(3)」『経営志林』法政大学経営学会，第6巻第1・2号。
- 野田正穂[1971・73]「鉄道国有化と証券市場の構造変化——わが国における私有鉄道の発達と証券市場の形成(4)」(上・下)，『経営志林』法政大学経営学会，第8巻第2号・第9巻第4号。
- 野田正穂[1974]「明治期普通銀行の株式担保貸付けについての一考察」『経済志林』法政大学経済学部学会，第41巻第3・4号。
- 野田正穂[1974]「明治期の銀行と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第9号。
- 野田正穂[1975]『金融のはなし』新日本出版社。
- 野田正穂[1978]「わが国における株式取引所の成立」『インベストメント』大阪証券取引所，第31巻第3号。
- 野田正穂[1979]「増資形態の歴史的一考察——明治期の株主割当額面発行について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第14号。
- 野田正穂[1980]『日本証券市場成立史——明治期の鉄道と株式会社金融』有斐閣。
- 野田正穂・谷田庄三編[1984]『講座日本の金融機構』(上・下)，新日本出版社。
- 野田正穂・老川慶喜編[2003]『日本鉄道史の研究——政策・経営／金融・地域社会』八朔社。
- 野田稔[1954・55]「資本調達からみた金融資本再編成過程」(1・2)，『明大商学論叢』明治大学商学研究所，第38巻第2号・第39巻第3号。
- 野田稔・加藤寛・中村秀一郎・大野英二・新野幸次郎編[1964]『経済政策講座 第2巻——経済政策の史的展開』有斐閣。
- 野田稔・浜田正幸[2002]『誰にも聞けなかった会社のしくみ』日本経済新聞社。

- 野地洋行[1964]「バザールと「サン・シモンの学説・解説」の思想——サン・シモン思想からの発展を中心とし」『経済学年報』慶應義塾経済学会，第7号。
- 野中郁江[1998]「証券会社における自己資本規制比率について」『政経研究』政治経済研究所，第71号。
- 野中郁江[2003]「株主価値」試論——経営分析からみた問題提起『明大商学論叢』明治大学商学研究所，第85巻第2号。
- 野中郁江[2015]「ファンドによる企業支配と株主権論」，福田邦夫編著『21世紀の経済と社会』＜明治大学社会科学研究所叢書＞西田書店。
- 野々村一雄[1948]『日本戦後経済の現段階——「危機」より「安定」へ』蘭書房。
- 延近充[2015]『21世紀のマルクス経済学』慶應義塾大学出版会。
- 野村昭夫[1960]『現代資本主義と経済統合』＜戦後世界の政治と経済3＞三一書房。
- 野村昭夫[1968]「EECにおける集積と集中——企業の統合をめぐる」『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第12巻第8号。
- 野村順之助[1931]『日本金融資本発達史』共生閣。
- 則武保夫[1955]「書評 川合一郎著『資本と信用』」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第91巻第1号。
- 則武保夫[1965]『現代金融論——資金循環と金融資産の研究』＜神戸経済学双書2＞神戸大学研究双書刊行会。
- 拝司静夫・牧村四郎編[1984]『日本金融機関史文献目録 改訂増補版』全国地方銀行協会。
- 芳賀健一[2009]「日本の金融危機とネオリベリズム」『現代思想』青土社，第37巻第1号。
- 萩原伸次郎[1976]「アメリカ資本主義と貨幣恐慌（1929-33年）」『土地制度史学』土地制度史学会，第18巻第4号。
- 萩原伸次郎[1976]「アメリカ資本主義と大恐慌——1929～33年貨幣恐慌分析」（1・2・3・4），『北海学園大学経済論集』北海学園大学経済学会，第24巻第1号・第2号・第3号・第4号。
- 萩原伸次郎[2005]『世界経済と企業行動——現代アメリカ経済分析序説』大月書店。
- 萩原伸次郎・中本悟編[2005]『現代アメリカ経済——アメリカン・グローバリゼーションの構造』日本評論社。
- 萩原伸次郎[2016]『新自由主義と金融覇権——現代アメリカ経済政策史』大月書店。
- 萩原伸次郎[2018]『世界経済危機と『資本論』』新日本出版社。
- 萩原伸次郎[2020]『金融グローバリズムの経済学——格差社会の形成と世界金融危機の勃発』かもがわ出版。
- 狭間源三[1954]「紡績の系列支配について」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第30巻第3・4号。
- 橋本勲[1971]『現代商業学』＜現代経済学全書12＞ミネルヴァ書房。
- 橋本寿朗・武田晴人編著[1985]『両大戦間期日本のカルテル』御茶の水書房。
- 橋本寿朗編[1996]『日本企業システムの戦後史』東京大学出版会。
- 橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭[1998]『現代日本経済』＜有斐閣アルマ＞有斐閣（新版，2006年，第3版（橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直），2011年，第4版（橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直），2019年）。
- 橋本寿朗[1999]「証券会社の経営破綻と間接金融・長期雇用システム——1965年証券恐慌と山一証券」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第19号。
- 橋本寿朗[1999]「山一証券の経営破綻と銀行管理下の再建——1965年証券恐慌と山一証券」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第21号。
- 橋本寿朗・大杉由香[2000]『近代日本経済史』＜岩波テキストボックス＞岩波書店。
- 橋本寿朗[2000]『現代日本経済史』＜岩波テキストボックス＞岩波書店。
- 橋本寿朗・中川淳司編[2000]『規制緩和の政治経済学』有斐閣。
- 橋本寿朗[2004]『戦間期の産業発展と産業組織Ⅱ——

- 重化学工業化と独占』東京大学出版会.
- 長谷部孝司[2011]「アメリカの金融システムの変容と証券化の意味」『社会理論研究』社会理論学会, 第12号.
- 長谷部孝司[2013]『経済のソフト化・サービス化と金融改革——現代日本の金融構造改革を中心として』社会評論社.
- 長谷部孝司[2015]「アメリカの金融システムにおける証券化の進展と意味」, SGCIME 編『グローバル資本主義の変容と中心部経済』<グローバル資本主義の現局面 I > 日本経済評論社.
- 長谷部孝司[2019]「金融化が意味するもの——福祉国家型金融システムの形成と変容」『社会理論研究』社会理論学会, 第20号.
- 長谷部孝司[2019・20・21・22]「福祉国家型金融システムの形成・変容と金融化の進展」(1・2・3・4), 『東京成徳大学経営学部経営論集』東京成徳大学経営学部, 第8号・第9号・第10号・第11号.
- 波多野真[1963]『世界経済の潮流』未来社.
- 波多野真[1968]『世界経済と金問題』未来社.
- 服部育生[1982]「株式所有と独占禁止法10条」『名古屋学院大学論集 社会科学篇』名古屋学院大学総合研究所, 第19巻第1号.
- 服部育生[1983]「企業結合と独占禁止法」(1・2・3), 『名古屋大学法政論集』名古屋大学大学院法学研究科, 第97号・第98号・第99号.
- 服部茂幸[2011]「経営者資本主義からファンド資本主義へ」, 八木紀一郎・服部茂幸・江頭進編『進化経済学の諸潮流』日本経済評論社.
- 服部茂幸[2012]『危機・不安定性・資本主義——ハイマン・ミンスキーの経済学』ミネルヴァ書房.
- 服部茂幸[2015]「2008年の金融危機におけるマネー・マネージャー資本主義の崩壊と再生」『季刊経済理論』経済理論学会, 第52巻第3号.
- 服部正喜[2017]『金融革命 1985~2008——社会構造の大転換! そのメカニズム』創元社.
- 服部泰彦[1980]「アメリカにおける自己金融の発展」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第31巻第3号.
- 服部泰彦[1981]「金融資本における銀行の役割」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第32巻第4号.
- 服部泰彦[1982]「現代日本の株式市場と企業集団——銀行の新たな役割」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第33巻第3号.
- 服部泰彦[1983]「企業集団と株式市場——株式の相互持合いとの関連で」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第18号.
- 服部泰彦[1983]「銀行と証券会社——企業取引を媒介とした関係」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第34巻第3号.
- 服部泰彦[1984]「証券市場の発展と証券独占——銀行と証券の相互関係」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第35巻第2号.
- 服部泰彦[1990]「現代の帝国主義と「金融の肥大化」(上)」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第28巻第4・5号.
- 服部泰彦[1991]「現代の金融資本と「独占資本」」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第30巻第1号.
- 服部泰彦[1992]「証券不祥事と損失補てん問題」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第31巻第2号.
- 服部泰彦[1993]『現代の金融資本と株式市場』法律文化社.
- 服部泰彦[1995]「証券不況・金融不安と破綻金融機関の処理」(上・下), 『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第34巻第2号・第3号.
- 服部泰彦[1996]「株価の低迷と金融システムの不安定性」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第31号.
- 服部泰彦[1998]「日本型コーポレート・ガバナンスと株式持合い」『阪南論集 社会科学編』阪南大学学会, 第34巻第1号.
- 服部泰彦[2016]『金融機関のコーポレート・ガバナンス』文理閣.
- 花井益一[1955]「近代的利子生み資本の本来的運動形態と「資本の前貸か貨幣の前貸か」問題」(上・下), 『富山大学紀要経済学部論集』富山大学経済

- 学部, 第5号・第7号.
- 花井益一[1980]「独占資本論序説——方法論的考察」『岐阜経済大学論集』岐阜経済大学学会, 第14巻第4号.
- 花田功一[1981]「利子生み資本論と信用制度論」『一橋論叢』日本評論社, 第86巻第3号.
- 花輪俊哉編著[1999]『金融システムの構造変化と日本経済』<中央大学企業研究所研究叢書15>中央大学出版部.
- バニンコバ・エバ(花田エバ)[2009]「世界経済危機に至るバルト3国の信用拡大」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第134号.
- バニンコバ・エバ[2012]「世界金融危機下における「外資主導型銀行制度」に関する一考察——中東欧諸国・バルト3国を中心に」『信用理論研究』信用理論研究会, 第30号.
- バニンコバ・エバ[2013]「ユーロ拡大とユーロ危機」, 久保広正・吉井昌彦編著『EU統合の深化とユーロ危機・拡大』<神戸大学経済学叢書19>勁草書房.
- 馬場克三[1947]『企業の経営と労働問題』<産業労働大学講座 第1集>九州産業労働科学研究所.
- 馬場克三[1951]「近代株式会社における所有と経営の分離」, 日本経営学会編『株式会社と企業経営の諸問題』<経営学論集 第22集>同文館.
- 馬場克三[1953]「アメリカに於ける株式会社機構の発展」『企業会計』中央経済社, 第5巻第7号.
- 馬場克三[1954]「自己金融について」『企業会計』中央経済社, 第6巻第1号.
- 馬場克三[1954]「経営財務論への問題提起——株式会社の発展段階」『会計』森山書店, 第65巻第1号.
- 馬場克三[1954]「独占後期における株式会社金融の変貌」『経済学研究』九州大学経済学会, 第20巻第1号.
- 馬場克三[1955]「新株引受権の論理」『パブリックリレーションズ』日本証券投資協会, 第6巻第3号.
- 馬場克三[1955]「新株引受権排除の傾向」『産業経理』産業経理協会, 第15巻第4号.
- 馬場克三[1955]「アメリカ株式会社に於ける株主参加権の崩壊」『企業会計』中央経済社, 第7巻第5号.
- 馬場克三[1955]「株式会社会計の根本問題」『会計』森山書店, 第68巻第2号.
- 馬場克三[1956]「近代株式会社の史的展開(1)」『経済学研究』九州大学経済学会, 第22巻第1号.
- 馬場克三[1956]「わが国における新株引受権の実態」『企業会計』中央経済社, 第8巻第7号.
- 馬場克三[1956]「わが国における新株引受権の実態」『企業会計』中央経済社, 第8巻第8号.
- 馬場克三[1956]「無額面株式についての一つの解釈」『産業経理』産業経理協会, 第16巻第9号.
- 馬場克三[1957]「産業革命期のイギリス株式会社」『会計』森山書店, 第71巻第3号.
- 馬場克三[1957]「自己株式の資産性について」『産業経理』産業経理協会, 第17巻第5号.
- 馬場克三[1957]「経営者報酬の問題」『企業会計』中央経済社, 第9巻第13号.
- 馬場克三[1957]『個別資本と経営技術——経済学の方法及び労務の根本問題』有斐閣.
- 馬場克三[1959]「株式会社発展史覚え書」, 黒沢清・柳川昇編『原価及び原価管理の理論』<中西寅雄先生還暦記念論文集>森山書店.
- 馬場克三[1959]「アメリカ株式会社と制度株主」『会計』森山書店, 第75巻第1号.
- 馬場克三[1961]「プレミアム論争の展望序論」『会計』森山書店, 第79巻第2号.
- 馬場克三[1961]「株式買受請求権証書(Stock Purchase Warrant)について」『産業経理』産業経理協会, 第21巻第3号.
- 馬場克三[1961]「プレミアム論争の展望続論」『会計』森山書店, 第79巻第5号.
- 馬場克三[1962]「プレミアム論争の展望」『経済学研究』九州大学経済学会, 第26巻第5・6号.
- 馬場克三[1962]「株式会社論に関する覚え書」『経済学研究』九州大学経済学会, 第28巻第2号.
- 馬場克三[1964]「自己金融理論の基本問題」『会計』森山書店, 第85巻第2号.
- 馬場克三[1965]『株式会社金融論』森山書店(改訂増

- 補版, 1978年).
- 馬場克三[1965]「優先株についての一節」『経済学研究』九州大学経済学会, 第30巻第5・6号.
- 馬場克三[1966]『経営経済学』税務経理協会(改訂増補版, 1982年).
- 馬場克三編著[1968]『経営学方法論——個別資本説の展開』ミネルヴァ書房.
- 馬場克三編[1968]『経営学概論』有斐閣.
- 馬場克三・片山伍一編[1971]『経営財務論』<講座現代経営経済学3>中央経済社.
- 馬場克三[1978]「株式会社論争おぼえがき」『会計』森山書店, 第114巻第3号.
- 馬場哲・小野塚知二編[2001]『西洋経済史学』東京大学出版会.
- 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功[2012]『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房.
- 馬場宏二[1970]「「帝国主義論」のプラン」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第21巻第5・6号.
- 馬場宏二[1980]「不均等発展の問題——金融資本と帝国主義(1)」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第31巻第6号.
- 馬場宏二[1980]「株式会社の問題——金融資本と帝国主義(2)」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第32巻第1号.
- 馬場宏二[1980]「金融資本と帝国主義——金融資本の蓄積様式(3)」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所, 第32巻第3号.
- 馬場宏二編[1986]『シリーズ世界経済I 国際的連関——焦点と回路』御茶の水書房.
- 馬場宏二[1986]『富裕化と金融資本』<東京大学社会科学研究所研究叢書66>ミネルヴァ書房.
- 馬場宏二[2001]『会社という言葉』<大東文化大学経営研究所研究叢書20>大東文化大学経営研究所.
- 馬場宏二[2003]『マルクス経済学の活き方——批判と好奇心』御茶の水書房.
- 馬場宏二[2008]『経済学古典探索——批判と好奇心』御茶の水書房.
- 土生芳人[1989]『大恐慌とニューディール財政』東京大学出版会.
- 浜田博男[1963]「証券市場における支配と集中について」『研究と資料』大阪市立大学経済研究所, 第19号.
- 浜田博男[1964]「証券市場の再編成と銀行と銀行資本」『研究と資料』大阪市立大学経済研究所, 第23号.
- 浜田博男[1966]「戦後の証券金融構造について」『バンキング』産業経済社, 第220号.
- 浜田博男[1967]「企業合併における資本系列と銀行系列」『研究と資料』大阪市立大学経済研究所, 第24号.
- 浜田博男[1968]「高度成長期の証券・金融」, 中村孝俊編『証券経済講座 第1巻——日本経済と証券・金融』東洋経済新報社.
- 浜田博男[1968]「証券流通資金と資金拘束論争」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第2号.
- 浜田博男[1969]「戦後金融機構再編成過程の特質」, 川合一郎・木下悦二・神野璋一郎・狭間源三編『講座 日本資本主義発達史論IV——第二次世界大戦後』日本評論社.
- 浜田博男[1969]「株式会社と信用制度」『経済理論と経済分析』大阪市立大学経済研究所, 第19集.
- 浜田博男[1970]「わが国証券市場の「近代化」について——その主体的条件としての証券業者を中心に」『研究と資料』大阪市立大学経済研究所, 第29号.
- 浜田博男[1972]「証券金融の構造変化について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第112号.
- 浜田博男[1972]「証券市場の構造変化と展開方向」『経済評論』日本評論社, 復刊第21巻第5号.
- 浜田博男[1972]「擬制資本と信用制度」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第67巻第5・6号.
- 浜田博男[1974]「銀行業務と証券業務——証取法第65条問題について」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会, 第71巻第5

- 号.
- 浜田博男[1977]「公社債市場の拡大と条件付債券売買」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第76巻第6号.
- 浜田博男[1982]「債券先物取引の基本問題」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会，第5巻第2号.
- 浜田博男[1983]「アメリカの金融先物市場について」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会，第6巻第3号.
- 浜田博男編[1993]『アジアの証券市場』〈大阪市立大学経済研究所所報 第42集〉大阪市立大学経済研究所.
- 浜田康行[1987]「ロンドンの第三証券市場」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第162号.
- 浜田康行[1988]『第三の証券市場——中小企業も「上場会社」になれる』東洋経済新報社.
- 浜田康行[1989]「中小企業と証券市場——ジュニア・マーケットの経済学」『商工金融』商工総合研究所，第9号.
- 浜田康行・西沢昭夫・熊谷巧[1990]『株式店頭市場——発展の構図と未来』東洋経済新報社.
- 浜田康行[1990]「中小企業のための証券市場——設立の背景」『証券経済学会年報』証券経済学会，第25号.
- 浜田康行[1991]『金融の原理』北海道大学図書刊行会（増補版，1993年．増補第2版，1999年）.
- 浜野俊一郎・深町郁彌編[1985]『資本論体系 第6巻——利子・信用』有斐閣.
- 浜野俊一郎[1985]「金融経済論 マルクス金融論入門——『資本論』第3巻第5篇の読み方」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第86巻別冊2.
- 浜野俊一郎[1987]「利子生み資本論と信用制度論」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第88巻別冊2.
- 浜野俊一郎[1989]「信用論体系について」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第90巻別冊.
- 濱本泰[1978]「岡村「株式会社金融論」の基本的特徴——その系譜と理論内容について」，岡村正人博士古稀記念論文集編集委員会編『現代経営学と株式会社』〈岡村正人博士古稀記念〉有斐閣.
- 濱本泰[1984]「株式会社と制度改革——株式会社財務制度と「所有と支配のメカニズム」」『大阪経大論集』大阪経大学会，第159-161号.
- 早坂啓造[1968]「株式資本論の方法について——宇野理論の一検討」『岩手大学人文社会科学部紀要』岩手大学人文社会科学部，第4号.
- 林要[1948]『金融資本論入門』同友社.
- 林要[1952]『金融資本の理論』〈青木文庫〉青木書店.
- 林要[1958]『経済原論——社会発展の基礎理論』〈経済学入門全書3〉東洋経済新報社.
- 林要[1959]『金融資本——独占資本の運動法則』日本評論新社.
- 林健久[1963]「明治前期の株式会社——日本金融資本分析の前提」，嘉治真三編『独占資本の研究』東京大学出版会.
- 林健久[1968]「猪俣津南雄」，日高普・林健久・櫻井毅・渡辺寛・降旗節雄・鈴木博『日本のマルクス経済学——その理論と歴史』(下)，青木書店.
- 林健久・渋谷博史[1990]「金融機関の株式所有関係——若干のケース・スタディ」『証券研究』日本証券経済研究所，第93号.
- 林直道[1950]「資本主義の合理性と取引所——マックス・ウェーバー「取引所論」の批判」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第22巻第1・2号.
- 林直道[1965]『帝国主義論——原典解説』〈マルクス＝レーニン主義入門叢書〉青木書店.
- 林直道編[1994]『現代資本主義論集』青木書店.
- 林道義[1967]「イギリスにおける株式会社「有限責任法」成立の経済史的背景」『土地制度史学』土地制度史学会，第9巻第3号.
- 原朗[1999]『日本経済史——現代経済の歴史的前提改訂版』放送大学教育振興会.
- 原司郎[1963]『現代長期金融機構の性格』中央書房.
- 原司郎[1966]『現代日本の金融構造』新評論.
- 原司郎[1967]「西ドイツ資本市場の一考察——抵当債

- 券, 自治体債券を中心として』『インベストメント』大阪証券取引所, 第20巻第5号.
- 原司郎[1968]「西ドイツ資本市場の一考察」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第2号.
- 原司郎[1968]『日本の金融機構——その体質と明日への展望』金融財政事情研究会.
- 原司郎[1971]『西ドイツの金融構造』<銀行叢書 第154巻>全国地方銀行協会.
- 原司郎編[1980]『テキストブック金融論』有斐閣.
- 原輝史[1979]『フランス資本主義研究序説』日本経済評論社.
- 原輝史[1980]『フランス経営史』<有斐閣双書>有斐閣.
- 原輝史[1986]『フランス資本主義——成立と展開』日本経済評論社.
- 原輝史・工藤章[1996]『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣.
- 原輝史編著[2001]『EU経営史』税務経理協会.
- 原正彦[1967]『金融経済の理論』文雅堂銀行研究社.
- 原田裕治[2001]「金融主導型成長レジームの安定性について——レギュレーション学派によるモデル分析の試み」『研究所報』名古屋経済大学消費者問題研究所, 第23号.
- 原田善教[1983]「金融資産の累積と信用論研究——貨幣資本蓄積論研究」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第57号.
- 原田善教[1985]「1920年代末アメリカの証券市場と貨幣資本形成」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第61号.
- 原田善教[1987]「銀行信用と相殺機構——1920年代末アメリカの株式ブームと過剰信用」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第22号.
- 原田善教[1990]「持株会社の支配機構——インサル・グループを中心に」『経済学研究』九州大学経済学会, 第56巻第1・2号.
- 原田善教[1993]「株式会社支配の構造と2つのタイプの持株会社」, 深町郁彌編『ドル本位制の研究』日本経済評論社.
- 春井久志[1981]「イギリス金融制度と金融構造 1797-1931年」『名古屋学院大学論集 社会科学篇』名古屋学院大学総合研究所, 第17巻第4号.
- 春井久志[1991]「イギリスの金融自由化 1971-1990年」『名古屋学院大学論集 社会科学篇』名古屋学院大学総合研究所, 第27巻第4号.
- 春井久志[1992]『金本位制度の経済学——イギリス金本位制度の理論と歴史・政策』<名古屋学院大学産業科学研究所研究叢書7>ミネルヴァ書房.
- 春井久志[2010]「世界金融危機とイングランド銀行の量的緩和政策」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第72号.
- 春田素夫[1965]「戦後米国の国債管理」『新潟大学法経論集』新潟大学人文学部, 第13巻第4号.
- 春田素夫[1965]「ヒルファーディングの信用論について」(1・2), 『新潟大学法経論集』新潟大学人文学部, 第14巻第3号・第15巻第1号.
- 春田素夫[1971]「アメリカの信託会社」, 武田隆夫・遠藤湘吉・大内力編『資本論と帝国主義論』(下), <鈴木鴻一郎教授還暦記念>東京大学出版会.
- 春田素夫[1973]「アメリカにおける銀行持株会社の発展」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第81号.
- 春田素夫[1974]「譲渡可能預金証書」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第86号.
- 春田素夫[1975]「1960年代の財務省証券市場」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第91号.
- 春田素夫[1983]「近年の金融上の諸変化について」『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第130号.
- 春田素夫[1985]「米国の金融先物市場」, 林健久・佐々木隆雄編『マルクス経済学——論理と分析』時潮社.
- 春田素夫[1989]「アメリカにおける金融取引の新形式について——証券市場動向を中心に」『経済集志』日本大学経済学部, 第58巻第4号.
- 春田素夫編著[1994]『現代アメリカ経済論——衰退と再生への模索』ミネルヴァ書房.
- 春田素夫・鈴木直次著[1998]『アメリカの経済』<岩

- 波テキストボックス>岩波書店（第2版，2005年）。
- 春田素夫[1994]「デリバティブ小考——アメリカを念頭に」『経済集志』日本大学経済学部，第64巻第3号。
- 晴山英夫[1972]「他人資本と支配——わが国最大200社における実証的研究」『経済評論』日本評論社，復刊第21巻第4号。
- 晴山英夫[1975]「経営者支配論の批判的一考察——ニコルスの所論を中心に」『商経論集』北九州大学経済学会，第10巻第2・3号。
- 晴山英夫[1976]「第一次大戦前のアメリカにおける企業支配——その準備的一考察」『商経論集』北九州大学経済学会，第12巻第1号。
- 晴山英夫[1977]「経営者支配と利益集団——両大戦間における所有と支配」『商経論集』北九州大学経済学会，第12巻第3号。
- 晴山英夫[1978]「機関所有支配についての一考察」『商経論集』北九州大学経済学会，第13巻第3・4号。
- 晴山英夫[1980]「巨大会社における金融支配——コックツの所論を中心として」『商経論集』北九州大学経済学会，第15巻第4号。
- 晴山英夫[1981・82]「わが国における株式会社支配論の展開——戦前期」（上・下），『商経論集』北九州大学経済学会，第16巻第3・4号・第17巻第2・3号。
- 晴山英夫[1983・84]「わが国における株式会社支配論の展開——昭和20年代」（1・2・3），『商経論集』北九州大学経済学会，第18巻第2-4号・第19巻第1・2号・第4号。
- 晴山英夫[1986]「最近のアメリカにおける企業支配——機関所有と会社支配」『商経論集』北九州大学経済学会，第22巻第1号。
- 晴山英夫[1986]「わが国における株式会社支配論の展開——昭和30年代」『商経論集』北九州大学経済学会，第22巻第2号。
- 范立君[2013]『現代中国の中小企業金融——中国型リレーションシップ・レンディングの展開の実情と課題』時潮社。
- 半田正樹・工藤昭彦編[2004]『現代の資本主義を読む——「グローバルゼーション」への理論的射程』批評社。
- 半田正樹[2019]「グローバル資本主義の「資本主義度」を問う——市場原理の膨張，経済の金融化，グローバルゼーション」『季刊 経済理論』経済理論学会，第56巻第1号。
- 晩田修啓[1996]「マルクスの株式会社論・所有論の現代的意義——有井行夫氏のマルクス所有論の現代的再生」『日本農業経済学会論文集』日本農業経済学会，通号1996年度。
- 晩田修啓[1996]「現代株式会社論の再検討」『月刊フォーラム』フォーラム90s，第8巻第12号。
- 翠川鉄雄[1968]「金融再編成と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第3号。
- 樋口克次[1980]「イギリス初期鉄道会社の創業と金融——その「地方的性格」について」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第30巻第5・6号。
- 樋口克次[1980]「株式会社論における「所有と機能」」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第31巻第3号。
- 樋口克次[1981]「株式会社論ノート——会社自己資本について」『大阪市大論集』大阪市立大学大学院経済・経営学研究会，第38号。
- 樋口克次[1982]「時価発行制度と自己資本充実」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第32号第5号。
- 樋口克次[1983]「従業員持株制度と株式市場」『大阪経大論集』大阪経大会，第152号。
- 樋口克次[1984]「無担保社債導入について」『大阪経大論集』大阪経大会，第159-161号。
- 樋口克次[1985]「社債無担保化の諸問題」『大阪経大論集』大阪経大会，第166号。
- 樋口克次[1985]「起債市場の自由化——無担保化と関連して」『インベストメント』大阪証券取引所，第38巻第5号。
- 樋口克次[1986]「起債市場の同質化と管理——社債浄化について」『大阪経大論集』大阪経大会，第174号。
- 樋口克次[1988]「昭和50年代後半における従業員持

- 株制度の展開』『大阪経大論集』大阪経大学会，第 181・182 号。
- 樋口克次[1992]「ルイス・ケルソの理論と株式所有」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第 179 号。
- 樋口午郎[1952]「貨幣市場と資本市場」『バンキング』産業経済社，第 56 号。
- 樋口午郎[1954]『金融論——金融理論体系の一考察』東洋経済新報社（増訂，1965 年）。
- 樋口午郎[1960]「長期資金と証券市場」，鈴木武雄・新庄博・高橋泰蔵・林栄夫編『金融財政講座 第 4 巻——財政投資と民間投融資（下）』有斐閣。
- 樋口午郎[1963]『銀行理論——銀行信用の理論と再生産』東洋経済新報社。
- 樋口午郎[1964]『金融の基本問題』＜銀行叢書 第 121 巻＞全国地方銀行協会。
- 樋口午郎[1965]『金融新論』金融ジャーナル社。
- 樋口午郎[1967]『国際金融論』東洋経済新報社。
- 樋口午郎[1968]「国債政策と証券市場——国債市場未整備下の国債政策」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 1 号。
- 樋口午郎[1969]「証券市場と金融の諸問題」，日本証券経済研究所編『証券と金融をめぐる諸問題』日本証券経済研究所。
- 樋口均[2022]「中国の台頭と段階論の再検討／再考——グローバル生産・金融ネットワークを中心に」『経済志林』法政大学経済学部学会，第 89 巻第 2 号。
- 肥前栄一[1972]「プロイセンにおける初期独占展開の原型」，大野英二・住谷一彦・諸田実編『ドイツ資本主義の史的構造』有斐閣。
- 日臺健雄[2009]「世界金融危機下のロシア経済——統計データによる概観」『石油・天然ガスレビュー』石油天然ガス・金属鉱物資源機構，第 43 巻第 3 号。
- 日高普[1964]『経済原論』時潮社（全訂版，1974 年）。
- 日高普[1971]「株式資本と所得」『経済志林』法政大学経済学部学会，第 39 巻第 4 号。
- 日高普[1974]『経済学』＜岩波全書＞岩波書店（改訂版，1988 年）。
- 日高普[1983]『経済原論』＜有斐閣選書＞有斐閣。
- 日向祥子[2022]「財閥史研究の動向」『歴史と経済』政治経済学・経済史学会，第 64 巻第 2 号。
- 兵藤隆[1995]「銀行貸出市場と信用割当および担保評価」『山口経済学雑誌』山口大学経済学会，第 43 巻第 1・2 号。
- 兵藤隆[1997]「金融政策の波及メカニズム」『山口経済学雑誌』山口大学経済学会，第 45 巻第 4 号。
- 平勝廣[1981]「金融市場論的国際通貨論」の検討——深町郁彌『現代資本主義と国際通貨』を読んで』『同志社商学』同志社大学商学会，第 33 巻第 2 号。
- 平勝廣[1994]「80 年代日本におけるバブルの発生とその背景」『同志社商学』同志社大学商学会，第 45 巻第 5 号。
- 平勝廣[1994]「金融のグローバリゼーション——その展開と意義」（1・2），『同志社商学』同志社大学商学会，第 46 巻第 1 号・第 3 号。
- 平勝廣[2001]『最終決済なき国際通貨制度——「通貨の商品化」と変動相場制の帰結』日本経済評論社。
- 平勝廣編著[2001]『グローバル市場経済化の諸相』＜同志社大学人文科学研究所研究叢書 34＞ミネルヴァ書房。
- 平井泰太郎[1932]『経営学の常識』千倉書房。
- 平井泰太郎編[1960]『近代経営形態論』青林書院。
- 平石修[1973]『経済原論』北海道大学図書刊行会。
- 平出宣道[1958]『富と民衆——アメリカ資本主義史上の人々』日本評論新社。
- 平岡賢司[1983]「国際金本位制の機能について——西村閑也著『国際金本位制とロンドン金融市場』法政大学出版局，1980 年を読んで」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第 145 号。
- 平岡賢司[1988]「アメリカ金本位制の危機とモルガン＝ベルモント・シンジケートの成立」『海外事情研究』熊本学園大学附属海外事情研究所，第 16 巻第 1 号。
- 平岡賢司[1989]「モルガン＝ベルモント・シンジケートと金本位制防衛」『証券経済学会年報』証券経

- 济学会, 第 24 号.
- 平岡賢司[1990]「国際金融カルテルの形成とアメリカ金本位体制防衛——1895 年金融恐慌を中心として」『海外事情研究』熊本学園大学付属海外事情研究所, 第 17 巻第 2 号.
- 平岡賢司[2012]「世界大恐慌と国際通貨制度」, 国際銀行史研究会編『金融の世界史——貨幣・信用・証券の系譜』悠書館.
- 平岡賢司[2016]『再建金本位制と国際金融体制』日本経済評論社.
- 平川均[1992]『NIES——世界システムと開発』同文館出版.
- 平川均・石川幸一編著[2001]『新・東アジア経済論——グローバル化と模索する東アジア』<Minerva text library 19>ミネルヴァ書房(改訂版, 2003 年).
- 平川均・佐藤隆文編著[2003]『通貨危機後のアジア経済と改革への展望——タイ・インドネシア・韓国を中心に』<名古屋大学国際経済動態研究センター叢書>日本図書センター.
- 平田喜久雄[1968]『現代中小企業論』中央経済社.
- 平田喜久雄編著[1971]『資本の論理』法律文化社.
- 平田清明[1975・76]「個体的所有概念との出会い——労働と所有のディアレクティーク——覚え書き」(上・中・中(続)・下), 『思想』岩波書店, 第 617 号・第 618 号・第 619 号・第 620 号.
- 平田清明[1982]『経済学批判への方法叙説』岩波書店.
- 平田正敏[1979]「現代企業の支配形態について」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第 26 巻第 2 号.
- 平田正敏[1980]「現代の会社支配形態とコングロマリット合併」, 日本経営財務研究学会編『企業評価と経営財務』<経営財務研究双書 2>中央経済社.
- 平田正敏[1990]「日本の株価とトービンの q」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第 36 巻第 3・4 号.
- 平田光弘[1975]「経営者支配の存在と意味——ラーナーの所論を中心として」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第 22 巻第 3 号.
- 平田光弘[1975]「企業の社会的責任と株式会社企業の再検討——日本経営学会第 48 回大会報告をめぐって」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第 22 巻第 4 号.
- 平田光弘[1975]「巨大会社における家族支配——バーチの所論を中心として」『一橋論叢』日本評論社, 第 74 巻第 1 号.
- 平田光弘[1977]「企業の大規模化と株式所有の分散——わが国製薬企業の実証分析」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第 25 巻第 2 号.
- 平田光弘[1977]「企業の大規模化と株式所有の分散——わが国先学の実証研究の検討」『一橋論叢』日本評論社, 第 78 巻第 4 号.
- 平田光弘[1978]「企業の大規模化と株式所有の分散——わが国鉄鋼企業の実証分析」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第 26 巻第 1 号.
- 平田光弘[1979]「わが国株主総会出席株主の実態——「株主総会白書」を中心として」『一橋論叢』日本評論社, 第 82 巻第 5 号.
- 平田光弘[1981]「わが国特殊株主の実態」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第 29 巻第 1 号.
- 平田光弘[1982]「わが国上場企業の株主総会と企業支配」『一橋論叢』日本評論社, 第 87 巻第 3 号.
- 平田光弘[1982]『わが国株式会社の支配』<千倉経営学研究叢書 6>千倉書房.
- 平田光弘[1983]「わが国の企業・株主総会・総会屋」『一橋論叢』日本評論社, 第 89 巻第 2 号.
- 平田光弘[1984]「旧・新商法下の株主総会と企業支配」『一橋論叢』日本評論社, 第 91 巻第 1 号.
- 平田光弘[1984]「新商法下の株主総会と企業支配」『一橋論叢』日本評論社, 第 91 巻第 5 号.
- 平田光弘[1986]「改正商法下の株主総会とその活性化」『一橋論叢』日本評論社, 第 96 巻第 4 号.
- 平田光弘[1997]「日本の株式会社の統治問題」『日中企業管理シンポジウム報告論文集』日中人文社会科学交流協会企業管理委員会, 13.

- 平田光弘[1999]「英国におけるコーポレート・ガバナンス改革の実践」『経営論集』東洋大学経営学部，第49号。
- 平田光弘[2001]「ドイツにおけるコーポレート・ガバナンス規範策定の動き」『経済研究年報』東洋大学現代社会総合研究所，第27号。
- 平田光弘[2001]「OECDのコーポレート・ガバナンス原則——デジュレ・スタンダード」『経営研究所論集』東洋大学経営研究所，第24号。
- 平田光弘[2001]「21世紀の企業経営におけるコーポレート・ガバナンス研究の課題——コーポレート・ガバナンス論の体系化に向けて」『経営論集』東洋大学経営学部，第53号。
- 平田光弘[2002]「日米企業の不祥事を通してコーポレート・ガバナンスを考える」『資本市場』資本市場研究会，第205号。
- 平田光弘[2008]『経営者自己統治論——社会に信頼される企業の形成』中央経済社。
- 平田喜彦[1963]「1920年代のアメリカにおける銀行資産構造の変化」『経済学季報』立正大学経済学会，第12巻第1・2号。
- 平田喜彦[1964・66]「アメリカにおける商業銀行の集中——1920年代」(1・2)，『経済学季報』立正大学経済学会，第13巻第3・4号・第15巻第1・2号。
- 平田喜彦[1967]「アメリカにおける銀行恐慌の過程」『経済学季報』立正大学経済学会，第16巻第2号。
- 平田喜彦[1967]「大恐慌期における銀行資産の構造と流動性——大規模な銀行破産の原因分析」『経済学季報』立正大学経済学会，第17巻第1号。
- 平田喜彦[1968]「アメリカにおける株式投機と金融政策(1928-29年)」，鈴木鴻一郎編『マルクス経済学の研究』(下)，東京大学出版会。
- 平田喜彦[1969]「1920年代末期のアメリカにおける株式投機と金融政策」『証券経済学会年報』証券経済学会，第4号。
- 平田喜彦[1969]「1920年代のアメリカにおける産業金融」『証券研究』日本証券経済研究所，第27号。
- 平田喜彦[1971]「1920年代のアメリカにおける自己金融」，武田隆夫・遠藤湘吉・大内力編『資本論と帝国主義論』(下)，<鈴木鴻一郎教授還暦記念>東京大学出版会。
- 平田喜彦・佐美光彦編[1988]『世界大恐慌の分析』有斐閣。
- 平野喜一郎・尼寺義弘・島津秀典・角田修一編[1982]『経済原論』青木書店。
- 平野喜一郎[2011]『入門講座『資本論』を学ぶ人のために』新日本出版社。
- 平野健[1990]「1920年代におけるアメリカ乗用車市場の構造と競争」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第172号。
- 平野健[1997]「マルクスの競争論と独占の概念——相互作用としての競争と独占」『商学論集』福島大学経済学会，第65巻第3号。
- 廣江満郎・神木良三[2003]「個人金融資産の動向に関する一考察」『関西大学経済論集』関西大学経済学会，第52巻第4号。
- 広島定吉[1948]『マルクス経済学読本』新興出版社。
- 広瀬雄一[1960]「株式会社における持株支配」，福井孝治教授還暦記念事業委員会編『社会経済学の展開』日本評論新社。
- 広瀬雄一[1960]「株式会社に対する金融者支配」『研究と資料』大阪市立大学経済研究所，第10号。
- 広瀬雄一[1962]「わが国における株式会社支配——特に主要産業部門最大級200社の10大株主の実態分析を中心として」，日本経営学会編『貿易自由化と経営学の諸問題』ダイヤモンド社。
- 広瀬雄一[1963]『株式会社支配の構造——わが国主要産業部門最大級200社における企業支配の分析を中心に』日本評論新社。
- 広瀬雄一[1971]『企業金融論』<経営学叢書 第25巻>森山書店(改訂版，1973年・新訂版，1976年)。
- 広瀬雄一[1982]「コッツの会社支配論とその問題点——金融支配論を中心として」(1・2)，『愛知学院大学論叢 商学研究』愛知学院大学商学会，第27巻第3号・第4号。
- 広瀬雄一[1982]「コッツの会社支配論とその批判——

- 金融支配論を中心として』『インベストメント』大阪証券取引所，第35巻第6号。
- 広田明[1974]「サン・シモンの社会組織思想における市民社会と国家」(1・2)，『社会労働研究』法政大学社会学部学会，第20巻第1号・第2号。
- 深井英五[1928]『通貨調節論』日本評論社(新訂，1938年)。
- 深貝善太郎[1954]「利子生み資本の実存形態としての擬制資本」『バンキング』産業経済社，第79号。
- 深貝善太郎[1956]「資本の商品化ということについての覚書」『島根大学論集 社会科学』島根大学，第2号。
- 深貝善太郎[1957]「近代的利子生み資本の本質とその実存形態」『島根大学論集 社会科学』島根大学，第3号。
- 深貝善太郎[1968]「信用の必然性に関する覚書——信用と資本の信用機構との基本規定」『島根大学』島根大学法文学部，第14号。
- 深貝善太郎[1984]「資本の商品化ということについて」『経済科学論集』島根大学法文学部，第9号。
- 深貝善太郎[1985]「「信用と架空資本」覚え書」『経済科学論集』島根大学法文学部，第10号。
- 深貝善太郎[1986]「「信用，架空資本」論と信用創造論」『経済科学論集』島根大学法文学部，第11号。
- 深町郁彌[1965]「書評 宮本義男著『金融資本への道——金融資本成立論』」『経済理論』和歌山大学経済学会，第85号。
- 深町郁彌[1967]「信用の必然性について——『経済学批判要綱』における展開を中心に」『経済学研究』九州大学経済学会，第33巻第3・4号。
- 深町郁彌[1970]「信用論体系と金融市場」(1・2)，『金融経済』金融経済研究所，第121号・第122号。
- 深町郁彌[1971]『所有と信用——貨幣・信用論の体系』日本評論社。
- 深町郁彌[1972]「公信用と信用制度——管理通貨制度論へのひとつの視座」『経済学研究』九州大学経済学会，第37巻第1-6号。
- 深町郁彌[1972]「金融論」『経済セミナー』日本評論社，第201号。
- 深町郁彌[1972]「信用論体系と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第7号。
- 深町郁彌[1972]「管理通貨制度論構築の原点」『月刊金融ジャーナル』金融ジャーナル社，第13巻第12号。
- 深町郁彌[1974]「管理通貨制度論と信用論」(1・2)，『経済学研究』九州大学経済学会，第39巻合併号・第40巻第4-6号。
- 深町郁彌[1982]「管理通貨制と貨幣資本蓄積の現段階」『金融経済』金融経済研究所，第197号。
- 深町郁彌[1982]「解説」『川合一郎著作集 第6巻——管理通貨と金融資本』有斐閣。
- 深町郁彌[1983]「国際通貨ドルと国際的信用制度」『経済研究』一橋大学経済研究所，第34巻第1号。
- 深町郁彌[1985]「「信用と擬制資本」の現代的課題」『信用理論研究』信用理論研究会，第2号。
- 深町郁彌[1986]「銀行業の国際化とセキュリティゼーション」『金融経済』金融経済研究所，第219号。
- 深町郁彌[1986]「商業銀行のターム・ローンと金融市場」『経済学研究』九州大学経済学会，第52巻第1-4号。
- 深町郁彌[1987]「書評 佐合紘一著『企業財務と証券市場——アメリカ株式会社金融の成立』」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第159号。
- 深町郁彌[1987]「金融の証券化と銀行の流動性管理——信用創造と転嫁流動性」『証券経済学会年報』証券経済学会，第22号。
- 深町郁彌[1992]「シンガポール国際金融市場」『九州経済調査月報』九州経済調査協会，第46巻第4号。
- 深町郁彌[1992]「80年代の資金過剰と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第27号。
- 深町郁彌編[1993]『ドル本位制の研究』日本経済評論社。
- 深町郁彌[1994]「国際通貨制度と国際金融——国際的ファンダ・フローの変化」『三田学会雑誌』慶應

- 義塾経済学会，第 87 巻第 2 号。
- 深町郁彌[1994]「書評 松村文武著『体制支持金融の世界——ドルのブラックホール化』」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第 189 号。
- 深町郁彌[1998]「国際金融の証券化と資本の移動」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会，第 207 号。
- 深町郁彌[1998]「EU における証券市場の国際統合」『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学会，第 5 巻第 1・2 号。
- 深町郁彌[1999]「プロジェクト・ファイナンスについて」『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学会，第 5 巻第 3・4 号。
- 深町郁彌[1999]『国際金融の現代——ドルの過剰と貨幣資本の過剰』有斐閣。
- 深町郁彌[2000]「プロジェクト・ファイナンスとキャッシュ・フロー分析」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第 35 巻第 3 号。
- 深町郁彌[2001]「書評 飯田裕康編『現代金融危機の構造』」『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会，第 94 巻第 2 号。
- 深町郁彌[2004]「書評 齋藤壽彦著『信頼・信認・信用の構造——金融核心論』」『金融経済研究』日本金融学会，第 21 号。
- 深見泰孝[2007]「明治期の生保株買い占めとガバナンス——大阪生命事件を中心として」『企業家研究』企業家研究フォーラム，第 4 号。
- 深見泰孝[2009]「独立取締役導入義務化を巡って」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第 1657 号。
- 深見泰孝[2010]「機関投資家の議決権行使結果の開示について」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第 1659 号。
- 深見泰孝[2010]「我が国の PTS の現状と課題について」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第 1661 号。
- 深見泰孝[2010]「大手ネット証券を巡る最近の動向」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第 1663 号。
- 深見泰孝[2011]「逆風下の準大手，中堅，中小証券経営」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第 1665 号。
- 深見泰孝[2011]「関東大震災と昭和金融恐慌」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第 51 巻第 10 号。
- 深見泰孝[2012]「戦前期の株価維持機関の活動——生保証券を中心に」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第 78 号。
- 深見泰孝[2012]「市場間競争の導入とその影響——オーストラリアを事例に」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第 52 巻第 10 号。
- 深見泰孝[2013]「統制経済下における生保会社の公債投資と国債消化政策」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第 81 号。
- 深見泰孝[2013]「アメリカのリテール証券の現状視察報告」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第 53 巻第 5 号。
- 深見泰孝[2013]「戦前期の株価維持機関の活動とその意義——第二次生保証券を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会，第 48 号。
- 深見泰孝[2013]「満洲証券取引所の設立と日系証券業者の満洲進出について」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第 84 号。
- 深見泰孝[2014]「我が国企業金融の変遷」『証券レビュー』日本証券経済研究所，第 54 巻第 6 号。
- 深見泰孝[2014]「我が国企業金融の変遷とその変化」『駒澤大学経済学論集』駒澤大学経済学会，第 46 巻第 2 号。
- 深見泰孝[2015]「戦時期の起債市場と社債保有構造」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第 89 号。
- 深見泰孝[2016]「廣岡浅子とその事業」『資本市場』資本市場研究会，第 367 号。
- 深見泰孝[2017]「戦時期の証券会社経営について——山一証券を中心に」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第 97 号。
- 深見泰孝[2018]「地方証券とそのビジネスの変遷」『証券レポート』日本証券経済研究所大阪研究所，第 1710 号。
- 深見泰孝・二上季代司編著[2019]『地方証券史——オ

- ーラルヒストリーで学ぶ地方証券のビジネスモデル』金融財政事情研究会.
- 深見泰孝[2019]「戦時期のインフレリスクと国債消化政策」『彦根論叢』滋賀大学経済学会, 第419号.
- 深見泰孝[2020]「地方証券会社のビジネスモデルの変遷」『証券レビュー』日本証券経済研究所, 第60巻第8号.
- 深見泰孝[2021]「戦時投資信託について」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第113号.
- 深見泰孝・二上季代司編著[2022]『準大手・中堅証券史——史談で学ぶ, 変革の時代の証券会社』金融財政事情研究会.
- 吹春寛一[1969・70・71]「金融市場の展開に関する一試論」(1・2・3・4・5), 『国学院経済学』国学院大学経済学会, 第17巻第3号・第18巻第3・4号・第19巻第1号・第2号・第20巻第1号.
- 吹春寛一[1973]「金融市場と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第8号.
- 伏下哲夫[1961]『経済学』(下), <経済学研究叢書2>八幡大学法経学会.
- 福島久一[1998]「持株会社解禁と系列・下請の進展——中小企業の新たな再編」『政経研究』日本大学法学会, 第34巻第4号.
- 福田敬太郎[1932]『市場政策原理』春陽堂.
- 福田敬太郎[1935]『証券市場論』<経営学全集 第22巻>東洋出版社.
- 福田敬太郎[1936]『証券取引所論』<現代金融経済全集 第24巻>改造社.
- 福田敬太郎[1938]『取引所論』千倉書房.
- 福田敬太郎[1941]『株式相場統制』千倉書房.
- 福田敬太郎[1949]『証券取引論』ダイヤモンド社.
- 福田敬太郎[1950]『市場論』<現代商学全集 第3巻>春秋社(新版, 1957年).
- 福田敬太郎[1954]『証券』<経済教養叢書>弘道館.
- 福田敬太郎[1955]『商学総論』千倉書房.
- 福田敬太郎編[1959]『商学概論』<新経済学演習講座>青林書院.
- 福田敬太郎[1968]「わが国における証券経済学の推移」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第2号.
- 福田敬太郎[1971]『証券資本主義』<証券学体系1>千倉書房.
- 福田敬太郎[1972]『証券取引所』<証券学体系7>千倉書房.
- 福田敬太郎[1972]『証券投機』<証券学体系8>千倉書房.
- 福田敬太郎[1973]『証券分析』<証券学体系5>千倉書房.
- 福田敬太郎[1973]『証券金融』<証券学体系9>千倉書房.
- 福田敬太郎[1979]「日本証券資本主義の成熟」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第14号.
- 福田順[2009]「日本企業のコーポレート・ガバナンスと買収防衛策——金融機関の性格変化を踏まえた実証分析」『経済論叢』京都大学経済学会, 第183巻第4号.
- 福田順[2012]『コーポレート・ガバナンスの進化と日本経済』京都大学学術出版会.
- 福田徳三[1912]「株式会社の統計的研究——(方法論大要)」『統計集誌』東京統計協会, 第377号.
- 福田徳三[1913]「株式会社に關する上田教授の論説を讀みて, 附たり, 松波, 青木両博士の起源論に就て」(1・2), 『国民経済雑誌』神戸高等商業学校, 第15巻第5号・第6号(「株式会社本質及び起源雜考」と題して, 福田徳三研究会編『福田徳三著作集』信山社, 第9巻, 2019年, 所収).
- 福田徳三[1913]『続経済学研究』同文館(『経済学全集』第4集, 同文館, 1928年).
- 福留久大[1968]「政府短期証券のインフレ効果——食糧証券を中心として」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会, 第11号.
- 福留久大[2004]『ポリチカルエコノミー』九州大学出版会.
- 福光寛[1982]「シティ・オブ・グラスゴー銀行の倒産——無限責任株式銀行の終焉」(上・下), 『金融経済』金融経済研究所, 第194号・第195号.
- 福光寛[1986]『金融自由化時代の証券市場』日本経済評論社.
- 福光寛[1987]「韓国における金融自由化について」

- 『レファレンス』国立国会図書館，第37巻第4号.
- 福光寛[1988]「銀行と証券——業務分野規制緩和をめぐる」『レファレンス』国立国会図書館，第38巻第7号.
- 福光寛[1989]「証券税制の見直しと証券市場の構造変化」『レファレンス』国立国会図書館，第39巻第4号.
- 福光寛[1990]『金融規制緩和の経済学』日本経済評論社.
- 福光寛[1990]「アメリカにおける企業買収抑制政策の動向——RJR ナビスコ社買収事件前後」『レファレンス』国立国会図書館，第40巻第1号.
- 福光寛[1990]「証券税制の見直しと証券市場の構造変化」『証券経済学会年報』証券経済学会，第25号.
- 福光寛[1992]「金融の証券化と銀行の将来像——コアバンク論について」『立命館経済学』立命館大学経済学会，第41巻第4号.
- 福光寛[1992]「金融規制緩和をいかにとらえるか」『証券研究』日本証券経済研究所，第105号.
- 福光寛[1993]「書評 北条裕雄著『現代アメリカ資本市場論——構造と役割の歴史的变化』」『証券研究』日本証券経済研究所，第106号.
- 福光寛[1993]「米国における銀行の投資信託販売について」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第186号.
- 福光寛[1996]「証券業界の再生と公社債投資信託」『証券研究』日本証券経済研究所，第114号.
- 福光寛[1997]『証券分析論』中央経済社.
- 福光寛[1997]「外人投資と日本の株式市場」『立命館経済学』立命館大学経済学会，第46巻第2号.
- 福光寛[1998]「日本における資産証券化の展開」(上・下)，『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第142号・第143号.
- 福光寛[1999]「株式市場をめぐる神話」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第144号.
- 福光寛[1999]「資産証券化の意義について」『金融構造研究』金融構造研究会，第21号.
- 福光寛[1999]「新たな段階に入った日本の資産証券化」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第145号.
- 福光寛[1999]「変貌するコーポレート・ガバナンス」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第147号.
- 福光寛[2000]「プリンストン債事件について」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第148号.
- 福光寛[2000]「M&Aについて」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第149号.
- 福光寛[2002]「空売り規制について」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第158号.
- 福光寛[2003]「市場と規制——証拠金規制をめぐる」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第161号.
- 福光寛・高橋元編著[2004]『ベーシック証券市場論』同文館出版(改訂版，2007年).
- 福光寛[2004]「コーポレート・ガバナンス——いかに機能させるか」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第165号.
- 福光寛[2004]「エクイティ・ファイナンスをめぐる」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第166号.
- 福光寛[2005]『金融論』三恵社.
- 福光寛[2005]「債券投資におけるマーケット・リスク管理」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第169号.
- 福光寛[2005]「アメリカの住宅金融をめぐる新たな視点——証券化の進展の中でのサブプライム層に対する略奪的貸付」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第170号.
- 福光寛[2006]「学校債と医療法人債——擬似債券の理論・歴史・現状」『成城大学経済研究』成城大学経済学会，第173号.
- 福良俊之[1968]「国債政策と証券市場——国債発行と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号.
- 藤川昌弘[2010]「金融危機の後に来るもの」『経済志林』法政大学経済学部学会，第77巻第3号.
- 藤木あかね[2013]「米国投資銀行とヘッジファンドの関係」，高田太久吉編著『現代資本主義とマルク

- ス経済学——経済学は有効性をとりもどせるか』新日本出版社。
- 藤澤利治[1979]「第一次大戦前におけるドイツ電機コンツェルンの資本蓄積と金融会社」(上・下),『金融経済』金融経済研究所,第178号・第179号。
- 藤澤利治[2000]「ドイツ銀行業における最近の集中傾向」『証券経済研究』日本証券経済研究所,第28号。
- 藤澤利治[2010]「国際金融危機とリーマン・ショック下のドイツ銀行業」『証券経済研究』日本証券経済研究所,第72号。
- 藤澤利治[2013]「国際金融危機とドイツの銀行制度改革——金融危機再発防止の試み」『証券経済研究』日本証券経済研究所,第82号。
- 藤沢正也・山本国雄[1958]『現代の金融問題——貨幣と金融政策に対する反省』文人書房。
- 藤沢正也[1975]『イギリスの信用と貨幣』ミネルヴァ書房。
- 藤沢正也[1975]「ラドクリフ以後の通貨管理」『証券研究』日本証券経済研究所,第44号。
- 藤沢正也[1979]「公債管理の企業金融に対するインパクトについて——ウィルソン委員会に寄せて」『証券研究』日本証券経済研究所,第58号。
- 藤沢正也[1983]「オープン・システムにおける通貨改革の背景と経過」『証券研究』日本証券経済研究所,第70号。
- 藤沢正也[1986]「英国の新金融措置を見直す——運営目標は金利かマネタリー・ベースか」『証券研究』日本証券経済研究所,第79号。
- 藤沢正也[1990]「銀行業のコングロマリット化と信用リスクの監理——再規制の方向を探る」『証券研究』日本証券経済研究所,第91号。
- 藤瀬浩司[1980]『資本主義世界の成立』ミネルヴァ書房。
- 藤瀬浩司[1985]「ライヒスバンクと国際金融市場——「銀行アンケート」(1908年)の分析」『社会科学研究』東京大学社会科学研究所,第37巻第4号。
- 藤瀬浩司・吉岡昭彦[1985・86]「第1次大戦前主要国国際金融の趨勢」(1・2),『調査と資料』名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター,第81号・第84号。
- 藤瀬浩司・吉岡昭彦編[1987]『国際金本位制と中央銀行政策』名古屋大学出版会。
- 藤瀬浩司[1999]『欧米経済史——資本主義と世界経済の発展』<放送大学教材1999>放送大学教育振興会(改訂新版,2004年)。
- 藤瀬浩司[2012]『20世紀資本主義の歴史I——出現』名古屋大学出版会。
- 藤田真哉[2010]「「金融化」時代における所得分配と金融脆弱性——カレツキアン・アプローチ」『経済論叢』京都大学経済学会,第184巻第2号。
- 藤田誠一・小川英治編[2008]『国際金融理論』<新・国際金融テキスト1>有斐閣。
- 藤田誠一・岩壺健太郎編[2010]『グローバル・インバランスの経済分析』有斐閣。
- 藤田誠一・松林洋一・北野重人編著[2014]『グローバル・マネーフローの実証分析——金融危機後の新たな課題』ミネルヴァ書房。
- 藤田正寛編[1990]『テキストブック 国際金融論』有斐閣。
- 藤田実[2014]『日本経済の構造的危機を読み解く——持続可能な産業再生を展望して』新日本出版社。
- 藤津清治[1964]「士族就産と会社企業(1)」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所,第11巻第3号。
- 藤津清治[1964]「明治10年代におけるわが国会社企業の一考察——士族就産と会社企業(2)」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所,第12巻第1号。
- 藤津清治[1964]「わが国における株式会社の成立」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所,第12巻第2号。
- 藤津清治[1964]「明治10,20年代における会社と士族就産会社」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所,第12巻第3号。
- 藤本共一[2005]「株主資本主義とコーポレート・ガバナンスの転機」,萩原伸次郎・中本悟編『現代アメリカ経済——アメリカン・グローバリゼーション』

- ンの構造』日本評論社.
- 藤本三喜男[1980]「1920年代のアメリカにおける資本蓄積と証券市場」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第30巻第5・6号.
- 藤本三喜男[1984]「法人格・所有と経営の分離・株式流通——イギリスにおける産業革命期の株式会社について」『福岡大学総合研究所報』福岡大学総合研究所, 第71号.
- 藤本三喜男[1984]「投機・ヘッジング・裁定と先物市場」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第28巻第4号.
- 藤本三喜男[1989]「株価・地価の高騰と信用創造」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第34巻第1号.
- 藤本三喜男[1990]「円高下における資産インフレと金融資産の蓄積」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第25号.
- 藤本三喜男[2004]「金融技術の進展と資本市場」, 石田重森・庭田範秋編著『保険・年金・ファイナンス——キーワード解説』東洋経済新報社.
- 藤本三喜男[2008]「日本版コーポレート・ガバナンスの課題と今後」, 石田重森編著『保険学のフロンティア』慶應義塾大学出版会.
- 藤本三喜男[2019]「市場経済において株式会社はなぜ必要とされるか?」『福岡大学商学論叢』福岡大学研究推進部, 第64巻第1号.
- 藤原克美[2009]「ロシアにおける株式会社」, 細川孝・桜井徹編著『転換期の株式会社——拡大する影響力と改革課』<現代社会を読む経営学4>ミネルヴァ書房.
- 藤原貞雄[1983]「国際投資の形態——国際間における資本の運動形態と所有・支配の形態」『山口経済学雑誌』山口大学経済学会, 第32巻第5・6号.
- 二上清[1978]「ケインズにおける「証券市場」理論の位置」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第28巻第6号.
- 二上清[1979]「経営財務政策と証券市場——いわゆる「資本不足」について」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第30巻第1号.
- 二上清[1980]「70年代アメリカ株式市場と構造的特質について——Two-Tier Marketを中心に」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第31巻第1号.
- 二上清[1981・82]「金融再編成に関する覚書」(1・2), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第136号・第139号.
- 二上清[1983]「証券業経営の史的展開」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第146号.
- 二上清[1984]「大阪における金融・証券市場——対東京比較による若干の考察」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第149号.
- 二上清[1987]「証券業経営について——中小証券を中心に」『証券研究』日本証券経済研究所, 第80号.
- 二木雄策[1970]『日本の企業集団——その実態についての基本的分析』<神戸商科大学研究叢書XII>神戸商科大学経済研究所.
- 二木雄策[1972]「合併が企業間関係に与える影響について」『商大論集』兵庫県立大学神戸商科大学キャンパス学術研究会, 第23巻第5・6号.
- 二木雄策[1973]「ますます少数者の手に——株式所有から見た大企業の支配力」『経済評論』日本評論社, 復刊第22巻第5号.
- 二木雄策[1974]「証券業・巨大なる虚業」『中央公論経営問題』中央公論社, 第13巻第3号.
- 二木雄策[1975]「株主の法人化現象について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第131巻第1号.
- 二木雄策[1975]「間接金融の優位と証券市場」『季刊現代経済』日本経済新聞社, 第17号.
- 二木雄策[1976]『現代日本の企業集団——大企業分析をめざして』東洋経済新報社.
- 二木雄策[1976]「銀行合併の経済効果」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第133巻第4号.
- 二木雄策[1977]「現代企業の所有と支配」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第135巻第3号.
- 二木雄策[1977]「ケインズ経済学における証券市場」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会, 第136巻第2号.
- 二木雄策[1979]「株式持合いと配当金の<詐取>」

- 『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第139巻第4号。
- 二木雄策[1980]「米・英の株式所有統計」『経営学・会計学・商学研究年報』神戸大学大学院経営学研究科，第26号。
- 二木雄策[1980]「法人化現象についてのノート」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第132号。
- 二木雄策[1980]「株式の所有数別分布について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第142巻第6号。
- 二木雄策[1981]「宮崎義一「経営者支配再考」〔本誌30巻3号掲載〕に寄せて」『経済研究』一橋大学経済研究所，第32巻第2号。
- 二木雄策[1981]「「所有」と「支配」の分離について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第143巻第3号。
- 二木雄策[1982]「経営者支配論のパラダイム」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第145巻第5号。
- 二木雄策[1982]『日本の株式所有構造』同文館出版。
- 二木雄策[1984]「株式持合いにおける個別企業の役割——その測定方法について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第149巻第2号。
- 二木雄策[1984]「株式持合いの計測」『証券経済学会年報』証券経済学会，第19号。
- 二木雄策[1984]「わが国株式所有構造の特徴」『インベストメント』大阪証券取引所，第37巻第6号。
- 二木雄策[1985]「企業集団の株式持合い——計測の試み」『経営学・会計学・商学研究年報』神戸大学大学院経営学研究科，第31号。
- 二木雄策[1985]「金融構造分析への一つの接近——「直接・間接金融」は有効か」，神戸大学経営学部80周年記念論文編集委員会編『経済発展と第三次産業』千倉書房。
- 二木雄策[1987]「証券経済研究の問題点と今後の展開方向」『証券研究』日本証券経済研究所，第80号。
- 二木雄策[1987]「株式持合いの経済効果——再論」
- 『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第156巻第2号。
- 二木雄策[1988]「株式持合いの経済効果」『証券経済学会年報』証券経済学会，第23号。
- 二木雄策[1988]「証券市場の構造変化」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第158巻第4号。
- 二木雄策[1989]「企業集団の株式持合い——昭和49～62年」『経営学・会計学・商学研究年報』神戸大学大学院経営学研究科，第35号。
- 二木雄策[1992]『マクロ経済学と証券市場』同文館出版。
- 二木雄策[1993]「主要株主の安定性——測定の試み」『経営学・会計学・商学研究年報』神戸大学大学院経営学研究科，第39号。
- 二木雄策[1993]「株式持合いによる企業間関係」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第167巻第4号。
- 麓健一[1949]『金融および銀行の一般理論』樺友社。
- 麓健一[1951]「擬制的貸付資本の創造およびその現実的限界」『バンキング』産業経済社，第40号。
- 麓健一[1952]「信用の本質——信用の二重性」『バンキング』産業経済社，第49号。
- 麓健一[1953]「信用形態論」『経商論纂』経済・商業学会，第50号。
- 麓健一[1953]『信用創造理論の研究』東洋経済新報社。
- 麓健一[1954]「書評 飯田繁著『利子つき資本の理論』」『経済評論』日本評論社，復刊第3巻第9号。
- 麓健一[1955]「擬制資本に関する一考察」『中央大学70周年記念論文集3』中央大学。
- 麓健一[1956]「金融政策」，信用理論研究会編『講座 信用理論体系Ⅲ——第2部 制度篇』日本評論新社。
- 麓健一[1956]『金融経済論——信用理論の基本体系』日本評論新社。
- 降旗節雄[1960]「「利子うみ資本」の概念」，鈴木鴻一郎編『利潤論研究』東京大学出版会。
- 降旗節雄[1965]「鈴木理論の根本問題——「株式資本」範疇の把握を中心として」『経済学研究』北

- 海道大学大学院経済学研究院, 第14巻第4号.
- 降旗節雄[1965]『資本論体系の研究』青木書店.
- 降旗節雄[1972]『帝国主義論の史的展開』現代評論社.
- 降旗節雄・櫻井毅・渡辺寛[1973]『講座 帝国主義の研究——両大戦間におけるその再編成1』青木書店.
- 降旗節雄[1974]『マルクス経済学の理論構造』<経済学全集4>筑摩書房.
- 降旗節雄編[1979]『宇野理論の現段階I——経済学原理論』社会評論社.
- 降旗節雄編[1988]『日本経済危険な話』御茶の水書房.
- 古内博行[2009]「2007/08年ドイツ金融恐慌の発生と新たな不況の到来」『千葉大学経済研究』千葉大学経済学会, 第24巻第1号.
- 古内博行[2016]「欧州資本市場同盟に関する一考察」『千葉大学経済研究』千葉大学経済学会, 第31巻第2号.
- 古川栄一[1949]『経営学入門』実業教科書.
- 古川栄一[1957]『初等経営学』経林書房.
- 古川栄一[1961]『経営学通論 新版』同文館出版.
- 古川栄一・占部都美・宮下藤太郎編[1967・68]『新経営学全集』全8巻, 日本経営出版会.
- 古川正紀[1999]『管理資本主義と平成大不況——市場主義復活の限界』<Minerva 現代経済学叢書22>ミネルヴァ書房.
- 古沢友吉[1953]「独占資本の発展について——ポール・スウィージーの所説, 特にそのヒルファディング批判を中心として」『経済と貿易』横浜市立大学経済研究所, 第57号.
- 古沢友吉[1953]「『金融資本論』に関する一研究——ヒルファディングの信用理論を中心として」『一橋論叢』日本評論社, 第29巻第2号.
- 古沢友吉[1954]「利子と信用」, 遊部久蔵・長洲一二編『経済学講座 第1巻——資本主義経済の基礎原理』大月書店.
- 古沢友吉[1954]「生産と資本の集積・集中」, 「銀行資本の集積・集中」, 宇佐美誠次郎・長洲一二編『現代資本主義の経済と政治I』<経済学講座 第2巻>大月書店.
- 古沢友吉[1955]「書評 川合一郎著『資本と信用——金融経済論序説』」『経済研究』一橋大学経済研究所, 第6巻第2号.
- 古沢友吉[1956]「ヒルファディング『金融資本論』の出発点について——『金融資本論』研究」(1・2), 『横浜大学論叢』横浜市立大学学術研究会, 第7巻第3号・第9巻第2号.
- 古沢友吉[1962]「ヒルファディング『金融資本論』の経済学史上の位置づけ」(1・2), 『横浜市立大学論叢』横浜市立大学学術研究会, 第13巻第1号・第3・4号.
- 古沢友吉[1965]『金融経済読本——現代金融資本への道』野田経済社.
- 古沢友吉[1974]『マルクス経済学入門』同文館出版.
- 古沢友吉[1990]「ヒルファディングとレーニン——「帝国主義」認識の道」『横浜市立大学論叢』横浜市立大学学術研究会, 第41巻第2号.
- 古沢友吉編著[1990]『現代資本主義論への道標——ヒルファディング『金融資本論』を基軸として』三嶺書房.
- 古野高根[2008]『20世紀末バブルはなぜ起こったか——日本経済の教訓』桜井書店.
- 古野高根[2013]「「20世紀末バブル」と「米国住宅バブル」——その崩壊と影響」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会, 第277号.
- 古畑義和[1961]『現代日本資本主義の構造』青木書店.
- 古谷豊[2000]「ジェイムズ・ステュアートの利子概念」『経済学史学会年報』経済学史学会, 第38号.
- 平和経済計画会議独占白書委員会編[1978]『国民の独占白書 第2号(1978年版) 企業集団——経済転換への対応』御茶の水書房.
- 裴富吉[2008]『経営学理論の歴史的展開——日本学説の特質とその解明』三恵社.
- 別府正十郎[1954]「資産論覚書」『経営と経済』長崎大学経済学会, 第34巻第1号.
- 別府正十郎[1959]「株式プレミアムと創業利得説——岡部教授と内川氏の論争によせて」『企業会計』

- 中央経済社，第11巻第2号。
- 別府正十郎[1959]「株式プレミアムと創業利得(1)——とくに所要機能資本について」『経済学研究』九州大学経済学会，第25巻第2号。
- 別府正十郎[1960]「株式プレミアムと創業利得(2)」『経済学研究』九州大学経済学会，第25巻第4号。
- 別府正十郎[1961]「ペートン教授の自己株式「等価取引説」について——持分均衡説の批判」『経済学研究』九州大学経済学会，第27巻第4号。
- 別府正十郎[1962]「自己株式の会計——創業利得と株式プレミアム続論」『経済学研究』九州大学経済学会，第26巻第5・6号。
- 別府正十郎[1963]「株式会社会計」，大阪市立大学商学部会計学研究室編『現代会計学の課題』森山書店。
- 別府正十郎[1964]「自己金融と株式会社」『証券経済月報』大阪証券経済研究所，第59号。
- 別府正十郎[1964]『資本会計の経済理論』森山書店。
- 別府正十郎[1965]「資本剰余金——擬制資本の展開」，川口弘・川合一郎編『金融論講座3——現代資本主義と金融』有斐閣。
- 別府正十郎[1965]「創業利得論における所要機能資本の意味について」『会計』森山書店，第87巻第2号。
- 北条裕雄[1987]「1980年代における投資会社の成長構造」『証券経済学会年報』証券経済学会，第22号。
- 北条裕雄[1987]「機関化傾向の日米比較への試論」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第162号。
- 北条裕雄[1988]「アメリカ経済の構造変化と機関投資家——規制緩和論への一視角」『証券研究』日本証券経済研究所，第81号。
- 北条裕雄[1988]「1970年代中期以降における投資顧問会社の経営対応——証券市場の構造変化へのインパクト」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第166号。
- 北条裕雄[1989]「アメリカ経済の構造変化と機関投資家——規制(強化)論への一視角」(上・下)，『証券研究』日本証券経済研究所，第86号・第87号。
- 北条裕雄[1989]「機関化傾向の日米比較」『証券経済学会年報』証券経済学会，第24号。
- 北条裕雄[1989]「アメリカ経済の構造変化と機関投資家——連邦証券金融規制の成立過程」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第169号。
- 北条裕雄[1990]「米国株式市場における投機規制の発展について——連邦証券金融規制を中心として」『証券経済学会年報』証券経済学会，第25号。
- 北条裕雄[1990]「連邦証券金融規制の展開過程(1946～65年)——アメリカ株式市場における過剰な資金と国家の介入」(上・下)，『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第172号・第173号。
- 北条裕雄[1990]「投資信託の性格変化と制度改正問題」『証券研究』日本証券経済研究所，第93号。
- 北条裕雄[1991]「連邦証券金融規制の変貌過程——投資会社，生保および年金の役割と株式市場改革」(1・2)，『証券研究』日本証券経済研究所，第98号・第99号。
- 北条裕雄[1992]『現代アメリカ資本市場論——構造と役割の歴史的变化』同文館出版。
- 北条裕雄[1993]「投資信託の対米証券投資——1980年代を中心として」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第185号。
- 北条裕雄[1993]「アメリカの証券規制(1955年-1965年)——保護的証券規制の展開」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第186号。
- 北条裕雄[1994]「アメリカ資本市場における制度改革——1990年代の歴史的位置」『証券経済学会年報』証券経済学会，第29号。
- 北条裕雄[1994]「アメリカにおける証券規制の転換(1966年-1975年)——保護から規制緩和へ」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第188号。
- 北条裕雄[1994]「株式持ち合いは解消するか?——解消の論理と株式持ち合い比率の試算」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第190号。
- 北条裕雄[1995]「マレーシアにおける金融システムと

- 株式市場——1980年代以降を中心として』『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第192号。
- 北条裕雄[1996]「アメリカ企業部門による株式保有比率の推定——株式保有構造の日米比較の基礎資料」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第194号。
- 北条裕雄[1996]「株式保有構造の日米比較への一視覚——マーク・ローの所説の検討」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第1号。
- 北条裕雄[1997]「株式保有構造の日米比較試算による統計比較」『証券経済学会年報』証券経済学会，第32号。
- 法政大学比較経済研究所・平田喜彦編[1993]『現代国際金融の構図』＜比較経済研究所研究シリーズ8＞法政大学出版局。
- 保坂直達[1999]『貨幣と金融——市場経済の基本問題』＜神戸商科大学研究叢書62＞神戸商科大学経済研究所。
- 保坂直達編著[2001]『ヘッジファンズとデリバティブズ——国際的資本と金融技術革新』晃洋書房。
- 星野中[1965]「ドイツ資本市場の分析——鉄鋼業株を中心とする産業株式取引の発展とその構造」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会，第5号。
- 星野中[1968]「ヒルファディング『金融資本論』の基本的構造とその問題点」，内田義彦・小林昇編『資本主義の思想構造』岩波書店。
- 星野中[1978]「『集積』と『集中』の用語法——『資本論』第3巻（草稿および現行版）の検討資料」（1・2），『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第79巻第2号・第3号。
- 星野中[1990]「ヒルファディングの株式市場論——『金融資本論』における事実認識と歴史理論」『大阪市立大学証券研究年報』大阪市立大学証券研究センター，第5号。
- 星野郁[1999]「ユーロ誕生とEU金融・資本市場の変貌——EU金融システムの現状と安定化の課題」『国際問題』日本国際問題研究所，第471号。
- 星野郁[2001]「ユーロ圏における金融構造の変化と資本市場の発展」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会，第223号。
- 星野郁[2009]「ヨーロッパの金融構造の変貌と金融危機」『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第53巻第3号。
- 星野郁[2015]『EU経済・通貨統合とユーロ危機』日本経済評論社。
- 星野郁[2015]「EUにおける証券化再生の試みとその問題点」『経済学論纂』中央大学経済学研究会，第55巻第5・6号。
- 星野譽夫[1981]「書評 野田正徳著『日本証券市場成立史』——明治期の鉄道と株式会社金融」『社会経済史学』社会経済史学会，第47巻第1号。
- 星野譽夫[2008]「書評 片岡豊著『鉄道企業と証券市場』」『社会経済史学』社会経済史学会，第73巻第5号。
- 星野富一・奥山忠信・石橋貞男編[2000]『資本主義の原理——新しいパラダイムを求めて』昭和堂。
- 星野富一[2010]「アメリカ発世界経済金融危機とその原因」『季刊 経済理論』経済理論学会，第47巻第2号。
- 星野智樹[2018]『「ドル化」政策の検証』文眞堂。
- 保住敏彦[1971]「ヒルファディングの帝国主義論——『金融資本論』の背景・特徴・位置について」『社会科学』同志社大学人文科学研究所，第4巻第2号。
- 保住敏彦[1977]「帝国主義と金融資本」，遊部久蔵・小林昇・杉原四郎・古沢友吉編『講座 経済学史IV——マルクス経済学の発展』同文館出版。
- 保住敏彦[1979]「ヒルファディングの組織資本主義論——その展開と特徴」『愛知大学法経論集 経済・経営篇I』愛知大学法経学会，第91号。
- 保住敏彦[1981]「利潤率低下論の歴史とヒルファディングの独占形成論」『愛知大学法経論集 経済・経営篇I』愛知大学法経学会，第96号。
- 保住敏彦[1982]「資本蓄積論の歴史と金融資本の蓄積様式」（1・2），『愛知大学法経論集 経済・経営篇I』愛知大学法経学会，第100号・第102号。
- 保住敏彦[1984]『ヒルファディングの経済理論——金融資本・帝国主義・組織資本主義をめぐって』梓

- 出版社.
- 保住敏彦[1987]「ヒルファディングの独占形成論と独占資本主義の研究手法」『愛知大学法経論集 経済・経営篇 I』愛知大学法経学会, 第 115 号.
- 細井卓[1955]「自己金融」, 古川栄一編『財務管理』<経営学講座 6>巖松堂書店.
- 細井卓[1958]『配当政策』<経営学叢書 1>森山書店 (増補版, 1961 年. 第 2 増補版, 1969 年).
- 細井卓[1960]『現代企業財務』<経営工学選書 5>金原出版.
- 細井卓[1962]「ベイツの総合的株式価値判定表について」(1・2), 『インベストメント』大阪証券取引所, 第 15 巻第 5 号・第 6 号.
- 細井卓[1963]「株式価値表による証券分析」『経済科学』名古屋大学大学院経済学研究科, 第 10 巻第 2 号.
- 細井卓[1965]『現代の資本管理——新しい財務管理と財務政策』中央経済社 (増補版, 1967 年. 改訂版, 1977 年).
- 細井卓[1966]「会社配当政策と証券市場——増資対策を中心として」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第 13 巻第 4 号.
- 細井卓[1968]『財務管理入門』<有斐閣双書>有斐閣.
- 細井卓[1975]『経営財務原論』<経営学全書 33>丸善.
- 細井卓[1976]「現代企業における配当政策の意義」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 11 号.
- 細井卓編著[1978]『現代企業の経営政策——その行動基準の展開』中央経済社.
- 細井卓[1980]「わが国無額面株式発行をめぐる諸問題」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第 15 号.
- 細井卓[1981]『財務管理論』中央経済社.
- 細井卓[1985]『総合経営学の原理——企業・非企業経営学』中央経済社.
- 細川孝・桜井徹編著[2009]『転換期の株式会社——拡大する影響力と改革課題』<現代社会を読む経営学 4>ミネルヴァ書房.
- 細川元雄[1972]「わが国のヒルファディング文献史の一駒」『名古屋学院大学回報』名古屋学院大学, 第 5 巻第 2 号.
- 堀内健一[1995]「80 年代後半期における企業の資金調達構造の変化について——「資産インフレ」期の証券化と銀行の関係を中心に」『立教経済学論叢』立教大学大学院経済学研究会, 第 47 号.
- 堀内健一[2001]「日本における金融持株会社制度導入の契機」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第 54 巻第 3 号.
- 堀内健一[2002]「1990 年代後半以降の日本における大手銀行の再編とその動因——現段階における銀行の役割の理論的検討のために」(上・下), 『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第 55 巻第 4 号・第 56 巻第 1 号.
- 堀内健一[2015]『現代日本における銀行資本の蓄積』唯学書房.
- 堀江邑一[1949]『資本主義と社会主義』<ナウカ講座 6>ナウカ社.
- 本位田祥男[1928]『英国経済史要』<社会科学叢書第 1 編>日本評論社.
- 本位田祥男[1935]『経済史研究』三省堂.
- 本田浩邦[1991]「アメリカ石油産業における資本間関係」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 97 号.
- 本間要一郎・高野利治・小林威雄・井上周八・金子ハルオ・種瀬茂・清水嘉治[1962]『マルクス経済学演習』春秋社 (新版, 1973 年).
- 本間要一郎・種瀬茂・高野利治・清水嘉治[1965]『一般教養としての経済学』世界書院.
- 本間要一郎[1967]「『帝国主義論』における「独占」の概念」『思想』岩波書店, 第 515 号.
- 本間要一郎[1967]「『資本論』と『帝国主義論』」『経済評論』日本評論社, 復刊第 16 巻第 12 号.
- 本間要一郎[1970]「ヒルファディングの「独占」理論」『経済研究』一橋大学経済研究所, 第 21 巻第 4 号.
- 本間要一郎[1971]「「独占」のない帝国主義論」, 見田石介・横山正彦・林直道編著『マルクス主義経済学の擁護——宇野弘蔵氏の学説の検討』新日本出版社.
- 本間要一郎[1974]『競争と独占』<現代経済学叢書

- 21>新評論.
- 本間要一郎[1984]『現代資本主義分析の基礎理論』<現代資本主義分析 2>岩波書店.
- 前川享一[1961]「資本利用の「社会的形態」と支配機構」『市大論集』大阪市立大学大学院経済経営研究会, 第2号.
- 前川享一[1961]「株式会社の構造変化と支配機構の発展——「経営者支配」と金融資本支配」『同志社商学』同志社大学商学会, 第13巻第3号.
- 前川恭一[1963]「「所有と経営の分離」に関する一考察——神田忠雄教授の批判に答えて」『同志社商学』同志社大学商学会, 第15巻第2号.
- 前川恭一[1970]『ドイツ独占企業の発展過程』ミネルヴァ書房.
- 前川恭一[1980]「今日の企業集中運動の主要特徴」『同志社大学商学部創立30周年記念論文集』同志社大学商学部.
- 前川恭一[1992]「現代企業の集中運動の今日的特徴」『同志社商学』同志社大学商学会, 第43巻第5号.
- 前川恭一[1993]『現代企業研究の基礎』森山書店.
- 前川恭一・山崎敏夫[1995]『ドイツ合理化運動の研究』森山書店.
- 前川誠一[1960]『証券』<日本の産業シリーズ14>有斐閣.
- 前川誠一[1968]「日本の投資信託の特長」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第1号.
- 前川誠一[1970]「株式の時価発行」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第5号.
- 前川誠一[1972]「国債発行と証券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第7号.
- 前田淳[2009]「ドイツにおける株式会社」, 細川孝・桜井徹編著『転換期の株式会社——拡大する影響力と改革課題』<現代社会を読む経営学4>ミネルヴァ書房.
- 前田淳編著[2015]『アメリカ国際資金フローの新潮流』蒼天社出版.
- 前田真一郎[2004]『米国金融機関のリテール戦略——「コストをかけないカスタマイズ化」をどう実現するか』東洋経済新報社.
- 前田真一郎[2007]「大手金融機関の経営とアメリカ金融市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第42号.
- 前田真一郎[2014]『米国リテール金融の研究——消費者信用の歴史的発展過程』日本評論社.
- 前田真一郎[2017]「アメリカにおけるキャッシュレス社会の進展——クレジットカードの利用拡大と金融市場の発達」『CCR』日本クレジット協会クレジット研究所, 第6号.
- 前田真一郎[2022]「米国におけるキャッシュレス化の進展と金融業」『信用理論研究』信用理論研究会, 第39号.
- 前田利光[2010]「「21世紀型」世界金融経済恐慌と擬制金融資本主義」, 一井昭編『グローバル資本主義の構造分析』<中央大学経済研究所研究叢書49>中央大学出版部.
- 前田直哉・入江政幸[2022]「地方銀行のコーポレートガバナンスの現在地——株主との対話に向けて」『金融法務事情』金融財政事情研究会, 第70巻第20号.
- 前畑雪彦[2018]「マルクス信用論と現代——資本論第3部草稿第5章の「1)」から「4)」の利子生み資本とそれに続く「5)信用。架空資本」の関係の考察を踏まえて」『信用理論研究』信用理論研究会, 第36号.
- 前原直子[2006]「J.S.ミルの株式会社論と理想的市民社会論——ミルの経営改革論と自己教育論との関連で」『法政大学大学院紀要』法政大学大学院, 第57号.
- 前原直子[2007]「J.S.ミルの株式会社論」『経済学年誌』法政大学大学院経済学研究科経済学専攻委員会, 第42号.
- 前原直子[2011]「J.S.ミルの理想的市民社会論と株式会社論」『経済学史研究』経済学史学会, 第52巻第2号.
- 牧野純夫[1954]『資本主義』新評論社.
- 牧野純夫[1955]『金融入門』新評論社.
- 牧野裕[2014]『IMFと世界銀行の誕生——英米の通貨協力とブレトンウッズ会議』日本経済評論社.
- 牧野裕・紺井博則・上川孝夫編著[2017]『複合危機

- ゆれるグローバル経済』日本経済評論社。
- 正木久司[1965]「わが国証券経営の構造変化」(上・下),『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所,第66号・第67号。
- 正木久司[1965]「紹介 ロバート・S・ブルッキングス 著『産業会社における所有構造』——その経済的および社会的意義」(上・下),『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所,第71号・第72号。
- 正木久司[1965・66]「わが国株式の発行市場の特質と問題点」(上・下),『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所,第75号・第80号。
- 正木久司[1966]「資料 外国資本と日本経済——米国資本の対日投資形態の変化をめぐって」(上・下),『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所,第84号・第86号。
- 正木久司[1967]「『人民資本主義』と企業所有・支配」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所,第90号。
- 正木久司[1967]「株式取引の当面する問題点——「市場集中主義」とその修正」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所,第91号。
- 正木久司[1967]「紹介 G.H.エバンス著『英国株式会社金融論(1775年-1850年)』——優先株にかんする研究」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所,第92号。
- 正木久司[1967]「『機関による所有』と企業支配——People's Capitalism 批判を中心に」『経済評論』日本評論社,復刊第16巻第11号。
- 正木久司[1968]「アメリカの社債金融における新動向」『同志社大学商学部創立20周年記念論文集』同志社大学商学部。
- 正木久司[1968]「アメリカ独占企業の配当政策にかんする一考察——近年における高率配当と自社株取得の新展開をめぐって」『同志社商学』同志社大学商学会,第19巻第4号。
- 正木久司[1968]「鉄鋼独占における資金調達の変遷とその態様」『社会科学』同志社大学人文科学研究所,第2巻第2号。
- 正木久司[1968]「アメリカ独占企業の配当政策にかんする一考察——近年における高率配当と自社株取得の新展開をめぐって」『証券経済学会年報』証券経済学会,第3号。
- 正木久司[1969]「戦前における株式会社の所有と支配——増地・西野両教授の所論吟味」『同志社商学』同志社大学商学会,第20巻第3・4号。
- 正木久司[1969]「戦後復興期における株式会社の所有構造」『同志社商学』同志社大学商学会,第20巻第5・6号。
- 正木久司[1969]「戦後における株式会社の所有と支配——わが国最大資産額200社(非金融会社)の実態分析」『同志社商学』同志社大学商学会,第21巻第1号。
- 正木久司[1970]「ウィリアム・H.ラフの企業財務論(1・2)」『同志社商学』同志社大学商学会,第21巻第5・6号・第23巻第2号。
- 正木久司[1970]「バーリ=ミーンズの会社革命論——『近代株式会社と私有財産』改訂版,1968年における新論文〔序文〕を中心として」『同志社商学』同志社大学商学会,第22巻第2号。
- 正木久司[1970]「産業革命期の英国株式会社金融(1)——G.H.エバンス『英国株式会社金融(1775-1850年)』の紹介を中心に」『同志社商学』同志社大学商学会,第22巻第3号。
- 正木久司[1971]「20世紀初期のアメリカ財務論——ウィリアム・H.ラフの所説とその背景をめぐって」『経営史学』経営史学会,第5巻第3号。
- 正木久司[1971]「明治期における株式会社金融」『同志社商学』同志社大学商学会,第23巻第3・4号。
- 正木久司[1972]「外資輸入と企業金融——米国資本の対日投資形態の変化を中心に」『同志社商学』同志社大学商学会,第23巻第5号。
- 正木久司[1972]「鉄鋼業の金融構造」『社会科学』同志社大学人文科学研究所,第4巻第3号。
- 正木久司[1972]「わが国株式の発行市場の構造分析」『同志社商学』同志社大学商学会,第23巻第6号。
- 正木久司[1972]「財閥の成立とその閉鎖的金融」『同志社商学』同志社大学商学会,第24巻第1号。
- 正木久司[1972]「日本の株式会社金融論史(1・2),

- 『同志社商学』同志社大学商学会，第24巻第2号・第3号。
- 正木久司[1973]「大正期・昭和初期における株式会社金融」(1・2)，『同志社商学』同志社大学商学会，第24巻第4号・第5・6号。
- 正木久司[1973]『日本の株式会社金融』＜経営経済学選書14＞ミネルヴァ書房。
- 正木久司[1974]「わが国株式会社金融の基礎構造」『証券経済学会年報』証券経済学会，第9号。
- 正木久司[1974]「A.S. デューイングの株式会社論」『同志社商学』同志社大学商学会，第26巻第3号。
- 正木久司[1975]「アメリカ初期の株式会社に関する一考察——アメリカ株式会社発展史研究の準備的作業として」『同志社商学』同志社大学商学会，第26巻第4-6号。
- 正木久司[1975]「アメリカ株式会社の起源——ハンドリン夫妻の論文の紹介を中心にして」『同志社商学』同志社大学商学会，第27巻第2号。
- 正木久司[1975]「日本の財閥金融の特質——既成財閥の閉鎖的金融をめぐる」『同志社商学』同志社大学商学会，第27巻第3号。
- 正木久司[1976]「株式会社制度の導入」，由井常彦編『工業化と企業者活動』＜日本経営史講座 第2巻＞日本経済新聞社。
- 正木久司[1976]「アメリカの無担保社債金融」『同志社商学』同志社大学商学会，第27巻第5号。
- 正木久司[1976]「A.S. デューイングの株式会社財務論」『同志社商学』同志社大学商学会，第28巻第1号。
- 正木久司[1976]「書評 岩田巖雄・高橋昭三編著『経営財務論』」『経理研究』中央大学経理研究所，第25号。
- 正木久司[1977]「新しい株式会社観——D. ポーターの「近代株式会社論」より」『同志社商学』同志社大学商学会，第28巻第4号。
- 正木久司[1977]「A.A. バリーの株式会社権力論」『同志社商学』同志社大学商学会，第28巻第5・6号。
- 正木久司[1977]「アメリカ企業理論の展開とその課題——A.A. バリーの所論を中心として」『同志社商学』同志社大学商学会，第29巻第2号。
- 正木久司[1977]「日本財閥の支配構造——アメリカの大利益集団との比較において」『同志社商学』同志社大学商学会，第29巻第3号。
- 正木久司[1979]「P. I. ブルンバークの会社支配論」『同志社商学』同志社大学商学会，第30巻第5・6号。
- 正木久司[1980]「アメリカ株式会社に関する文献紹介」『同志社商学』同志社大学商学会，第31巻第5・6号。
- 正木久司[1980]「バリーの資本家革命論——「二十世紀資本家革命」をめぐる」『同志社商学』同志社大学商学会，第32巻第1号。
- 正木久司[1980]「バリーの会社支配論」『同志社商学』同志社大学商学会，第32巻第2号。
- 正木久司[1980]「書評 西川純子著『アメリカ企業金融の研究』」『経営史学』経営史学会，第15巻第3号。
- 正木久司[1980]「R. J. ラーナーの会社支配論」『同志社商学』同志社大学商学会，第32巻第3号。
- 正木久司[1981]「「プジョー報告書」における会社支配」『同志社商学』同志社大学商学会，第32巻第5号。
- 正木久司[1981]「「国家資源委員会報告書」における会社支配」『同志社商学』同志社大学商学会，第33巻第1号。
- 正木久司[1981]「経営者支配について」『同志社商学』同志社大学商学会，第33巻第1号。
- 正木久司[1982]「TNEC 報告における会社支配」『同志社商学』同志社大学商学会，第33巻第2号。
- 正木久司[1981]「「パットマン報告書」における会社支配」『同志社商学』同志社大学商学会，第33巻第3・4号。
- 正木久司[1982]「ハープレヒトの脱所有社会論」『同志社商学』同志社大学商学会，第33巻第6号。
- 正木久司[1982]「わが国経営財務の特質——その間接金融偏重の財務構造をめぐる」『同志社商学』同志社大学商学会，第34巻第1号。
- 正木久司[1982]「ドン・ピリヤレホの会社支配論」

- 『同志社商学』同志社大学商学会，第34巻第2号。
- 正木久司[1982]「バーナムの経営者革命論」『同志社商学』同志社大学商学会，第34巻第4号。
- 正木久司[1983]『株式会社支配論の展開 アメリカ編』<文真堂研究叢書>文真堂。
- 正木久司[1983]「ガルブレイスのテクノストラクチャー論」『同志社商学』同志社大学商学会，第34巻第5号。
- 正木久司[1983]「ゴードンのビジネス・リーダーシップ論」『同志社商学』同志社大学商学会，第34巻第6号。
- 正木久司[1983]「書評 片山伍一・後藤泰二編著『現代株式会社の支配機構』」『同志社商学』同志社大学商学会，第35巻第2号。
- 正木久司[1983]「戦後アメリカの資本市場の動向」(1・2)，『同志社商学』同志社大学商学会，第35巻第3号・第4号。
- 正木久司[1984]「ロックフェラー金融集団」(1・2)，『同志社商学』同志社大学商学会，第35巻第5号・第36巻第1号。
- 正木久司[1984]「株式会社の所有と支配——アメリカ会社と支配論をめぐって」『インベストメント』大阪証券取引所，第37巻第2号。
- 正木久司[1984]「わが国の社債金融の展開——起債市場の自由化と社債の多様発行」『同志社商学』同志社大学商学会，第36巻第4号。
- 正木久司[1985]『日本的経営財務論』税務経理協会。
- 正木久司[1985]「わが国の間接金融偏重の財務構造——鉄鋼金融をめぐって」『同志社商学』同志社大学商学会，第36巻第5号。
- 正木久司[1985]「わが国株式金融展開——株式の額面割当から時価公募へ」『同志社商学』同志社大学商学会，第36巻第6号。
- 正木久司[1985]「わが国の企業集団金融の展開——6大企業集団の分析を中心に」『同志社商学』同志社大学商学会，第37巻第1号。
- 正木久司[1985]「株式会社の所有と支配——アメリカ会社支配論をめぐって」『証券経済学会年報』証券経済学会，第20号。
- 正木久司[1985]「わが国外資輸入の展開」『同志社商学』同志社大学商学会，第37巻第2号。
- 正木久司[1985]「書評 奥田健二著『人と経営——日本経営管理史研究』」『日本経済研究センター会報』日本経済研究センター，第499号。
- 正木久司[1985]「アドルフ・A. バリー——その人とその時代」(1・2)，『同志社商学』同志社大学商学会，第37巻第4号・第5・6号。
- 正木久司[1986]「日本的経営財務論——資本市場の成熟化への歴史」『インベストメント』大阪証券取引所，第39巻第1号。
- 正木久司[1986]「企業形態論における株式会社」『同志社商学』同志社大学商学会，第38巻第1号。
- 正木久司[1986]『株式会社論』晃洋書房。
- 正木久司[1986]「日本的経営財務と会社支配」『同志社商学』同志社大学商学会，第38巻第2号。
- 正木久司[1986]「株式会社の歴史——D. ボーターの所論を中心に」『同志社商学』同志社大学商学会，第38巻第3号。
- 正木久司[1987]「アドルフ・A. バリーの経歴と業績」『同志社商学』同志社大学商学会，第38巻第5号。
- 正木久司[1987]「アドルフ・A. バリーの生涯」(1・2)，『同志社商学』同志社大学商学会，第38巻第6号・第39巻第1号。
- 正木久司[1988]「株式会社の正当性——E. M. エプスタインの所説を中心に」『同志社商学』同志社大学商学会，第39巻第6号。
- 正木久司[1988]「日本的経営財務論——資本市場の成熟化への歴史」『証券経済学会年報』証券経済学会，第23号。
- 正木久司[1988]「アメリカ株式会社の所有と支配」『同志社商学』同志社大学商学会，第40巻第1号。
- 正木久司[1988]「古典経済理論に関する株式会社の影響——A. A. バリーの所論をめぐって」『同志社商学』同志社大学商学会，第40巻第3号。
- 正木久司[1989]「A. A. バリー理論の現代的評価」『同志社商学』同志社大学商学会，第40巻第5号。
- 正木久司[1989]「S. アーロノヴィッチの支配階級論」

- 『同志社商学』同志社大学商学会，第40巻第6号。
- 正木久司・角野信夫[1989]『バーリ』＜経営学 人と学説＞同文館出版。
- 正木久司[1989]「日本的経営財務論——企業の資金調達構造をめぐって」『同志社商学』同志社大学商学会，第41巻第1号。
- 正木久司[1989]「経営者権力の正当性」『同志社商学』同志社大学商学会，第41巻第3・4号。
- 正木久司[1990]「株式会社の社会的責任」『同志社商学』同志社大学商学会，第42巻第2号。
- 正木久司[1990]「株式会社の倫理」『同志社商学』同志社大学商学会，第42巻第3号。
- 正木久司編著[1991]『株式会社支配論の展開 イギリス編』＜文真堂研究叢書2＞文真堂。
- 正木久司[1991]「日本的経営論——終身雇用制，年功序列制，そして企業別労働組合制をめぐって」『同志社商学』同志社大学商学会，第42巻第6号。
- 正木久司[1991]『経営学講義』晃洋書房。
- 正木久司[1991]「戦後におけるアメリカ会社財務——E.F. ドナルドソンの所論を中心として」『同志社商学』同志社大学商学会，第43巻第1号。
- 正木久司[1991]「アメリカ初期の株式会社財務」『同志社商学』同志社大学商学会，第43巻第2・3号。
- 正木久司[1992]「株式会社の本質」『同志社商学』同志社大学商学会，第44巻第1号。
- 正木久司[1992]「アメリカの合併運動と経営財務」『同志社商学』同志社大学商学会，第44巻第3号。
- 正木久司[1993]『株式会社財務論』晃洋書房。
- 正木久司[1993]「R. イールズの企業論」『同志社商学』同志社大学商学会，第45巻第1号。
- 正木久司[1993]「会社支配論から会社統治論へ」『同志社商学』同志社大学商学会，第45巻第2・3号。
- 正木久司[1993]「T. ヴェブレンの伝統的企業論」『同志社商学』同志社大学商学会，第45巻第4号。
- 正木久司[1994]「企業の社会的責任——K. デービスの所論を中心として」『同志社商学』同志社大学商学会，第45巻第6号。
- 増田四郎[1938]「書評 大塚久雄著『株式会社発生史論』」『一橋論叢』日本評論社，第2巻第2号。
- 増田四郎・宮下孝吉・高村象平・小松芳喬・五島茂[1956]『西洋経済史』(中)，有斐閣。
- 増田寿男・沢田幸治編[1997]『現代経済と経済学』＜有斐閣ブックス＞有斐閣（新版，2007年）。
- 増田正人[2009]「アメリカ発の金融危機と世界経済危機」『季論21』『季論21』編集委員会，第4号。
- 増田正人[2010]「アメリカの経済危機の国際的波及と世界経済」，斎藤叫編著『世界金融危機の歴史的位相』日本経済評論社。
- 増田正人[2010]「アメリカの住宅バブルの拡大・破たん」とサブプライム危機」『社会志林』法政大学社会学部学会，第56巻第4号。
- 増田正人[2011]「グローバル化と金融危機の30年」，伊藤正直・藤井史朗編『グローバル化・金融危機・地域再生』＜21世紀への挑戦2＞日本経済評論社。
- 増田正人[2013]「経済・金融のグローバル化と国際不均衡」，高田太久吉編著『現代資本主義とマルクス経済学——経済学は有効性をとりもどせるか』新日本出版社。
- 増地庸治郎[1922]「リーフマン氏企業形態論」『商学研究』東京商科大学，第1巻第3号。
- 増地庸治郎[1926]『経営経済学序論』同文館。
- 増地庸治郎[1927]「株式会社の将来」『経営学論集』＜日本経営学会年報 第1集＞同文館。
- 増地庸治郎[1928]「株式会社の計算」『経営学論集』＜日本経営学会年報 第2集＞同文館。
- 増地庸治郎[1928]「企業形態の経営経済的意味」『経営経済研究』同文館，第4冊。
- 増地庸治郎[1928]「経営及企業概念」『商学研究』東京商科大学，第7巻第3号。
- 増地庸治郎[1929]『経営要論』巖松堂（新訂版，1937年）。
- 増地庸治郎[1930]『企業形態論』＜商学全集 第6巻＞千倉書房（新訂版，1941年）。
- 増地庸治郎[1932]「株式会社に於ける支配形態」『経

- 営経済研究』同文館，第13冊。
- 増地庸治郎[1932]『商業通論』＜商学全集 第1巻＞千倉書房（新訂版，1937年）。
- 増地庸治郎[1934]『経営財務論』＜会計学全集＞第7巻，東洋出版社。
- 増地庸治郎[1934]「株式会社」『経営経済研究』同文館，第15冊。
- 増地庸治郎[1934]「ホールディング・カムパニーに就いて」『経営経済研究』同文館，第16冊。
- 増地庸治郎[1934]「アメリカ鉄道業に於ける持株会社の発達」『東京商科大学研究年報』東京商科大学，第3号。
- 増地庸治郎[1935]「産業統制の一機構としての持株会社」，日本経営学会関東部会小樽大会編『産業統制研究——経営学講演集』同文館。
- 増地庸治郎[1936]「株式会社支配形態の実証的研究」『経営経済研究』同文館，第20冊。
- 増地庸治郎[1936]「ファン・スエーリンゲン系持株会社」『東京商科大学研究年報』東京商科大学，第4号。
- 増地庸治郎[1936]『我が国株式会社に於ける株式分散と支配』同文館。
- 増地庸治郎[1937]『株式会社——株式会社の本質に関する経営経済的研究』巖松堂書店（改訂版，1944年）。
- 増地庸治郎[1939]『経営学講話』高陽書院。
- 増地庸治郎・亀井辰雄[1939]『経営経済綱要』帝国書院。
- 増地庸治郎[1941]「株式会社重役制度について」『一橋論叢』日本評論社，第7巻第1号。
- 増地庸治郎[1941]「株式会社の二重ボード制」『財政』大蔵財務協会，第6巻第3号。
- 増地庸治郎[1942]「企業形態及び経営財務の研究」『東京帝国大学学術大観 法学部・経済学部』東京帝国大学。
- 増地庸治郎[1942]「出資と配当」『一橋論叢』日本評論社，第9巻第4号。
- 増地庸治郎編[1944]『企業形態の研究』日本評論社。
- 増地庸治郎・古川栄一[1953]『経営要論 新版』巖松堂書店。
- 町田義一郎監修[1966]『金融経済論』＜経済学全集7＞世界書院。
- 町田実秀[1958]『多数決原理の研究——中世の選挙制度を中心として』有斐閣。
- 松井和夫[1966]「米国証券市場の発展史」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第84号。
- 松井和夫[1967]「アメリカ金融資本にかんする覚え書」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第91号。
- 松井和夫[1967]「自己金融論の再検討——アメリカ金融資本の一分析」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第98号。
- 松井和夫[1968]「アメリカ金融資本にかんする一考察」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号。
- 松井和夫[1968]「戦後アメリカの証券市場」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第104号。
- 松井和夫[1969]「両大戦間のアメリカ証券市場（上）」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第107号。
- 松井和夫[1970]「アメリカの「銀行と産業の結合関係」にかんする新資料——いわゆる「パットマン報告」について」『大阪市立大学経済学会経済学雑誌』大阪市立大学経済学会，第63巻第5号。
- 松井和夫[1972]「1933年銀行法成立の背景」『証券研究』日本証券経済研究所，第114号。
- 松井和夫[1973]「アメリカの銀行信託部の投資活動」『海外証券経済分析』＜証研資料 第119号＞日本証券経済研究所大阪研究所，第1号。
- 松井和夫[1973]「アメリカの大銀行とコングロマリット——CMBとG&Wのケース」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第117号。
- 松井和夫[1973]「アメリカの財団の証券投資」『証券研究』日本証券経済研究所，第36号。
- 松井和夫[1975]「戦後アメリカの公社債市場——かんたんなスケッチ」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第121号。
- 松井和夫[1975]「アメリカの主要産業と金融機関——60年代以降の銀行と産業との「結合」関係にかんする一研究」『海外証券経済分析』＜証研資料

- 第 136 号 > 日本証券経済研究所大阪研究所, 第 2 号.
- 松井和夫[1976]「アメリカの銀行と産業の「結合」関係について——1960 年代以降のアメリカの産業金融に関する一研究」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 48 号.
- 松井和夫[1977]「日米企業の財務構造と株価形成」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 125 号.
- 松井和夫[1979]「戦後アメリカの企業合併運動と株式市場」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 127 号.
- 松井和夫[1979]「日米企業の株式所有構造と株価形成——支配構造との関連で」(上・下), 『証券研究』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 128 号・第 129 号.
- 松井和夫[1980]「アメリカの企業年金基金——若干の視点から」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 131 号.
- 松井和夫[1980]「アメリカにおける株式所有構造と支配構造——いわゆる「メトカーフ報告」に関連して」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 60 号.
- 松井和夫[1980]「戦後アメリカ金融市場の発展史 (1) ——アメリカの商業銀行業の構造」(上・下), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 132 号・第 133 号.
- 松井和夫[1980・81]「アメリカの証券市場と産業金融」(上・中・下), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 134 号・第 135 号・第 136 号.
- 松井和夫[1981]「書評 西川純子著『アメリカ企業金融の研究——1920 年代を中心にして』」『史学雑誌』史学会, 第 90 巻第 8 号.
- 松井和夫[1981]「米国の産業・金融再編成の新動向——1980 年代初頭の企業合併・資本集中運動」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 137 号.
- 松井和夫[1982]「アメリカの巨大企業の支配構造と経済力の集中——E. S. Herman, Corporate Control, Corporate Power, 1981 の紹介を中心に」(上・下), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 139 号・第 140 号.
- 松井和夫[1982]「アメリカの大手金融機関と主要産業の大企業との「結合」関係について——いわゆる「リビコフ報告」に関連して」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 66 号.
- 松井和夫[1982]「アメリカの個人投資家の株式所有」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 66 号.
- 松井和夫[1983]「米金融資本の構造と国際的展開」『経済評論』日本評論社, 復刊第 32 巻第 2 号.
- 松井和夫[1984]「アメリカのモーゲイジ担保証券市場の発展」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 148 号.
- 松井和夫[1984]「アメリカにおけるフィナンシャル・イノベーションと金融市場の変貌」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会, 第 7 巻第 1 号.
- 松井和夫[1985]「米国企業合併運動の新潮流とその背景 (1) ——企業合併記事からみた米国産業＝金融再編成」(上・下), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 152 号・第 153 号.
- 松井和夫[1985・86]「アメリカの金融再編成の実態とその背景」(1・2・3・4), 『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 154 号・第 155 号・第 157 号・第 158 号.
- 松井和夫[1986]『セキュリタイゼーション——金融の証券化』東洋経済新報社.
- 松井和夫[1986]『現代アメリカ金融資本研究序説——現代資本主義における所有と支配』文真堂.
- 松井和夫・奥村皓一著[1987]『米国の企業買収・合併——M&A&D』東洋経済新報社.
- 松井和夫[1987]「米連邦政府による貸付債権の証券化——米国型「セキュリタイゼーション」の歴史的背景」『証券研究』日本証券経済研究所, 第 80 号.
- 松井和夫編著[1988]『金融』<シリーズ世界の企業> 日本経済新聞社.
- 松井和夫[1988]「米国におけるターム・ローンと協調融資制度の発展——最近の「証券化」の動きとの関連で」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第 163 号.

- 松井和夫[1988]「現代アメリカ金融資本にかんする一考察」『季刊経済研究』大阪市立大学経済研究会, 第11巻第2号.
- 松井和夫[1989]「アメリカにおけるLBOブームとフィナンシャル・イノベーション」『証券研究』日本証券経済研究所, 第90号.
- 松井和夫[1990]「米・欧・日におけるM&Aブームの実態と背景——財テク型から戦略型重視に転換」『日本経済研究センター会報』日本経済研究センター, 第606号.
- 松井和夫[1990]「アメリカのM&A=LBOブームと証券市場」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第172号.
- 松井和夫[1990]「現代アメリカ金融資本論の若干の論点と分析視角」『信用理論研究』信用理論研究会, 第7号.
- 松井和夫[1991]『M&A——20世紀の錬金術』<講談社現代新書>講談社.
- 松井和夫[1996]「米国の大企業の資金調達と銀行による協調融資——大企業と大銀行の関係の側面」『大阪経大論集』大阪経大学会, 第47巻第3号.
- 松井和夫[1998]「米国金融界の再編成——M&A&Dの動きを中心に」『大阪経大論集』大阪経大学会, 第49巻第3号.
- 松井和夫[2001]「世界の産業と金融の再編成」(1・2), 『大阪経大論集』大阪経大学会, 第51巻第5号・第52巻第1号.
- 松井暁[1991]「信用と利子生み資本」『一橋論叢』日本評論社, 第105巻第6号.
- 松井安信[1955]「英国における株式銀行の成立」『西南学院大学商学論集』西南学院大学学術研究所, 第1巻第1号.
- 松井安信[1973]『マルクス信用論と金融政策』ミネルヴァ書房.
- 松井安信[1975]「「信用論」動態化の方法——川合一郎教授の所説に関連して」『経済研究』一橋大学経済研究所, 第26巻第3号.
- 松井安信・三木毅編[1978]『信用と外国為替』ミネルヴァ書房.
- 松井安信編著[1983]『金融資本論研究——コンメンタール・論争点』北海道大学図書刊行会.
- 松石勝彦[1977]「諸資本の競争・信用と内在的矛盾」『経済学研究』一橋大学, 第20号.
- 松浦一悦[2005]『EU通貨統合の新展開』<Minerva現代経済学叢書80・松山大学研究叢書 第48巻>
- 松浦一悦[2009]『EU通貨統合とユーロ政策』<Minerva現代経済学叢書104・松山大学研究叢書 第61巻>ミネルヴァ書房.
- 松浦一悦[2015]『現代の国際通貨制度』<松山大学研究叢書 第83巻>晃洋書房(改訂版, 2019年).
- 松尾順介[1999]『日本の社債市場』東洋経済新報社.
- 松尾匡[2010]『図解雑学 マルクス経済学』ナツメ社.
- 松尾匡編著[2021]『最強のマルクス経済学講義』ナカニシヤ出版.
- 松尾秀雄[1984]「書評 山口重克著『資本論の読み方』」『名城商学』名城大学商学会, 第33巻第3号.
- 松尾秀雄[1984]「企業形態の理論的展開をめぐって——資本結合形態についての諸説の検討を中心に」『名城商学』名城大学商学会, 第33巻第4号.
- 松尾秀雄[1984]「「利子生み資本」と株式会社」, 伊藤誠・櫻井毅・山口重克編『利子論の新展開』<マルクス経済学叢書2>社会評論社.
- 松尾秀雄[1987]『所有と経営の経済理論』名古屋大学出版会.
- 松尾秀雄[1989]「方法としての行動論アプローチ——拙著『所有と経営の経済理論』への批評の検討」(1・2), 『名城商学』名城大学商学会, 第39巻第1号・第2号.
- 松下優[1981]「株式会社と会社資本の自立化」『一橋論叢』日本評論社, 第86巻第5号.
- 松下優[1983]「株式会社制度の体制的確立と信用制度の役割——法人資本主義論序論」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第143号.
- 松下優[1986]「戦後日本の株式市場と個人株主問題」, 種瀬茂編『現代資本主義論』青木書店.

- 松田二郎[1942]『株式会社の基礎理論——株式関係を中心として』岩波書店.
- 松田二郎[1959]『株式会社法研究』弘文堂.
- 松田岳[2000]「アメリカ「株価急騰」の金融メカニズム」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第54巻第2号.
- 松田岳[2009]「米国の金融資産バブルと国際マネーフロー」『フジ・ビジネス・レビュー』東京富士大学, 第1号.
- 松田岳[2009]「米国住宅価格急騰の金融メカニズム」『フジ・ビジネス・レビュー』東京富士大学, 第1号.
- 松田岳[2010]「金融危機後の米国の金融規制改革の有効性に関する一考察」『フジ・ビジネス・レビュー』東京富士大学, 第2号.
- 松田岳[2012]「失われた10年」にあえぐアメリカ, 山口義行編『終わりなき世界金融危機——バブルレス・エコノミーの時代』岩波書店.
- 松田岳[2012]「世界金融危機後の米国金融システムの行方——不良債権問題を中心に」『信用理論研究』信用理論研究会, 第29号.
- 松田智雄[1950]『イギリス資本と東洋——東洋貿易の前期性と近代性』日本評論社.
- 松田英明・岡本恵也[2009]「金融資本主義のダイナミズム——サブプライム金融危機は死に至る病か?」『九州経済学会年報』九州経済学会, 第47号.
- 松田正彦[2000]「株式会社における株主と経営者の原理的考察」『広島大学経済論叢』広島大学経済学会, 第23巻第4号.
- 松田正彦[2000]「資本市場と株式会社」『広島大学経済論叢』広島大学経済学会, 第24巻第1号.
- 松田正彦[2000]「株式会社と企業の持続性」『広島大学経済論叢』広島大学経済学会, 第24巻第2号.
- 松田正彦[2001]「株式会社の指標と諸形態」『広島大学経済論叢』広島大学経済学会, 第24巻第3号.
- 松田正彦[2002]『市場の不確実性と資本のシステム』ナカニシヤ出版.
- 松田正彦[2007]「信用機構・株式会社と景気循環」『広島大学経済論叢』広島大学経済学会, 第31巻第1号.
- 松葉正文[1984]『金融資本と社会化——ワイマル初期ドイツ金融資本分析』有斐閣.
- 松橋透[2010]「現代資本主義の蓄積様式とグローバル資本主義の危機」, 一井昭編『グローバル資本主義の構造分析』中央大学経済研究所研究叢書49中央大学出版部.
- 松原一泰[1972]「自己株式会計論序説」『下関商経論集』下関市立大学学会, 第15巻第2・3号.
- 松原一泰[1972]「自己株式の資産性に関する吟味」『下関商経論集』下関市立大学学会, 第16巻第1号.
- 松原一泰[1973]「株式配当の配当政策」『下関商経論集』下関市立大学学会, 第17巻第1号.
- 松原一泰[1974]「自己株式の本質について」『会計』森山書店, 第105巻第2号.
- 松原一泰[1976]「無額面株式生成史論」『下関商経論集』下関市立大学学会, 第20巻第1号.
- 松原一泰[1977]「無額面株式の生成要因をめぐる諸問題」『会計』森山書店, 第111巻第1号.
- 松原一泰[1977]「アメリカに於ける株式配当の理論と実務」(1・2), 『会計』森山書店, 第112巻第6号・第113巻第1号.
- 松原一泰[1979]「イギリスのジョイント・ストック・カンパニーと株式資本」『下関市立大学論集』下関市立大学学会, 第22巻第3号.
- 松原一泰[1980]「イギリス東インド会社の配当問題について」(1・2), 『会計』森山書店, 第117巻第6号・第118巻第3号.
- 松原一泰[1992]「1株当たり利益について」『下関市立大学論集』下関市立大学学会, 第35巻第2・3号.
- 松原智雄[1974]「マルクスの株式会社論——『経済学批判要綱』の検討」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第24巻第1号.
- 松原智雄[1975]「マルクスの利子生み資本論について」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第25巻第1号.

- 松原智雄[1976]「株式資本論の理論的展開——武井邦夫著『利子生み資本の理論』(時潮社, 1972年)によせて」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第26巻第1号.
- 松原智雄[1993]「現代株式会社の所有と経営支配」『苫小牧工業高等専門学校紀要』苫小牧工業高等専門学校, 第28号.
- 松村勝弘[1979]「アメリカ独占確立期における株式水増し財務と「当事者公開」」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第17巻第5・6号.
- 松村勝弘[1980]「株式会社計算・公開に関する改正試案」をめぐる動向」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第19巻第4号.
- 松村勝弘[1981]「時価発行増資におけるプレミアム還元ルールの意義」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第20巻第3・4号.
- 松村勝弘[1982]「株式時価公募の問題点——「株主還元論批判」と経営者権限の強化」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第21巻第3号.
- 松村勝弘[1983]「証取審中間報告の背景と意義——時価公募における「資本の空洞化」説批判」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第21巻第5号.
- 松村勝弘[1984]「新株発行をめぐる戦後商法規定変遷の問題点——資本調達便宜化と株主保護」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第22巻第6号.
- 松村勝弘編[1986]『アメリカ・ドイツ企業会計史研究』ミネルヴァ書房.
- 松村勝弘[1987]「書評 松井和夫著『現代アメリカ金融資本研究序説』」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第26巻第1号.
- 松村勝弘[1988]「転換社債および新株引受権付社債発行の盛行とその問題点」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第27巻第1号.
- 松村勝弘[1988]「エクイティ・ファイナンス盛行によるプレミアムの大量発生とその問題点——新旧株主間の利害対立の実証研究」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第27巻第3・4号.
- 松村勝弘[1988]「時価ファイナンスによる投資家の利害の実証分析——配当利回りの2極分化」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第166号.
- 松村勝弘[1989]「会社の正統性維持の手段としての株主所有権強化の意義」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第27巻第5・6号.
- 松村勝弘[1990]「現代日本における間接金融体制の問題点——富と所得の公平な配分の視点の重要性」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第28巻第4・5号.
- 松村勝弘[1990]「「経営者支配」論と経営者権力の規制——パーリ=ミーニズ, ガルブレイス, ラーナーの所説の検討」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第28巻第6号.
- 松村勝弘[1992]「1980年代のエクイティ・ファイナンス盛行と経営者の責任」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第31巻第2号.
- 松村勝弘[1992]「バブル崩壊と企業経営——株式持ち合いを中心に——行き詰まった「含み経営」の転換を」『日本経済研究センター会報』日本経済研究センター, 第670号.
- 松村勝弘[1994]「バブル崩壊とコーポレート・ガバナンス論議の意義——日本型コーポレート・ガバナンスをめざして」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第32巻第4・5a号.
- 松村勝弘[1995]『現代企業の財務戦略』サイテック(第2版, 1997年. 第3版, 2000年. 第4版, 2004年).
- 松村勝弘[1995]「相互持ち合い構造とエクイティ・ファイナンス——額面発行時代から時価発行時代へ」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第34巻第1号.
- 松村勝弘[1995]「わが国におけるコーポレート・ガバナンス論の意義」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第30号.
- 松村勝弘[1996]「長期取引関係に裏付けられた株式相互持ち合い——メインバンクと企業の長期安定的関係の実証分析を中心に」『同志社商学』同志社大学商学会, 第48巻第1号.
- 松村勝弘[1997]『日本的経営財務とコーポレート・ガ

- 経済学部研究叢書 3 > 金沢大学経済学部.
- 松本久雄[1994]「トゥックとフラートンの差異と共通点——『資本論』第3巻第5篇の後半部に関連して」『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 第15巻第1号.
- 松本久雄[1996]「信用制度下の利子生み資本論の展開」『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 第16巻第2号.
- 松本久雄[2003]『マルクス信用論の解明と展開』日本図書センター.
- 松本久雄[2003]『金融論講義』新潟経営大学.
- 松本久雄[2005]「拙著『マルクス信用論の解明と展開』への書評に答える」『新潟経営大学紀要』新潟経営大学, 第11号.
- 松村善太郎[1954]「金再評価論争に現われた英・米金融資本の現段階的性格」『経済理論』和歌山大学経済学会, 第19号.
- 的場昭弘[2009]「金融危機をマルクス恐慌論から読み解く」, 藤原書店編集部編『「アメリカ覇権」という信仰——ドル暴落と日本の選択』藤原書店.
- 的場信樹[1988]「協同組合から株式会社へ——西ドイツ消費協同組合の組織変更」(上・下), 『生活協同組合研究』生協総合研究所, 第153号・第154号.
- 的場信樹[2008]「企業形態の進化に関する考察——アソシエーション, 協同組合, 株式会社」『経済科学通信』基礎経済科学研究所, 第117号.
- 的場信樹[2010]「企業形態論からみた協同組合と株式会社」, 基礎経済科学研究所編『未来社会を展望する——甦るマルクス』大月書店.
- 間宮陽介[2009]「新自由主義の破綻としての金融危機」, 『生活経済政策』編集委員会編『世界金融恐慌と現代資本主義』 <生活研ブックス 27>生活経済政策研究所.
- 丸川知雄[2002]『中国企業の所有と経営』 <研究双書 520>日本貿易振興会アジア経済研究所.
- 丸川知雄[2013]『現代中国経済』 <有斐閣アルマ>有斐閣 (新版, 2021年).
- 丸山真人[1981]「信用制度と利子」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会, 第24号.
- 丸山真人[2022]『人間の経済と資本の論理』東京大学出版会.
- 馬渡尚憲[1971]「株式資本論の問題点——R. ヒルファディングにおける」『経済志林』法政大学経済学会, 第38巻第3・4号.
- 馬渡尚憲編[2002]『経済学の現在——マルクスの射程から V. 3』昭和堂.
- 見市雅俊[1975]「J. E. スミスとイギリス労働運動——知られざるオーエン主義者もしくはサン・シモン主義者」『人文学報』京都大学人文科学研究所, 第39号.
- 三浦寛也[1962]「端株取引制度」『証券研究』日本証券経済研究所, 第5号.
- 三浦寛也・竹村孝雄・山本昭市[1964]「イギリス証券市場」(上・下), 『証券研究』日本証券経済研究所, 第11号・第12号.
- 三浦寛也[1965]「スペシャリストの現状とその機能について」『証券研究』日本証券経済研究所, 第15号.
- 三浦寛也[1965]「SEC Special Report をめぐって——アメリカ資本市場研究のために」『日本大学文理学部 (三島) 研究年報』日本大学文理学部, 第14号.
- 三浦寛也[1966]「資本市場政策について」『日本大学文理学部 (三島) 研究年報』日本大学文理学部, 第15号.
- 三浦寛也[1967]「戦後日本の証券市場対策」, 日本証券経済研究所編『日本証券市場の諸問題』東洋経済新報社.
- 三浦寛也[1968]「アテネ証券取引所の現状」『日本大学文理学部 (三島) 研究年報』日本大学文理学部, 第16号.
- 三浦寛也[1968]「アメリカにおける会社取締役・役員等による自社株取引について」『証券研究』日本証券経済研究所, 第24号.
- 三浦寛也・田中幾三郎[1969]『現代の証券市場』千城出版.
- 三浦寛也[1969]「J. D. Hamilton の見たイギリス証券流通市場」『日本大学文理学部 (三島) 研究年報』日本大学文理学部, 第17号.

- 三浦寛也[1969]「インサイダーの自社株取引について」『証券経済学会年報』証券経済学会，第4号。
- 三浦寛也[1970]「J.D. ハミルトンの調査した世界17ヵ国の証券取引」『日本大学文理学部（三島）研究年報』日本大学文理学部，第18号。
- 三浦寛也[1971]「証券市場の国際化」『日本大学文理学部（三島）研究年報』日本大学文理学部，第19号。
- 三浦寛也[1971]「カナダ証券市場の概況」『日本大学文理学部（三島）研究年報』日本大学文理学部，第20号。
- 三浦寛也[1972]「カナダ経済と証券市場の近況」『日本大学文理学部（三島）研究年報』日本大学文理学部，第21号。
- 三浦寛也[1973]「イギリスの統合証券取引所について」『日本大学文理学部（三島）研究年報』日本大学文理学部，第22号。
- 三浦寛也[1973]「NYSEのスペシャリストについて」『政経研究』日本大学法学会，第10巻第1号。
- 三浦寛也[1974]『証券貯蓄の仕組み』千城出版。
- 三浦寛也[1975]「アメリカにおける自己株式の取得」『日本大学文理学部（三島）研究年報 人文・社会科学編』日本大学文理学部，第23号。
- 三浦寛也[1975]「アメリカのマージン取引」『日本大学文理学部（三島）研究年報 人文・社会科学編』日本大学文理学部，第24号。
- 三浦寛也[1975]『証券市場論新講』千城出版。
- 三浦寛也[1975]「自己株式の取得」『証券研究』日本証券経済研究所，第42号。
- 三浦寛也[1976・80]「アメリカの証券金融」(1・2)，『日本大学文理学部（三島）研究年報 人文・社会科学編』日本大学文理学部，第25号・第28号。
- 三浦寛也[1976]「アメリカのマージン取引制度——ニューヨーク証券取引所の制度を中心として」『証券研究』日本証券経済研究所，第47号。
- 三浦寛也[1979]『金融論講義』千城出版。
- 三浦寛也[1987]『証券市場論』千城出版。
- 三浦后美[1981]「企業集団」覚え書『野田経済』野田経済研究所，第1373号。
- 三浦后美[1987]「わが国産業構造の変化と転換社債財務」『経営分析研究』日本経営分析学会，第3号。
- 三浦后美[1987]「無担保社債と会社財務」『証券経済学会年報』証券経済学会，第22号。
- 三浦后美[1991]「現代日本の社債財務展開の特質と意義」『経営論集』明治大学経営学研究所，第38巻第2号。
- 三浦后美[1991]「新株引受権付社債財務の日本の特質」『証券研究』日本証券経済研究所，第97号。
- 三浦后美[1992]『現代社債財務論』税務経理協会。
- 三浦后美[1992]「私募債市場の日本の特質」『証券経済学会年報』証券経済学会，第27号。
- 三浦后美[1994・95・96]「日本の社債発行市場とグローバル格付分析」(1・2・3)，『経営論集』文京学院大学総合研究所，第4巻第1号・第5巻第1号・第6巻第1号。
- 三浦后美[1996]「わが国の社債発行・流通市場と銀行の証券子会社」『証券経済学会年報』証券経済学会，第31号。
- 三浦后美[1997]「日本の社債金融の歴史とグローバル格付分析」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第8号。
- 三浦后美[1999]「債券格付制度の現状と問題点」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第18号。
- 三浦后美[1999]「日本の社債金融と格付け」『証券経済学会年報』証券経済学会，第34号。
- 三浦后美[2000]「国内ジャンクボンド市場の可能性」『証券経済学会年報』証券経済学会，第35号。
- 三浦后美[2000]「日本の社債金融と債券格付けの役割」『経営論集』文京学院大学総合研究所，第10巻第1号。
- 三浦后美[2003]「エンロン企業スキャンダルとアングロ・アメリカン型格付けの限界」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第41号。
- 三浦后美[2003]「エンロン企業スキャンダル問題——債券格付けの歴史的視点から」『文京学院大学総合研究所紀要』文京学院大学総合研究所，第3号。

- 三浦后美[2006]「債券格付けの進化——大学格付け・病院格付けへの応用」『経営論集』文京学院大学総合研究所，第16巻第1号。
- 三浦后美[2007]「債券格付と格付の進化」『経営論集』文京学院大学総合研究所，第17巻第1号。
- 三浦后美[2009]「会社法と社債資本の新展開」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第65号。
- 三浦后美[2012]「日本における信用格付制度の発展過程」『経営論集』文京学院大学総合研究所，第22巻第1号。
- 三浦后美[2013]「債権の信用格付」，箕輪徳二・松井富佐男・増尾賢一編著『信用格付と会社財務・会計制度の新動向』泉文堂。
- 三浦社[2015]「明治期における華族資本の形成と工業化投資——旧岩国藩主吉川家の土地・株式投資を事例として」『歴史と経済』政治経済学・経済史学会，第57巻第2号。
- 三浦社[2022]「近代皇室財産の形成と有価証券投資」『経営史学』経営史学会，第57巻第1号。
- 水上啓吾[2016]『ソブリン危機の連鎖——ブラジルの財政金融政策』ナカニシヤ出版。
- 水越潔[1957]『経営財務の基本問題』＜新経営学選書＞泉文堂。
- 水越潔[1962]「大衆資本集中についての一考察」(1・2)，『経営論集』明治大学経営学研究所，通号第24号・第10巻第1号。
- 水越潔[1963]「「自由化」と企業資本の体質改善——「資本構成は正論」の前提として」『経営論集』明治大学経営学研究所，第11巻第3号。
- 水越潔[1964]「「新株発行」における若干の問題——「自己資本」充実の吟味」『経営論集』明治大学経営学研究所，第12巻第1号。
- 水越潔[1965]『証券資本集中論』泉文堂。
- 水越潔[1966]「社債資本集中における一考察——その不振の沿革について」『経理知識』明治大学国家試験指導センター経理研究所，第48号。
- 水越潔[1968]「株式の＜時価＞発行について」『経理知識』明治大学国家試験指導センター経理研究所，第49・50号。
- 水越潔[1971]「株式の取得をめぐる諸問題——特に「自社株」について」『経営論集』明治大学経営学研究所，第18巻第1-3号。
- 水越潔[1972]『会社財務の諸問題』国元書房。
- 水越潔[1972]「豪州における株式資本についての若干の覚え書き」『経営論集』明治大学経営学研究所，第19巻第1-3号。
- 水越潔[1974]「法定準備金の株式資本金化——改正商法のねらい」『経営論集』明治大学経営学研究所，第21巻第2・3号。
- 水越潔編[1975]『財務管理論——50論題と解説 経営学要説』法学書院（増訂版，1982年）。
- 水越潔[1975]「「社会的責任」と株式会社制度の再検討」，日本経営学会編『企業の社会的責任』＜経営学論集 第45集＞千倉書房。
- 水越潔[1977]『株式会社財務論』泉文堂。
- 水越潔編著[1977]『図説株式会社の財務——目でみる会社財務の理論と実際』泉文堂。
- 水越潔[1977]「株式買取権付社債について」『経理知識』明治大学国家試験指導センター経理研究所，第56号。
- 水越潔[1978]「株式資本についての一考察」『明治大学社会科学研究所紀要』明治大学社会科学研究所，第16号。
- 水越潔[1979]「中小規模会社の株式資本の財務」『明治大学社会科学研究所紀要』明治大学社会科学研究所，第17号。
- 水越潔[1981]「株式制度の改正について——「試案」から「要綱案」へ」『経営論集』明治大学経営学研究所，第28巻第4号。
- 水越潔[1981]「改正商法と増資」『産業経理』産業経理協会，第41巻第9号。
- 水越潔編著[1982]『現代株式会社の財務分析』野田経済研究所。
- 水越潔[1982]「わが国の株式制度の変遷」『経営論集』明治大学経営学研究所，第29巻第4号。
- 水越潔[1982]「資本金の原資としての準備金制度（明治商法）」『経理知識』明治大学国家試験指導センター経理研究所，第61号。
- 水越潔編著[1982]『目でみる会社財務』泉水堂（改訂版，1986年。改訂増補版，1991年）。

- 水越潔編著[1983]『株式会社財務の基礎』中央経済社.
- 水越潔[1983]「株式会社規模とその規定制度」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第31巻第1号.
- 水越潔[1984]「株式会社制度の変遷と資本金」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第19号.
- 水越潔[1985]「証券財務と株式会社法」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第32巻第3号.
- 水越潔[1985]「中小株式会社と証券財務」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第33巻第2号.
- 水越潔[1987]「台湾株式会社制度転換に関する覚書」『明治大学社会科学研究所紀要』明治大学社会科学研究所, 第25巻第1号.
- 水越潔[1987]「台湾株式会社の利益留保制度」『経理知識』明治大学国家試験指導センター経理研究所, 第66号.
- 水越潔[1987]「台湾の証券発行制度について」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第34巻第3・4号.
- 水越潔編著[1988]『新金融証券市場と会社財務』税務経理協会.
- 水越潔[1988]「小規模株式会社の増資財務について——最低資本基準額への到達の道」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第35巻第3号.
- 水越潔[1988]「商法改正「試案」と証券問題」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第23号.
- 水越潔編[1990]『財務制度の現状と課題』中央経済社.
- 水越潔[1991]「Equity Financeと配当政策」『経営論集』文京学院大学総合研究所, 第1巻第1号.
- 水越潔編著[1992]『テキスト株式会社財務』中央経済社.
- 水越潔[1992・93・94・95・96]「戦後日本の株主資本制度の変遷」(1・2・3・4・5),『経営論集』文京学院大学総合研究所, 第2巻第1号・第3巻第1号・第4巻第1号・第5巻第1号・第6巻第1号.
- 水越潔[1994]「自己株式保有について」『経理知識』明治大学国家試験指導センター経理研究所, 第73号.
- 水越潔編[1998]『会社財務制度の史的展開』税務経理協会.
- 水越潔[1998]「自社株消却についての一考察」『経営論集』文京学院大学総合研究所, 第8巻第1号.
- 水田正史[2003]『近代イラン金融史研究——利権／銀行／英露の角逐』<MINERVA人文・社会科学叢書83>ミネルヴァ書房.
- 水田正史[2010]『第一次世界大戦期のイラン金融——中東経済の成立』<Minerva人文・社会科学叢書162>ミネルヴァ書房.
- 溝口由己[2018]「中国の国有企業改革に対する政治経済的分析——「単位」システムからみた現代企業制度の確立」『新潟大学経済論集』新潟大学経済学会, 第105号.
- 御園生等[1955]「流通機構における集中と系列化」『アナリスト』経済発展協会, 1955年12月号.
- 御園生等[1959]「株式所有の形態と企業支配——日本ビッグ・ビジネス論ノート」『公正取引』公正取引協会, 第103号.
- 御園生等[1959]「企業集中・系列化と独禁法」『公正取引』公正取引協会, 第108号.
- 御園生等[1960]『日本の独占——再編成の実態』<経済教室9>至誠堂.
- 御園生等[1962]「日本の集中・合併運動の性格」『世界経済評論』国際貿易投資研究所, 第6巻第7号.
- 御園生等[1963]『日本の企業——その実態と動向』<銀行叢書 第118巻>全国地方銀行協会.
- 御園生等[1964]『企業合同』筑摩書房.
- 御園生等[1966]「企業合併について」『公正取引』公正取引協会, 第185号.
- 御園生等・新田俊三[1967]『独占価格』日本評論社.
- 御園生等[1968]「株式所有の形態と企業支配」『唯物史観』十月社, 第6号.
- 御園生等[1977]『独占資本』<現代経済全書>労働大学.
- 溝端佐登史[1998]「ロシアにおける資本市場と金融再編——金融・産業グループと銀行の変容」『ロシア・ユーラシア経済調査資料』ユーラシア研究所, 第793号.

- 見田石介・宇佐美誠次郎・横山正彦監修[1971]『マルクス主義経済学講座』(下), 新日本出版社.
- 見田石介・横山正彦・林直道編著[1971]『マルクス主義経済学の擁護——宇野弘蔵氏の学説の検討』新日本出版社.
- 三谷進[1994]「アメリカの投資信託——両大戦間期の役割と機能」『九州経済学会年報』九州経済学会, 第32号.
- 三谷進[1995]「アメリカ投資信託の生成と発展」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第30号.
- 三谷進[1995]「アメリカ投資信託と擬制資本の展開——両大戦間期におけるレバレッジの構造」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第92号.
- 三谷進[1997]「アメリカ投資信託の展開と信用制度」『金融経済研究』日本金融学会, 第11・12号.
- 三谷進[1997]「アメリカ投資信託におけるピラミッド・システムの形成——両大戦間期を中心に」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第9号.
- 三谷進[1998]「アメリカ投資信託とピラミッド・システムの構造——1920年代から1930年代における金融システムと資本市場の変化」『名城商学』名城大学商学会, 第47巻第4号.
- 三谷進[1998]「アメリカ投資信託の国際的展開——1960年代におけるファンド・オブ・ファンズの形成」『名城商学』名城大学商学会, 第47巻第4号.
- 三谷進[1999]「アメリカ投資信託とピラミッド・システム」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第34号.
- 三谷進[1999]「アメリカ投資信託の制度的基盤の形成——1940年投資会社法の意義と限界」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第22号.
- 三谷進[2001]『アメリカ投資信託の形成と展開——両大戦間期から1960年代を中心に』日本評論社.
- 三谷進[2003]「アメリカ金融市場の発展と投資信託システム——1990年代を中心に」『名城論叢』名城大学経済・経営学会, 第4巻第2号.
- 三谷進[2005]「アメリカ金融市場の発展と投資信託システム——1990年代を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第40号.
- 三谷進[2007]「アメリカ投資信託と擬制資本の展開」『信用理論研究』信用理論研究会, 第25号.
- 三谷進[2013]「アメリカ金融システムの新たな展開」, 渋谷博史・樋口均・埜武郎編『アメリカ経済とグローバル化』<グローバル化を読みとく2>学文社.
- 三谷進[2017]「金融の肥大化」, 谷口明丈・須藤功編

- 『現代アメリカ経済史——「問題大国」の出現』有斐閣。
- 道盛誠一[1980]「協働組合株式会社」, 渡辺佐平編著『マルクス金融論の周辺』法政大学出版局。
- 道盛誠一[1981]「協同組合株式会社をめぐる理念とその実態——前世紀イギリス株式会社の一側面」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第16号。
- 道盛誠一[1981]「K・マルクスにおける2つのアソシエーション——ある19世紀人の概念と軌跡」(上・下), 『三田学会雑誌』慶應義塾経済学会, 第74巻第3号・第4号。
- 三土修平[2007]『為替と株で考える経済学』日本評論社。
- 三戸公[1959]『個別資本論序説——経営学批判』森山書店(増補版, 1968年)。
- 三戸公[1963]「会社支配と株式の分散」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第16巻第3号。
- 三戸公[1963]「「バーナム経営者革命論」批判」(上・下), 『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第17巻第2号・第3号。
- 三戸公[1965]『経営学講義』未来社。
- 三戸公[1966]『アメリカ経営思想批判——現代大企業論研究』未来社。
- 三戸公[1967]「R. J. ラーナー『最大200会社(金融会社を除く)における所有と支配, 1929年と1963年との比較』1966」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第21巻第1号。
- 三戸公[1967]「書評 馬場克三著『株式会社金融論』」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所, 第15巻第1号。
- 三戸公[1968]「中西寅雄——個別資本説の創始と経営技術学」『経済評論』日本評論社, 復刊第17巻第4号。
- 三戸公・正木久司[1969・70]「わが国大企業における所有と支配——実証的研究」(上・下), 『組織科学』組織学会, 第3巻第3号・第4号。
- 三戸公・正木久司・晴山英夫[1973]『大企業における所有と支配』未来社。
- 三戸公[1973]「機能資本家の概念について」, 三戸公・正木久司・晴山英夫『大企業における所有と支配』未来社。
- 三戸公[1973]「産業における官僚制の成立——マルクスの所論を中心として」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第27巻第1号。
- 三戸公[1973]『官僚制——現代における論理と倫理』未来社。
- 三戸公[1978]『経営学』同文館出版(増補版, 1981年)。
- 三戸公[1981]「現代企業支配論序説」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第35巻第2号。
- 三戸公[1981]「機関所有と支配」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第35巻第3号。
- 三戸公[1982]『財産の終焉——組織社会の支配構造』文真堂。
- 三戸公[1983]「個人所有・機関所有パラダイムの意義——奥村宏氏の書評に答える」『経済評論』日本評論社, 復刊第32巻第6号。
- 三戸公[1985]『現代の学としての経営学』<講談社学術文庫>講談社。
- 三戸公[1989]「日本の株式会社論覚書き」『産業経営』早稲田大学産業経営研究所, 第15号。
- 三戸公[1996]「個人所有・機関所有パラダイム 再論」『同志社商学』同志社大学商学会, 第48巻第1号。
- 三戸公[2016]「株式会社と情報革命」, 日本経営学会編『株式会社の本質を問う——21世紀の企業像』<経営学論集 第86集>千倉書房。
- 湊照宏[2011]『近代台湾の電力産業——植民地工業化と資本市場』御茶の水書房。
- 峯村光信[1977]「最適配当政策の諸理論における問題点」『富士大学紀要』富士大学学術研究会, 第10巻第1号。
- 峯村光信[1978]「オプション価値評価とその機能」『富士大学紀要』富士大学学術研究会, 第10巻第2号。
- 峯村光信[1978]「株式配当とその経営財務政策上の問題点」『富士大学紀要』富士大学学術研究会, 第11巻第1号。
- 峯村光信[1979]「株式分割とその財務的効果」『富士大学紀要』富士大学学術研究会, 第11巻第2

- 号.
- 峯村光信[1979]「資本調達手段としての時価発行と資本準備金の資本組入によるプレミアム還元について」『富士大学紀要』富士大学学術研究会, 第12巻第1号.
- 峯村光信[1980]「株式配当の財務的効果と問題点——日米の株式配当の相違を中心に」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第15号.
- 峯村光信[1987]「ワラントの価値評価について」『富士大学紀要』富士大学学術研究会, 第20巻第1号.
- 箕輪徳二[1975]「『株式会社』についての試論——宇野弘蔵教授の所説を中心に」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第23巻第2号.
- 箕輪徳二[1979]「鉄鋼業の財務の分析的考察——いわゆる停帯下の自己金融に関連して」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第26巻第3号.
- 箕輪徳二[1981]「低成長下の株式会社金融——停帯下の合繊工業の自己金融について」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第28巻第4号.
- 箕輪徳二[1982]「収益性分析について——レバレッジ効果分析と利益源泉分析を中心として」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第29巻第4号.
- 箕輪徳二[1983]「低成長下の株式会社財務の論理——とりわけ公募時価発行について」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第31巻第1号.
- 箕輪徳二[1985]「株式会社と自己金融——自己金融の試論」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第20号.
- 箕輪徳二[1992]「日本の株式会社における時価発行の論理——公募時価発行定着の金融経済背景を中心に」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第180号.
- 箕輪徳二[1995]「日本における株式会社の自立化の理論・制度・実態——経営者権限拡大と株主権縮小を中心に」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第85号.
- 箕輪徳二[1995]「株式会社の自立化と株主権——日本の会社制度と財務の実態分析」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第6号.
- 箕輪徳二[1997]『戦後日本の株式会社財務論』泉文堂.
- 箕輪徳二[1998]「日本の巨大株式会社の財務分析——バブル経済期とその崩壊後を比較して」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第33号.
- 箕輪徳二[1998]「日本の巨大株式会社の財務行動——バブル崩壊後の平成2年以降」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第8号.
- 箕輪徳二[1999]「取締役制度改革とコーポレート・ガバナンス」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第9号.
- 箕輪徳二[2000]「経営者権限拡大の制度史的展開——財務に関わる取締役(会)権限拡大と会社自立化を中心に」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第101号.
- 箕輪徳二・三浦后美編著[2002]『新しい商法・会計と会社財務』泉文堂(改訂増補版, 2004年).
- 箕輪徳二[2002]「持合い株式の会計・財務問題——持合い株式の今日的課題とその行方」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第13号.
- 箕輪徳二[2002]「持合い株式と財務政策——都市銀行の持合株式放出と株価・支配問題」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第37号.
- 箕輪徳二[2003]「大手都市銀行の財務体質の改善——不良債権, 株式評価損と法定準備金緩和改正」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第14号.
- 箕輪徳二[2004]「資本制度改革と会社財務」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第15号.
- 箕輪徳二[2008]「新会社法と財務管理——資本金, 準備金, 自己株式制度を中心に」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第19号.
- 箕輪徳二[2010]「株式会社の株主資本政策の容易化」, 建部正義・高橋由明・梅原秀継・田中廣滋編著・石崎忠司監修『失われた10年——バブル崩壊からの脱却と発展』<中央大学学術シンポジウム研究叢書7>中央大学出版部.
- 箕輪徳二[2010]「自己株式制度とその資本政策」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第21号.
- 箕輪徳二・三浦后美編著[2011]『株式会社の財務・会

- 計制度の新動向』泉文堂.
- 箕輪徳二[2012]「信用格付業者規制の導入の背景とその影響」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第23号.
- 箕輪徳二・松井富佐男・増尾賢一編著[2013]『信用格付と会社財務・会計制度の新動向』泉文堂.
- 箕輪徳二[2013]「信用格付業者規制とその導入の影響」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第139号.
- 箕輪徳二[2013]「日本の金融商品会計とコーポレート・ガバナンス開示規制——持合株式の時価会計・保有目的の開示と会社支配機能を中心に」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第139号.
- 箕輪徳二[2014]「日本の金融商品会計の開示規制と持合株への影響に関する考察——リーマン・ショックによる金融商品会計制度への影響を含めて」『年報財務管理研究』日本財務管理学会, 第25号.
- 宮川彰[2001]『『資本論』第2・3巻を読む』(下), 学習の友社.
- 宮川実編[1951]『経済学講座 第6巻——帝国主義の理論』<青木文庫>青木書店.
- 宮川実[1956]『経済学入門 全訂新版』<青木全書>青木書店(新訂増補版, 1963年).
- 宮川実[1959]『現代資本主義』白桃書房.
- 宮川実[1968]『資本論講義IV——第3部 資本主義的生産の総過程』青木書店.
- 三宅裕樹[2014]『地方債市場の国際潮流——欧米日の比較分析から制度インフラの創造へ』<プレミアム・コレクション51>京都大学学術出版会.
- 三宅義夫[1952]「利子生み資本小論」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第6巻第1号.
- 三宅義夫[1953]「利子生み資本小論(承前)」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第6巻第2号.
- 三宅義夫[1953・54]「いわゆる「貨幣の貸付と資本の貸付」の問題について(正・承前)」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第7巻第1号・第2号.
- 三宅義夫[1956]「概説——信用理論の体系」, 信用理論研究会編『講座 信用理論体系 I——第1部 基礎理論篇(上)』日本評論新社.
- 三宅義夫[1956]『貨幣信用論研究——『資本論』研究論攷』未来社.
- 三宅義夫[1966]『金融論』有斐閣(新版, 1981年).
- 三宅義夫[1970]『マルクス信用論体系』日本評論社.
- 宮崎昭[1977]「経営者の性格規定——浅野・有井両氏の所説をめぐって」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第16巻第2号.
- 宮崎昭[1978]「機能資本家の功罪」——『資本論』における資本家無用論を中心に『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第16巻第5・6号.
- 宮崎犀一[1957・58]「近代英国株式会社形成史論(1・2・3・4)」, 『国学院大学政経論叢』国学院大学政経学会, 第5巻第3号・第4号・第6巻第1号・第3号.
- 宮崎犀一[1968]「金融資本概念の現代的意義」『経済評論』日本評論社, 復刊第17巻第7号.
- 宮崎犀一[1970・72]『経済原論の方法』(上・下), 未来社.
- 宮崎犀一[1971]「イギリスの企業集中」, 中央大学経済研究所編『企業集中と産業再編成』東洋経済新報社.
- 宮崎義一[1972]『寡占——現代の経済機構』<岩波新書>岩波書店.
- 宮崎義一[1974]「現代株式会社の資金構造」, 篠原三代平・馬場正雄編『現代産業論2——産業組織』日本経済新聞社.
- 宮崎義一[1974]『現代の日本企業を考える』<岩波新書>岩波書店.
- 宮崎義一[1974]「“経営者支配”の理念と現実」, 扇谷正造編著『日本資本主義の反省』産業能率短期大学出版社.
- 宮崎義一[1976]『戦後日本の企業集団——企業集団表による分析 1960-70年』日本経済新聞社.
- 宮崎義一[1978]「現代資本主義と多国籍企業問題」『平和研究』日本平和学会, 第3号.
- 宮崎義一[1979]「“経営者支配”再考」『経済研究』一橋大学経済研究所, 第30巻第3号.
- 宮崎義一[1980]「企業集団表分析について」, 伊東光

- 晴・森恒夫編『現代資本主義——その理論と現状』日本評論社.
- 宮崎義一[1981]「内部資金比率の上昇傾向について——二木教授の疑問に答える」『経済研究』一橋大学経済研究所, 第32巻第2号.
- 宮崎義一[1982]「ケインズの経済像」, 真実一男・尾上久雄・柴山幸治編著『国家と市場機構』ミネルヴァ書房.
- 宮崎義一編[1982]『多国籍企業の研究』筑摩書房.
- 宮崎義一[1982]『現代資本主義と多国籍企業』<現代資本主義分析10>岩波書店.
- 宮崎義一[1985]『現代企業論入門——コーポレート・キャピタリズムを考える』有斐閣.
- 宮崎義一[1986]『世界経済をどう見るか』<岩波新書>岩波書店.
- 宮崎義一[1990]「企業集団へのアプローチ」『経済評論』日本評論社, 復刊第39巻第6号.
- 宮崎義一[1992]『複合不況——ポスト・バブルの処方箋を求めて』<中公新書>中央公論社.
- 宮崎晃臣[2010]「米主導のグローバル資本主義の終焉と日本経済」『専修大学社会科学研究所年報』専修大学社会科学研究所, 第562-564号.
- 宮澤和敏[2007]「信用創造と株式市場の膨張」, 小幡道昭・青才高志・清水敦編『マルクス理論研究』御茶の水書房.
- 宮下郁男[1994]「合衆国鉄道証券の発行とロンドン資本市場の再編成——「19世紀末大不況」期に焦点をあてて」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第44巻第1号.
- 宮下郁男[2003]「株式会社の内的規定としての独占」『旭川大学紀要』旭川大学, 第56号.
- 宮島英昭[2004]『産業政策と企業統治の経済史——日本経済発展のミクロ分析』有斐閣.
- 宮島英昭編著[2007]『日本のM&A——企業統治・組織効率・企業価値へのインパクト』東洋経済新報社.
- 宮島英昭編著[2008]『企業統治分析のフロンティア』<早稲田大学21世紀COE叢書>日本評論社.
- 宮島英昭編著[2011]『日本の企業統治——その再設計と競争力の回復に向けて』東洋経済新報社.
- 宮島英昭編著[2017]『企業統治と成長戦略』東洋経済新報社.
- 宮島英昭[2021]「株式相互持ち合いの形成と解体」, 武田晴人編『高成長期日本の産業発展』東京大学出版会.
- 宮田和保[2000]『資本の時代と社会経済学——資本の生産力と資本主義的所有』大月書店.
- 宮田惟史[2015]「マルクス信用論の課題と展開——『資本論』第3部第5篇草稿に拠って」『季刊経済理論』経済理論学会, 第52巻第3号.
- 宮田惟史[2018]「マルクス信用論と金融化」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第71巻第3号.
- 宮田惟史[2021]「利子・信用」, 基礎経済科学研究所編『時代はさらに資本論——資本主義の終わりはじまり』昭和堂.
- 宮田美智也[1969]「創業者利得と擬制資本の論理」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第101-103号.
- 宮田美智也[1970]「イギリス産業革命期の信用体系」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第108号.
- 宮田美智也[1973]「株主の有限責任制と擬制資本の論理」『金沢大学法文学部論集 経済学編』金沢大学法文学部, 第19号.
- 宮田美智也[1983]『近代的信用制度の成立——イギリスに関する研究』有斐閣.
- 宮田美智也[1984]「信用制度と国際金融市場の成立」『信用理論研究』信用理論研究会, 第1号.
- 宮田美智也[1985]「国際金融論の理論体系序説(完)——国際金融市場と国際通貨」『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 第5巻第2号.
- 宮田美智也[1987]「17・18世紀アムステルダム金融市場の構造」『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 第7巻第2号.
- 宮田美智也[1992]「1830年代ロンドン金融市場とその「世界金融市場」規定について——入江節次郎『世界金融史研究』(藤原書店, 1991年)に寄せて」『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 第13巻第1号.
- 宮田美智也[1995]『ロンドン手形市場の国際金融構造

- アメリカとの関連における研究』文真堂。
- 宮田美智也[1999]「資本信用と現金的信用創造——信用創造論の体系(2)」『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 第19巻第2号。
- 宮田美智也[2001]「資本と金融——金融経済論とは何か」『金沢大学経済学部論集』金沢大学経済学部, 第22巻第1号。
- 宮田美智也[2002]『資本と金融』晃洋書房。
- 宮田美智也[2005]『管理通貨制度と資本蓄積』晃洋書房。
- 宮本憲一[1967]『社会資本論』有斐閣(改訂版, 1976年)。
- 宮本義男[1962]『金融資本への道——金融資本成立論』<社会科学選書>ミネルヴァ書房。
- 宮本義男[1967]『資本論入門』(下), <紀伊国屋新書>紀伊国屋書店。
- 宮本義男編[1969]『経済原論』有斐閣。
- 宮本義男[1992]「擬制資本論試論」『岐阜経済大学論集』岐阜経済大学学会, 第26巻第3号。
- 三好愛子[1986]「『金融資本論』と「経済学批判体系プラン」」『四国女子大学紀要』四国女子大学, 第6巻第1号。
- 三好正巳[1964]「ヒルファディング“株式会社論”に関する覚え書」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第14号。
- 三輪悌三[1954]「諸国の株式発行市場の動向」『金融界』金融界社, 第6巻第5号。
- 三輪悌三[1960]「イギリス株式銀行論——イギリスの貨幣・信用制度の研究」『金融経済』金融経済研究所, 第64号。
- 三輪悌三[1962]『貨幣金融論』東洋経済新報社。
- 三輪悌三[1962]「イギリス株式会社の発展についての覚え書(1)」『社会科学論集』埼玉大学経済学会, 第9号。
- 三輪悌三[1963]「金融資本論」, 井汲卓一・今井則義・宇高基輔・江口朴郎・吉村正晴編『現代帝国主義講座 第V巻——現代帝国主義の経済法則』日本評論新社。
- 三和裕美子[1993]「株式会社における株主と経営者の関係についての一考察——米国機関投資家の株主権行使に関連して」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第44巻第3号。
- 三和裕美子[1995]「米国機関投資家とコーポレート・ガバナンス」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第30号。
- 三和裕美子[1995]「機関投資家の株式所有と流動性——米国におけるコーポレート・ガバナンス論の再考」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第192号。
- 三和裕美子[1997]「アメリカの年金基金と証券市場——コーポレート・ガバナンスに関連して」『明大商学論叢』明治大学商学研究所, 第79巻第1・2号。
- 三和裕美子[1998]「機関投資家の形成と発展——マサチューセッツ病院生命保険会社の事例」『明大商学論叢』明治大学商学研究所, 第80巻第3・4号。
- 三和裕美子[1999]「機関投資家としての投資会社の発展」『明大商学論叢』明治大学商学研究所, 第81巻第3・4号。
- 三和裕美子[1999]『機関投資家の発展とコーポレート・ガバナンス——アメリカにおける史的展開』日本評論社。
- 三和裕美子[1999]「機関投資家のコーポレート・ガバナンスにおける意識と役割——イギリスにおける株主議決権行使の現状」『紀要』日本大学経済学部経済科学研究所, 第28号。
- 三和裕美子[2000]「企業のInvestor Relations活動の目的——GE社における導入の背景」『明大商学論叢』明治大学商学研究所, 第82巻第1号。
- 三和裕美子[2001]「金融制度改革と年金基金の資産運用」, 高木仁・黒田晃生・渡辺良夫編著『金融市場の構造変化と金融機関行動』<明治大学社会科学研究所叢書>東洋経済新報社。
- 三和裕美子[2001]「アメリカ機関投資家の資産運用とコーポレート・ガバナンス」, 日本経営学会編『経営学の新世紀——経営学100年の回顧と展望』<経営学論集 第71集>千倉書房。
- 三和裕美子[2001]「アメリカ型企業ガバナンスの国際化」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第34

- 号.
- 三和裕美子[2002]「アメリカにおける機関投資家の議決権行使」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会, 第40巻第5号.
- 三和裕美子[2003]「わが国機関投資家の株主議決権行使——現代株式会社制度における意義」『経営研究』大阪市立大学経営学会, 第53巻第4号.
- 三和裕美子[2004]「アメリカ巨大年金基金と投機的資本市場——コーポレート・ガバナンスにおける機関投資家の役割」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第39号.
- 三和裕美子[2005]「機関投資家による社会的責任投資(SRI)と企業の社会的責任(CSR)」『明大商学論叢』明治大学商学研究所, 第87巻第1-4号.
- 三和裕美子[2009]「米国における機関投資家の株主アクティビズムの現状——ヘッジファンドによる株主アクティビズムを中心に」『証券アナリストジャーナル』日本証券アナリスト協会, 第47巻第1号.
- 三和裕美子[2011]「機関投資家のCSRに対する意識と行動——日米英の比較検討」『明治大学社会科学研究所紀要』明治大学社会科学研究所, 第49巻第2号.
- 三和裕美子[2014]「日仏両国のコーポレート・ガバナンス改革における機関投資家の役割」『明大商学論叢』明治大学商学研究所, 第96巻第4号.
- 三和裕美子[2014]「わが国機関投資家のコーポレート・ガバナンスに関するアンケート調査(2012年)」『明大商学論叢』明治大学商学研究所, 第96巻第4号.
- 三和裕美子[2014]「日仏両国のコーポレート・ガバナンス比較考察——機関投資家の役割と企業価値」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第49号.
- 三和裕美子[2015]「経済の金融化における証券取引所の変質」, 福田邦夫編著『21世紀の経済と社会』<明治大学社会科学研究所叢書>西田書店.
- 三和裕美子編著[2016]『東アジアとアセアン諸国のコーポレート・ガバナンス』税務経理協会.
- 三和裕美子[2016]「国内外の機関投資家のエンゲージメント活動に関する考察——機関投資家へのヒアリング調査をもとに」『明大商学論叢』明治大学商学研究所, 第98巻第3・4号.
- 三和裕美子[2019]「機関投資家のエンゲージメントとその評価——日英の比較から」『同志社法学』同志社法学会, 第71巻第1号.
- 三和裕美子[2022]「資本市場とダイバーシティ&インクルージョン」, 姜理恵・三和裕美子・岩田宜子編著『激動の資本市場を駆け抜けた女たち——ダイバーシティ&インクルージョンと価値創造』白桃書房.
- 三和裕美子[2022]「Board 3.0は日本で機能するのか——株主アクティビストと企業の攻防」『明大商学論叢』明治大学商学研究所, 第104巻第4号.
- 三和良一[1966]「書評 柴垣和夫著『日本金融資本分析』」『社会経済史学』社会経済史学会, 第31巻第6号.
- 民主主義科学者協会・全日本学生社研連合編[1952]『講座 資本論の解明』第4・5分冊, 理論社.
- 向井鹿松[1924]『海外有価証券市場論』清水書店.
- 向井鹿松[1926]『取引所の理論的研究』丸善.
- 向井鹿松[1927]『証券市場組織 各論』丸善.
- 向井鹿松[1927]『証券市場組織 総論』丸善.
- 向井鹿松[1928]『経営経済』丸善.
- 向井鹿松[1929]『経営経済学総論』<商学全集 第2巻>千倉書房.
- 向井鹿松[1929]『新経営者学——新時代の事業とその経営者』日本評論社.
- 向井鹿松[1934]『取引所投機と株式金融』森山書店.
- 向井鹿松・鈴木保良[1934]『商工経営要論』同文館.
- 向井鹿松[1967]『証券市場構造変化論』<証券理論講座1>ダイヤモンド社.
- 向壽一[1997]『金融ビッグバン』<講談社現代新書>講談社.
- 向壽一[2003]「総合商社の金融機能——商業信用から持ち株会社化へ」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第42巻第3号.
- 向壽一[2005]「国際金融からみた証券論の基礎」『立命館経営学』立命館大学経営学会, 第43巻第5号.

- 向壽一[2006]『マネタリー・エコノミクス——国際経済の金融理論』岩波書店.
- 武藤守一[1968]『新しい政治経済学』大月書店.
- 村岡俊三[1980]「信用制度と利子生み証券・擬制資本——資本輸出論研究(1)」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第41巻第4号.
- 村岡俊三[1988]『世界経済論』<有斐閣経済学叢書13>有斐閣.
- 村岡俊三・佐々木隆生編[1993]『構造変化と世界経済』藤原書店.
- 村岡俊三[1998]『資本輸出入と国際金融』白桃書房.
- 村岡俊三[2010]『グローバリゼーションをマルクスの目で読み解く』新日本出版社.
- 村上和光[1981]「金融資本概念の再検討」『金沢大学教育学部紀要 人文科学・社会科学編』金沢大学教育学部, 第30号.
- 村上和光[1997]『信用創造の理論』<金沢大学経済学部研究叢書9>金沢大学経済学部.
- 村上和光[1999]『日本における現代資本主義の成立——戦間期日本資本主義の構造』世界書院.
- 村上和光[2002]「アメリカ株式ブームの形成と崩壊——現代資本主義論の体系化(5)」『金沢大学経済論集』金沢大学経済学会, 第39号.
- 村上和光[2008]『現代資本主義の史的構造』御茶の水書房.
- 村上和光[2010]『現代日本経済の景気変動』御茶の水書房.
- 村上和光[2012]『日本型現代資本主義の史的構造』御茶の水書房.
- 村上和光[2013]「「それ自身に利子を生むものとしての資本」論の問題点——宇野原理論体系の問題点(10)」『金沢大学経済論集』金沢大学経済学経営学系, 第33巻第2号.
- 村上和光[2013]『経済学原理論を読む——宇野原理論体系の構造と問題点』御茶の水書房.
- 村瀬哲司[2000]『アジア安定通貨圏——ユーロに学ぶ円の役割』勁草書房.
- 村瀬哲司[2007]『東アジアの通貨・金融協力——欧州の経験を未来に活かす』勁草書房.
- 村田和彦[2001]「株主支配と「会社それ自体」支配——北原勇の所論の検討」『商学研究』一橋大学, 第42号.
- 村田稔[1961]「経営者支配論覚書」『フェビアン研究』日本フェビアン研究所, 第12巻第6号.
- 村田稔[1961]「経営者支配と企業の目的」『フェビアン研究』日本フェビアン研究所, 第12巻第11号.
- 村田稔[1962]「「資本と経営の分離」の概念」『フェビアン研究』日本フェビアン研究所, 第13巻第9号.
- 村田稔[1963]「企業集団と事業部制」『フェビアン研究』日本フェビアン研究所, 第14巻第1・2号.
- 村田稔[1965]「マリスの経営者資本主義論」『フェビアン研究』日本フェビアン研究所, 第16巻第8号.
- 村田稔[1965]「経営者支配と企業行動」『中央大学80周年記念論文集 商学部』中央大学.
- 村田稔[1966]「労働党の国有化政策の後退と経営者資本主義論」『フェビアン研究』日本フェビアン研究所, 第17巻第2・3号.
- 村田稔[1972]『経営者支配論』東洋経済新報社.
- 村田稔[1974]「経営者支配の基礎概念」, 高宮晋・岩尾裕純・諸井勝之助編『現代経営学の課題』<中村常次郎先生還暦記念論文集>有斐閣.
- 村田稔[1979]「書評 富森虔児著『金融資本の変質と「経営者支配」』」『経済研究』一橋大学経済研究所, 第30巻第3号.
- 村田稔[1995]「株主の力の増大と企業組織の再編成——ユシームの理論の検討」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第36巻第3・4号.
- 村田稔[2000]「株式会社における所有と支配」『商学論纂』中央大学商学研究会, 第41巻第4号.
- 室井義雄[1992]『連合アフリカ会社の歴史——1879-1979年 ナイジェリア社会経済史序説』同文館出版.
- 毛利明子[1988]「「信用論」と「原論体系」(1)——川合一郎「貨幣・信用論」の検討をとおして」『桜美林エコノミックス』桜美林大学経済学部, 第21号.
- 毛利明子[1989]「信用論と原論体系(2)——楊枝嗣

- 朗『貨幣・信用・中央銀行』の検討をとおして」『桜美林エコノミクス』桜美林大学経済学部，第22号。
- 毛利明子[1990]『金・貨幣・資本主義——『資本論』体系における貨幣の理論』新読書社。
- 毛利明子[1997]『生活者の経済原論』御茶の水書房。
- 毛利健三[1978]『自由貿易帝国主義——イギリス産業資本の世界展開』＜東京大学社会科学研究所研究叢書 第47冊＞東京大学出版会。
- 毛利良一[1988]『国際債務危機の経済学』東洋経済新報社。
- 毛利良一[2001]『グローバリゼーションとIMF・世界銀行』大月書店。
- 毛利良一[2008]「米国サブプライム住宅ローン危機と国際金融不安」『日本福祉大学経済論集』日本福祉大学経済学会，第37号。
- 毛利良一[2010]『アメリカ金融覇権終りの始まり——グローバル経済危機の検証』新日本出版社。
- 持田信樹・林正義編[2018]『地方債の経済分析』有斐閣。
- 元田厚生[1971]「ヒルファディングにおける「金融資本」の理論構成について」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科，第33巻第2号。
- 本山美彦[1987]『国際金融と第三世界』三嶺書房。
- 本山美彦[1989]『国際通貨体制と構造的権力——スーザン・ストレンジに学ぶ非決定の力学』三嶺書房。
- 本山美彦編著[2006]『世界経済論——グローバル化を超えて』ミネルヴァ書房。
- 本山美彦[2007]「株価資本主義の克服」『地域公共政策研究』地域公共政策学会，第13号。
- 本山美彦・萱野稔人[2008]『金融危機の資本論——グローバル化以降，世界はどうなるのか』青土社。
- 本山美彦[2008]『金融権力——グローバル経済とリスク・ビジネス』＜岩波新書＞岩波書店。
- 本山美彦[2009]「金融機関救済資金が生むハイパーインフレーション」、『生活経済政策』編集委員会編『世界金融恐慌と現代資本主義』＜生活研ブックス27＞生活経済政策研究所。
- 本山美彦[2018]『人工知能と株価資本主義——AI投機は何をもたらすのか』明石書店。
- 森昭夫[1954]「「経営者支配」に関する一考察」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第89巻第2号。
- 森昭夫[1956]「「企業支配」の概念について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第94巻第5号。
- 森昭夫[1960]「ストックディビデンドに関する一考察」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第101巻第5号。
- 森昭夫[1963]『企業自己金融論』千倉書房。
- 森昭夫[1967]「企業の資本調達における構成変化について——内部金融，外部金融，なかんずく証券金融の相対的重要性」，神戸大学経営学部有価証券研究センター編『有価証券論集 第2巻』千倉書房。
- 森昭夫[1967]「企業成長と配当政策——最適配当政策について」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第116巻第1号。
- 森昭夫[1968]「自己金融と配当政策」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第117巻第6号。
- 森昭夫[1973]「配当政策と株価形成——理論的考察における問題点の整理」『インベストメント』大阪証券取引所，第26巻第4号。
- 森昭夫[1976]「配当性向と株価形成」『国民経済雑誌』神戸大学経済経営学会，第134巻第3号。
- 森恭輔[1969]「株式の信用取引における日歩の性格」『証券経済学会年報』証券経済学会，第4号。
- 森恭輔[1973]「信用取引制度の新しい問題点」『証券経済学会年報』証券経済学会，第8号。
- 守健二編著[2014]『恐慌論の論点と分析』創風社。
- 藻利重隆[1948]『株式会社と経営者——「経営者支配」の経営学的意義』＜経営学研究選書2＞同文館。
- 藻利重隆[1968]「企業の経営者支配と資本主義体制——プロスの所論を中心として」『一橋論叢』日本評論社，第59巻第6号。
- 藻利重隆[1984]『現代株式会社と経営者』千倉書房。
- 森恒夫[1963]「イギリス産業における株式会社の展開

- 19世紀中葉～20世紀初頭』『経営論集』明治大学経営学研究所，第10巻第3号。
- 森恒夫[1963]「イギリス鉄鋼業における株式会社の形成過程——1860～1870年代前半』『経営論集』明治大学経営学研究所，第11巻第2号。
- 森恒夫[1964]「フランスの証券税制』『証券研究』日本証券経済研究所，第10号。
- 森恒夫[1976]「イギリスの証券税制——1965年および1973年の改革を中心にして』『証券研究』日本証券経済研究所，第49号。
- 森恒夫[1988]「現代資本主義と「経営者支配」——現代株式会社の所有・支配に関する諸説の検討』『経営論集』明治大学経営学研究所，第35巻第4号。
- 森恒夫[1991]「宇野「金融資本論」(『経済政策論』改訂版(弘文堂，1971年)第3編第1章)の再吟味』『経営論集』明治大学経営学研究所，第38巻第1号。
- 森恒夫[1994]「サッチャー政権末期からメジャー政権下のイギリス財政と景気動向』『証券研究』日本証券経済研究所，第109号。
- 森杲[1961]「ニュー・ディール期における資金集中とその運用形態』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第20号。
- 森杲[1963]「大戦間におけるアメリカの資本市場と投資銀行』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第13巻第1号。
- 森杲[1967]「アメリカ金融資本成立期における石油産業の位置について』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第17巻第2号。
- 森杲[1967]「トラスト形成後のU.S.スチール会社の資本蓄積』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第17巻第3号。
- 森杲[1967]「ペンシルヴェニア鉄道会社における資本蓄積の展開』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第17巻第4号。
- 森杲[1976]『アメリカ資本主義史論』ミネルヴァ書房。
- 森杲[1976]「企業形態としての株式会社』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第26巻第4号。
- 森杲[1977]「合名—合資—株式会社の論理——大塚久雄『株式会社発生史論』の場合』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第27巻第1号。
- 森杲[1977]「アメリカ金融資本の類型把握の妥当性(井上巽氏の所論によせて)」『社会科学の方法』御茶の水書房，第10巻第6号。
- 森杲[1978]「世界経済論と宇野理論』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第28巻第1号。
- 森杲[1978]「株式会社における所有——「所有と経営の分離」論ノート』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第28巻第4号。
- 森杲[1979]「ニューヨーク・セントラル鉄道会社の成立』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第29巻第3号。
- 森杲[1979]「大量生産制の歴史的な性格——塩見治人『現代大量生産体制論』によせて』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第29巻第4号。
- 森杲[1981]「鈴木圭介編『アメリカ独占資本主義』について』『経済研究』一橋大学経済研究所，第32巻第3号。
- 森杲[1984]「株式会社の内部組織・企業形態および独占形態の相互関連について』『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院，第34巻第1号。
- 森杲[1986]『株式会社制度』北海道大学図書刊行会。
- 森杲[1988]「株式会社と協同組合』『生活協同組合研究』生協総合研究所，第149号。
- 森杲[1989]「ウォール街 初期の証券』『経済と経営』札幌大学経済・経営学会，第20巻第2号。
- 森杲[2003]「19-20世紀転換期の企業合同にかんする研究方法と実証——谷口明丈『巨大企業の世紀』に寄せて』『アメリカ経済史研究』アメリカ経済史研究会，第2号。
- 森杲[2007]「ニューディール以前の株式会社法制の経済的性格——バーリ=ミーンズを手がかりに』『アメリカ経済史研究』アメリカ経済史研究会，第6号。

- 森岡孝二[1975]「独占・金融資本・独占価格」『関西大学経済論集』関西大学経済学会，第25巻第1号。
- 森岡孝二[1979]「金融資本と独占利潤法則——ヒルファディング創業利得論の検討を中心に」『経済科学通信』基礎経済科学研究所，第24号。
- 森岡孝二[1986]「金融資本は独自の資本範疇か——本間要一郎氏の所説をめぐって」『関西大学経済論集』関西大学経済学会，第36巻第2-4号。
- 森垣淑[1953]「従属下における資本集中の系譜」『金融経済』金融経済研究所，第22号。
- 森垣淑[1955・56]「戦中戦後の金融体制の変遷について」(1・2・3・4・5)，『金融経済』金融経済研究所，第32号・第33号・第34号・第36号・第37号。
- 森垣淑[1963]「独占と発展——方法試論」『拓殖大学論集』拓殖大学研究所，第32・33号。
- 森垣淑[1964]「公債発行をめぐる若干の問題」『金融経済』金融経済研究所，第85号。
- 森垣淑[1966]「当面の公債発行の問題点」『金融経済』金融経済研究所，第96号。
- 森垣淑[1970]「わが国における独占形成と金融機構」(1・2・3)，『金融経済』金融経済研究所，第122号・第123号・第124号。
- 森垣淑[1978]「戦後日本の企業集団」『海外事情』拓殖大学海外事情研究所，第26巻第10号。
- 森川英正編[1963]『日本の大会社』三一書房。
- 森川英正[1978]『日本財閥史』教育社。
- 森川英正編[1991]『経営者企業の時代』有斐閣。
- 森川英正[1995]「株式所有の分散と経営者企業——安部悦生氏の批判にこたえて」『慶應経営論集』慶應義塾経営管理学会，第12巻第3号。
- 森下二次也[1950]『商業経済論』<経済学全書17>三笠書房。
- 森下二次也[1954]「商社合同の意味するもの」『公正取引』公正取引協会，第8号。
- 森下二次也編[1959]『商業経済論体系』文人書房。
- 森下二次也[1960]『現代商業経済論——序説＝商業資本の基礎理論』有斐閣(改訂版，1977年)。
- 森下二次也編[1967]『商業概論』有斐閣。
- 森下二次也[1974]『現代の流通機構』<Seikaishiso seminar>世界思想社。
- 森下二次也[1993]『マーケティング論の体系と方法』千倉書房。
- 森下二次也[1993]『商業経済論の体系と展開』千倉書房。
- 森下二次也[1995]『流通組織の動態』千倉書房。
- 森田桐郎[1965]『国際経済入門』<三一新書>三一書房。
- 森田桐郎[1967]『現代経済の見方考え方』<三一新書>三一書房。
- 森田成也[2019]『新編マルクス経済学再入門』(下)，社会評論社。
- 森本高央[2012]「証券化資本主義の破綻が招くドル基軸通貨体制の終焉」，社会主義理論学会編『資本主義の限界と社会主義』時潮社。
- 守山昭男[1975]「金融資産の累積と信用創造論——銀行論から証券市場論へ」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第26巻第1号。
- 守山昭男[1979]「資本蓄積と公債負担論」『修道商学』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第19巻第2号。
- 守山昭男[1980]「復興インフレと「金詰り」」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第132号。
- 守山昭男[1981]「貨幣資本と現実資本」『証券経済学会年報』証券経済学会，第16号。
- 守山昭男[1983]「商業資本と銀行資本」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第145号。
- 守山昭男[1985]「資金の循環と資金偏在——金融制度におけるインターバンク市場」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第154号。
- 守山昭男[1992]「金融の技術革新と銀行業」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第182号。
- 守山昭男[1994]『銀行組織の理論』同文館出版。
- 守山昭男[1998]「書評 竹内晴夫著『信用と貨幣』」『金融経済研究』日本金融学会，第15号。
- 守山昭男[2002]「書評 川合研著『アメリカ決済システムの展開』」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第39号。
- 守山昭男[2008]「金融制度の発展と貨幣の受領性」

- 『経済科学研究』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第12巻第1号。
- 守山昭男[2019]「日本銀行と株式の買入れ」『経済科学研究』広島修道大学ひろしま未来協創センター，第22巻第2号。
- 森山誠一[1977]「マルクスの「協同組合工場」について」『金沢経済大学論集』金沢経済大学経済学会，第11巻第2号。
- 諸田實[1965]「同時代の論調からみた1825～26年ドイツの取引所恐慌——原始蓄積過程における擬制資本の過剰投機」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第1巻第1号。
- 諸田實[1974]『ドイツ関税同盟の成立』有斐閣。
- 諸富徹[2002]「金融のグローバル化とトービン税」『現代思想』青土社，第30巻第15号。
- 諸富徹・門野圭司[2007]『地方財政システム論』＜有斐閣ブックス＞有斐閣。
- 屋嘉宗彦[1990]『現代資本主義の経済理論』青木書店。
- 八木紀一郎・宇仁宏幸[2003]『図解雑学 資本主義のしくみ』ナツメ社。
- 八木紀一郎[2006]『社会経済学——資本主義を知る』名古屋大学出版会。
- 矢後和彦[2010]『国際決済銀行の20世紀』蒼天社出版。
- 矢後和彦編[2013]『システム危機の歴史的位相——ユーロとドルの危機が問いかけるもの』蒼天社出版。
- 矢島保男[1966]『銀行論』前野書店。
- 矢島保男[1977]『金融経済論入門』成文堂。
- 矢島保男[1979]『貨幣経済と金融市場』世界書院（新版，1984年）。
- 矢島保男・市川千秋・本荘康生[1990]『金融と経済』成文堂。
- 安井修二[1981]「戦後アメリカの企業金融と金融資本」『香川大学経済論叢』香川大学経済学会，第54巻第1号。
- 安井修二[1998]「マルクスの株式会社論と社会主義」『香川大学経済論叢』香川大学経済学会，第71巻第2号。
- 安岡重明[1970]『財閥形成史の研究』ミネルヴァ書房。
- 安岡重明[1978]『財閥の経営史——人物像と戦略』日本経済新聞社（現代教養文庫，社会思想社，1990年）。
- 安岡重明編[1979]『財閥史研究』日本経済新聞社。
- 安岡重明[1979]『三井財閥史 近世・明治編』＜教育社歴史新書＞教育社。
- 安岡重明[1982]『三井財閥』＜日本財閥経営史＞日本経済新聞社。
- 安岡重明[1998]『財閥経営の歴史的研究——所有と経営の国際比較』岩波書店。
- 安岡重明[1998]『財閥形成史の研究 増補版』＜Minerva 日本史ライブラリー7＞ミネルヴァ書房。
- 安岡重明編著[2005]『近代日本の企業者と経営組織』同文館出版。
- 安川七郎[1969]「今後の証券政策」『証券経済学会年報』証券経済学会，第4号。
- 安田均[1988]「資本の所有と機能」『経済学研究』九州大学経済学会，第54巻第3号。
- 安田均[1989]「「所有と経営の分離」の現代性」『経済学研究』九州大学経済学会，第55巻第3号。
- 安田均[1992]「法人資本主義と「資本の物化」」『山形大学紀要 社会科学』山形大学，第23巻第1号。
- 安田均[1993]「法人資本主義と「資本物化」の現実化」『山形大学紀要 社会科学』山形大学，第24巻第1号。
- 安田均[1994]「法人資本主義における形態と実態」『経済学研究』九州大学経済学会，第59巻第5・6号。
- 安田嘉明[1994]『金融リスクと金融機関経営』税務経理協会。
- 安田嘉明・貞松茂・林裕[2006]『金融入門——銀行・証券・保険の基礎知識』税務経理協会（改訂版，2014年）。
- 安田嘉明・北島孝博・林裕[2020]『銀行・証券・保険の基礎知識』税務経理協会。
- 楊井克己[1951]『国際経済概論』東京大学出版部。

- 楊井克己[1959]『アメリカ帝国主義史論』東京大学出版会.
- 楊井克己・大河内一男・大塚久雄編[1959]『帝国主義研究』岩波書店.
- 楊井克己編[1961]『国際経済論』高文社.
- 楊井克己[1962]「帝国主義の成立」, 赤松要・堀江薫雄・名和統一・大来佐武郎監修『講座 国際経済 第5巻——帝国主義と後進国開発』有斐閣.
- 楊井克己・石崎昭彦編[1973]『現代世界経済論』東京大学出版会.
- 楊井克己・石崎昭彦編[1984]『現代国際経済』東京大学出版会.
- 矢内原忠雄・楊井克己[1955]『国際経済論』<経済学全集8>弘文堂.
- 築田優[2008]「イギリスにおける住宅ローン担保証券(MBS)市場の展開」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第64号.
- 築田優[2010]「イギリスにおけるカバードボンド市場の新展開」『証券経済研究』日本証券経済研究所, 第70号.
- 築田優[2010]「世界金融危機下のイギリスMBS市場」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第45号.
- 築田優[2011]『証券化と住宅金融——イギリスの経験』時潮社.
- 築田優[2011]「リーマン・ショック後のイギリス住宅金融市場」『季報住宅金融』住宅金融支援機構, 第19号.
- 築田優[2012]「新たな注目を集めるカバード・ボンドの特徴と市場急拡大の背景」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第1672号.
- 築田優[2012]「イギリス金融規制改革のゆくえ」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第1675号.
- 築田優[2013]「韓国のカバードボンド法制案と住宅金融市場」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第1677号.
- 築田優[2013]「リテール・バンキングの変容と金融機関行動の研究——日英米の住宅金融を中心に」『ゆうちょ資産研究』ゆうちょ財団ゆうちょ資産研究センター, 第20号.
- 築田優[2014]「イギリス住宅金融市場の動向とRMBS・カバードボンド市場」『個人金融』ゆうちょ財団, 第8巻第4号.
- 築田優[2014]「韓国住宅金融市場の近年の動向」『個人金融』ゆうちょ財団, 第9巻第2号.
- 築田優[2015]「Help to Buy——ISAとイギリス住宅金融市場」『個人金融』ゆうちょ財団, 第10巻第2号.
- 築田優[2016]「リバース・モーゲージ・ローン市場の拡大要因と課題の研究——イギリス・アメリカにおける展開を分析する」『経済理論』和歌山大学経済学会, 第384号.
- 築田優[2016]「国債市場特別参加者制度と最近の国債市場——三菱東京UFJ銀行の特別資格返上に関連して」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第1697号.
- 築田優[2018]「中国資産証券化市場の新展開」『経済理論』和歌山大学経済学会, 第392号.
- 築田優[2020]「バルト三国のベンチャー・キャピタルと新興株式市場の現状と課題」『証研レポート』日本証券経済研究所大阪研究所, 第1722号.
- 築田優・田路則子[2021]「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向け株式市場の役割——東欧バルト三国のケース・スタディーから」『ベンチャーレビュー』日本ベンチャー学会, 第37号.
- 築田優[2022]「中国資産証券化市場の新展開」, SGCIME編『アジア経済の現状とグローバル資本主義』御茶の水書房.
- 矢野修一[1994]「貨幣における中心と周辺の交錯——ポンド没落過程への視座」, 本山美彦編著『貨幣論の再発見』三嶺書房.
- 矢野修一[2012]「国際政治経済学からみた金融グローバル化——E.ヘライナーによる分析を中心に」『高崎経済大学論集』高崎経済大学経済学会, 第54巻第4号.
- 矢吹満男[2015・2017]「スタグフレーションからサブプライム・世界経済危機へ」(上・中・下), 『専修経済学論集』専修大学経済学会, 第49巻第3号・第50巻第2号・第51巻第3号.
- 山城章[1947]『資本と経営の分離——その経営学的研

究』＜産業経理叢書2＞産業経理協会。  
山城章[1947]『企業体制の発展理論——生産管理の企業論的考察』＜現代経済学叢書2＞東洋経済新報社。  
山城章[1950]『企業体制』新紀元社。  
山城章[1961]『現代の企業』森山書店。  
山口重克[1970]「それ自身に利子を生むものとしての資本」の問題点, 武田隆夫・遠藤湘吉・大内力編『資本論と帝国主義論』(上), <鈴木鴻一郎教授還暦記念>東京大学出版会。  
山口重克[1971]「金融の原理的機構」, 小野英祐・春田素夫・志村嘉一・山口重克・玉野井昌夫『現代金融の理論』時潮社。  
山口重克[1971]「書評 後藤泰二著『株式会社の経済理論』」『日本読書新聞』日本出版協会, 第1583号, 1971年2月15日。  
山口重克[1973]「総過程論」『NHK 大学講座 経済学2 資本論と現代』日本放送協会。  
山口重克[1976]「信用と恐慌——資本蓄積の現実的機構」, 大内秀明・鎌倉孝夫編『経済原論』有斐閣。  
山口重克[1979]「擬制資本」, 小泉明・川口弘・伊達邦春・加藤寛編『現代経済学辞典』青林書院新社。  
山口重克・佐美美彦・伊藤誠編[1979]『競争と信用』有斐閣。  
山口重克[1980]「株式会社」, 岡崎次郎編集代表『現代マルクス=レーニン主義事典』(上), 社会思想社。  
山口重克[1983]「金融機構の原理」, 志村嘉一・山口重克・小野英祐・佐々木隆雄・春田素夫『現代金融の理論と構造』東洋経済新報社。  
山口重克[1983]『資本論の読み方——宇野弘蔵に学ぶ』有斐閣。  
山口重克[1984]『金融機構の理論』東京大学出版会。  
山口重克[1984]「利子論の課題」, 伊藤誠・櫻井毅・山口重克編『利子論の新展開』＜マルクス経済学叢書2＞社会評論社。  
山口重克[1985]『経済原論講義』東京大学出版会。  
山口重克[1992]「段階論の理論的必然性——原理論に

おけるいくつかのブラック・ボックス」, 山口重克編『市場システムの理論——市場と非市場』御茶の水書房。  
山口重克[2000]「純粹資本主義論における資本結合」『国士舘大学政経論叢』国士舘大学政経学会, 通巻第113号。  
山口重克[2000]『金融機構の理論の諸問題』御茶の水書房。  
山口重克[2001]「金融論の体系と方法」, 「金融システムの原理」, 山口重克・小野英祐・吉田暁・佐々木隆雄・春田素夫『現代の金融システム——理論と構造』東洋経済新報社。  
山口博教[1978]「西ドイツ巨大企業における機関・法人株主と被傭経営者——銀行の企業支配との関連で」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第28巻第3号。  
山口博教[1979]「西ドイツ株式会社における企業金融——資本集中, 企業・銀行合併との関連で」『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第29巻第4号。  
山口博教[1980・81]「1970年代西ドイツにおける銀行論争——ユニバーサル・バンクの勢力をめぐって」(上・中), 『経済学研究』北海道大学大学院経済学研究院, 第30巻第3号・第31巻第1号。  
山口博教[1981]「1970年代, 西ドイツにおける銀行論争——ユニバーサル・バンクの勢力と信用制度改革」『北星論集』北星学園大学, 第19号。  
山口博教[1981]「西ドイツにおける銀行と企業の関係——2つの委員会の調査と分析」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第135号。  
山口博教[1981]「西ドイツのユニバーサル・バンク・システム——1970年代における論点をめぐって」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第16号。  
山口博教[1983]「西ドイツ金融諸機関の自己資本問題——信用制度法第3次改正をめぐる諸論争」『北星論集』北星学園大学, 第21号。  
山口博教[1987]「西ドイツにおける企業集中と独占委員会」『北星論集』北星学園大学, 第25号。  
山口博教[1987]「西ドイツ, ユニバーサル・バンクの

- 業務と勢力——銀行論争の争点と帰結』『信用理論研究』信用理論研究会，第4号。
- 山口博教[1988]『西ドイツの巨大企業と銀行——ユニバーサル・バンク・システム』文真堂。
- 山口博教[1995・96・97]「中央資本市場としてのベルリン証券取引所——生成から崩壊への過程」(1・2・3)，『北星論集』北星学園大学，第32号・第33号・第35号。
- 山口博教[1995]「中央資本市場としてのベルリン取引所——歴史的意義と限界」『証券経済学会年報』証券経済学会，第30号。
- 山口博教[1998]「統合資本市場としてのドイツ取引所株式会社——取引の電子化に伴う複合システムの導入」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第11号。
- 山口博教[1998]「ドイツ取引所株式会社の成立と展開——複合的電子取引システムをめぐる」『証券経済学会年報』証券経済学会，第33号。
- 山口博教[2000]「ドイツの証券市場——諸地域取引所の歴史特性」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第27号。
- 山口博教[2001]「国際債券市場としてのフランクフルト証券取引所——生成・展開過程と歴史特性」『北星論集』北星学園大学，第39号。
- 山口博教[2004]「西ドイツの連邦制資本市場——4カ国占領とフランクフルト金融市場の復活」(上・下)，『北星論集』北星学園大学，第45号・第46号。
- 山口博教[2006]『ドイツ証券市場史——取引所の地域特性と統合過程』北海道大学出版会。
- 山口博教[2011]「ドイツにおける株式取引の「内部化」——MiFIDによる規制との関係で」『北星論集』北星学園大学，第59号。
- 山口博教[2016]「ドイツの企業と証券市場——40年間の研究過程と34年間の教育活動」『北星論集』北星学園大学，第69号。
- 山口博教[2018]『いろいろあってドイツ経営経済学——東京，札幌，ベルリンから。』共同文化社。
- 山口昌樹[2003]「アジア・ボンド市場への東アジア通貨バスケットの適用」『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第47巻第8号。
- 山口昌樹[2006]「金融グローバリゼーションと通貨危機」，信用理論研究会編『金融グローバリゼーションの理論』大月書店。
- 山口昌樹[2012]『邦銀のアジア進出と国際競争力』<山形大学人文学部叢書1>山形大学人文学部。
- 山口昌樹[2013]「マレーシアの債券市場と外国銀行——競争構造の実証分析」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第83号。
- 山口昌樹[2019]「何が地方銀行を海外有価証券投資に駆り立てたか」『証券経済研究』日本証券経済研究所，第107号。
- 山口義行[1983]「現先市場（条件付債券売買市場）の生成について——中島将隆氏の所説に寄せて」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第36巻第4号。
- 山口義行[1984]「現先市場の発展過程と現状」『証券経済学会年報』証券経済学会，第19号。
- 山口義行[1988]「金融「革新」と金融の肥大化」『信用理論研究』信用理論研究会，第5号。
- 山口義行[1991・92]「「資産インフレ」の金融メカニズムについて——奥田宏司氏の所説の検討を手掛かりにして」(1・2・3)，『名城商学』名城大学商学会，第41巻第1号・第2号・第4号。
- 山口義行[1993]「「バブル現象」に見る現代金融の構造」『信用理論研究』信用理論研究会，第10号。
- 山口義行[1997]『金融ビッグバンの幻想と現実』時事通信社。
- 山口義行[2002]『誰のための金融再生か——不良債権処理の非常識』<ちくま新書>筑摩書房。
- 山口義行[2008]「米国発金融危機と日本経済」『企業環境研究年報』中小企業家同友会全国協議会企業環境研究センター，第13号。
- 山口義行編[2009]『バブル・リレー——21世紀型世界恐慌をもたらしたもの』岩波書店。
- 山口義行[2010]「バブル・リレーと日本経済」『信用理論研究』信用理論研究会，第28号。
- 山口義行編[2012]『終わりなき世界金融危機——バブルレス・エコノミーの時代』岩波書店。
- 山口義行[2015]「信用創造と金融仲介——バブル経済

- を理解するための理論的基礎』『立教経済学研究』立教大学経済学研究会，第 69 卷第 1 号。
- 山崎広明[1972]「中小企業金融」『証券研究』日本証券経済研究所，第 35 号。
- 山崎広明[2000]『昭和金融恐慌』東洋経済新報社。
- 山下裕歩[2014]「信用創造・信用収縮と経済成長——短期資本・長期資本と貨幣供給」『独協経済』独協大学経済学部，第 95 号。
- 山田喜志夫[1984]「利子生み資本と信用——信用の本質・条件・機能」『国学院経済学』国学院大学経済学会，第 32 卷第 2-4 号。
- 山田喜志夫[1986]『経済学と現代社会』梓出版社。
- 山田喜志夫[1999]『現代貨幣論——信用創造・ドル体制・為替相場』青木書店。
- 山田喜志夫[2011]『現代経済の分析視角——マルクス経済学のエッセンス』桜井書店。
- 山田鋭夫[1991]『レギュラシオン・アプローチ——21 世紀の経済学』藤原書店（増補新版，1994 年）。
- 山田鋭夫[1994]『20 世紀資本主義——レギュラシオンで読む』有斐閣。
- 山田鋭夫・ロバール・ボワイエ編[1999]『戦後日本資本主義——調整と危機の分析』藤原書店。
- 山田鋭夫[2008]『さまざまな資本主義——比較資本主義分析』藤原書店。
- 山田弘史・野田正徳編[1997]『現代日本の金融——破綻の構造と改革の方向』新日本出版社。
- 山田博文[1975]「集積・集中と独占形成にかんする準備的考察」『中央大学大学院論究 経済学・商学研究科篇』中央大学大学院生研究機関誌編集委員会，第 7 卷第 1 号。
- 山田博文[1977]「財政投融资と資本集中——60 年代後半の財政政策分析の一視角」『商学論纂』中央大学商学研究会，第 19 卷第 1 号。
- 山田博文[1984]「政府資金と国債売買操作の構造——大量国債下の特別会計資金の短期運用と市場対策，効率運用および国庫資金繰りの解明」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第 150 号。
- 山田博文[1986]「国債借換政策における 2 極化傾向——債券・金融市場への依存・緊密化と日銀・政
- 府資金の動員体系」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所，第 156 号。
- 山田博文[1990]『国債管理の構造分析——国庫の資金繰りと金融・証券市場』日本経済評論社。
- 山田博文[1991]『金融大国日本の構造』みずち書房。
- 山田博文[1993]『金融自由化の経済学』大月書店。
- 山田博文[1998]「金融ビッグバンと年金市場——金融・証券市場にとっての年金資金の魅力」『賃金と社会保障』賃社編集室，第 1217・1218 号。
- 山田博文[2000]『これならわかる金融経済——グローバル時代の日本経済入門』大月書店（第 2 版，2005 年。第 3 版，2013 年）。
- 山田博文[2003]「経済のグローバル化と世界の金融再編成——銀行の投資銀行化とウォール街の経済ヘゲモニー」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』群馬大学教育学部，第 52 号。
- 山田博文[2004]「日銀信用に依存した国債市場と増大するリスク——国債に抱えられた現代日本経済の構造と動態」『企業研究』中央大学企業研究所，第 5 号。
- 山田博文[2011]「世界金融危機と金融改革」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』群馬大学教育学部，第 60 号。
- 山田博文[2012]「金融のグローバル化と経済社会の変化」，徳重昌志・日高克平編著『岐路にたつ日本経済・日本企業』＜中央大学企業研究所研究叢書 32＞中央大学出版部。
- 山田博文[2013]『国債がわかる本——政府保証の金融ビジネスと債務危機』大月書店。
- 山田博文[2020]「コロナ恐慌下の世界株高と資本蓄積——膨張する中央銀行信用と官製株式バブル」『経済科学通信』基礎経済科学研究所，第 152 号。
- 山田勝[1981]『近代イギリス貿易経営史』創成社（新訂版，1988 年。新訂増補 2 版，1992 年）。
- 山田盛太郎編[1960]『日本資本主義の諸問題』＜小林良正博士還暦記念論文集＞未来社。
- 山中豊国[1970]「国際資本市場の構造とその発展——不均等発展と資本輸出について」『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第 14 卷第 6 号。

- 山之内靖[1966]『イギリス産業革命の史的分析』青木書店.
- 山村延郎[1998]「ドイツ信用制度におけるアルフィナンツの源流——総合金融戦略への道程」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第102号.
- 山村延郎[1999]「ドイツ・ユニバーサルバンクによるアルフィナンツ戦略の導入」『経済論究』九州大学大学院経済学会, 第103号.
- 山村延郎[1999]「ドイツ信用制度におけるアルフィナンツ戦略の生成」『九州経済学会年報』九州経済学会, 第37号.
- 山村延郎[2000]「ドイツにおけるアルフィナンツ戦略の展開」『証券経済学会年報』証券経済学会, 第35号.
- 山村延郎[2002]「ドイツ生命保険業のアルフィナンツ戦略——投資業務の展開を軸にした分析」『生命保険論集』生命保険文化センター, 第139号.
- 山村延郎・三田村智[2010]「EUの金融市場と金融市場統合」, 高屋定美編著『EU経済』ミネルヴァ書房.
- 山村延郎[2010]「ドイツ信用銀行による抵当銀行の吸収——ユニバーサルバンク・コンツェルン形成序説」『拓殖大学経営経理研究』拓殖大学経営経理研究所, 第89号.
- 山村延郎[2012]「金融危機とユーロ危機を通じた欧州統合の課題と展望」『フジ・ビジネス・レビュー』東京富士大学, 第4号.
- 山本栄治[1991]「アメリカの国際的信用制度と大恐慌——国際通貨システムとの関連で」『信用理論研究』信用理論研究会, 第8号.
- 山本栄治[1997]『国際通貨システム』<岩波テキストボックス>岩波書店.
- 山本栄治・西村閑也編[2002]『国際通貨と国際資金循環』日本経済評論社.
- 山本和人・鳥谷一生編著[2019]『世界経済論——岐路に立つグローバリゼーション』ミネルヴァ書房.
- 山本泰三編[2016]『認知資本主義——21世紀のポリティカル・エコノミー』ナカニシヤ出版.
- 山本孝則[1991]『現代信用論の基本問題——信用理論体系と国際通貨＝金融危機と新段階』日本経済評論社.
- 山本孝則[1993]「マルクス株式会社論・所有論の再生——現代資本主義論としての有井〔行夫〕「所有理論」の意義と問題点」『経済論集』大東文化大学経済学会, 第58号.
- 山本哲三[1987]「経営からみた資本の所有と支配——いわゆるマルクスの産業官僚制論」『産業経営』早稲田大学産業経営研究所, 第13号.
- 山本哲三[1988]「株式会社と金融支配」『早稲田商学』早稲田商学同攻会, 第330号.
- 山本哲三[1997]『M&Aの経済理論——会社支配権市場の衝撃』中央経済社.
- 山本二三丸[1972]『経済学概論』青木書店.
- 山本幹夫[1975]「19世紀末「大不況期」の過剰資本と生産の集積——ドイツ石炭・鉄鋼業を事例として」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第24巻第3号.
- 山本幹夫[1976]「資本集中と過剰資本の累積」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第25巻第4号.
- 山本幹夫[1999]「資本の過多とその価値実体——利子生み資本論の段階における資本の過多把握の一視点」『立命館経済学』立命館大学経済学会, 第48巻第3号.
- 山家悠紀夫[2005]『景気とは何だろうか』<岩波新書>岩波書店.
- 山家悠紀夫[2019]『日本経済30年史——バブルからアベノミクスまで』<岩波新書>岩波書店.
- 由井常彦[1963]「わが国会社企業先駆的諸形態——江戸時代における共同企業の諸形態の研究」『経営論集』明治大学経営学研究所, 第10巻第4号.
- 由井常彦[1968]「明治初年の会社企業の一考察——会社知識の導入とその理解について」, 大塚久雄・安藤良雄・松田智雄・関口尚志編『資本主義の形成と発展』<山口和雄博士還暦記念論文集>東京大学出版会.
- 由井常彦[1977]「明治初年から20年代——株式会社の生成と定着」『中央公論経営問題』中央公論社, 第16巻第3号.

- 結城武延[2011]「企業統治における株主総会の役割——大阪紡績会社の事例」『経営史学』経営史学会, 第46巻第3号.
- 結城武延[2012]「資本市場と企業統治——近代日本の綿紡績企業における成長戦略」『社会経済史学』社会経済史学会, 第78巻第3号.
- 結城武延[2013]「企業統治の成立」, 中林真幸編『日本経済の長い近代化——統治と市場, そして組織1600-1970』名古屋大学出版会.
- 結城武延[2014]「近代日本における株式会社制度——商法における会社機関の規定」『秀明大学紀要』秀明大学, 第11号.
- 結城武延[2015]「近代日本における株主総会と取締役会」, 田中亘・中林真幸編『企業統治の法と経済——比較制度分析の視点で見るガバナンス』有斐閣.
- 結城武延[2021]「戦前日本における創業企業の企業金融と所有構造」『研究年報経済学』東北大学大学院経済学研究科, 第78巻第1号.
- 結城剛志[2013]『労働証券論の歴史的位相——貨幣と市場をめぐるヴィジョン』日本評論社.
- 湯沢威[1972]「イギリス鉄道業の成立について——リヴァプール・マンチェスター鉄道の基本的性格」『一橋論叢』日本評論社, 第67巻第5号.
- 湯沢威[1972]「イギリス鉄道ブームの一側面——ハドソン「帝国」の生成と崩壊」『社会経済史学』社会経済史学会, 第38巻第4号.
- 湯沢威[1977]「イギリス初期鉄道業の基本的性格——ストックトン・ダーリントン鉄道をめぐって」『流通経済大学論集』流通経済大学経済学部, 第11巻第4号.
- 湯沢威[1977]「イギリス初期鉄道会社と投資家」『一橋論叢』日本評論社, 第77巻第6号.
- 湯沢威[1980]「19世紀イギリス鉄道業における企業金融の展開過程——「鉄道統計」の分析を中心として」『社会経済史学』社会経済史学会, 第45巻第6号.
- 湯沢威[1981]「19世紀後半のイギリス鉄道会社の経営停滞」『学習院大学経済論集』学習院大学経済学会, 第18巻第1号.
- 湯沢威[1988]『イギリス鉄道経営史』<鉄道史叢書4>日本経済評論社.
- 湯沢威編[1996]『イギリス経済史——盛衰のプロセス』有斐閣.
- 湯沢威・谷口明丈・福應健・橘川武郎[2000]『エレメンタル経営史』英創社.
- 湯沢威[2014]『鉄道の誕生——イギリスから世界へ』<創元世界史ライブラリー>創元社.
- 由里宗之[2000]『米国のコミュニティ銀行——銀行再編下で存続する小銀行』<Minerva 現代経済学叢書32>ミネルヴァ書房.
- 楊枝嗣朗[1977]「株式会社の成立——法人格, 有限責任制確立の必然性」『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会, 第9巻第1-3号.
- 楊枝嗣朗[1985]「銀行信用論——信用の貨幣化と信用の利子生み資本化」『信用理論研究』信用理論研究会, 第2号.
- 楊枝嗣朗[1986]「松井和夫『セキュリタイゼーション——金融の証券化』——支払=決済システム・情報ネットワーク・金融資本」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第157号.
- 楊枝嗣朗[1988]『貨幣・信用・中央銀行——支払決済システムの成立』同文館出版.
- 楊枝嗣朗[1989]「小畑二郎『アメリカの金融市場と投資銀行業』——アメリカ投資銀行業における階層性と組織的集中の論理」『証券経済』日本証券経済研究所大阪研究所, 第168号.
- 楊枝嗣朗[2022]『貨幣と国家——資本主義的信用貨幣制度の生成と展開』文眞堂.
- 横内正雄[2010]「金融化と資本主義的蓄積——2007-9年危機の構造的説明」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第47巻第1号.
- 横川太郎[2010]「サブプライム金融危機と金融不安定化仮説——「安全性のゆとり幅」の視角から」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会, 第52号.
- 横川太郎[2012]「ミンスキーの「資金運用者資本主義」と投資銀行——1980年代以降のアメリカ投資銀行業を中心に」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第49巻第1号.

- 横川太郎[2013]「資本主義経済の発展と金融革新——シュムペーターとミンスキーの視点から」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会，第277号。
- 横川太郎[2015]「債権の証券化モデルの形成と商業銀行業——その歴史的変遷と新たなシステムでの役割」『東京経大会誌 経済学』東京経済大学経済学会，第285号。
- 横川太郎[2015]「サブプライム金融危機とミンスキー・クライシス——流動資産のピラミッド構造の形成とその破綻」『季刊 経済理論』経済理論学会，第52巻第3号。
- 横川太郎[2016]「アメリカのファンド資本主義化と金融危機」，柴田徳太郎編著『世界経済危機とその後の世界』日本経済評論社。
- 横川太郎[2018]「金融自由化，金融革新と金融不安定性」，四方理人・宮崎雅人・田中聡一郎編著『収縮経済下の公共政策』慶應義塾大学出版会。
- 横川信治[1989]『価値・雇用・恐慌——宇野学派とケンプリッジ学派』＜マルクス経済学叢書5＞社会評論社。
- 横川信治・板垣博編[2010]『中国とインドの経済発展の衝撃』御茶の水書房。
- 横山昭雄[1977]『現代の金融構造——新しい金融理論を求めて』日本経済新聞社。
- 横山昭雄[1989]『金融機関のリスク管理と自己資本——1990年代の金融機関経営の原点』有斐閣。
- 横山昭雄[2015]『真説経済・金融の仕組み——最近の政策論議，ここがオカシイ』日本評論社。
- 横山正彦編[1968]『経済学概論』＜有斐閣双書＞有斐閣。
- 横山正彦・金子ハルオ編[1975]『マルクス経済学を学ぶ』＜有斐閣選書＞有斐閣（新版，1987年）。
- 吉岡昭彦[1968]『イギリス資本主義の確立』御茶の水書房。
- 吉岡昭彦[1975]『インドとイギリス』＜岩波新書＞岩波書店。
- 吉岡昭彦編著[1977]『イギリス資本主義の確立』御茶の水書房。
- 吉岡昭彦[1981]『近代イギリス経済史』＜岩波全書＞岩波書店。
- 吉岡昭彦[1999]『帝国主義と国際通貨体制』名古屋大学出版会。
- 吉川久治[2014]『国際通貨・金融危機と発展途上国』新日本出版社。
- 吉沢法生[1981]「国債管理と信用統制——ケインズとホートリー」『商経論叢』神奈川大学経済学会，第16巻第3号。
- 吉沢法生[1987]『イギリス再建金本位制の研究』新評論。
- 吉田賢一[1996]「「利子生み資本」再考」『工学院大学共通課程研究論叢』工学院大学，第34号。
- 吉田賢一[1999]「国際経済と国際金融——貨幣金融経済研究」（上・中・下），『工学院大学共通課程研究論叢』工学院大学，第37-1号・第37-2号・第38-1号。
- 吉田賢一[2002]『経済学概論』学文社（第2版，2004年）。
- 吉田賢一[2006]「変動相場制下の資本移動と金融政策」，信用理論研究会編『金融グローバリゼーションの理論』大月書店。
- 吉田賢一[2010]『北海道金融史研究——戦前における銀行合同の分析』学術出版会。
- 吉田暁[1968]「金融政策と公社債市場」，志村嘉一・野田正穂編『証券経済講座 第5巻——公社債と証券市場』東洋経済新報社。
- 吉田暁[2002]『決済システムと銀行・中央銀行』日本経済評論社。
- 吉田真広[2011]「国際金融危機における過剰な貨幣資本蓄積の原理的考察」，基礎経済科学研究所編『世界経済危機とマルクス経済学』大月書店。
- 吉富勝[1962]「1920年代のアメリカ経済における株式ブームの構造的背景」（上・下），『海外経済月報』経済企画庁調査局，第9号・第10号。
- 吉富勝[1965]『アメリカの大恐慌』日本評論社。
- 吉野俊彦[1968]「国債の発行と債券市場」『証券経済学会年報』証券経済学会，第1号。
- 吉原直毅監修[2018]『経済セミナー増刊——されどマルクス』日本評論社。
- 吉弘憲介[2006]「1990年代のアメリカ法人税の特徴

- 租税支出と企業投資行動を中心に』『証券経済研究』日本証券経済研究所，第54号。
- 吉村信之[1999]「物神性と原理論の方法——いわゆる「利子生み資本」に関連して」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会，第41号。
- 吉村信之[2003]「金本位制度の「ゲームのルール」と19世紀イギリスの循環性恐慌——その理論的意味」『信州大学経済学論集』信州大学経済学部，第50号。
- 吉村信之[2005]「為替論の回顧と展望」『信州大学経済学論集』信州大学経済学部，第53号。
- 吉村信之[2007]「「カジノ資本主義」と情報化」，SGCIME 編『情報技術革命の射程』御茶の水書房。
- 吉村信之[2014]「信用論・信用恐慌論の研究潮流」，守健二編著『恐慌論の論点と分析』創風社。
- 吉村信之[2019]「「金融化」の現代的諸問題とマルクス経済学」『季刊 経済理論』経済理論学会，第55巻第4号。
- 吉村幸男[1976]「独占資本と株式会社」『一橋論叢』日本評論社，第76巻第5号。
- 吉村幸男[1977]「株式会社と株式流通」『一橋論叢』日本評論社，第78巻第5号。
- 吉村幸男[1979]「企業における支配形態とその行動」『経済評論』日本評論社，復刊第28巻第4号。
- 吉村幸男[1981]「「所有と機能の分離」論の一考察——『資本論』体系との関連で」『一橋論叢』日本評論社，第85巻第5号。
- 四元忠博[1981]「18世紀イギリスの南海会社（The South Sea Company）の貿易活動（密貿易も含めて）について——いわゆる商人資本のある歴史的断面」『社会科学論集』埼玉大学経済学会，第48号。
- 米川伸一[1976]「「オルダム有限株式会社」（Oldham Limiteds）成立前史」『ビジネスレビュー』一橋大学産業経営研究所，第24巻第3号。
- 米川伸一[1977]「オルダム綿紡績会社設立ブーム——1873～75」『一橋論叢』日本評論社，第77巻第6号。
- 米川伸一[1978]「形成期イギリス綿紡績株式会社の経営体質」『経営史学』経営史学会，第12巻第2号。
- 米川伸一[1979]「制度の移転と転型——株式会社の形成を中心として」『書齋の窓』有斐閣，第286号。
- 米川伸一[1981]「インド紡績株式会社における経営代理制度の定着過程」『一橋論叢』日本評論社，第85巻第1号。
- 米川伸一・平田光弘編[1982]『企業活動の理論と歴史』千倉書房。
- 米川伸一編[1986]『概説イギリス経済史——現代イギリス経済の形成』有斐閣。
- 米川伸一・下川浩一・山崎広明編[1991]『戦後日本経営史』全3巻，東洋経済新報社。
- 米川伸一[1992]『現代イギリス経済形成史』未来社。
- 米川紀生[1971]「Rudolf Hilferding の『金融資本論』書評について——一つの資料紹介」『新潟大学経済論集』新潟大学経済学会，第10号。
- 米倉茂[1995]「増大する金融不安——証券業務への関わりを深める日本の銀行」『証券経済学会年報』証券経済学会，第30号。
- 米倉茂[1999]「日本型金融ビッグバンをどう読むか？」『地域経済研究センター年報』佐賀大学経済学部地域経済研究センター，第10号。
- 米倉茂[2000]『英国為替政策——1930年代の基軸通貨の試練』御茶の水書房。
- 米倉茂[2002]「1930年代とブレトン・ウッズ体制下の国際資本移動——金融のグローバル化に関連して」（上・下），『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第35巻第4号・第5・6号。
- 米倉茂[2003]「証券・金融緩和・金融ビッグバン——金融構造改革と自己責任」『地域経済研究センター年報』佐賀大学経済学部地域経済研究センター，第14号。
- 米倉茂[2008]『サブプライムローンの真実——21世紀型金融危機の「罪と罰」』創成社。
- 米倉茂[2008]『変幻進化する国際金融——サブプライム危機・膨張するドル体制の落とし穴』税務経理協会。
- 米倉茂[2008]「「21世紀型金融危機」＝サブプライム

- 恐慌の教訓』『世界経済評論』国際貿易投資研究所，第52巻第7号。
- 米倉茂[2008]「サブプライム問題とドル・パニック」『国際金融』外国為替貿易研究会，第1190号。
- 米倉茂[2008]「サブプライム危機に巻き込まれた本邦ケインズ学者——新訳ケインズ『雇用，利子および貨幣の一般理論』(岩波文庫，2008年)の内実」『佐賀大学経済論集』佐賀大学経済学会，第41巻第3号。
- 米倉茂[2008]「サブプライム国際金融危機対策——中央銀行ドル・スワップ協定」『国際金融』外国為替貿易研究会，第1194号。
- 米倉茂[2009]『新型ドル恐慌——リーマン・ショックから学ぶべき教訓』彩流社。
- 米倉茂[2019]『リーマン・ショック10年目の衝撃——史上空前の金融危機の全容と現在』言舎舎。
- 米田貢[1981]「ヒルファーディング『金融資本論』批判」『経営研究』大阪市立大学経営学会，第32巻第3号。
- 米田貢[1988]「日本資本主義の「金融肥大化」と「空洞化」——1987年世界株式恐慌との関連で」『日本の科学者』日本科学者会議，第23巻第2号。
- 米田貢[1995]「書評 服部泰彦著『現代の金融資本と株式市場』」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第34巻第1号。
- 米田貢[1995]「証券市場と貨幣・貨幣資本」『経済学論纂』中央大学経済学研究会，第36巻第4号。
- 米田貢[1996]「アメリカにおける金融危機と連邦預金保険制度」『証券経済学会年報』証券経済学会，第31号。
- 米田貢[2009]「サブプライムローン問題と金融危機管理——1980年代の日本の金融危機管理との比較で」『信用理論研究』信用理論研究会，第27号。
- 米田貢[2010]「今回の世界金融危機の性格をめぐって」，一井昭編『グローバル資本主義の構造分析』<中央大学経済研究所研究叢書49>中央大学出版部。
- 米田貢[2011]「金融投機化と蓄積至上主義への対案——金融の投機化と金融規制・金融危機管理」，基礎経済科学研究所編『世界経済危機とマルクス経済学』大月書店。
- 米田貢[2014]「書評 建部正義著『21世紀型世界経済危機と金融政策』」『季刊 経済理論』経済理論学会，第50巻第4号。
- 米田貢[2017]「書評 小倉将志郎著『ファイナンシャルリゼーション——金融化と金融機関行動』」『政経研究』政治経済研究所，第108号。
- 米田貢[2018]「経済の金融化と架空資本」『立命館経営学』立命館大学経営学会，第56巻第6号。
- 米村司[1959]「財閥の再結集と系列化」，「生産と資本の集中」，相原茂編『日本の独占資本——戦後における構造と機能』法政大学出版局。
- 米村司[1960]「金融機関における集中と系列化の現時点」『銀行労働調査時報』銀行労働研究会，第117号。
- 米山高生[1980]「イギリス近代株式会社法成立の経済的背景に関する覚書」『一橋研究』一橋研究編集委員会，第5巻第2号。
- 米山高生[1981]「英国におけるコーポレーション法の一般的採用——1855年「有限責任法」成立過程に関する一考察」『一橋論叢』日本評論社，第86巻第1号。
- 米山高生[1983]「1860年代イギリスにおける減資問題——1867年株式会社法の産業企業にとっての意味」『金融経済』金融経済研究所，第199号。
- 米山高生[1983]「第一次大戦前イギリスにおける大規模兼営保険企業の出現」『経営史学』経営史学会，第18巻第1号。
- 米山高生[1986]「イギリス保険企業の合同運動——第2期(1890-1920s)を中心にして」『保険学雑誌』日本保険学会，第513号。
- 米山高生[1987]「企業組織原理の相違と生命保険会社の合併——イギリス保険企業合併運動の歴史的断面」『文研論集』生命保険文化研究所，第81号。
- 米山高生[2003]「わが国生命保険会社の企業統治」『生命保険経営』生命保険経営学会，第71巻第1号。
- 米山高生[2005]「相互会社をめぐる法的諸規定の再検討」，姉崎義史・石田重森・大谷孝一・小林晃・

- 近見正彦・林忠昭編『現代保険学の諸相』<松島惠博士古稀記念>成文堂.
- 米山高生[2009]「外国の会社制度」, 宮本又郎・粕谷誠編『講座・日本経営史 第1巻——経営史・江戸の経験 1600~1882』ミネルヴァ書房.
- 米山高生[2012]『リスクと保険の基礎理論』同文館出版.
- 依光良馨[1953・54]「利子生み資本の一考察」(1・2), 『東京経大会誌』東京経大会誌編集委員会, 第8号・第9号.
- 李立栄[2008]「サブプライム問題発生のメカニズムとアメリカ経済・金融への影響」『Business & economic review』日本総合研究所, 第18巻第2号.
- 龍昇吉[1968]「戦後の資本蓄積と公社債」, 志村嘉一・野田正徳編『証券経済講座 第5巻——公社債と証券市場』東洋経済新報社.
- 龍昇吉[1994]『現代日本経済の研究』学文社.
- 龍昇吉編著[1995]『現代の財政金融——世界的公信用の構造と課題』日本経済評論社.
- 若林洋夫[1973]「株式資本と平均利潤率の法則——交通手段としての鉄道を中心として」『経済論叢』京都大学経済学会, 第111巻第1号.
- 若森章孝・小池渺・森岡孝二[2007]『入門・政治経済学』<Minerva text library 51>ミネルヴァ書房.
- 脇村義太郎[1959]「アメリカにおける集中について——国内的・国際的」, 有沢広巳編『アメリカの経済——新しい発展とその構造』日本生産性本部.
- 涌井秀行[2013]『ポスト冷戦世界の構造と動態』八潮社.
- 涌井秀行[2018]「世界金融反革命とアメリカ株価資本主義」『季刊 経済理論』経済理論学会, 第54巻第4号.
- 和田八束[1970]『現代租税論』日本評論社.
- 和田八束[1985]「最近における利子・配当課税問題について」『立教経済学研究』立教大学経済学研究会, 第38巻第3号.
- 渡辺和則[2003]『投資資金調達と経済変動』多賀出版.
- 渡辺和則編[2011]『金融と所得分配』日本経済評論社.
- 渡辺佐平[1954]『金融論』<岩波全書>岩波書店.
- 渡辺佐平[1955]『銀行の経済学』<生活の経済学新書>法政大学出版局.
- 渡辺佐平[1956]「信用制度の役割」, 信用理論研究会編『講座 信用理論体系Ⅱ——第1部 基礎理論篇(下)』日本評論新社.
- 渡辺佐平・西村閑也[1959]『金融論』<質疑・応答形式によるセミナー双書1>弘文堂.
- 渡辺佐平編[1962]『論争・現代の経済理論』日本評論新社.
- 渡辺佐平[1963]『現代の金融政策』日本評論新社.
- 渡辺佐平・北原道貫編[1966]『現代日本産業発達史 26——銀行』現代日本産業発達史研究会.
- 渡辺佐平[1975]『金融論講義』法政大学出版局.
- 渡辺佐平教授還暦記念論文集刊行会編[1964]『金融論研究——理論・歴史・現状』法政大学出版局.
- 渡辺多恵子・毛利明子[1967]『『資本論』の根本問題』駿台社.
- 渡辺真登[1994]『信用制度の体系的論究』梓出版社.
- 渡辺良夫[1998]『内生的貨幣供給理論——ポスト・ケインズ派アプローチ』多賀出版.
- 渡辺行男[1967]「企業型態に関する試論」『経済論集』大東文化大学経済学会, 第9号.
- 渡辺行男[1970]「企業諸形態の発展に関する研究——資本所有形態の変化としての企業諸形態の発展について」『大東文化大学紀要 経済学部』大東文化大学, 第8号.
- 渡辺行男[1970]「企業形態の原理的考察——企業形態の本質について」『経済論集』大東文化大学経済学会, 第12号.
- 渡辺行男[1971]「「信用許容性」と企業形態——信用と企業形態に関する試論〔株式会社を除く〕(1)」『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第2巻第3・4号.
- 渡辺行男[1980・81・83]「企業形態としての株式会社の発展」(1・2・3・4・5), 『駒大経営研究』駒澤大学経営研究所, 第11巻第2・3号・第4号・第

12 卷第 1 号・第 4 号・第 14 卷第 3 号.

渡辺裕一[1983]「証券市場」の理論と歴史『経済学批判』社会評論社, 第 13 号.

渡辺裕一[1984]「資本結合と証券業資本——資本市場」の原理的規定, 伊藤誠・櫻井毅・山口重克編『利子論の新展開』<マルクス経済学叢書 2>社会評論社.

和仁道郎[1988]「信用論の論理構造と為替取引」『東京大学経済学研究』東京大学経済学研究会, 第 31 号.

和仁道郎[1992]「書評 入江節次郎著『世界金融史研究』」『経済学論集』東京大学経済学会, 第 58 巻第 2 号.

Vichian Chakepaichayon[1981・82]「明治初期の会社企業——81 社の定款分析」(1・2), 『大阪大学経済学』大阪大学大学院経済学研究科, 第 31 巻第 1 号・第 32 巻第 1 号.